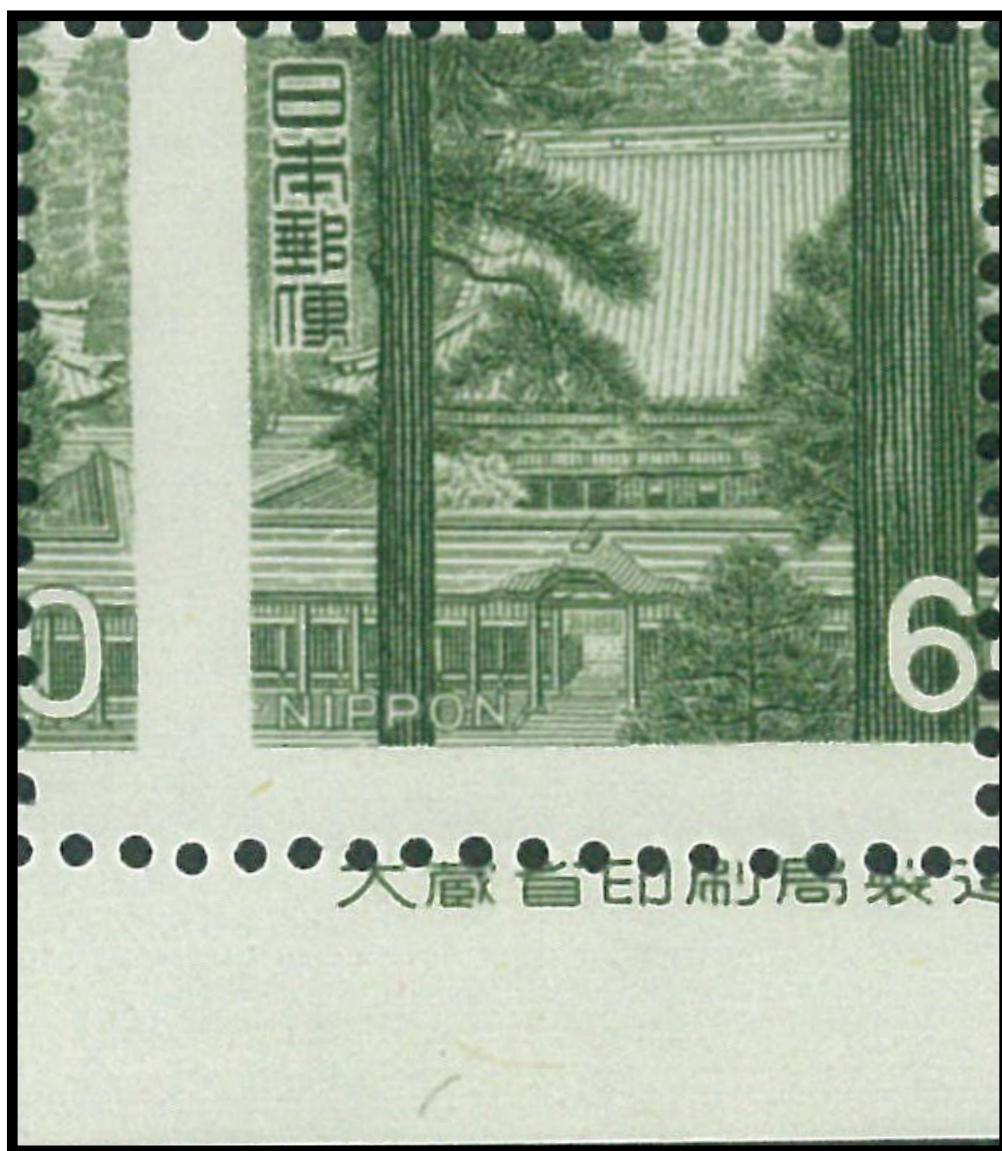


The Philatelist Magazine

スタンペディア日本版 機関誌

第6号 (2015年春号)



日本 1966 60円通常切手 目打ズレエラー

世界の中でも管理の厳しい日本切手では、エラー等が出回る事は少ない。

The Philatelist Magazine

当誌は、無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社が運営する「スタンペディア日本版」の会員向け機関誌です。機関誌は年4回PDFで発行され、年会費（2,000円）を納めた会員には発行の都度登録Eメールに通知があり「マイ・スタンペディア」よりダウンロードできます。また印刷して読みたいという要望に応えコピーしホチキスで綴じた紙版をお送りするサービスも提供中です。

当誌の読み方・使い方

当誌の位置づけ

当誌は無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社が運営する「スタンペディア日本版」の会員向け機関誌です。機関誌はPDFで発行され、年会費を納めた会員には、発行の都度登録Eメールに通知があり「マイ・スタンペディア」（右）よりダウンロードできます。

PDFの保存方法

ダウンロードしたPDFは、パソコンやスマホ等に保存できます。一旦保存するとそれ以降はいつでも好きな時にPDF版をご利用（閲覧、印刷など）頂けます。



PDF版をご自分で印刷して読む方へ

当誌の購読者は、PDF版をご自分の閲覧用に印刷することができます。

3ページの刊行趣旨と編集方針の為ページ数が多いので、全てのページを印刷するよりは興味あるページのみを印刷する方法をオススメいたします。また視力の弱い方にも十分楽しんで頂ける様に、文字サイズや図版が大きくなるよう編集しています。**視力の良い方は『2 in 1』（プリンターの機能で、1枚の用紙に2ページ分印刷する方法）等をご活用頂いても十分読むことが可能です。**

PDF版の興味ある記事だけを印刷して読む方法

目次が4ページにありますので、興味のある記事を見つけ、印刷を行ってください。本文をざっと流し読みして、印刷してじっくり読む記事を見つけるというやり方もあると思います。なお当誌では表紙を1ページ目としてページの割り付けを行っております（ページ番号は各ページのフッタに表示しています）ので、印刷に指定するページ番号も目次のページ番号と一致しております。

PDF版をパソコン、iPadで読む方法（オススメ）

PDF版は、Adobe Reader を用いてご覧頂くことを推奨しており（右の画面）、他のソフトウェアでの閲覧はオススメしておりません。

左側にある、しおりマーク（→→）を押すと目次が表示され、各タイトルをクリックすることで、主画面が読みたい記事の内容に変わります。



iPad, iPad miniでも快適にご覧いただけます。



紙版をご覧の方へ

当誌はPDFで読むことを前提とした新しいスタイルの郵趣雑誌です。このやり方により幅広い記事の取り扱いが可能となり、質・量ともに十分な総合郵趣雑誌が提供できるようになりました。また次ページの様な刊行趣旨上と編集方針の為、ページ数が結果として多くなっています。一方、PDF雑誌を発行する中で、有料で良いので内容をそのまま紙に印刷して欲しいとのご要望が寄せられる事が多くありました。ご自宅のパソコンで印刷するよりもそちらの方が便利だからという理由であり、その様なご要望にお応えする為、コピーしホチキスで綴じた紙版をお送りするサービスも提供を始めました。このような位置づけですがよろしければご注文ください。

新しい郵趣のポータルサイト マイ・スタンペディアの使い方

「ザ・フィラテリスト・マガジン」のダウンロードはもちろんのこと「スタンペディア日本版」会員の為の各種特典をご利用頂くために、「マイ・スタンペディア」という新しい郵趣のポータルサイトにアクセスしてください。 <http://my.stampedia.net/ja>

情報量の少ないPDFを電子メールに添付する事は難しくありませんが、スタンペディアの目指す大容量の情報のPDF配信を可能にする為、また対価をお支払い頂いている方にのみサービスを提供する為に、構築した情報配信システムがマイ・スタンペディアです。

「IDやパスワードを用いるサイトは面倒くさい」というご意見を伺う事も多い為、課題点を検証し、最終ログインから百日以内であれば、一々IDとパスワードを入力しなくても自動ログインできる機能を作りました。（右図）

機関誌の発行感覚が約90日であることを考えますと、当該課題は解決できていると思います。

また機関誌のダウンロード以外に利用権利が提供される各種サービスへの入口もこの「マイ・スタンペディア」となります。現時点で次の2サービスがご利用いただけます。

- ・2014年日本切手図入りリーフ
- ・エコー葉書データベース

将来的には（しかも近い将来）会員サービスを利用するだけの場所ではなく、地域ごとの郵趣イベントカレンダーを表示する等のフィラテリストの交流ができるような仕掛けも作って行きたいと思いますのでどうぞご期待ください。



上から「機関誌ダウンロード」「郵趣データベース」「図入りアルバムリーフのダウンロード」と並ぶサービス類。2015年は会員は無料で利用できる。（順次拡大）

刊行趣旨と編集方針

当雑誌創刊の理由は「郵趣雑誌を発行したかった」ではなく「優れた郵趣文献を世の中にもっと出版したかった」からです。

では「**優れた郵趣文献（単行本）**」とは何でしょうか？

「オリジナルな研究論文」「海外情報の輸入・啓発」「切手展や収集のノウハウ」・・・。

人によってニーズが異なれば定義も異なるのかもしれませんが。

私は「一人でも多くのフィラテリストに刺激、発見そして挑戦心を持たせる本」と定義しました。

では、その実現に向けた**課題は何**でしょうか？

実は優れた内容の郵趣文献を書く事ができる人は沢山います。

しかし問題は**マーケティング**上にありました。すなわち、仲間内を越えて、その分野を収集していない人にアピールできる機会が少ない為に出版の費用対効果が見えず、実際に書く迄に至っていない事がほとんどなのです。

この課題に対する当社の試みは「**PDFで読む郵趣雑誌**」を発行する事でそれは次の様な効果が得られる為です。

1. 用紙、印刷、製本、発送、**倉庫コスト**の極小化
2. 印刷・製本・発送に要する**タイムラグ**の削減
3. 原則**カラー化**
4. **無制限のページ数**が実現する掲載記事ジャンルの拡大

この効果の恩恵をうけると、

「**ページ数の制限のない安価な郵趣雑誌**」の刊行が可能になり、それを通じて、

(1)**幅広いジャンルの郵趣記事の掲載**と

(2)**安価であるために幅広い読者の獲得**が実現できるのではないかと仮定しました。

ページ数が無限なので当雑誌の二本柱は次の通りです。

1. その時々々のフィラテリストの活動を支援する内容(ピックアップイベントや郵趣活動の記録など)
2. 寄稿記事など

寄稿記事の掲載基準は、郵趣記事としてフィラテリストに**刺激を与える**ことができるかということです。既存の郵趣雑誌で掲載を断られた収集家の少ない分野であっても歓迎いたします。

反響のあった寄稿記事を中心に、**一冊でも多くの単行本**を出版していきたいと考えていますし、ハードルを下げる為にも、**単行本の少数出版を可能にするインフラ**を整備していきたいと考えています。

結論となりますが、当雑誌の刊行趣旨と編集方針は「**優れた郵趣文献を世の中に生み出す為の郵趣雑誌**」の立場を担える媒体になる事です。どうぞよろしくお願いいたします。

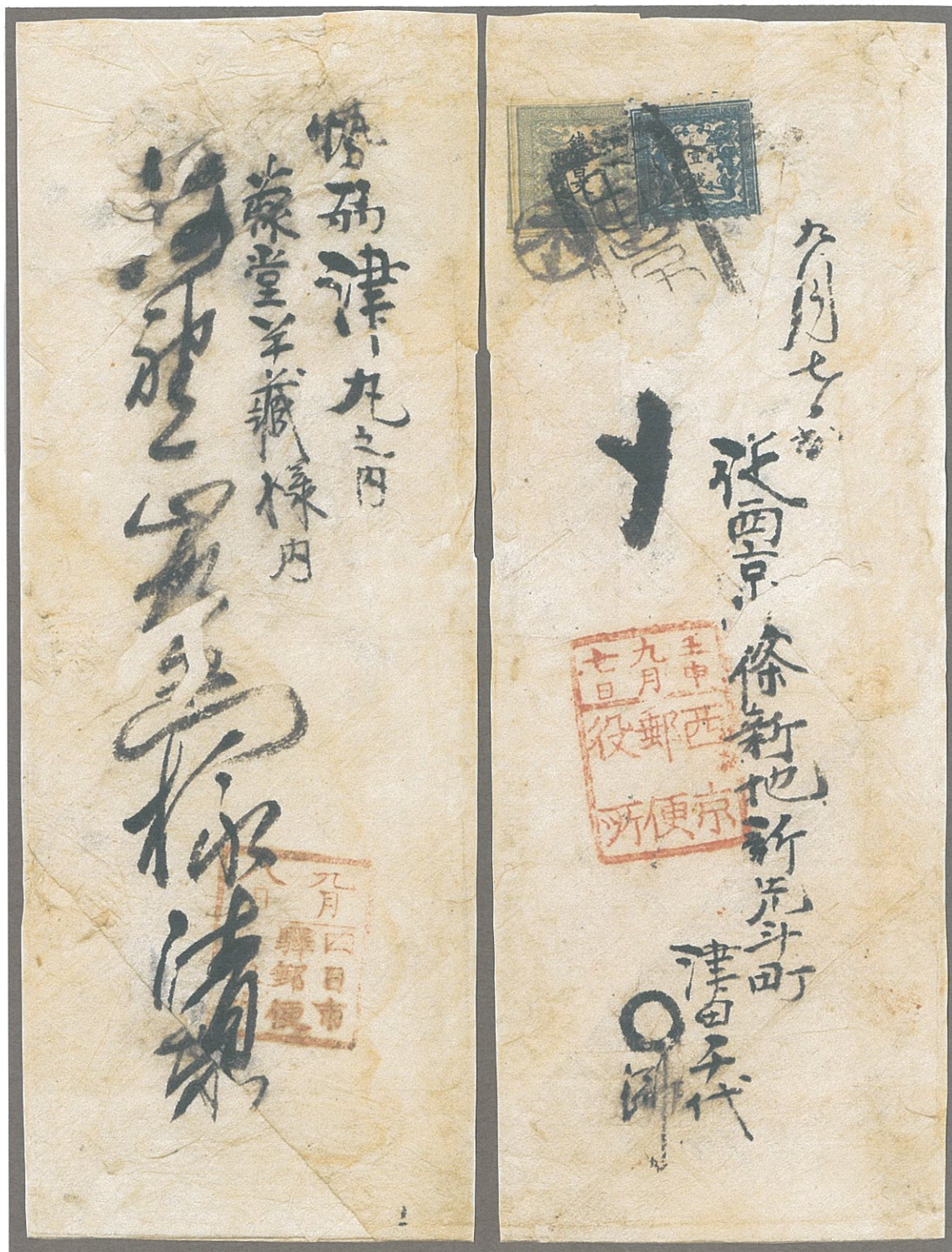
無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社
代表取締役 吉田 敬

The Philatelist Magazine 第6号 クリッカブル目次

※目次をクリックすると各ページにジャンプします。

当誌の読み方・使い方 / マイ・スタンペディアの使い方等	P.02-04
郵趣界重大ニュース	P.10-13
郵趣カレンダー	P.14-35
切手市場	高崎 真一 P.16-21
JPSが本年度のミニペックス予定を発表	P.22
楽しい趣味の切手展	JPS仙台支部 P.23
第一回郵便制度史展	郵便制度史展実行委員会 P.24-25
2015イギリス切手部会展	JPS イギリス切手部会 P.26
LONDON2015	P.27
台北2015	P.28-29
第65回<全日本切手展2015>作品募集要項	P.30-31
World Stamp Show NY2016 出品要項	P.32-35
謎解き郵趣	P.36-39
朝鮮戦争における北朝鮮切手の韓国側持ち込み使用例	木戸 裕介 P.38-39
寄稿記事・郵趣論文	P.40-146
世界のクラシック切手 第3回 ペンスブルー無目打について	畠山 茂樹 P.41-45
トピカル切手展への招待	石田 徹 P.46-53
新図案切手の発行と番号入り小型シート	ラッキーボーイ P.54-55
速達の珍品、都内速達に関する戸籍を初整備! 丸速レジストリー	
池田健三郎、片山七三雄、行徳国宏、数珠雅、須谷伸宏、横山裕三、吉田敬	P.56-67
未解明押印機の郵便史(2) 誤字に消された「赤嶺式自動押印機」	永坂一郎 P.68-75
外信別配達便を集める	川田 圭史 P.76-93
郵趣三題ばなし	近辻 喜一 P.94-97
和欧文機械印トピックス(第4回)標語変更「郵便番号をお忘れなく」の登場	水谷 行秀 P.98-99
切手からみる障害者スポーツ	大沢 秀雄 P.100-119
戦後の郵便史(4) 国内郵便制度創設史	行徳 国宏 P.120-146
コレクションの創り方	P.147-171
「切手市場」の楽しみ方 第3回	行徳 国宏 P.148-151
J A P E X 2 0 1 4 への初出品	北野 雅利 P.152-157
STAMPEDIA図入り国別リーフの使い方	木戸 裕介 P.158-167
エコー葉書データベースの使い方	吉田 敬 P.168-171
郵趣活動の記録	P.173-190
アルプス・ヨーロッパ切手の会・初例会 アルプス・ヨーロッパ切手の会	P.174-175
郵趣文献古今東西書評 服部静夫『日本の郵便箱場及箱場印』	水村 伸行 P.176-177
郵趣文献古今東西書評 The Dublin Find	吉田 敬 P.178-181
ジャパン・スタンプ オークションニアレポート	鯛 道治 P.182-190

広告一覧 ユキオスタンプ (P.6) ジャパン・スタンプ商会 (P.7) 切手市場 (P.8) アルプス・ヨーロッパ切手の会 (P.172) 無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社 (P.9, 191, 192)



竜 500 文 1 版 18 番+竜 1 銭 3 版 30 番貼 西京（検査済）、㊦木屋町箱場印抹消印、
 壬申九月七日 / 西京郵便役所 証示印。裏面九月八日 / 四日市駅郵便取扱所 朱印
 伊勢国津宛 8 匁迄の重量便カバー（ex 墨人堂） 1,300,000 円（税込）即売品

ブース出店のご案内

第 28 回 JSDA 切手まつり：日本郵便切手商協同組合主催

平成 27 年 3 月 20 日（金）～23 日（月） 東京交通会館 12 階ダイヤモンドホール

第 39 回 スタンプショウ 2015：公益財団法人日本郵趣協会主催

平成 27 年 4 月 24 日（金）～26 日（日） 東京都立産業貿易センター台東館 7 階

株式 会社 **エキホ・スタジオ。**

店 舗：〒460-0008 名古屋市中区栄 4-1-1 中日ビル 3F

中日郵趣センター TEL & FAX (052) 261-8024

営業時間：10時～19時 第3水曜定休

通信先：〒486-8691 春日井郵便局私書箱 6 号

ジャパン・スタンプオークション 第87回フロアセール (2015/5/30-31開催) どこよりも早い予告です

ごく最近、海外で発見された2点を、ラストロットとその前で31日のPM5時過ぎにコールいたします。2点ともに完全な新発見です。

書き十は、確率1/80ですが狙って探せば可能性が有るのです。15銭の仮名「ロ」は必ず字体を見てください。

旧毛の横透しは、5銭が世に出たのは1978年のこと、可能性は他の額面でも常にあったのです。異額面での出現は、37年ぶりのビッグニュースです。データは欧文櫛の紫印・1924年と思えます。99枚は残っているはず。南半球宛の外郵便、年号に注目して探せば大いに可能性があるのです。

セールのレポートは、本誌の次号でいたします。



ジャパン・スタンプ商会

通信先 〒530-8691 大阪北郵便局 私書箱89号 Tel 06-6347-1601 / Fax 06-6347-1602

www.japan-stamp.com E-mail: japan-stamp@juno.ocn.ne.jp

事務所 〒530-0001 大阪市北区梅田 1-1-3 大阪駅前第3ビル14F 1号

ゆうちょ振替: 00980-3-51454 取引銀行: 池田泉州銀行 石橋支店 当座 # 85749

営業: 火～土 10時～6時(日・祭・月曜定休)

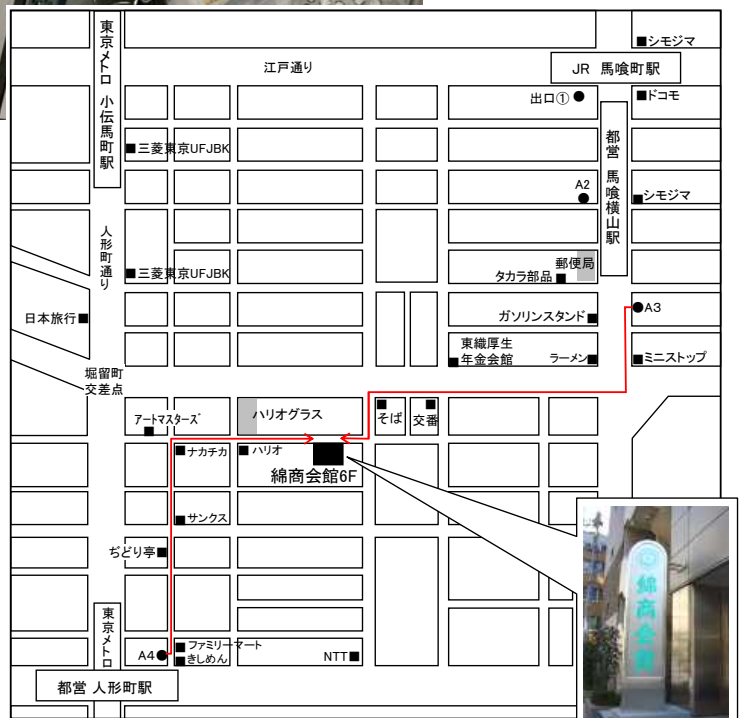


切手市場

KITTEICHIBA

「切手市場」は毎月開催される切手専門のフリマです。
毎回 300 名の来場者で盛り上がります。
ジュニアからシルバーまで皆が楽しく過ごせる切手のイベントです。

今後の開催日（2015年4-6月）
4/4（土） 5/3（日） 6/6（土）
於、綿商会館 09:30-17:00



スタンペディア世界切手カタログが インターネットから飛び出ます



ペニーブラック発行175周年記念

GREAT BRITAIN 1840-1951

英国クラシック切手カタログ



無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

A5判フルカラーの紙のカタログです
2015年4月発行予定
価格未定

郵趣界重大ニュース

2014年12月～2015年3月

1 デビッド・フェルドマンの英領ギアナセール落札者が、未払いのまま死亡

昨年当誌は「英領ギアナ 初期の切手 1850-56」(第4号)で「オークションで英領ギアナ切手は誰が買った?」という記事を掲載しました。

これはサザビーズセール(1ロット、2014.6.17)およびデビッドフェルドマンのセール(131ロット、2014.6.27)の両オークションの競売マテリアルを誰が買ったかを推測した記事でした。

同記事において、後者の購入者を中東のコレクターと推測していましたが、リンズスタンプニュース 2015.1.5号にて、その人物は、カタールを治めるサーニー家の一員であるサ우드・ビン・ムハンマド・アル・サーニー氏(1966年生)であり、2014.11.9にロンドンで死去したと報道されました。

しかし記事はこれだけでは終わらず、同氏が落札総額 750万ドルの頭金として支払った87.2万ドルを除いて分割払いを一切行わないまま死去したこと、またマテリアル自体は引き続きデビッドフェルドマンが所有しているものの、残分の支払いを求めて同社が米国で訴訟を起こしたことを伝えています。

この訴訟がどのような結末になるかはまたいずれ報道があるでしょう。しかしそれより一収集家として私が気になるのは、訴訟もしくは和解後に、彼が昨年6月に落札した英領ギアナが世の中に出てくる可能性です。

なおサザビーズセールで売り建てられた暫定切手1セントについては、別の人物が落札したとされ、既に支払いも完了しているそうです。そして来年ニューヨークで開催されるWorld Stamp Show New York 2016にて公開される予定とのことです。

Linn's Stamp NEWS
World's Largest Weekly Stamp News and Marketplace

Feldman sues estate of Qatari sheikh who bid on du Pont's British Guiana stamps
By Matthew Healey
New York Correspondent
The sheikh loved exotic parrots, Islamic art, expensive watches and rare stamps. According to papers filed Dec. 8, 2014, in a New York court, he may have loved them a little too much. The New York Times obituary that appeared three weeks earlier, on Nov. 17, for Sheikh Saud bin Mohammed bin Ali Al Thani, a noted art collector with apparently bottomless pockets, focused on his globetrotting efforts to build a world-class art collection for his home country, Qatar, a tiny, oil-rich kingdom ruled by his family on the western shore of the Persian Gulf. A youngish-looking man of 48, the sheikh died suddenly Nov. 9 in London, of what seemed to be natural causes. His obituary also described the wildlife preserve he ran and the huge debts he ran up, but it made only passing mention of his boyhood hobby, stamp collecting. As it turns out, the philatelic world is now taking much greater notice of Sheikh Saud, for it was he who showed up June 27, 2014, at David Feldman's Geneva auction of the John E. du Pont collection of British Guiana, and won nearly every lot. "The late Sheikh was our main buyer in the BG sale. He was personally participating so it was and is no secret," wrote Feldman in a recent e-mail to Linn's. Sheikh Saud bid so aggressively that prices shot to breathtaking new highs, in many cases exceeding the presale estimates by a factor of 10 or more. The results were reported in Continued on page 43

First 2015 stamp ends War of 1812 series
The Battle of New Orleans forever stamp will be issued Jan. 8 at the Chalmette Battlefield in Louisiana. Page 12

Kelleher & Rogers Jan. 9-11 auction
A 1901 postage due cover with stamps of China, Hong Kong and the Philippines is to be offered in the auction. Page 24

Vote for your favorite U.S. stamp of 2014
To vote in Linn's U.S. Stamp Popularity Poll, see the ballot on page 50 or vote at www.linn.com. Page 50

Federal duck stamp price to jump \$10 in 2015
By Bill McAllister
Washington Correspondent
Duck stamp devotees are going to face "sticker shock" next year. That's because Congress has finally agreed to a big price increase for the federal government's migratory bird hunting and conservation stamps. The stamps, required by duck hunters and popular with stamp collectors, will increase by a whopping \$10 next year — to \$25. The stamps have remained priced at \$15 since 1991. The legislation, signed by President Barack Obama Dec. 18, ended eight years of efforts by conservationists to convince lawmakers that the increases were not actually taxes, but user fees, one proponent of the change told Linn's. But even Paul Schmidt, chief conservation officer for Ducks Unlimited in Memphis, Tenn., one of the big supporters of the increase, conceded that purchases of the stamp are likely to fall next year because of "a little bit of sticker shock" over the increase. Rita Dumaïne of Sam Houston Duck Co., a major duck stamp dealer, says she wishes the price "had been stepped up over the years" perhaps to \$17.50, then to \$20. "The \$10 jump is quite a bit at Continued on page 16

リンズスタンプニュース 2015.1.5号表紙

2 東芝・日電の郵便物自動取り揃え押印機実験用模擬切手類が詳細資料と共に出現

ジャパン・スタンプ商会（大阪）は昨年末より、東芝およびNEC（往時の社名はそれぞれ、東京芝浦電気株式会社と日本電気株式会社）が、郵政省に依頼して大蔵省印刷局にて印刷した模擬切手類の即売を開始しました。この切手はこれまで単片やブロック、そして使用例が出現したことはありますが、今回は未使用完全シートが登場したほか、郵政省郵務局長の公文書も出現し、発行にいたる経緯、発行枚数や、ステーションナリーまで含めた何が発行されたかも判明することになりました。

郵便管 4 6 4 号	昭和41年10月20日	ゼロ円金魚、ゼロ円弥勒赤、ゼロ円夢殿葉書（3Type）
郵便管 1 2 0 号	昭和42年3月6日	発光材を添加した模擬切手類 3 種
郵便管 3 3 7 号	昭和42年7月3日	7,15,50,65円切手の料額数字を黒の横線2条で抹消した物
郵便管 2 5 1 号	昭和44年5月24日	7,15,50,65円切手の料額数字を黒の横線2条で抹消した物
郵便管 1 8 3 号	昭和45年5月12日	7,15,20,50,65円切手の料額数字を黒の横線2条で抹消した物
郵便管 3 3 号	昭和46年1月21日	7,15,20,50,65円切手の料額数字を黒の横線2条で抹消した物 飛天葉書および錦鯉郵便書簡を同様に抹消した物
郵便管 2 3 6 号	昭和47年3月31日	10,20,70,80,90円切手の料額数字を黒の横線2条で抹消した物 土器葉書および往復葉書を同様に抹消した物



昭和42年7月3日から昭和46年1月21日迄に発行された模擬切手は類似していますが、料金額数字を抹消する黒色の横線2条の太さ・長さ・間隔に注目することで、簡単に分類できる上に、今回はシートで出現したことで目打形式も判明することになりました。（右下図）

また既存切手の料金額数字を抹消したのではなく、新たな模擬切手として製造されたゼロ円切手は、横2×縦10の20面シートであることが分かりました。（左図）

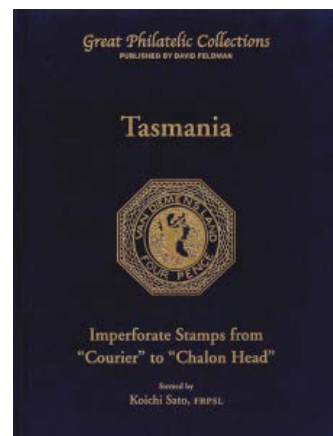
またこれまであまりよくわかっていなかったステーションナリーについてタイプ別も含めて、全容が解明しました。今後各分野の伝統収集に活かされる事が期待できます。



左上 S42.7.3, 左右 S44.5.24,
左下 S45.5.12, 右下 S46.1.21の発行分

3 佐藤浩一氏のタスマニアコレクションが「偉大な郵趣コレクション集」より刊行される。

スイスのオークションハウス・デビッドフェルドマンが刊行する「偉大な郵趣コレクション集」は、その豪華な装丁と共に、ほんの一握りの世界的なコレクションしか扱わないことで有名で、国内の収集家では他に故金井宏之氏の手彫切手が2013年に発行されただけです。



立派な装丁にも関わらず価格は100ユーロと安価です。ただ発行部数が50部のため出版元は原価割れ覚悟です。それくらい素晴らしい内容です。

4 普通切手帳、一万部増刷により高騰せず

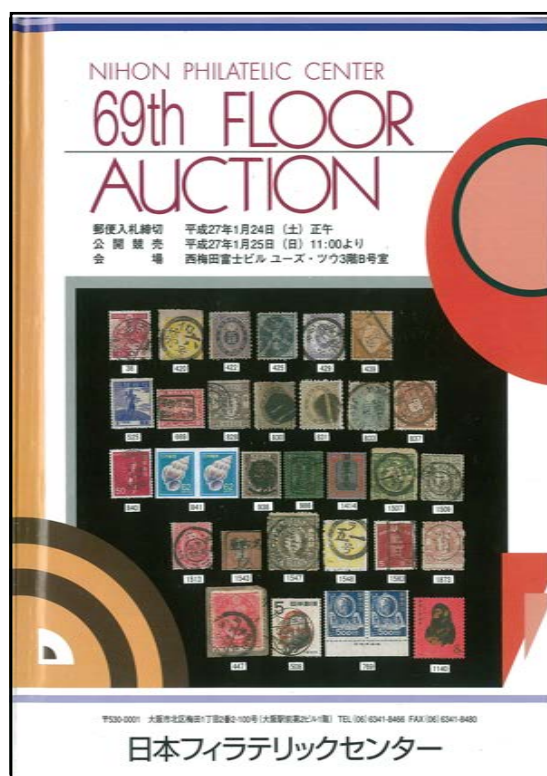
2月2日の新普通切手の発売に伴う普通切手帳は、宮内庁が公表する皇室ご一家の元日における団欒動画にも登場。郵便局での予約や通信販売も好調でしたが、当初発売予定の2万部をさらに一万部増刷したこともあり、欲しい人の手にはほとんど渡ったようでプレミアムはあまりつきませんでした。ヤフオク等における取引価格は7,000円前後、そして郵趣サービス社が小型シート2種セットを4,000円で提供すると完全に価格は落ち着いたようです。

5 大量の偽物カバーが出現

日本フィラテリックセンターの第69回フロアオークション（2015.1.25開催）に数多くの贋作と思われるカバー類が出品され、オークション開催の五日前に119ロットが出品取消となり、同社オークションの会員に郵送で通知されました。

本件は、カタログが届いた直後より鯛道治氏（当誌号外・2015年迎春号の「プラザ合意から30年の新春の悪夢」にて一部言及）を始めとして、真贋を疑う声が出始めました。その疑念は実際の下見を経て確信へとかわりオークション主催者による異例の大量出品取消となりました。

ただ、これら贋物カバーは今後ヤフオク等色々な所で出現する可能性が否定できません。鑑定を含めた対策について考えなければならない時代になりました。



6 クロネコメール便の廃止とスマートレターの開始

ヤマト運輸は、1997年3月より提供してきた日本郵便の「ゆうメール」の競合商品クロネコメール便を3月31日で廃止することを発表しました。一方日本郵便はレターパックライトのA5判版とも言える「スマートレター」を4月3日より都内で販売開始することを発表しました。A5判の専用封筒を提供し、180円で信書を含めて1KG以内の荷物を全国どこへでも届けるサービスになり、追って他府県への販売拡大が予定されています。郵便史の観点でコレクションを作られる方は、最終日および初日および初期の他府県への持ち込み使用のカバー作りをお忘れなく。

7 二大競争展の収支報告が出揃う

全日本切手展2014 (2014.8.1-3)
とJAPEx2014 (2014.10.31-
11.2) の収支報告が「全日本郵趣
増刊号(2015.1.30発行)」と「郵
趣3月号」にて発表されました。

主催するのは各主催者ですが、当
誌の購読者の中にも出品者、出展
者そして両切手展の参観を楽しみ
にされている多くのフィラテリス
トがいらっしゃると思います。

両切手展とも永続が約束されたイ
ベントではないと私は思います。
フィラテリーの振興を願う立場と
して、また出品や寄付を検討する
にあたり、彼らが発表している収
支を是非見ていただければ納得で
きる点も多いのではないかと思います。
比較掲載いたします。

両切手展の項目は必ずしも同一で
ないため、特に支出の部について
は比較が難しいところもありますが、会場費（賃貸・設営）、フレー
ム費、そして人件費が大きな支出
項目となっているのは共通のよう
です。また収入については、ブー
ス代と寄付金の両項目でJAPExが
全日展を圧倒している事が分かり
ます。

なお当誌は、どちらの競争展も分
け隔てなく支持する立場をとって
います。

収入の部	全日本切手展2014	JAPEx2014
出品料	635	1,213
入場料	170	786
出店料・ブース料	1,880	5,385
催事		1,090
協賛金（広告含む）	175	1,210
寄付金	813	3,706
特別賞		380
主催団体の負担分	1,838	
受取利息		199
合計	5,511	13,969

支出の部	全日本切手展2014	JAPEx2014
会場賃借料	1,204	6,987
会場設営料	1,021	
フレーム賃借料／展示フレー ム管理費	720	928
催事		795
実行委員・審査員・ボラン ティア費用	1,679	308
展示・表彰		1,847
会場装飾ほか	317	
賞品ほか出品作品関連	517	
寄付金募集関連	7	182
広報宣伝費		440
運営事務費		403
その他	47	
余剰金		2,079
合計	5,512	13,969

(単位：千円)

郵趣カレンダー

2015/3/15～2015/6/14の郵趣イベント

以下のイベント等については、ピックアップイベントとして詳しく取り上げております。

切手市場 / 楽しい趣味の切手展 / 第1回郵便制度史展 / 2015イギリス切手部会展
LONDON2015 / 台北2015 / 全日本切手展2015 / WSS NY2016

競争切手展（判明分すべて）

開催日	切手展名称	会場	備考
4/24-28	台北2015	台北ワールドトレードセンター展示ホール3	第30回アジア国際切手展 *出品締切済み
5/13-16	LONDON2015	ロンドンビジネスデザインセンター（地下鉄 Angel駅徒歩5分）	ヨーロッパ国際切手展 *出品締切済み
7/17-19	全日本切手展2015	すみだ産業会館（錦糸町駅前）	二大国内競争展 *出品申込 5/1-6/10
8/14-19	Singapore2015	サンズ・エキスポ・アンド・コンベンション センター（マリーナ・ベイ・サンズ）	国際切手展 *出品締切済み
10/30-11/1	JAPEX2015	東京都立産業貿易センター台東館	二大国内競争展 *出品要項未発表
11/20-23	Hong Kong 2015	香港コンベンション・アンド・エキシビショ ンセンター・ホール5G（湾仔）	第31回アジア国際切手展 *出品締切済み
2016/5/28-6/4	World Stamp Show New York 2016	ジェイコブ・ジャビッツ・コンベンションセ ンター（ニューヨーク）	国際切手展 *出品申込 2015/7/20-31
2016/10/20-25	PHILATAIPEI2016	台北ワールドトレードセンター	国際切手展 *出品要項未発表

これ以外に、2016年夏にバンコクで第32回アジア展が計画されています。

国内4大フロアオークション

開催日	主催者	回etc	事前下見日	備考
3/15	タカハシ・スタンプ・オークション	582		メールの部あり
4/19	タカハシ・スタンプ・オークション	583		メールの部あり
4/25	JPSオークション	498	4/18	メールの部あり（4/28正午 入札締め）
5/17	タカハシ・スタンプ・オークション	584		メールの部あり
5/30-31	ジャパNSTAMPオークション	87	5/24	メールの部あり（6/2午前9時 入札締め）
6/13	スターオークション	31		

※事前下見日および備考は、判明している物のみを掲載しています。またジャパNSTAMPの事前下見日については東京開催のみを掲載しています。

一般切手展

開催日	切手展名称	会場	備考
3/20-22	第6回世界の郵趣展	切手の博物館	
3/27-29	第7回聴覚障害者切手クラブ切手展	切手の博物館	
3/28-29	関西スタンプショウ2015	大阪・OMMビル	JPS関西地方本部
3/29	第3回東海郵趣連盟切手展	名古屋中郵便局2階もうやいプラザ	東海郵趣連盟、10:00AM-16:00PM
4/10-12	第1回郵便制度史展	切手の博物館	
4/18-19	イギリス切手発行175周年記念 2015イギリス切手部会展	切手の博物館	
4/21-25	楽しい趣味の切手展	東北電力グリーンプラザ・アクアホール (仙台市青葉区一番町3-7-1, 東北電力ビル1階)	JPS仙台支部主催
4/24-26	スタンプショウ2015	東京都立産業貿易センター台東館6・7	第39回、日本郵趣協会の独自ルールによるトピカル部門の競争切手展を併設
5/1-3	第11回変わり種切手展	切手の博物館	
5/5-7	第13回天野安治・魚木五夫郵趣展	切手の博物館	
5/9-10	第13回絵画切手部会展	切手の博物館	
5/29-31	なでしこ切手倶楽部展	切手の博物館	
5/30-31	東北地区郵趣大会2015 in 山形	ヒルズサンピア山形	JPS北海道・東北地方本部、山形支部
6/5-7	楽しいメータースタンプ展2015	切手の博物館	
6/13-14	第30回昆虫切手展	切手の博物館	

切手のフリーマーケット、即売会

開催日	曜日	名称	回	備考
3/14-15	土日	切手バザール	73	切手の博物館（目白）
3/20-23	木-日	JSDA切手まつり2015	28	東京交通会館12階ダイヤモンドホール 10:00-18:00 ※初日は12:00開場、最終日は15:00入場〆切・16:00閉場
4/4	土	切手市場	121	日本橋富沢町 綿商開館 9:30-17:00
4/4-5	土日	切手バザール	74	切手の博物館（目白）
5/3	日	切手市場	122	日本橋富沢町 綿商開館 9:30-17:00
5/16-17	土日	切手バザール	75	切手の博物館（目白）
5/30-31	土日	大阪駅前第三ビルバザール	45	大阪駅前第三ビル17階 10:00-18:00
6/6	土	切手市場	123	日本橋富沢町 綿商開館 9:30-17:00

郵趣カレンダーおよびピックアップ イベントへの掲載をご希望の方向け

The Philatelist Magazine では、郵趣を活性化させるイベントを開催・運営される方を宣伝の観点からお助けします。地方郵趣会の切手展であっても、展示物に自信があるイベントを主催されていらっしゃる方、是非ピックアップ イベントに掲載してみませんか。展示作品、フレーム数、出品者名等を明記の上、tpm@stampedia.net までご連絡ください。
切手展以外のイベントの宣伝もまずは電子メールでご相談ください。

切手市場

開催日：4/4, 5/3, 6/6（毎月第一土曜日 9:00～17:00）

切手市場管理人 高崎 真一

5月の開催日が日曜日となりますのでご注意ください。

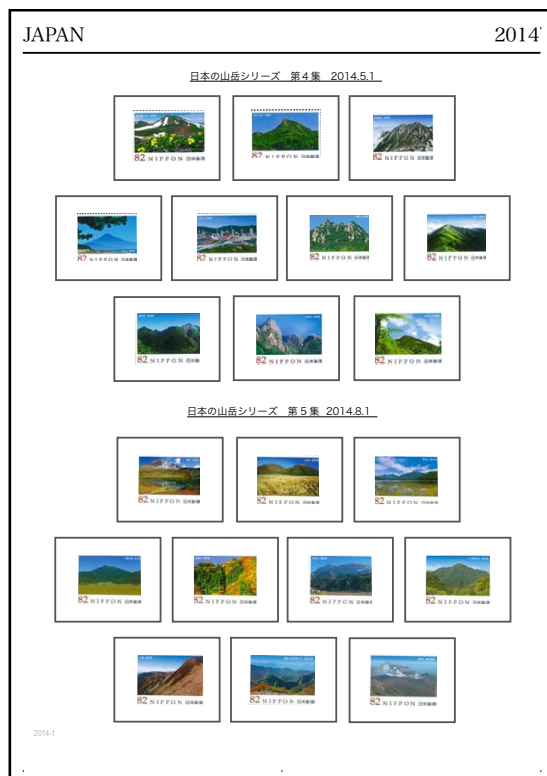
切手市場管理人の高崎真一です。毎月のように本誌TPM読者様にも多数ご来場いただきありがとうございます。STAMPEDIA会員さんにご利用いただけるダウンロード版・日本切手図入アルバム2014年版のユーザー様にもお越しいただきはじめ、早速STAMPEDIAグループ代表の吉田さんが図入アルバムを利用した切手市場でのお買い物ガイドをブログで紹介下さいました。ぜひ当誌会員さんの中で近年の日本切手にご興味の方がいらっしゃいましたらブログをご参考に切手市場での楽しめる入手をおすすめいたします。

今年も変わらず日本橋富沢町・綿商会館で毎月第一土曜日に開催しています。5月の5連休の所だけ5月3日日曜日のイレギュラー開催ですのでご注意下さい。ここ数ヶ月間スタンプクラブ誌の効果もあって親子

連れ・家族連れ・カップル・女子会などのご来場が多く毎月5組前後お越しいただいています。新しく来てくださる皆様が益々切手に興味を持って楽しんで過ごして下さい願っています。出店メンバーの皆さんやベテランコレクターの皆さんにはいつもご協力いただいています。

とは言え本誌をご覧の皆様の顔触れを想像しますと少しランクの高い中～高級品や切手展展示を前提としたコレクションに収めるマテリアルをお求めの方も多いことでしょう。そんな方におすすめなのはなんといっても100円カバーと袋入高級カバーが毎月山のように入れ替わる齊藤裕美さんのショップだと思います。今回はその中で僕自身が楽しめるテーマを見つけて収集にチャレンジしてみました。

毎度齊藤さんSHOPで皆さん何を選んでいるのか観察してみるのが切手や官製葉書そのもののバラエティーとデータ取りを楽しむ方、郵便史観点で郵便法改正に絡む初期・終時期使用例、特殊取扱や鉄郵・付箋・支え・軍事・消毒などカバー上でしか表現されないバラエティを楽しむ方、出身地などご自身の思い入れのある地域に限定して全年代に幅を広げて収集される方等様々です。



根底には100円なら多少状態が悪くても、探していたアレでなくても気軽に買えてしまうということがあります。ヒットすれば時価数千円～1万円位のカバーに行き当たることもあります。買い手のテーマや研究性に照合するとおおよそそんな事どうでも良く毎月膨大な量の戦前戦後のカバーをリリースして下さっている事、好きなものを選べる事がメインイベントなんだと最近つくづく実感しています。切手市場始まって以来長年に渡って愛されるショップを続けて下さっている齊藤さんに感謝致します。

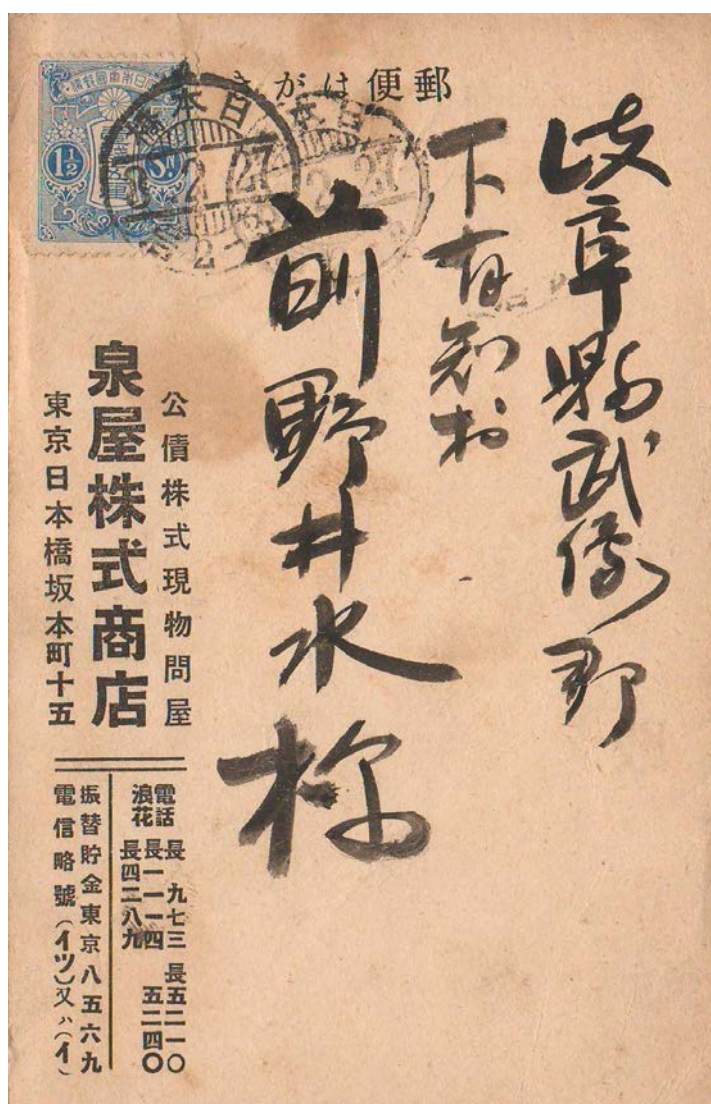
さて年末年始から連載している綿商会館界隈の日本橋の消印が押されたカバーは齊藤さんショップからの収穫ではありませんが、1月の切手市場でも再確認しましたところ流石の商業都市・問屋町の日本橋、古いカバーを探してみるとかなりの確立で日本橋カバーには巡りあえることが出来ます。

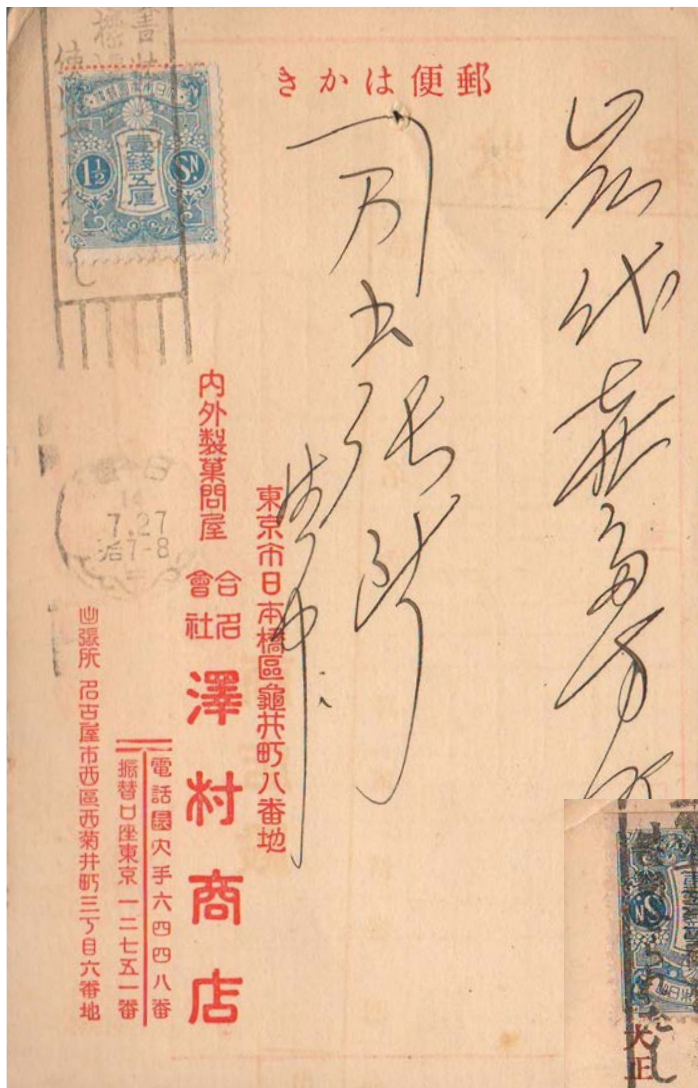
画像は田沢1.5銭貼櫛・日本橋3.2.27は日本橋坂本町の泉屋株式店差出の私製葉書です。電話番号欄は局名が浪花になっていることから富沢町に近いことが察せられるでしょう。そして証券屋が差出ならピンとくるでしょう。現在の日本橋兜町域の昭和8年まで存在した町名です。

細かく言うと昭和8年～住居表示実施までは兜町2・3丁目、旧兜町が兜町1丁目、三代町が兜町3丁目に整理されました。

元禄年間（1688～1704）に向井将監の屋敷地が町場となり坂本町1・2丁目が成立というのが始まりらしく、兜町の名称は明示4年が発祥とされています。兜町の名称の由来は兜神社の兜塚・甲山によると伝えています。丹波綾部の水軍大名九鬼式部少輔の屋敷が長らくこの地で栄えて町屋が発達したことも大きな要因のようです。明治元年以降金融街として発展していきます。

話を元に戻しまして江戸時代からの坂本町は日枝山王社（茅場町稲荷）の社前に出た植木職人が多く住み、植木店と呼ばれていました。幕府の御用学者であった荻生徂徠が住んでいたのが知られています。

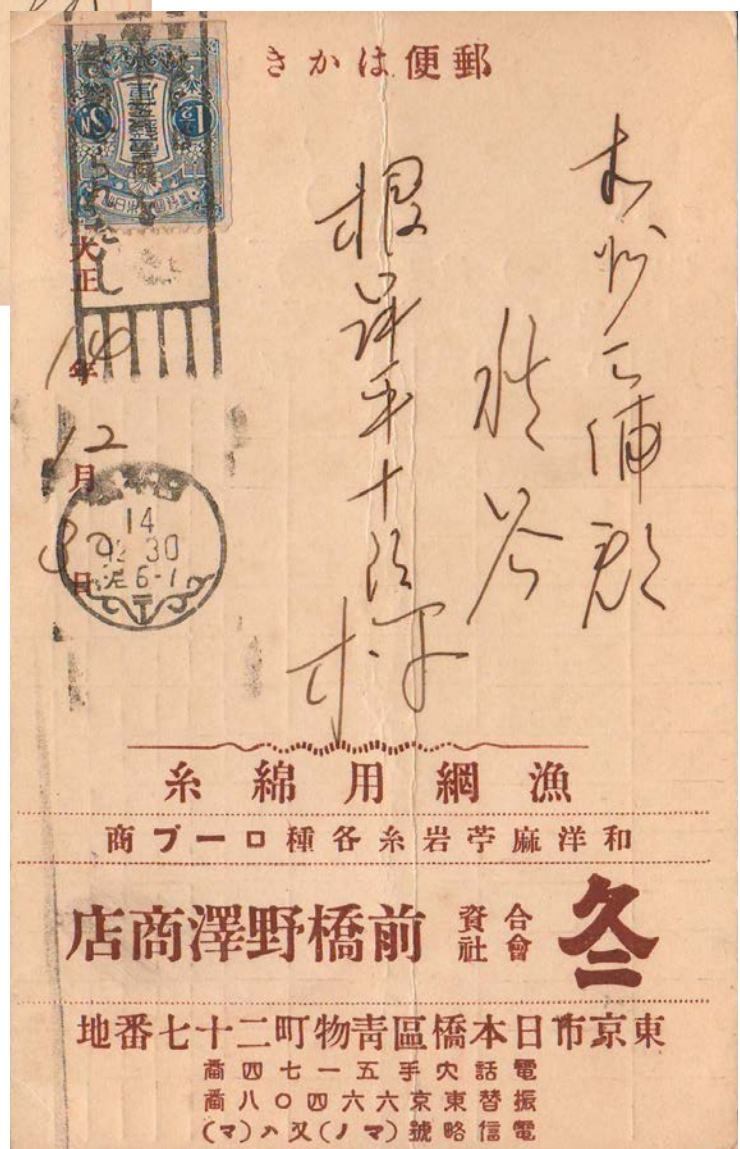




左の画像も田沢1.5銭貼で書状には標準封筒を使用せられたし/日本橋14.7.27のL型標語印が押されています。差出人住所は日本橋区亀井町・澤村商店です。

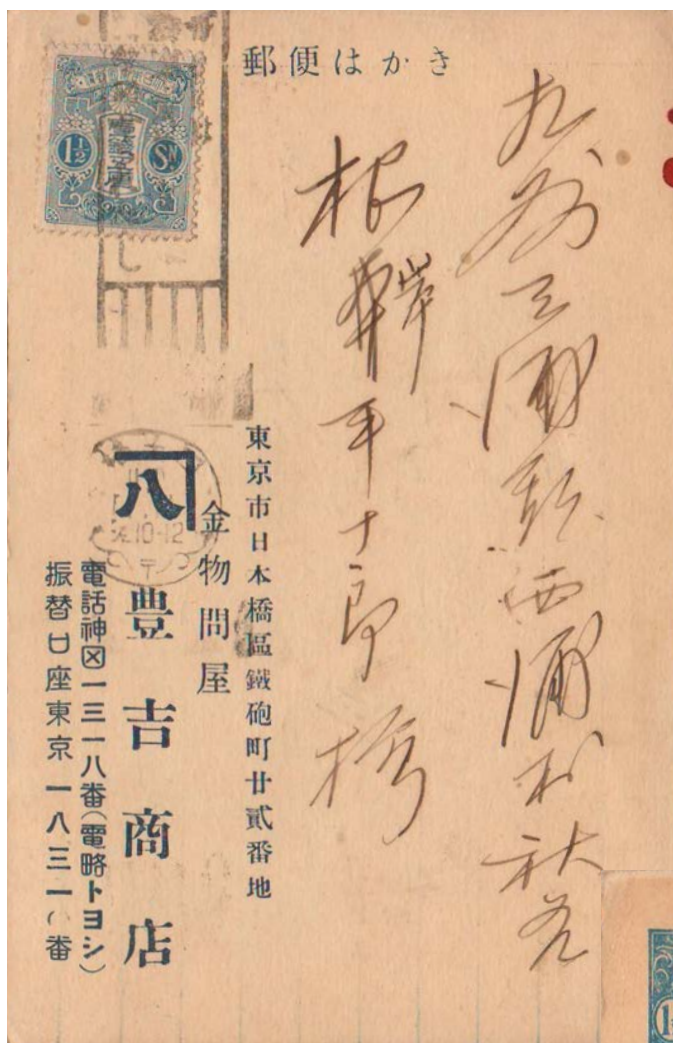
亀井町は昭和7年に小伝馬町3丁目に改編されるのですが、亀井町域の多くは昭和6年に神田区に編入され現在の岩本町1丁目にあたります。中央区北部と千代田区の境界部は神田堀とも呼ばれる竜閑川が流れていた部分です。旧小伝馬町3丁目域は元禄時代までの寺地が町に発展して籠職人や寺小屋が栄えたそうです。

右の葉書は田沢1.5銭ペーン貼・標準封



筒を使用せられたし/日本橋14.12.30のL型標語印です。差出人住所は日本橋区青物町で昭和3年から江戸橋1丁目、住居表示実施以降日本橋1丁目にあたります。

青物市場でもあったのでしょうか。京橋大根河岸や秋葉原にあった神田市場の前身の多町神田市場などは有名ですが、江戸期には日本橋界限で30以上の野菜市場があったそうです。神社の境内で露天を広げる原始的なものらしいですが水運の町・日本橋だけに納得できます。築地の魚河岸の前身である魚市場が日本橋にあって東京の台所と呼ばれた話もよく聞きます。



画像左の消印は「書状には標準封筒を使用せられたし日本橋15.1.11后10-12」で差出人住所は日本橋区鉄砲町となっています。

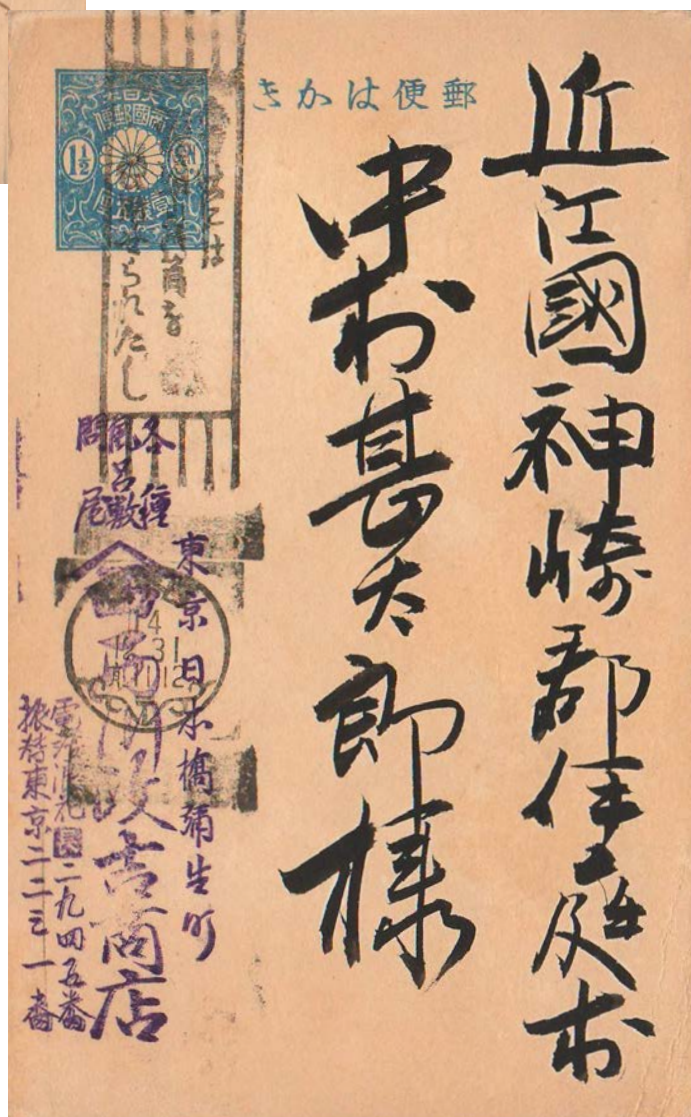
年号は大正15年で後の字の右半分が不鮮明になっているにも関わらず10-12の字は鮮明です。この頃のD型機械印へ取り付けられたL波又はL型標語印時代の日付部の時刻欄は前後の字と英数字の部分が別活字だったことが推定できる特徴です。

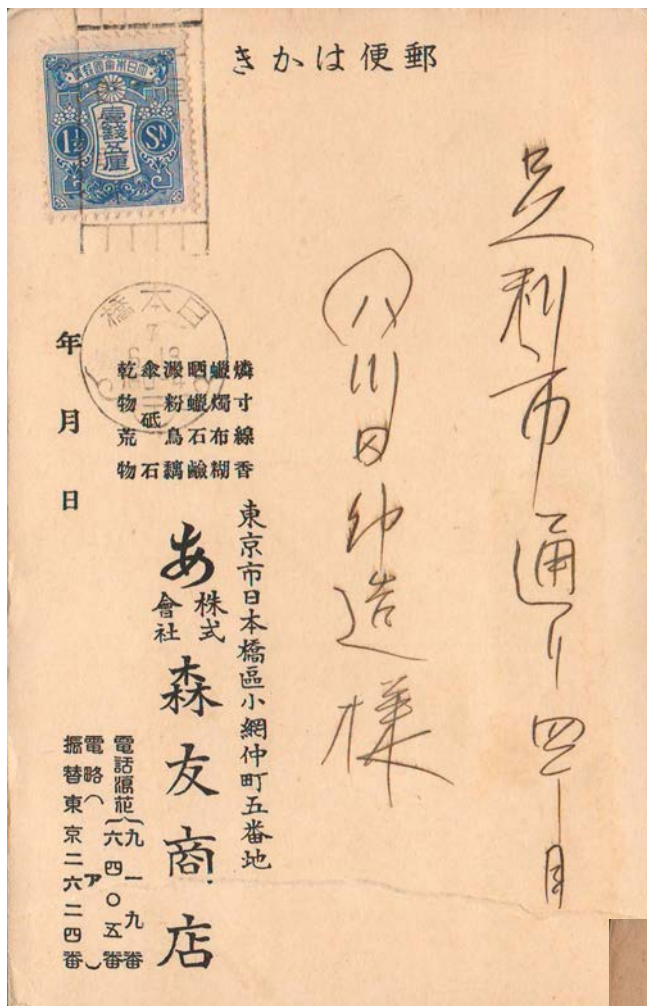
この鉄砲町は江戸時代に興り、昭和7年に廃止されました。震災復興後の区画整理で本町3・4丁目となり、現在の日本橋本町3・4丁目にあたります。

画像右の官製・分銅葉書は「書状には標準封筒を使用せられたし日本橋14.12.31前11-12」が黒々と押され標語部と日付部の周囲に黒く彫刻土台の形まで押印されています。

また日付部の丸型がやや左にずれていることからこの当時は印影向かって左側から日付部を差し込むような構造だったことがわかります。標語入機械印の最初の時代のL型は大正14年からとされていますので、ギリギリ初年の消印です。

差出人は日本橋弥生町の風呂敷問屋。名前は同じですが現在の西川グループとは違うようです。この弥生町は昭和7年に富沢町に編入されます。





左の画像の消印は「千里も一飛航空郵便日本橋7.6.18后0-4」で大賀式機械印の登場に併せて作られたM型標語印です。先のD型機械印のL型消印も暫時このタイプに切り替えていかれます。

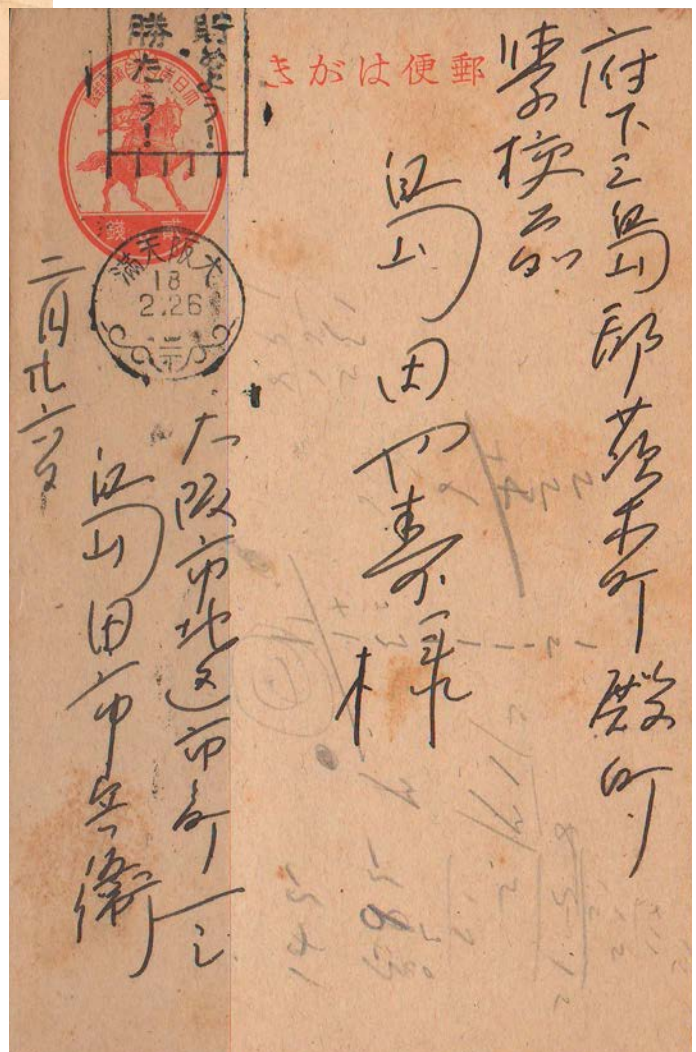
差出人住所は日本橋区小網仲町5番地となっています。この町名は少し遅く昭和8年までの存続で、この消印は町名の末期の日付となります。その年に小網町2丁目に整理され、戦後の住居表示の改編では日本橋小網町・日本橋人形町1丁目に統合されます。

東京都中央区の住居表示実施の際は既存の旧町名+丁目(2丁目以降)が別の新町名に組み込まれ旧町名は別の街を吸収して日本橋を冠した新町名に生まれ変わっている場合

が多く見られます。この複雑な整理の仕方は大きな通りに跨って小さな町だったのを通を区画として町名を与えていく方式に変更したためです。

少し消印にも注目してみたいと思います。左の「貯めよう!勝たう!/大阪天満18.2.26/時刻空欄」は北海道で昭和17年から先行して始まっていた資材節約のための機械印時刻表示空欄型の全国化初期印影です。地域によっては2月10日台のものも見ます。

この機械印の特徴は押印中に空欄部に月日の活字がすべり落ちるアクシデントが多発するため時刻欄には古い年号などの廃活字を逆さまに取り付けてツッカイ棒にしている部分です。このような初期の



段階からテマークの上部に活字痕が見られるのは最初からずり落ち現象を理解していた事がわかり、また機械印活字部の構造を把握するのにも役に立ちます。

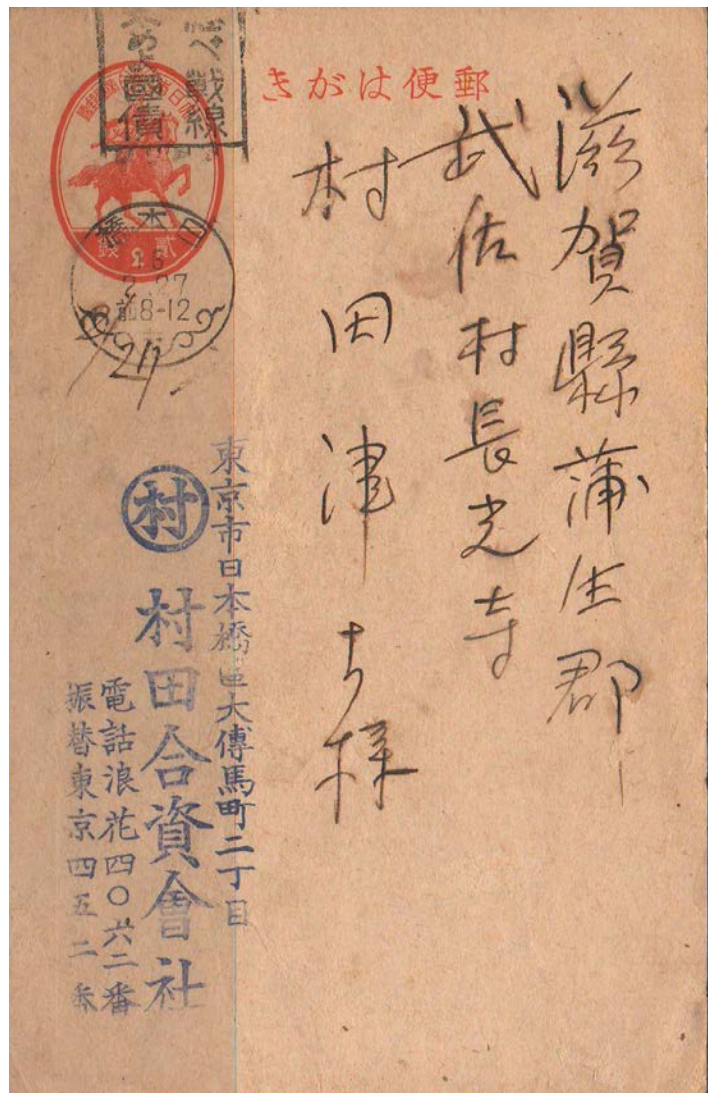
左の「偲べ戦線求めよ國債/日本橋16.2.27前8-12」の印影はその2年前の時代、差出人に注目すると東京市日本橋区大伝馬町二丁目とあります。

中央区の前身である日本橋区の名称は明治11年の郡区町区編制法の施行時からで東京府下15区6郡が置かれた中の1つです。

明治22年5月1日東京市成立、昭和18年7月1日の東京府・市が都に移行する時点では35区になっていました。この大伝馬町2丁目は関東大震災以降の位置名称で昭和40年からの住居表示実施で日本橋大伝馬町や近隣の町名に整理されました。

もう一つ注目したいのが電話番号に併記された局名が「浪花4062番」となっているところで、こちらは東京中央電話局浪花分局のことです。

至近に並んでいた茅場分局と併せて現在の小川橋交差点付近にあるNTT茅場兜営業所へと姿を変えていきます。この分局が建っていたのは綿商会館と同じ日本橋富沢町の1番地であり、昭和55年まで浪花町という町名だった部分です。



JPSが本年度のミニペックス予定を発表

2月14日に日本郵趣協会が、本年4月から来年の3月にかけて切手の博物館にて開催するミニペックスの予定をホームページで発表しました。26切手展（内JPS系の部会が15）が予定されており、以下に掲載のとおりです。

このミニペックスがあることがフィラテリーの振興に大きく役立っており、各切手展主催者ならびに日本郵趣協会に感謝申し上げます。

切手展名称	開催日付	主催者
第1回郵便制度史展	4月10日(金)～4月12日(日)	郵便制度史展実行委員会
イギリス切手発行175周年記念 2015イギリス切手部会展	4月18日(土)～4月19日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 イギリス切手部会
第11回変わり種切手展	5月1日(金)～5月3日(日・祝)	変わり種郵趣グループ
第13回天野安治・魚木五夫郵趣展	5月5日(火・祝)～5月7日(木)	天野安治氏・魚木五夫氏
第13回絵画切手部会展	5月9日(土)～5月10日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 絵画切手部会
なでしこ切手倶楽部展	5月29日(金)～5月31日(日)	なでしこ切手倶楽部
楽しいメータースタンプ展2015	6月5日(金)～6月7日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 メータースタンプ部会
第30回昆虫切手展	6月13日(土)～6月14日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 昆虫切手部会
東大OBによる切手を楽しむ切手展	6月19日(金)～6月21日(日)	東京大学切手研究会
満月印展	6月19日(金)～6月21日(日)	山田廉一氏
日韓国交正常化50周年記念 コーリア切手部会展2015	6月26日(金)～6月28日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 コーリア切手部会
アメリカ切手展2015 america'15	7月8日(水)～7月12日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 アメリカ切手部会
航空部会展2015	9月25日(金)～9月27日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 航空部会
第3回ヨーロッパ切手展	10月9日(金)～10月10日(土)	ヨーロッパ切手展実行委員会
第12回震災切手と震災郵趣展	10月13日(火)～10月15日(木)	震災切手研究会
ペンシルロケット60周年記念★ 2015宇宙切手部会展	10月16日(金)～10月18日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 宇宙切手部会
北欧切手展 NORDEX2015	10月24日(土)～10月25日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 北欧切手部会
第6回世界の植物切手展	11月5日(木)～11月8日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 植物切手部会
チャイコフスキー生誕175年記念 音楽切手展	11月21日(土)～11月22日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 音楽切手部会
第7回テーマティック出品者の会切手展	1月17日(日)～1月20日(水)	テーマティック出品者の会
第11回中国郵票展	1月23日(土)～1月24日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 福井和雄理事長
パソコン郵趣部会展2016	2月19日(金)～2月20日(土)	公益財団法人日本郵趣協会 パソコン郵趣部会
第7回世界の郵趣展	3月6日(日)～3月9日(水)	クラシックフィラテリー研究会
第8回聴覚障害者切手クラブ切手展	3月11日(金)～3月13日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 聴覚障害者切手クラブ
菊田沢MINIPEX2016	3月18日(金)～3月20日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 菊・田沢切手部会
第17回ドイツ切手展 Germania2016	3月25日(金)～3月27日(日)	公益財団法人日本郵趣協会 ドイツ切手部会

毎年、仙台で開催されている切手展。交通至便！

楽しい趣味の切手展

4/21 - 4/25 仙台・東北電力グリーンプラザ・アクアホール

JPS仙台支部

毎年、仙台の一等地で切手展を開催している、JPS仙台支部から今年も展示作品のご案内が届きました。フィラテリストマガジン読者が興味を持てそうな作品をピックアップしてみましたので、是非ご参考になさってください。（1フレーム9リーフで40フレームを展示予定）

開催期間：2015.4.21（火）～4.25（土）10:00-18:00（但し最終日のみ16:00終了）

開催場所：東北電力グリーンプラザ・アクアホール（地下鉄 広瀬通駅近く）

（１）二つ折りはがき（出品者：斎享） 我国最初の郵便はがきとして登場した手彫はがきは「二つ折り」の葉書でした。一番最初の「紅粋二つ折りはがき」から次の「脇つき二つ折り葉書」と「脇なし二つ折りはがき」まで、登場順に整理し約80リーフに取りまとめたものです。内容は、みほんから始まり、未使用では特にカナ別区分が圧巻です。さらに使用例では不統一印から始まり記番印やボタ印などがあり、とても見応え十分の迫力があります。

（２）日本南極観測隊（出品者：小関幸生） 日本の南極観測隊の第1次からの記念カバーを順に整理したもので、今となっては大変貴重なマテリアル類となっております。当時の切手に観測船「宗谷」と観測基地「昭和基地」の各風景印が押され余白部に各次の記念図案が印刷されたカバーです。北極と南極の極地カバー類として今も世界的に人気のある分野です。

（３）思い出の東京オリンピック（出品者：中澤正夫） 1964年(昭和39年)に開催された東京オリンピックは数々の名場面による感動と興奮とが、今もなお心に焼き付いている思い出として大変すばらしい大会でした。当時の熱気が今も伝わる各種の切手や小型シート等をFDCやMC及びエンタニア等を加えて整理したものです。外国切手や記念シール等も補足的に一部のみ取り込み、当時の懐かしい思い出が一杯詰まっているものです。

（４）ふるさとの富士（出品者：白鳥友治） 日本各地に見られる名峰・富士山に見立てた「郷土の富士」に関連した、ふるさと切手、葉書(絵入り葉書、エコー葉書)、各種小型記念印、風景印、各種消印(広告印、他)などの入手可能なマテリアル類をフル活用してリーフ展開した作品です。一昨年に富士山が世界文化遺産として登録されたのを機会に、昨年に引き続き新たに今回の切手展へ出品する為に取りまとめたとの事です。

（５）新幹線50年（出品者：佐藤英幸） 当該作品は日本及び外国で発行された新幹線関連切手を新幹線車両の年代順に整理したもので、特に展示用リーフの作成仕上がりが大変に綺麗なものです。例えば、単片切手と小型シートの組み合わせや整理の仕方のテクニックや、パソコン作成によるプリンター仕上げのテクニック（例：ザブトン替わりにもなる灰色での太い枠線入り、等）が目で見ても直接確認出来るものと思います。

4/11には記念カンファレンス&レセプションを開催！

第一回郵便制度史展

4/10（金） - 4/12（日） 10:30～17:00 切手の博物館

郵便制度史展実行委員会

当誌では、この切手展の号外を4月上旬に発行予定です。

さて今般、当実行委員会主催（後援：特定非営利活動法人日本郵便文化振興機構、無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社）により、下記のとおり「第1回郵便制度史展」を開催する事になりました。つきましては、ぜひとも貴台のご来臨の栄を賜りたく、ここにご案内申し上げます。

日時・場所：2015.4.10-12 10:30AM - 17:00PM 切手の博物館（目白） 入場無料

出品作品 ：7名42フレーム

「内国郵便整備史（1883-1900）―郵便条例から郵便法へ―」（片山七三雄）

「外信低料郵便物1947-1959」（岩崎朋之）

「内国証明郵便制度」（町屋安男）

「訴訟書類郵便」（中村悟）

「配達証明郵便」（行徳国宏）

「内国葉書の郵便史」（吉田敬）

「日本の急速送達郵便史 飛脚時代～1937年まで」（池田健三郎）

第1回郵便制度史展の開催を記念して、カンファレンスとレセプションを開催いたします。
（有料・事前申込み必要・30席まで）詳細は下記になりますので、ぜひご参加ください。

第1回郵便制度史展 記念カンファレンスおよびレセプション 実施要領

日時：2015年4月11日(土)

17:00-17:30 受付

17:30-18:30 記念カンファレンス

18:30-20:30 レセプション

場所：Osteria Hada(オステリア ハダ)

目白駅徒歩4分(改札を出て左折、りそな銀行の脇を斜めに入ってすぐ)

東京都豊島区目白 3-6-4 目白ビル B1F

電話 03-5988-0030

プログラム：

(1)開会

(2)記念カンファレンス(17:30-18:30)

「郵便制度史研究の現在・過去・未来」と題し、当展実行委員会メンバー

3 名(行徳国宏・吉田敬・池田健三郎<ファシリテータ>)がディスカッションを行います。

また当日は、カンファレンス参加者限定の文献を配布致します。

(3)レセプション(18:30-20:30)

イタリア料理のフルコース・ディナーをお楽しみいただきます。

(4)閉会

会費：7,000 円(当日受付にて申し受けます)

※2 日前以降になりますとキャンセルできません(全額会費をいただきます)

ドレスコード：平服

ご参加のお申込み (3.25締切、先着30席)

メールにて、実行委員会・池田あてに 「お名前(フルネーム)および当日連絡可能な電話番号」 をご連絡願います。 アドレスは、ikedakenzaburo@gmail.com です。 必ず折り返し確認メールをお送りします。 予定数に達しましたら締切ります。

＊パネリストおよびファシリテータ紹介

パネリスト

行徳 国宏 GYOTOKU, Kunihiro

今回、「日本における配達証明郵便」を出展。

速達郵便、第 1 種無封・第 4 種郵便等を研究。

1938 年生(76 歳)。蒐歴 55 年。

吉田 敬 YOSHIDA, Takashi

今回、「内国葉書の郵便史 1873-2014」を出展。

切手のゼネラル収集をメインとする。

1967 年生(47 歳)。蒐歴 8 年。

ファシリテータ

池田 健三郎 IKEDA, Kenzaburo

今回、「日本の急速送達郵便史 — 飛脚時代から速達全国化直前まで」を出展。

急速郵便(別段急便・別配達・別仕立・速達・航空)等を研究。

1968 年生(46 歳)。蒐歴 39 年。

誠に恐れ入りますが、カンファレンスおよびレセプションにご出席いただける場合には、3 月 25 日(水)までにご連絡をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。なお、この記念カンファレンスおよびレセプションは会場の制約上、席数 30 までと限られておりますので、お申込み受付は先着順とし、予定席数に到達次第、締め切らせて頂きますので、何卒ご了承ください。

イギリス切手発行175周年記念 2015イギリス切手部会展

4/18 - 4/19 (10:30~17:00) 切手の博物館

日本郵趣協会 イギリス切手部会



イギリス切手部会は毎年ミニペックスを開催しています。

本年はイギリス切手発行175周年の記念の年ということもあり、より多くの会員による展示を行う予定です。

例年よりも早い時期の開催となりますが、どうぞお越してください。

出品作品	フレーム数	出品者
Penny black	3	安藤 裕
1929年 第9回万国郵便連合会議 (UPU会議)	1	池原 郁夫
ワイルディング・グラビア印刷 ア・ラカルト	1	伊藤 敦
ハリソン社・城高額1次	1	上原 輝雄
イギリスの風景印	1	梅澤 和男
イギリスの電信切手	2	太田 忠一
オレは (・・・) サギだ!	1	大室 秀幸
旅のスターは“ロンドン展2000”	2	甲斐 正三
Penny Reds 1841-1870's	4	佐藤 明夫
Post & Go切手 マーチン図案	1	佐藤 明夫
第二次世界大戦期の英国郵便史 - 在英外国軍事郵便局	3	佐藤 浩一
大英帝国の興隆とビクトリア女王の崩御・ビクトリア王朝の終焉	3	早瀬 英雄
英領の鳥切手 (南太平洋) 後編	3	藤森 和喜
「英国現行切手」としてのマーチン	1	山田 邦博
英国開催の国際展記念切手を中心とするペニーブラック発行記念年の関連切手	1	吉田 敬
戦後、広島県を中心とする中国地方で使用された、英連邦占領軍の切手	1	吉田 敬
切手百年	1	吉村 昭紀
Jubilee	2	吉村 昭紀
世界各国の初期ビクトリア切手	2	(部会・梅澤)
ネパール	4	水村 伸行
英国統治香港の普通切手	2	佐々木 隆

ヨーロッパ国際切手展 LONDON2015

5/13 - 5/16 ロンドンビジネスデザインセンター

ヨーロッパでの国際切手展の開催が2010年を最後に途絶えていますが、その間もアジアにおける「アジア国際切手展」と同じ位置付けの「ヨーロッパ国際切手展」が毎年のように開催されており、本年はイギリスとギリシャで開催されます。

中でも英国で5月に開催されるLONDON2015は、1840.5.6に使用が開始されたペニーブラックの発行から175周年を記念する年の切手展であり、質量ともに近年の国際切手展を含めても最大のものの一つになると言われており、ヨーロッパ以外からも注目を集めています。

開催期間：2015.5.13（水）～5.16（土）

開催場所：ロンドンビジネスデザインセンター（地下鉄 Angel 駅近く）

展示フレーム数：1400

出品作品のタイトル、出品者名、国、クラスは、以下のようにホームページに掲載されており、閲覧が可能

Austria	Fritz Puschmann	Austrian issues 1850-1867	Traditional
Belarus	Viktar Kopats	Estland 1792-1941 (Estonia)	Traditional
Belgium	Hubert Caprasse	The Belgian Coil stamps (1953-1973)	Traditional

参加ブース：約100

ブース名をピックアップ：クリストフガートナー、ベアー、カヴェンディッシュ、コリンフィラ、デヴィッド・フェルドマン、デルカンブ、HRハーマー、HAハーマー、ハインリッヒ・ケラー、ホネガー、ジョン・ブル、ラップ、ポストビルド、ポストイルヨーネン、スピנק、ギボンズ、イベール、チューリッヒ・アジア

記念オークション

ハインリッヒ・ケラーとコリンフィラのグループが5/16に記念オークションを開催

入場料：10ポンド

ホームページ：www.london2015.net

今回主に展示を見学にフィラテリストマガジンでは取材出張を予定しております。特に世界の郵趣の中心の切手展でモダンな切手がどのように取り扱われているかに関心を持っています。

第30回アジア国際切手展 台北 2015

4/24 - 4/28 台北ワールドトレードセンター展示ホール3

スタンプショウ2015と期間が重なりますが、アジア国際展が台湾の台北市で開催されます。

開催期間：2015.4.24（金）～4.28（火）

開催場所：台湾ワールドトレードセンター Hall 3（地下鉄 Taipei101/World Trade center 駅近く）

展示フレーム数：1000 *2/26現在、ホームページで出品一覧をみつけられませんでした。

入場料：無料

ホームページ：taipei2015.post.gov.tw/post/taipei2015/

日本からの出品作品一覧（文献部門を除く）

区分		エントリー作品	フレーム数	出品者
伝統部門	アジア・オセアニア	Japan Syowa Series 1937-1946	5	Yamashita, Teetsuya
伝統部門	アジア・オセアニア	Ryukyus 1945-52	8	Ishizawa, Tsukasa
伝統部門	アジア・オセアニア	Siam Classic	8	Iwasaki, Zenta
伝統部門	アジア・オセアニア	Japan Chrysanthemum Series 1899-1910	5	Murayama, Kousuke
郵便史部門	ナショナルクラス	Japanese Postal History in Taiwan	5	Shimizu, Masaaki
郵便史部門	アジア・オセアニア	Early Cancellations of Okayama Prefecture (Bizen, Biccyu and Mimasaka Provinces)	8	Ando, Gensei
郵便史部門	アジア・オセアニア	Roman Machine Cancellation of Japan	5	Yoshida, Takashi
郵便史部門	アジア・オセアニア	US Postal Agency in Shanghai & Early History 1802-1922	5	Ohba, Mitsuhiro
郵便史部門	アジア・オセアニア	Prompt Delivery in Japan as Nationwide Services	8	Ikeda, Kenzaburo
ステーションナリー部門		Koban Post Cards	5	komiya, Satoshi
ワンフレーム部門	伝統	Japanese High-Value Definitive Issue "Fujiwara-no-Kamatari 5 yen"	1	Ikeda, Kenzaburo
ワンフレーム部門	ステーションナリー	British Military Air Mail Stationeries in WWII 1941-1945	1	Sugihara, Masaki
モダンフィラテリー		The Postal History of Lithuania Registered Mail	5	Araki, Hiroataka
モダンフィラテリー		Japan Definitives; 1980-1988	5	Sudani, Nobuhiro

前ページに日本人の出品作品一覧を掲載しましたが14作品74フレームにも及びます。これは本展覧会の競争出品の1割弱に相当し、日本人の作品がハイライトのひとつであることがわかります。中でも注目は、モダンフィラテリーに出品される2作品で、私の知る限り、日本人がモダンフィラテリーに出品するのは史上初ではないかと思います。そのうちの一人で「Japan Definitives: 1980-1988」を出品される須谷さんからは「なんとかいい賞がつくように頑張ります」と抱負をいただいております。英文で書くとピンと来ない方もおられると思いますが須谷さんが展示されるのは、新動植物国宝の1980年シリーズです。「そんなモダンな切手で国際展に行けるの？」とびっくりされる方もいらっしゃるかもしれません。行けるんです！須谷さんの作品作り、そしてそれに対する国際郵趣連盟ルール上の評価がどうか、今から楽しみです。

また今回の切手展への日本人のエントリーは5フレーム作品が多いのも特徴の一つで、モダンフィラテリーの二作品も合わせると、8作品が5フレームです。5フレーム作品の中には初出品の作品も含まれています。国際展常連の作品を見て日本人の躍進を確認するのも楽しいものですがあわせて、新しい作品を見て目の保養をするのも良いかもしれません。いずれにせよ、楽しんで参観し、詳細を次号にてレポートしたいと思いますのでご期待ください。

日本からの文献出品の一覧

区分	エントリー作品	出品者
単行本	Data Book of the Japanese Railroad Cancellations	Narumi Co
単行本	The Japanese Scenic Cancellations	Narumi Co
単行本	A Guidance for Philatelic Literatures	Shoda, Yukihiro
単行本	Japanese Postal history of Official Compulsory Delivery for Lawsuit Documents	Ikeda, Kenzaburo
単行本	National Palace Museum	Japan Philatelic Publications Inc.
単行本	Postal History of the Japanese Military Mail 1894-1921	Tamaki, Jun-Ichi
雑誌	Stampedia Philatelic Journal	Stampedia Inc
カタログ	Visual Japanese Stamp Catalog Vol 1, Vol 2, Vol 3	Japan Philatelic Society Foundation

また文献部門も8作品と多めの出品がされています。前回特別賞を獲得した当社のフィラテリックジャーナルは、今回より体裁を整えた2014年版の審査となり、審査のフィードバックを楽しみにしています。

ちなみに台湾はみなさんご想像の通り、日本から行きやすい国の一つで、それは最近国際展が開催されているソウル、クアラルンプールに負けず劣らずです。アジア展は、本格的な国際展に比べると規模も小さく、展示を見るのに圧倒されることも少ないと思いますので、是非機会があれば、台湾旅行も兼ねてご訪問ください。

本年7月17-19日、錦糸町にて開催 第65回<全日本切手展2015>作品募集要項

出品申込期間：5/1 - 6/10

全日本切手展2015実行委員会

本号締切ギリギリに夏の全日展の出品要項が飛び込んできました。抜粋を掲載するとともに、本誌号外に要項すべてを掲載いたします。これまでなかったジュリークリティークを開始するなど意欲的な内容となっております。ご出品をお考えの方は是非頑張ってください。（編集部）

1. 開催時期： 2015年7月17日（金）～19日（日）（3日間）

2. 開催場所：すみだ産業会館8階(東京都墨田区江東橋3丁目9-10、第1会場)等。

3. 出品申込と結果の通知 一部省略

出品申込の受付期間は2015年5月1日（金）～6月10日（水）とします。

お申込みいただいたご出品の可否は、実行委員会での検討を経て、2015年6月20日までに最終決定をし、お申込みいただいた方にご連絡いたします。出品が受理された場合、正当な理由なく、出品をキャンセルすることはできませんのでご注意ください。

4. 出品クラス

- コート・オブ・オーナー（名誉招待出品）
- （各企画展における）招待展示
- チャンピオンクラス(過去のF I PもしくはF I A P国際切手展で金賞以上を受賞した作品。受賞の年度は問いません)
*チャンピオンクラスの出品作品にはメダルのみが授与され、特別賞は授与されません。
- 第1部門：国別伝統(ステーションナリーを含む)
A)日本および関連地域
B)上記以外の外国
- 第2部門：郵便史（航空郵趣を含む）
A)日本および関連地域
B)上記以外の外国
- 第3部門 テーマティック
- 第4部門：オープン
- 第5部門：ユース（2015年4月1日時点で満21歳以下）
*ユースの最高賞は金賞です。審査は出品者の年齢を考慮し、行います。
- 第6部門：（1989年以降の）現代郵趣
1989年から現在までに発行された郵趣材料によって構成された作品で、国別伝統と郵便史の各分野での出品が可能です。
- 第7部門：ワンフレイム（1フレイムで構成されたコレクション）
A)競争ワンフレイム（国別伝統・郵便史・テーマティックの各分野の競争出品。
マルチフレイムからの抜粋展示は好ましくありません）
*出品分野を申込書に記載してください。
- B)ふれあいクラス（非競争部門。審査は行われません。
非郵趣材料の展示も可能ですが、切手を中心にした作品とします）

— 第8部門：郵趣文献

A) 2014年以降に出版された単行本またはカタログ

B) 2014年以降発行の雑誌・定期刊行物（1年分）

＊郵趣文献部門へは、著者・编者もしくは発行者による出品が可能です。1出品について必ず2部ずつ提供して下さい。また、定期刊行物は、1年分を製本または仮綴じして下さい。

5. リーフのサイズとフレームの割当数 一部省略

・フレームの割当数

チャンピオンクラス：5または8フレーム、	第1－4部門 3－5フレーム
第5部門（ユース） 1－3フレーム、	第6部門：（現代郵趣）3フレーム
第7部門（ワンフレーム） 1フレーム	

6. 出品料

チャンピオンクラス 3万円、

第1－3部門 3フレーム作品は9,000円、4フレーム作品は12,000円、5フレーム作品は15,000円

第4部門および第6－8部門 1タイトルにつき5,000円、第5部門（ユース） 無料

7. 作品のセキュリティ 省略

8. 作品の搬入と返却 一部省略

（郵送による搬入）展示作品・文献ともに、搬入期間は2015年7月1日～13日（当日消印有効）です。具体的な送付先・送付方法については、別途、出品者にご案内いたします。なお、文献部門については、郵送でのみ搬入を受け付けます。

（持参による搬入）2015年7月16日（木） 13：00－18：00（予定）に、すみだ産業会館8階（東京都墨田区江東橋3丁目9-10）の会場内特設ブースに搬入してください。作品の受領後、実行委員会はしかるべき受領証を発行します。

9. 搬入時の作品カラーコピー提出 省略

10. 審査員と賞 一部省略

審査は、原則として、FIPの定める国際切手展の審査基準に準拠して行います。審査委員会はFIP国際審査員を含み、応募作品数を元に6名以上で構成され、人選は主催者が行います。

11. 審査員との対話

審査員との対話（クリティーク）は、出品者が本展覧会に競争出品した作品に関し、直接、審査員から個別に今後の改善点等について助言を受ける機会です（無料）。これを希望する出品者は、あらかじめ出品申込書の該当欄に希望の旨を記載してください。

実行委員会は、原則として7月18日または19日（入賞結果公表後）に実施できるように日程調整を行います。（審査員の都合等により出品者のご希望に添えない場合があります）

12. 出品者の個人情報の取扱、作品の撮影・掲載 省略

13. 連絡先および事務代行 一部省略

（連絡先）全日本切手展2015実行委員会事務局

〒131-8139 東京都墨田区押上1-1-2

東京スカイツリータウン・ソラマチ9F 郵政博物館気付

TEL 03-3362-2475（全日本切手展専用）

2016年5月に開催される国際切手展 World Stamp Show NY2016 出品要項

出品申込期間：2015年7月20日～31日

World Stamp Show New York 2016 日本コミッショナー 吉田 敬

World Stamp Show NY2016は、ニューヨークで来年（2016年）5月28日から6月4日にかけて開催される国際切手展です。同切手展への日本からの出品については、日本コミッショナーである私を通しての申し込み及び、文献以外については運搬（帯同含む）が、実行委員会より求められております。

同展覧会への出品について

World Stamp Show NY2016へのご出品をお考えの方は、[同展覧会の特別規則（PDF 5ページ 156kb）](#)を熟読することが求められます。

従って出品者は英文で書かれた、特別規則の原文に当たっていただくのが必須となりますが、概要に関してはご出品されない方も関心あると思いますので、便宜上必要な部分の解説を日本語で以下に行いました。出品者は詳細は原文を閲覧する前提で、参考程度にご覧ください。

New York 2016 特別規則（全17条）

第1条 目的 省略

第2条 開催団体・場所・時期 省略

第3条 適用される諸規則など 省略

第4条 出品資格

競争部門と非競争部門（招待制）があります。

競争部門については、国際郵趣連盟に加盟する組織からの出品者であることが要件の一つです。

日本の場合は、日本郵趣連合の会員であることが要件を満たすことになります。

これに加えて第5条で示される出品クラスのうち、class1～9と12については、国際郵趣連盟規則に準拠して審査することを宣言している国内切手展で75点以上を獲得している事が必要です。

第5条 出品クラス

競争部門は15クラスが設けられています。こちらについては詳細を原文でご確認ください。
なお文献部門については、A:2012.1.1以降発行物、C:2015.1.1以降発行物に限定されます。

また珍しいクラスとしては下記が挙げられます。

クラス8 マキシマフィラテリー

クラス13 モダンフィラテリー

最近20年の郵趣マテリアルにより構成される伝統郵趣、郵便史、ポスタルステーション
リー作品で3から5フレームが割り当てられ、各国コミッショナーの推薦によりエント
リーが可能となります。

クラス14 オープンフィラテリー

クラス15 ファーストデーカバー

このクラスのみは国際郵趣連盟ルールではなく、米国ローカルの郵趣団体である、アメリ
カ郵趣協会（APS）の独自ルールで審査されるとのことです。

第6条 展示物の審査および賞について

当然のことですが、競争出品については、国際郵趣連盟の審査員により審査されます。審査にあ
たっては、一般規則およびNY2016の特別規則に示された内容が適用されます。事前に国際郵趣
連盟の役員会の承認がない限りは、これらのルールを逸脱する審査方法は認められません。

第7条 フレームサイズと割り当て

1項 フレームサイズは98cm*120cmで、どのフレームも4列4段の合計16リーフを展示で
きます。この場合のリーフサイズは保護ラップ込みで最大で22cm*30cmです。レターサイズ
(216*280mm)やA4 (210*297mm) がこれらには含まれます。これよりも大きなリーフの
展示にあたっては、他のリーフと重なっても良いのであれば展示ができますが、実行委員会は
その結果、リーフやマテリアルが傷ついても責任はとりません。

2項 リーフの色は白もしくは薄い色つきに限定します。黒地リーフは展示しません。

3項 鑑定書の原本がある場合は入れること。

4項 フレーム数について

第8条 出品申し込みと出品許諾について

1項 出品申し込みを行う者は、一作品につき一枚の出品申込用紙を、各国コミッショナーを
通じて提出すること

2項 実行委員会は出品の可否について決定する。ただし、その理由は開示しない。

3、4項 省略

5項 出品可否の連絡は、2015.12.30までに各国コミッショナーに通知予定である。（なお
年末年始の休暇の関係で各出品者への連絡は2016.1.10頃とお考えください。）

6項 出品料は各国コミッショナーを通じて、2016.2.29までに実行委員会に納めること。

7 項 出品作品は、出品申し込み書に記載のあるタイトルを、展覧会の展示作品カタログに記載する。

8 項 展示作品のタイトル変更の場合の処理について

第9条 出品料

1 項 非競争部門は無料

2 項 競争部門はclass10,11,12を除き、フレームあたり95ドル。

3 項 文献部門（class 11）は一作品100ドル。

4 項 ワンフレーム部門（class 12）は一作品150ドル。

5 項 ユース部門（class 10）は無料

＊なお等費用は実行委員会へ支払われる出品費用であり、コミッショナーによる作品運搬を委託する場合は別途費用がかかります。

第10条 展示物の取り扱い

1 項 遅延もしくは不適格展示物については展示されず出品料も返却しない

2 項 リーフには保護ラップをかけ、右下にナンバリングすること

3 項 実行委員会は展示作品の受取証を発行すること

4 項 実行委員会は作品を入れる封筒と内容物記載フォームを事前に送付すること

5 項 出品物は、1 フレームごとに上記封筒一枚にに入れて提出すること等

6 項 実行委員会は各国のコミッショナーによる運搬を強力にすすめるとのこと

7 項 文献出品について。2 点ずつ送付すること。返却はしない。第5条とあわせてよむと定期刊行物は2015.1.1以降発行のすべての分の提出が必要とのこと。事前審査の為、2016/2/29必着で提出すること。

8 項 省略

9 項 文献出品の送付先

第11条 展示物の展示および撤去 省略

第12条 税関規則

各国コミッショナーが作品を持ち込むにあたり迅速な処理ができるよう実行委員会が用紙を作成し配布する予定であること、及び展示物は一時的な輸入品として取り扱われ、免税されることが明記されています。

第13条 セキュリティについて

1 項 実行委員会が会期中に相応のセキュリティ対策を講じる旨が記載されていますが、それ以外の期間は責任を追わない旨が記載されています。

2 項 また、そもそもすべての期間において、出品物への保険については出品者個人の責任と負担においてかけるものと明記されています。（日本コミッショナーも一切の責任を負いません。）

第14条 エキスパート・グループ 省略

第15条 実行委員会の権利

すべての出品者は当特別規則を受け入れなければならない旨などが記載されています。以下省略。

第16条 当規則の承認について

出品申し込み書にサインして提出することで、当特別規則を受け入れたことになる旨が記載されています。以下省略。

第17条 住所

各国コミッショナーがやりとりする相手であるCommissioner General などの住所が記載されています。省略。

今後の予定

- ・事前相談期間 : 本年5月20日～6月30日
クラス10（ユース）、13（モダン）、14（オープン）、15（ファーストデーカバー）への出品をお考えの方のみが対象です。この期間に一度ご連絡ください。
- ・出品申込期間 : 本年7月20日～31日（電子メールにて受付ます）
- ・アクセプト通知 : 2016年1月10日頃
- ・出品料等の支払い : 2016年1月20日頃
- ・文献出品の送付期間 : 2016年1月～2月29日（必着）
- ・運搬に先立っての作品の送付 : 2016年5月の出発直前
- ・日本コミッショナーの渡米日 : 未定ですがNY直行便の予定です。
- ・日本コミッショナーの帰国日 : 未定ですがTOKYO直行便の予定です。
- ・作品の返送 : 2016年6月の帰国直後

以上の通りスケジュール上は、まだまだ先のことですが、当国際切手展はこの10年間に開催される展覧会で質量ともに最大規模と言われており、出品のご検討をされる方も多いかと思しますので、事前に広く告知をするために早めのご案内をすることにいたしました。

また、今後6月くらいまでの間は出品喚起のために、スタンペディア・ファウンダーズ・ブログなどで出品Q&Aを設ける予定です。あわせてごらんください。

ご質問などございましたら、電子メールにて、yoshida@kitte.com宛にご連絡ください。

謎解き郵趣

北朝鮮切手??

正解は

「朝鮮戦争における北朝鮮切手の韓国側持ち込み使用例」

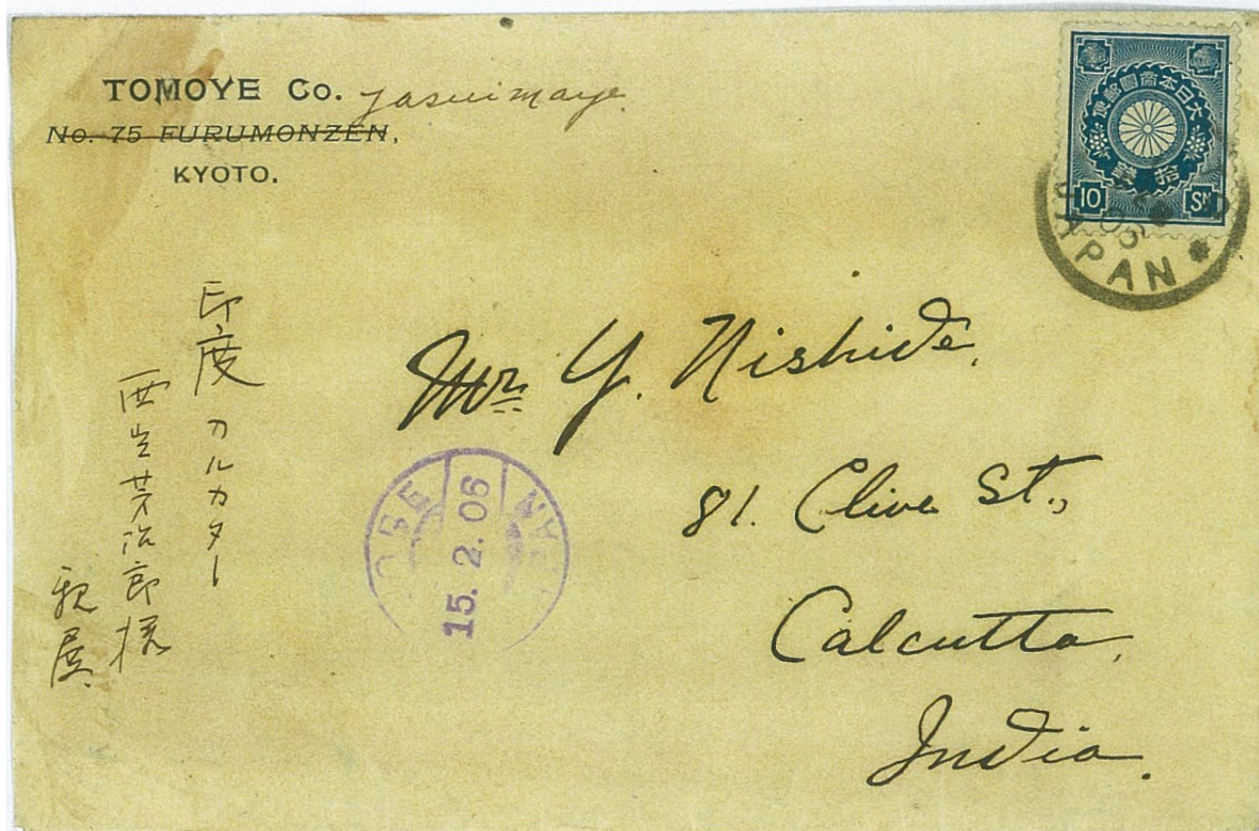
木戸 裕介

謎解き郵趣とは？回答への参加方法、ご自身の収集品の掲載方法

「謎解き郵趣」は読者参加型の郵趣解説記事です。

紹介している郵趣マテリアルは、いずれも一つ前の号で、図版だけ示して、読者の方からネット経由で回答を求めた物で、今回所有者の模範解答と共に一つずつ詳しく読み解いています。

なお次号で掲載予定の郵趣マテリアルを募集中です。一筋縄ではいかない皆さんのひと味変わった郵趣マテリアルの画像をtpm@stampedia.netまでお送りください。



回答はアンケートフォームからお願いいたします。

朝鮮戦争における北朝鮮切手の 韓国側持ち込み使用例

木戸 裕介

史上初の国際展ベストユース獲得日本人による難問。なんと正解者が一人いました！（編集部）

・ ハングル文字が読めず、残念ながら解読不能
[山崎 文雄さん]

・ 朝鮮戦争時代の切手ですね.印刷された切手は右の枠線が途切れ途切れのようですが、それ以上はよくわかりません.[田村邦彦さん]

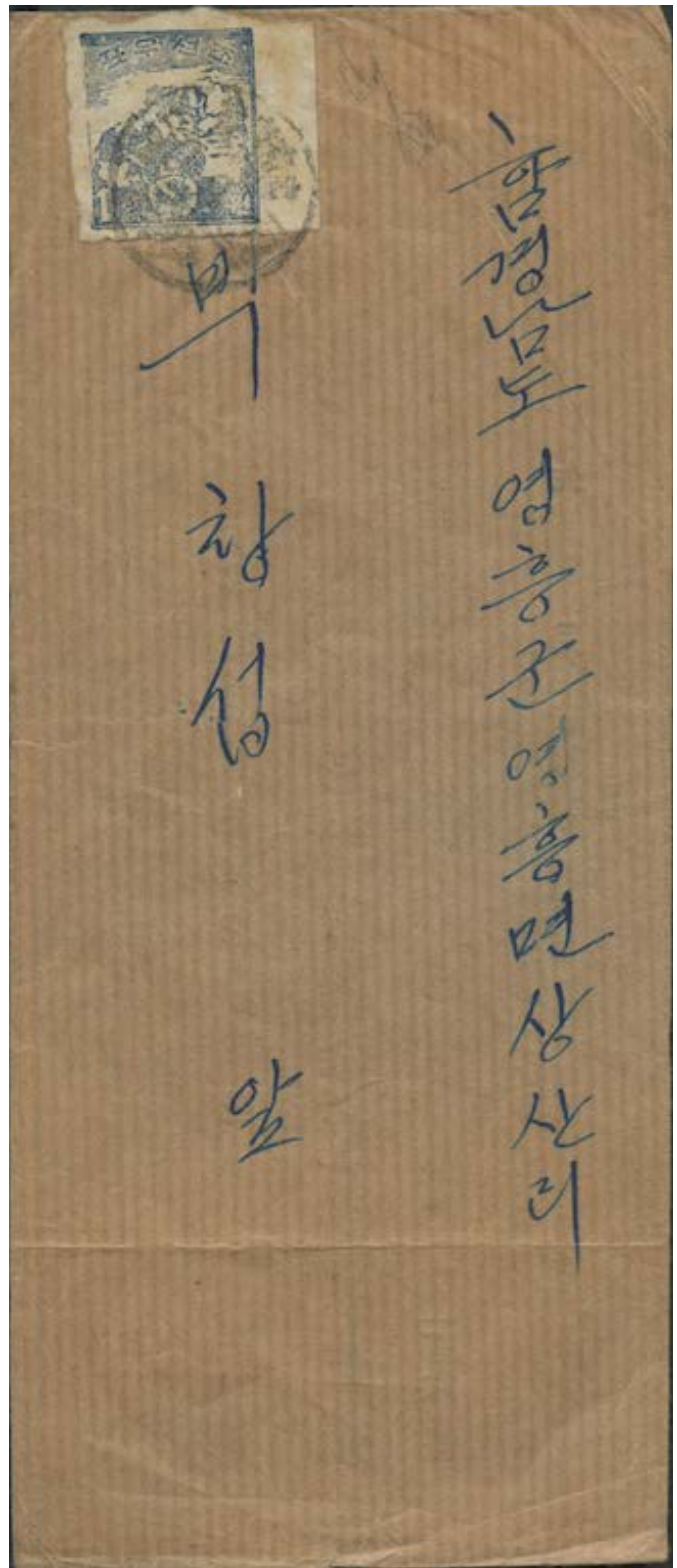
・ 切手や消印のことは、まったく分かりませんが、宛先がハングル文字で、差出人の住所等が漢字で書かれていることは、何か意味があるのでしょうか？[Takayuki SUZUKIさん]

・ 忠清南道唐津タンジンは現在の韓国、宛先は咸興南道ヨンフンで現在の北朝鮮。50年6月25日から朝鮮戦争開戦で消印の9月には韓国政府は釜山周辺に追い詰められていた時期です。僕は当時の郵便事情は知りませんが、政治的影響はあったと思います。
[高崎 真一さん]

以下、所有者の木戸さんのコメントです。

本カバーは、今年のJAPEXで初めて展示し、先日のマレーシア国際展でも展示させていただきました。国内のディラーから出たマテリアルで、現存1点の確認です。

謎解きの答えは「朝鮮戦争における北朝鮮切手の韓国側持ち込み使用例」です。



カバーの基本的な解説としましては、高崎真一さんのコメントされた通りです。消印は局名漢字の忠南・唐津で、50年9月28日。宛先は咸鏡南道・永興で38度線以北となります。

当時の韓国側では、日本統治時代の消印がそのまま使われ、局名は漢字表記のままでした。年月日は、朝鮮半島独自の、「檀紀」を用いました。1950年は檀紀4283年なので、下2桁の83表示でした。一方、北朝鮮では、48～49年頃から独自の印額を作成しています。局名表記はハングルで、年月日は西暦表示となっています。

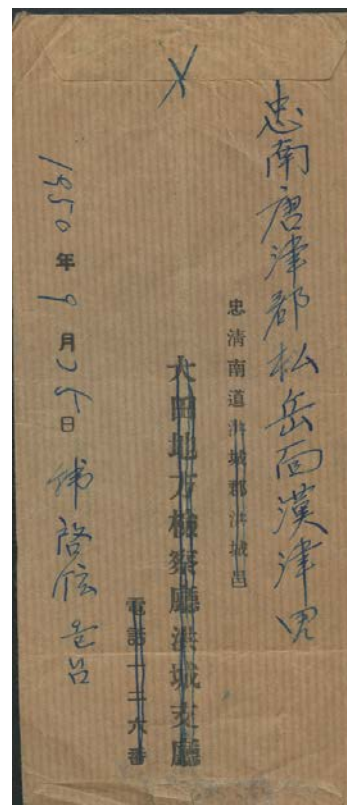
この印影は、韓国側の漢字局名はそのまま、年が西暦の「50」となっています。北朝鮮側に接收された局では、「50」の活字が挿入されたとされており、北朝鮮軍政下の韓国での使用例は例外なく「50」表示となっています。

北朝鮮が朝鮮戦争時に南側で発行した切手は4種類あり、3種は韓国切手に加刷した占領加刷切手。1つはソウル占領記念の記念切手です。これらの使用例は、南側で使用されたものしか確認されていません。

本カバーに貼付されたのは、農耕図案の1w普通切手です。この切手は朝鮮戦争開戦前に発行されたので、持ち込み使用例となります。

郵便使用の持ち込み使用例はこの1点しか確認されていません。9月15日には国連軍が仁川上陸作戦を展開し、南側の北朝鮮軍を分断させていた時期なので、北朝鮮側には配達されていない可能性が高いです。

史料が残されていない当時の郵便制度を明らかにするために、このような使用例の1点1点が、貴重な実証材料となります。



寄稿記事・郵趣論文

世界のクラシック切手第3回

ペンスブルー無目打について

畠山 茂樹

スタンプショウ2015 開催記念

トピカル切手展への招待

石田 徹

新図案切手の発行と番号入り小型シート

ラッキーボーイ

速達の珍品、都内速達に関する戸籍を初整備！

丸速レジストリー

池田健三郎、片山七三雄、行徳国宏、数珠雅、須谷伸宏、横山裕三、吉田敬

未解明押印機の郵便史（2）

誤字に消された「赤嶺式自動押印機」

永坂 一郎

外信別配達便を集める

川田 圭史

郵趣三題ばなし

近辻 喜一

和欧文機械印トピックス(第4回)

標語変更「郵便番号をお忘れなく」の登場

水谷 行秀

切手からみる障害者スポーツ

ーパラリンピック、デフリンピック、スペシャルオリンピックスー

大沢 秀雄

戦後の郵便史（4）

国内郵便制度創設史

行徳 国宏

あなたの郵趣論文、啓発記事を掲載してみませんか？ 問合せ先: tpm@stampedia.net

世界のクラシック切手第3回

ペンスブルー無目打について

畠山 茂樹

はじめに

通常、英国のペンスブルーといえますと

1. 1840年発行の最初のもの(1~2版)
2. 1841年発行の線入り(3~4版)
3. 1854年発行のスター(2と同図案で目打ち入り)(4~6版)
4. 1858年発行の4コーナー(7~15版、そのうち10~11版は不採用)

これらの総称として使われます。ここでは無目打のペンスブルーについて記したいと思います。



左から順に、1版、2版（以上1840年発行）、3版、4版（以上1841年発行）

1 発行に到る経緯

1839年8月に行われた切手のアイデアコンテストの中に異なる額面のラベル(切手)を発行するというアイデアがありました。その案を採用して1ペニーと同時に2ペンスのラベルも発行することになりました。2ペンス料金は2倍重量便(1/2oz<Letter≤1oz)に相当します。



切手のアイデアコンテストの作品の1つ。異なる額面のラベル(切手)を発行する案の例(ジョージ・ディキンソンの作品) POSTAL REFORM AND THE PENNY BLACK より

2 発行の遅れ

当初、ペンスブルーはペニーブラックと同日の1840年5月1日に発行される予定でした。ところが、ペニーブラックの糊引きの工程が予想以上にかかってしまい、やむを得ずペンスブルーは後回しになってしまいます。

ギボンス英国専門カタログによると、1840年5月6日に 619シート(148,560枚)ロンドンの歳入庁に納品されたといわれています。しかしながら、何年か前の同カタログには1840年5月8日の午後に納入されたと記されていました。その理由は近年5月6日と7日のものが各1点ずつ発見された事によります。

その為、初日はいつかということは今現在英国で議論になっているのが現状です。5月6日のものは理論的に可能だったのかということがあり、5月7日のものはマンチェスターから差し出されていて疑問点が拭いきれない部分があるため、本物と認めない収集家もいます。一般的には 1840年5月8日ということになっていて現存3点が確認されています。



DAVID FELDMAN で2014年12月に競売にかけられた2ペンスブルーの5月8日使用例 の3点確認されているうちの1点。落札価格€42,000+コミッション20%=€50,400 (約750万円)
DAVID FELDMAN WEBSITE より

3 発行枚数

1840年発行のペンスブルーは実用版が2つあり、1版が16,962シート(4,070,880枚)、2版が10,600シート(2,544,000枚)発行されました(ギボンス英国専門カタログによる)。

合計で6,614,880枚ですのでペニーブラックの約10分の1の発行数ということになります。しかしながらカタログ評価値はペニーブラックの10倍と

英国のキングジョージ五世
が1920年代に購入した
1840年発行のペンスブルー
の最大マルチプル(38枚)。
版は1版。
NATIONAL POSTAL
MUSEUM WEBSITEより



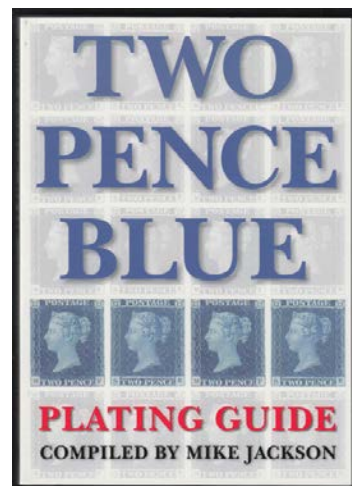
はならず、最もありふれたプレート、及びシェードのものでペニーブラックの£350に対しペンスブルーの £850となっています。

4 版分類

ギボンス英国専門カタログによりますと一般的に1版は左上のマス
の左の縦線が弱く、2版は右上のマスの中の12時の位置の放射線が短い
事が記されています。

また、1版 の“A”“B”“C”“D”“E”“M”“N”“O”“P”の行のものには額面
の”TWO”のTとWがくっついているものやOの一部が凹んでいるもの
があることが紹介されています。

しかしながら、確実性を考えるとペニーブラック同様チェックレーター
で確認することが必要ですので文献を紹介します。“TWO PENCE
BLUE PLATING GUIDE”(以下ジャクソン本)がその本で、スター(同図
案の目打ち入り切手)までのすべてのポジションの切手が6版まで図版
で採録されています。



購入先は当誌第5号32ページを参照してください

5 消印色の変更

当初赤色のマルタ十字消しだった消印が消し去られることがわかり黒色に変更されます。

黒色のマルタ十字消しが試験的にロンドンで使われ始めたのが1840年8月31日ですのでペンスブルーの1版2版共、赤と黒の消印が存在します。

この組み合わせで最も少ないのが2版の赤消しです。



2版赤色マルタ十字消しのベルギー宛使用例。この 時期の切手を貼った海外宛は珍しい。CHRISTIE'S オークション紙より。

6 刷色インクの変更

消印色の変更に伴いペニーブラックの刷色の変更が検討されます。黒の刷色の切手ですと黒の消印が映えないのが理由です。そして新たな刷色を検討するにあたり消印の除去試験に取り掛かります。その結果ペニーブラックはペニーレッドへと刷色が変更になるのはみなさん御存じかと思います。



消印除去試験の被検体マテリアル。

NATIONAL POSTAL MUSEUM WEBSITEより

一方ペンスブルーのほうはといいますと刷色はブルーのままですがインクが変更になり、旧インクの切手と区別する為に図案に白線が2本入れられました。新インクの特徴としてインクの成分が湿式凹版の水分と反応して用紙を青くすることがあげられます。

カタログにもon Blue Paperではなくてon Blued Paperと記載されているのはこのためです。この特徴はペニーレッドでも同様にみられます。

7 線入りペンスブルーの版分類

線入りペンスブルーの実用版は3版と4版の2つ存在します。3版4版は時代的にペニーレッドの時期と重なります。その間、消印は郵便局の増加に伴いマルタ十字印から数字印に1844年頃から切り替わっていきます。4版の登録(register)は1849年12月6日ですのでマルタ十字印のものは(100%ではないですが)ほぼ3版と考えるとよさそうです。その他にはチェックレターの“A”“D”“J”“O”“P”に相違がみられるとか、3版にはガイドラインがみられるものがある等ありますが、これらの条件に当てはまらない切手も当然でてきます。実践的にはジャクソン本で確認するのが最も確実です。



特徴のあるアルファベットを含む切手のプレーティングの例



3版 幅の狭い“D”



4版 幅の広い“D”

終わりに

話は脱線しますが1840年当時の1ペニーは現在の我々の感覚でいくらかいなのか疑問に思い調べてみたことがあります。

その中で当時のTimes紙の広告から物価を割り出した方がいて3ペンスが1000円位ではないかという記事がありました(1ペニー=333円)。

私の英国切手の師匠によると料金、時間共速達1通分位といわれているそうです(1ペニー=82+280=362円)。

パブで飲むビール1杯分ということも聞いた事があります(1パイント£2くらい=370円)。

総合して考えると1ペニーは350円位かなと思います。だとするとローランド・ヒルが行った郵便改革以前の郵便は今の感覚からするとたいへん高額なサービスだったことが解ります。今年で世界最初の切手が発行されて175年ですがヒルの功績がいかに大きかったかを改めて感じます。



サー・ローランド・ヒルを描いた最初切手。ブラジル国際切手展開催記念
小型シート(1938年10月22日 ブラジル発行)

スタンプショウ2015 開催記念 トピカル切手展への招待

石田 徹

あと一月も経つと、春の切手イベントで最大規模となるスタンプショウが開催されます。同イベントの中で開催されるトピカル切手展は第16回目を迎えますが、最近、伝統郵趣や郵便史のフィラテリストとして知られていた人たちが出品を始めており、なかなか楽しい展示が増えてきています。

もともと伝統郵趣をされていた石田徹さんは、このような新しいフィラテリストの一人で、昨年のグランプリ獲得を始めとして、ここ数年、興味深い植物にまつわるトピカル作品を立て続けに出品されている方です。石田さんに、トピカルに関するお考えと、本年の作品の見どころを解説していただきました。（編集部）

はじめに

今年もスタンプショウの時期が近づいてきた。筆者は例年植物の分類体系をテーマとして出品を続けているが、本稿は普段トピカルに興味を示されない方にも次のトピカル展に筆者がどのような出品を考えているのか、また、トピカルの見方を情報発信する機会を编者からいただいたものである。

「The Philatelist Magazine」購読者の方々は、既存の郵趣誌に飽き足らず各方面の広い分野に興味を示されているものと考えるが、まずはトピカルに対して興味が湧かないという現象を考えてみる。なんと言う事もない。筆者も10年余り前まで、ゼネラルや伝統郵趣には興味を持っていたが、トピカルは横目で見える程度で、強い関心を示していなかった。もはや自身がトピカル作品を作り出品するなど考えも及ばなかったのである。

その第一の要因は、何と言ってもトピカルは単なる切手の図案による「絵合わせ」から抜けきっておらず、「切手そのものの分類や希少性を認める」という郵趣本来のルールから程遠いものと映り、悪くいえば夏休みの宿題のような最近の切手ばかりをまとめた作品をわざわざ切手展で見なければならないのかということである。

また、トピカルのテーマ、トピックについても、そこで図案について専門的な分類と解説がなされていたとしても、自身が興味の無いテーマであれば関心は向かないし、また、図案分類だけに留まるならばなぜ切手を始めとする郵趣品に限るのか疑問さえ湧いてくるのであった。

転機

古い話で申し訳ないが、収集歴だけは長いのでその間いろいろな郵趣情報がインプットされている。また郵趣文献好きでどんな分野でも購入し、文献が部屋を占領している。この状態が幸いしたのか1979年に出版された「世界植物切手大図鑑」JPS植物切手部会編が手元にあり1980年刊の「トピカル切手の集め方」川井清敏著もあった。30年以上もトピカルに関する入門書、啓蒙書が無いのも問題ではある。これでは新しく参入する人がトピカル作品を作るための下地が整わないのではないだろうか。

またそれだけではなく、図案のみならず郵趣の各分野に興味を示し、郵趣知識を蓄えていなければ結果良いトピカル作品は完成しないのではないかと考える。余談だがその頃「郵趣ウィークリー」は「トピカル郵趣」という誌名だった。厚顔にも当時筆者は「速報性が重視されるべき週刊誌がなぜトピカルを扱うのか」と編集部に書き送っている。

筆者は植物の専門家ではないが、植物に接する様々な機会があったため、ある時ふと軽い気持ちで植物図案の切手を整理し始めた。全くの息抜きである。そのうち次のようなことに気が付いた。

第一に、トピカル（植物切手）の収集範囲は地域や年代を限定しないため、日本切手だけの専門収集だけではとうてい収集できないようなエッセイやプルーフといったアーカイブも収集の可能性が大きくなる。

第二に、植物図案の範疇であれば、世界中のクラシック、セミクラシックをはじめとするバラエティの専門収集も可能で、さまざまなマテリアルに触れることができ郵趣的な満足感も得られる。

第三に、重厚なクラシックから現代のビジュアルな切手まで広く目にすることができ、また、好ましくないと思われる切手を無理に集める必要もないという選択の自由が大きい。

第四に、筆者の場合世界中に分布する植物を体系的に理解でき、生命の発生から高等植物まで類縁関係を整理しながら「生命とは何か」という壮大なテーマを考え、農耕や文明、探検や発見といった「植物と人間のかかわり」にも触れてゆくのも日常から離れて大きな事に想像を巡らすのも良い事だと考えられる。



1851年にノバスコシアで発行された、世界最初の植物切手（石田コレクションより）

ただし、第一から第四まではトピカルの守備範囲が「植物」全体に及んでいれば効果が上がるが、最初から「蘭」だけ「果物」だけと範囲を絞ってしまうとその分だけ効力を失うのは言うまでもない。何事もまずは間口を広くとって興味を広く持つ事が肝心で、こう書くと筆者の場合「植物」という器の中にゼネラルや郵便史などの手法を注いでゆくという事になる。

本年の出品作品の概要

では、単なる絵合わせに留まらないトピカル作品とはどのようなものか、本年の出品予定はワンフレームに「細菌（バクテリア）」、レギュラーに「ヤシ類」を予定している。前者はほぼ作品が固まってきた。後者はこれからという段階である。やや変わったトピックだが前者を例にあげて解説を試みる。なお、筆者のトピカルに対する考え取り組みは「郵趣研究」の記事を参照していただければ幸いである。＊1

細菌の切手はほぼ1970年代より発行されている。この時代は医学者や研究者を記念する切手の一部に描かれたものとなっており、また、多様な細菌の世界から見ると一部の感染症を引き起こす原因菌のみが中心となっており、描かれた細菌自体は小さな点にすぎないことが多い。（図1）

2000年代に入ると有益菌などの細菌そのものを描いた切手さえ発行されるようになり、筆者としても大変喜ばしい。（図2）

発行が確認された細菌は、メタン生成古細菌、シアノバクテリア、根粒菌、チフス菌、コレラ菌、バチルス属、黄色葡萄球菌、肺炎連鎖球菌、ラクトコッカス属（乳酸菌）、ブルガリア菌、ライ菌、結核菌、ジフテリア菌、アナモックス細菌と、まだまだ少ないがワクワクするではないか。これらを植物と同様に体系化し学名を中心として分類する。

さて、トピカル作品として考えるとワンフレームがやっとという事になる発行点数である。しかも年代的にも40年そこそこの新しい切手ばかりとなる。これをあえて出品作品にするとすると、この新しさをどうカバーし、郵趣的に



図1 ライ菌のリーフより、医師ハンセンを記念するものの一部にライ菌が描かれている。



図2 ラクトコッカス属（乳酸菌）を描いた切手。オランダ2011年発行、微生物学協会の連刷シートより。

も関心を引くように工夫するかが課題となる。

まず、製造面でエッセイやダイプルフ、カラートライアルなどを加える。(図3)

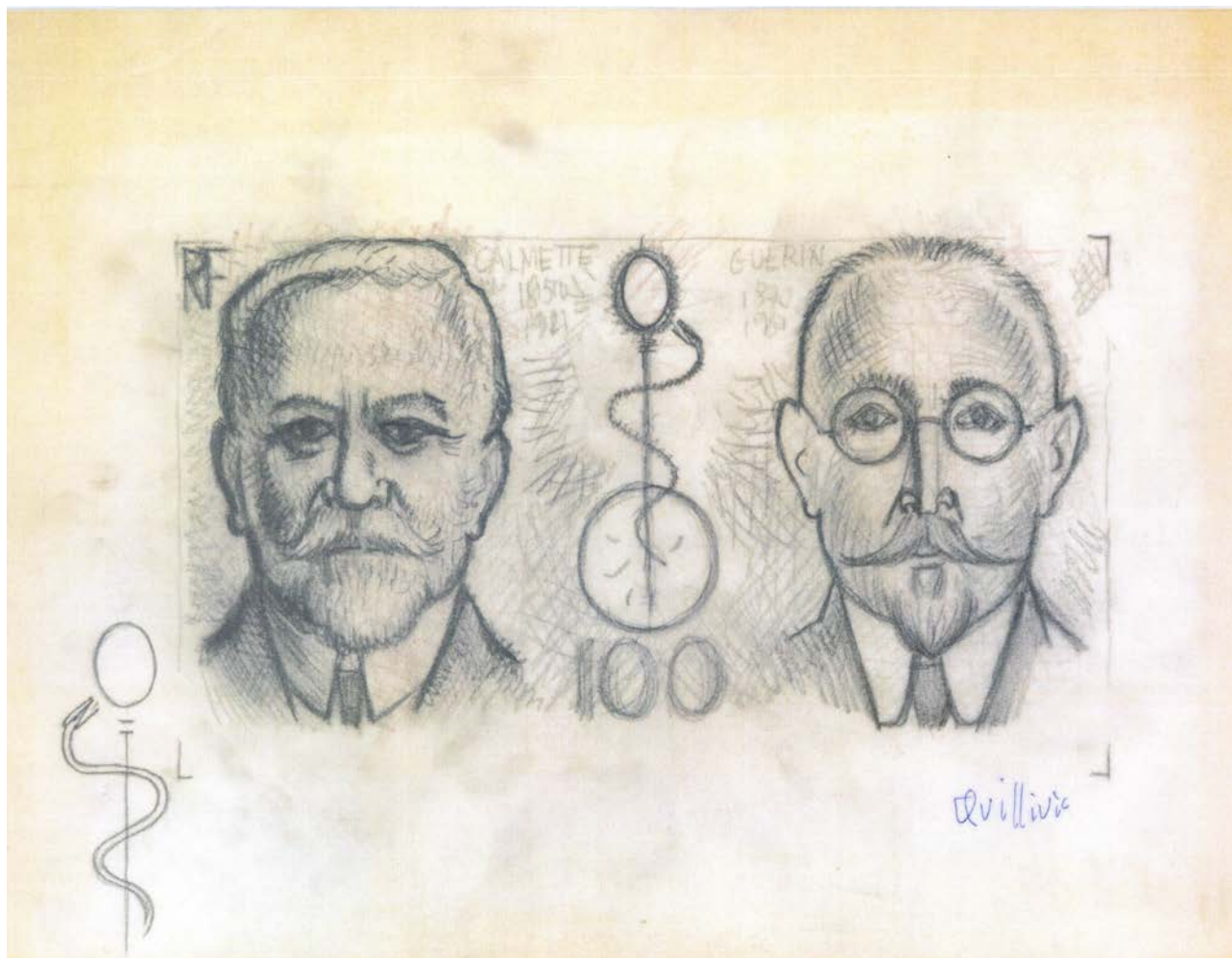


図3 フランスのパスツール研究所の研究者であったカルメットとゲランと、ウシ型結核菌から培養されたカルメット・ゲラン桿菌BACILLUS CALMETTE-GUERIN (BCG) を描くアファール・イサー1972年発行切手(下図)のエッセイ。BCGを利用した結核ワクチンは乳幼児を中心として結核予防のために世界各国で使われている。



次に年代的に新しいという課題を解決するために19世紀のコレラによる「消毒郵便」を加えてみた。(図4)

このカバーは1854年8月11日にイタリア・トスカーナ地方のリヴォルノからローマに充てられた郵便物で8月13日に到着している。バチカンの紋章とNETTA / DENTRO E FUORIと表記されたスタンプはバチカンによってこのカバーの内側外側共に清浄としたという意味で、燻蒸消毒が内側に浸透するようにカバーに2カ所の切込みがなされている。この時期は1840年から1860年におこったアジア型コレラの世界的流行時にあたる。



図4 アジア型コレラの世界的流行（パンデミック）は計6回にわたるが、医学が十分に発展していなかった時代には、コレラの発生原因が何であるかについてさまざまな説が流れたものの、いずれも推論の域を出ておらず、細菌感染であることは知られていなかった。ヨーロッパでは、コレラの拡大を防ぐために郵便物の消毒も行われた。

以上、「細菌」作品について概略を紹介した。しかし、なぜ細菌なのか？という疑問をお持ちの方もあると思われるので、この作品のイントロダクション部分、いわゆるビジュアルな切手を使用したリーフで答えに代えたい。(図5)

ミクロな世界からマクロな視点へ 細菌は進化の過程において最初に現れた生物とされる。40 億年前に地球上で誕生した原始生命から古細菌（アーキア）と細菌（バクテリア）の系統に分かれた。21 億年前、古細菌に好気性細菌（ミトコンドリア）が共生し真核生物が生まれ、その後、藍藻などの光合成細菌（葉緑体）が共生し植物が生まれた。

空気中、水中、土壌中、森や川だけでなくあらゆるところに細菌は暮らしている。原始地球の大気に酸素を供給したのも細菌である。細菌は有機物を無機物や原子にまで分解し、植物はこの無機物や原子を光合成によって有機物に変換し成長してゆく、もし細菌がいなければ、生物圏の連鎖は断ち切られてしまい全ての生物は絶滅してしまうだろう。



ボスニア・ヘルツェゴビナとナ・セルビア人地区, 2014



イスラエル, 2001

細菌は生物圏循環の大きな要となる

細菌たちは人類誕生のはるか昔から生活している。人間は 60 兆個の細胞で出来ているが、その体中には常在菌が 100 兆個以上生活している。腸内常在菌は腸内環境を整え、表皮常在菌は皮膚をしっとりつやつやと健康に保っている。細菌の世界も多様性がありその多様性が、土壌にも身体にも抵抗力をつけている。



アイルランド, 2014

豊かな作物と健康な身体

自然環境には沢山の乳酸菌があり、古来より世界中のあらゆるところで、乳酸菌の作用による発酵食品が作られてきた。一方、一部の細菌は人に感染症を引き起こす。感染症を撃退するために研究者や医師は懸命に知恵をしばった。

たった一つの細胞からなる細菌、このミクロな世界を覗くと大きな地球環境が見えてくる。人間もこの多様な自然の一部なのだ そのような大きな視野も少し念頭に置きながら細菌のそして自分たちの世界を見つめてみよう。



ポルトガル, 2011

様々な発酵食品に利用されている



バハマ, 2012



2003

餌となるシアノバクテリアの色素がフラミンゴの体を鮮やかな色に染めている

図5 「ミクロな世界からマクロな視点へ」 イントロダクションのリーフ。

次に現在作成中の「ヤシ類」のレギュラー作品から一部のマテリアルを紹介して本稿の終わりとしたい。トピカル展に御来場の際には「TPM」で見たと声をかけていただければ幸いである。



図6 アルジェリア不発行切手のダイエッセイ1956年。デザインは、ヤシ科のナツメヤシと思われる。



図7 アブラヤシ。ルワンダ・ウルンジ1942年発行切手のプレートプルーフ



図8 ココヤシ。ジョージVIと椰子を描く海峡植民地切手に「軍政部マラッカ州政庁之印」加刷。



図9 ココヤシ。サモア1886年発行切手のバイセクト使用例。APIA1895

被子植物門
ユリ綱(単子葉植物)
ヤシ亜綱

ココヤシ属

ヤシ科 *Arecaceae (Palmae)*

ココヤシ *Cocos nucifera*

糊つき



日本, 1942



みほん
字体: C, G, E



地図なし
Map omitted



海軍穿孔
X1

糊なし



地図ずれ



Blind perforation



北* #村日本占領下, 1944



沖縄民政府・宮古地区, 1946



1947



沖縄民政府・奄美地区, 1947-48
Type A

図10 何と言ってもやはり好きな日本切手はこだわってしまう。

参考文献 *1 植物切手・図案別収集の展開: マテリアルの活用と専門性 / 石田 徹著 (郵趣研究 2014-6 (121号)所収)

新図案切手の発行と番号入り小型シート

ラッキーボーイ

2/2発行の普通切手帳の整理番号一桁を入手した購読者がいらっしゃいました。（編集部）

2月2日に新図案の通常切手が発行されることになり、これに合せて2種の小型シート切手を含めた普通切手帳が2万組限定、発売局を全国主要都市の一部の局に限定して発売すると発表されました。なお発売枚数は、当初2万組の予定でしたが、希望者増を考慮して3万組に増加されました。

この発行を記念して「普通切手販売開始セレモニーにおける普通切手帳の抽せん販売会」を開催することになり、抽せん会応募の案内状が一部の関係者宛に出されました。



応募者多数の場合は抽せんにより参加者を決定し、結果52名の当選者に入場整理券を発送することになりました。私は案内状を受けて応募し、幸いにも入場整理券（下図）が当選しました。

郵便はがき

00001

●JPタワー・KITTE 東京シティアイ
(地下1階)までのアクセス
■丸ノ内線東京駅 地下道より直結
■JR東京駅丸の内南口より徒歩1分

日本郵便株式会社 切手・葉書室
〒100-8798 東京都千代田区霞が関一丁目3番2号
普通切手抽選会事務局
— お問い合わせ —
電話番号: 03-3984-4676
受付時間: 月～金(9:30～17:30)
※2/2のみ 090-8056-3880(8:00～17:30)

受付番号 10

入場整理券
ご当選のお知らせ

44

普通切手 販売開始セレモニー

このたびは「普通切手販売開始セレモニー」の入場整理券にご応募いただきありがとうございました。応募者の中から厳選なる抽せんの結果、あなた様が当選されましたのでお知らせいたします。

●開催日 2015(平成27)年 2月2日(月)

●会場 JPタワー・KITTE 東京シティアイ(地下1階)
〒100-7090 東京都千代田区丸の内2丁目7番2号

●プログラム

- ・開場(受付開始) 8:30
- ・オープニングセレモニー 9:00～11:00
- 式典(除幕式)/トークショー 9:00～9:30
- 抽せん販売会/サイン会 9:30～11:00

この券は、普通切手販売開始セレモニーの参加に必要です。
当日、必ずこのはがきをご持参ください。

●本入場整理券一枚につき、一名様一回のみ抽せんできます。
●オープニングセレモニー開始時間(9:00)の10分前までに受付をお済ませください。
●受付時に、普通切手帳の代金(5,000円)を現金で先にお支払いいただきます(現金以外では購入できません)。

【注意事項】

- 会場までの交通費等は各自の負担となります。
- 整理券の売買は禁止させていただきます。そのような行為を発見した場合は、当せんを無効とさせていただきます。
- 会場では、「小型シートシリアルナンバー1から50番、100番及び1,000番が含まれた普通切手帳」のみの販売となります(その他の小型シートシリアルナンバーが含まれた切手帳の販売はありません)。
- お客さまの個人情報は、抽せん結果案内の送付にのみ利用いたします。法令の規定等による場合を除き、業務の委託先以外に委託・提供はいたしません。その他、個人情報の保護と取扱いについては、日本郵便Webサイト(<http://www.post.japanpost.jp/privacy.html>)をご覧ください。

2月2日午前9時から、JPタワー・東京シティアイでの抽せん販売会に参加いたしました。

受付で整理券を提示し5,000円を支払い会場に入りました。

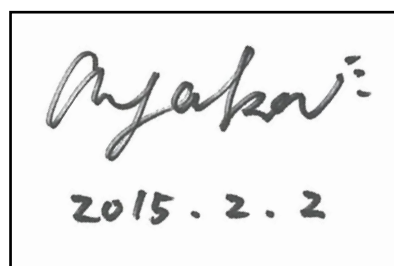
椅子にかけて会場内を見回していたら、抽選順番の申込をするよう案内がありました。私の後から入場して受付を済ませた応募者がその場で抽選順番の申込を始めていました。そこで受付で抽選順番の申込をしたら、44番でした。

局側の説明では切手帳のシリアルナンバーは1～50番まで、および100番と1000番の52組が発売されると説明がありました。

開会の挨拶に始まり、トークショーでは、日本郵便切手室のデザイナーから新図案切手のデザイン選定の経緯、1円切手前島密の肖像は伝統の図案であり、外せなかったなどの話がありました。続いて抽選が始まりました。ステージでは座席順に抽選器をガラガラと回しながら出たタマの番号を読み上げていきました。シリアルナンバー1番は誰の頭上に輝くか、参加者は自分に当たらないか、固唾を飲んで見守っていました。

ちなみにシリアルナンバー1番は抽選順番の前半で出ました。司会者が早速ラッキーナンバーさんにインタビューすると、「私の宝物にします」と興奮気味の声。拍手と羨望のため息が出ていました。

さて、私の順番の44番までにすでに50番、100番と1000番も出て、お目当てのラッキーナンバーは全て出尽くしてしまいました。私は勢いよくガラガラと回しました。転がり出たタマを手にとってみたら、何と唯一残っていた一桁番号の4番でした。



参加者全員が切手帳を手にしてから解散となりました。部屋の後部スペースにテーブルが用意され、デザイナーによる切手帳へのサイン会が開かれていましたので私もサインをお願いしました。

同時に一つ質問をしました。

「既に発行された2円切手は（利用者の目から見て）右向きなのに、他の動物図案の切手は全て左向きになっているのはなぜか」、と。

答えは「日本郵便の位置が左縦型のため、図案構成上から左向きに統一した」ということでした。



速達の珍品、都内速達に関する戸籍を初整備！

丸速レジストリー

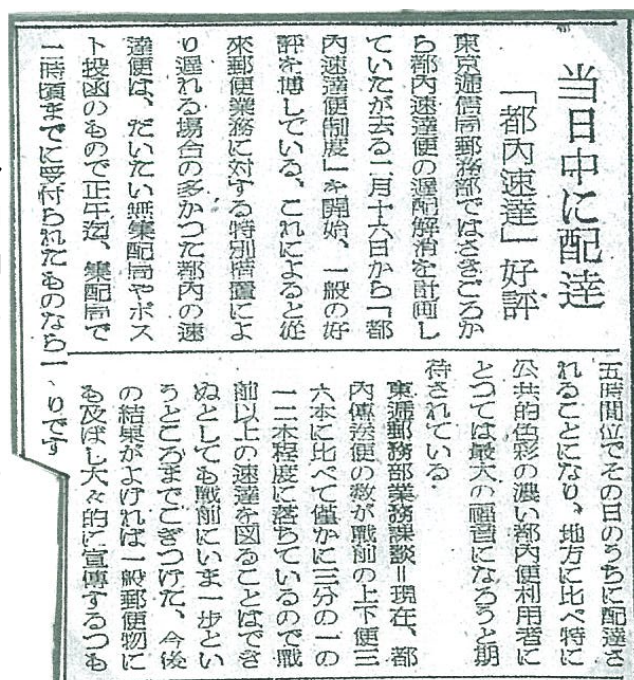
池田 健三郎、片山 七三雄、行徳 国宏、数珠 雅、須谷 伸宏、横山 裕三、吉田 敬

戦後郵便史の中で珍しい使用例として取り扱われている「都内速達」について、現時点で判明している全カバーを所有者の方にご協力いただき、戸籍整備しました。今後も新しい発見があるとは思いますが、速の一字を楕円で囲っただけの印を押したカバーですので偽造出現の可能性が捨てられません。少なくとも当戸籍簿掲載のカバーについてはその可能性が低いと思います。（編集部）

都内速達郵便とは？

「都内速達郵便」は、昭和24年2月16日から7月31日までの半年間だけ、東京都内で取扱われた速達サービスである。「速」の文字を縦方向に長く楕円形で囲った形がその特徴で、この印の押された速達郵便物がどのような性格のものであったか、これまで明確ではなかった。

これが「都内速達郵便」であることを突き止めたのは行徳国宏氏で、戦後の郵政資料を調査中、郵政総合博物館資料室所蔵の「通信文化新報」（24年3月2日号）に記事を発見した。



この報道文を掲載する。（図）気がつかれると思うが、この文中には「楕円形の速」の証示印のことは書かれていない。この「楕円形の速」についての発表経緯をまず述べておこう。

この印が初めて発表されたのは、荻原海一氏の「占領下における速達郵便」（『全日本郵趣』1990年2月号）であった。この投稿文によると、「昭和年24年春ごろから取扱い着手された」とあるが、いつまで続けられたかについて、また省令や郵政雑誌など出所を示す資料が開示されていなかったため、どのような性格の速達郵便なのかは不明であった。

平成24年2月、先述の通り行徳国宏氏が「通信文化新報」で都内速達の記事を発見した。この記事によって、「楕円形の速」の証示印は「無集配局やポスト投函のもので正午迄、集配局で2時頃までに受け付けられたものなら5時間位でその日のうちに配達される」都内速達郵便のことを示すものであることがわかってきた。都内速達郵便は、東京都区内相互間に発着する地域に限定されて取扱われたものということが、集まったデータから判断できる。

都内速達制度が開始された事情

昭和23年10月20日から東京大阪相互間鉄道に深夜積込み翌朝配達の「特別速達郵便」が開始されたのに比べて、都内速達郵便物の送達が遅延しているという状況を打破するため、特に郵便物の取扱通数の多い都内相互間に発着する速達郵便物に「楕円形の速」の証示印を押して取扱った。

その開始時期は、前ページで紹介した「通信文化新報」の記事によると24年2月16日からとある。それでは、この都内速達郵便は何時まで続けられたのか。

「特別速達郵便」の取扱いが24年8月1日より、

1. 京浜地区（東京都区内、横浜市内及び川崎市内）
 2. 京阪神地区（大阪市内、京都市内及び神戸市内）及び名古屋地区相互間
 3. 上記3地区（六大都市及び川崎市）と札幌、仙台、広島、松山、福岡、熊本の各市内相互間
 4. 長野市と京浜地区及び京阪神地区相互間
 5. 金沢市と京浜地区及び京阪神地区相互間
- にも拡大することになった。

この日から特別速達郵便が東京都区内にも適用されることになったため、「都内速達郵便」の取扱いは吸収・廃止されることになったものと判断し、7月31日が最終日になったと私は考えている。この間6ヶ月弱であり、次ページのレジストリーを見るまでもなく、該当するカバーが少ないことにきづかされる。

なお次ページのレジストリーには丸速印の捺印された17通のカバーを掲載した。

このうち、大森久が原（24.6.22.）及び東京中央（24.7.27.）引き受けのものは宛先が都区内でないため「楕円形の速」が一旦押された後に抹消されている。従って都内速達の使用例ではないが、丸速のスタンプ自体は純正のものであるためリストに掲載した。

参考文献：行徳国宏「都内速達郵便」制度の開始（『郵趣研究』121号、2014-6、16～19ページ）

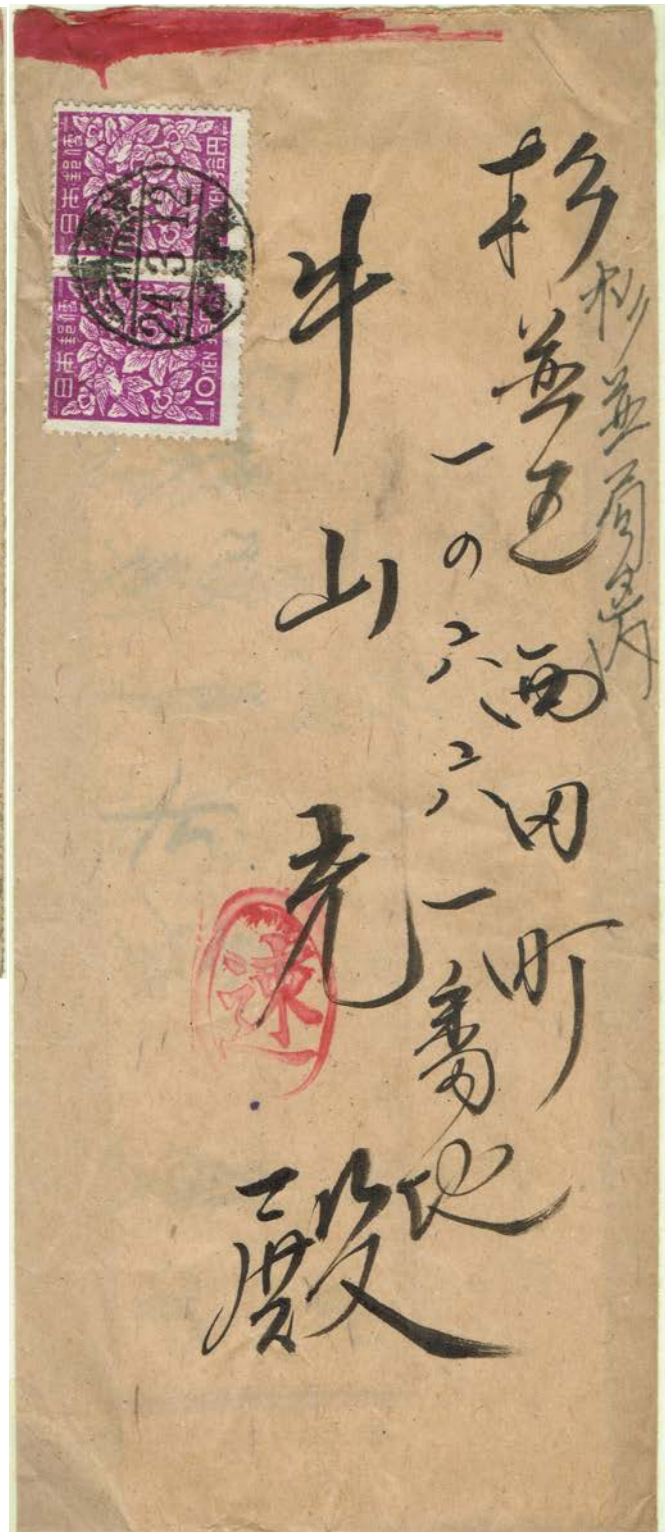
都内速達用のスタンプの押された郵便物の一覧（丸速レジストリー）

管理番号	引受日	引受局	形態	速達 料金	宛先住所	到着印	備考	現所有者
丸速-01	24.2.24	本郷	官製葉書	15円	板橋区板橋町	板橋		池田
丸速-02	24.3.12	京橋通一	官製葉書	15円	杉並区西田町			池田
丸速-03	24.3.15	豊島	書状	15円	中央区日本橋人形町	日本橋	検閲印あり	横山
丸速-04	24.3.17	京橋	書状	15円	足立区千住緑町			数珠
丸速-05	24.3.22	渋谷	官製葉書	15円	北区中里町	豊島	「占領下における速達郵便」（荻原海一氏、全日本郵趣1990年2月号）に掲載	（未調査）
丸速-06	24.4.8	赤坂中町	官製葉書	15円	品川区大井元芝町			横山
丸速-07	24.4.9	東京中央	官製葉書	15円	港区麻布市兵衛町			横山
丸速-08	24.5.2	目黒	書状重量便	20円	杉並区上荻窪		検閲印あり	行徳
丸速-09	24.5.13	九段	官製葉書	20円	目黒区大岡山	目黒		横山
丸速-10	24.5.19	本郷片町	官製葉書	20円	北区滝之川町			片山
丸速-11	24.5.28	丸の内ビル内	官製葉書	20円	杉並区阿佐ヶ谷	杉並		須谷
丸速-12	24.6.8	日本橋	書状	20円	世田谷区千歳烏山	千歳	翌日到着	横山
丸速-13	24.6.10	神田駿河台	書状	20円	中央区築地			池田
丸速-14	24.6.22	大森久が原	書状	20円	多摩郡府中町		速を抹消	行徳
丸速-15	24.6.29	日本橋	書状	20円	世田谷区千歳烏山	千歳	翌日到着	池田
丸速-16	24.7.8	立石	官製葉書	20円	杉並区大宮前	荻窪		数珠
丸速-17	24.7.21	東京中央	官製葉書	20円	大田区上池上町	田園調布	ヤフーオークションにて出品（2002年3月）	（未調査）
丸速-18	24.7.27	東京中央	葉書	20円	小田原市荻窪		速を抹消	吉田

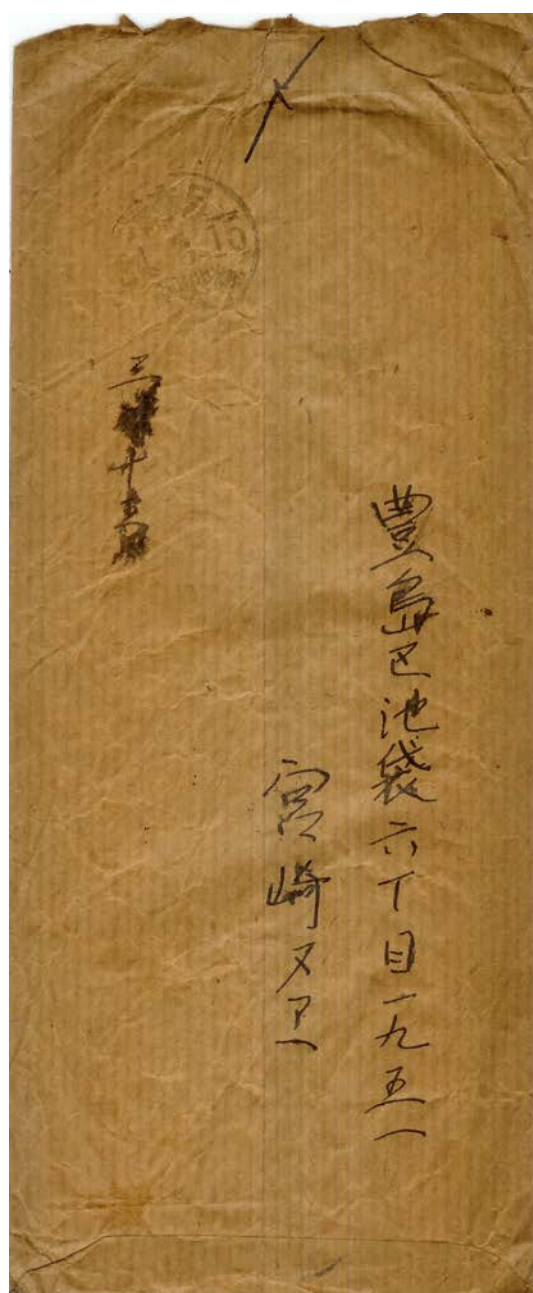
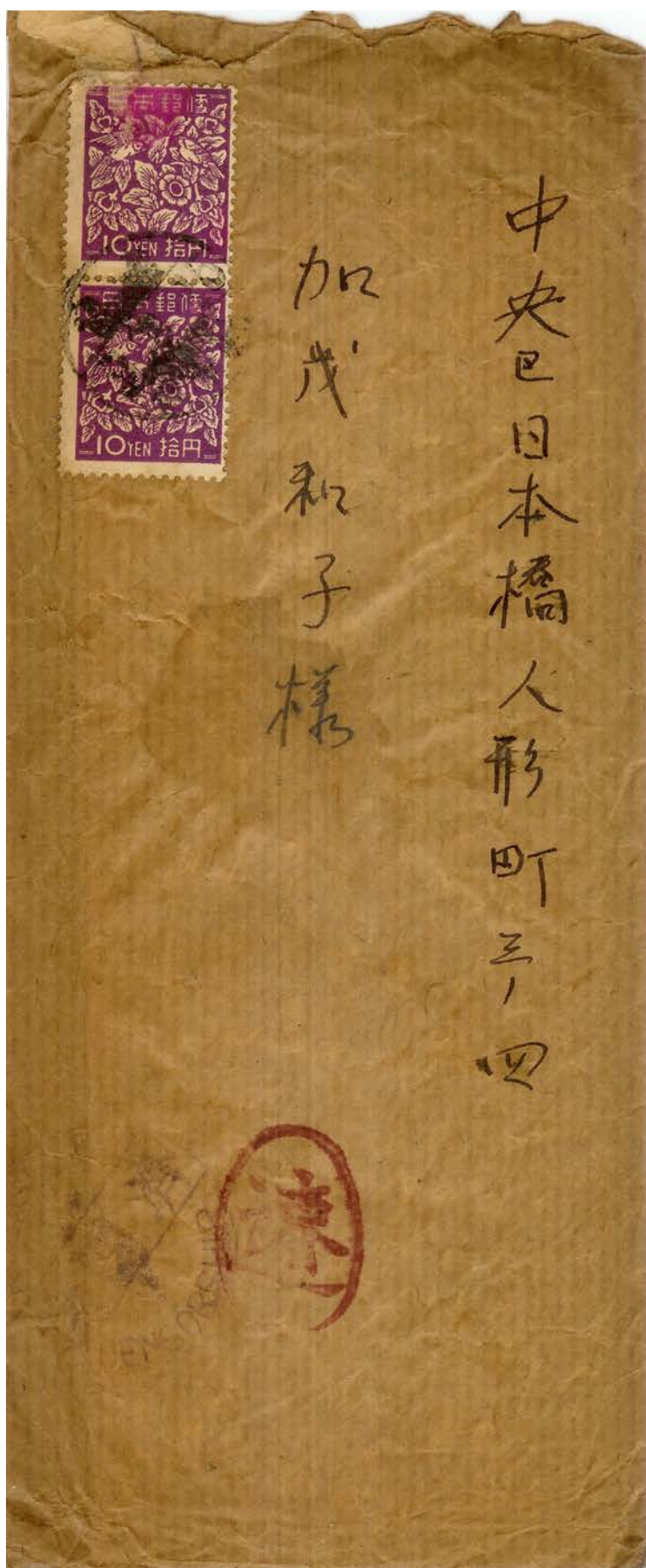
以上18点は、今回図版を確認できたものである。なお丸速-05については図版掲載は控えた。
 これ以外に「占領下における速達郵便」（荻原海一氏、全日本郵趣1990年2月号）にて、昭和24年6月16日板橋局発信で世田谷区の千歳局の到着印の押された都内速達があると言及されている。



丸速-01 昭和24.2.24 本郷局引受



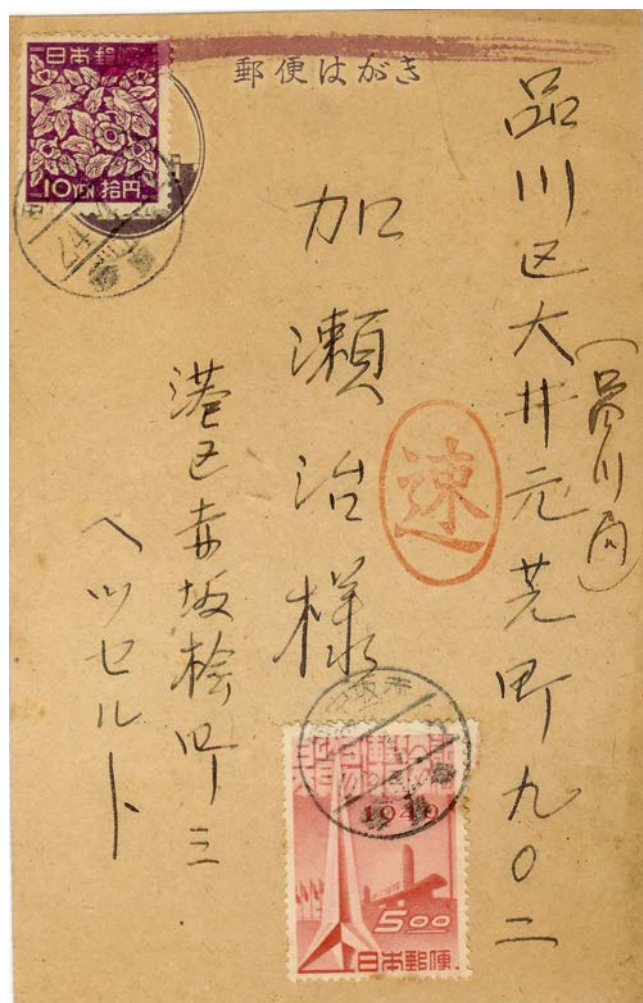
丸速-02 昭和24.3.12 京橋通一局引受



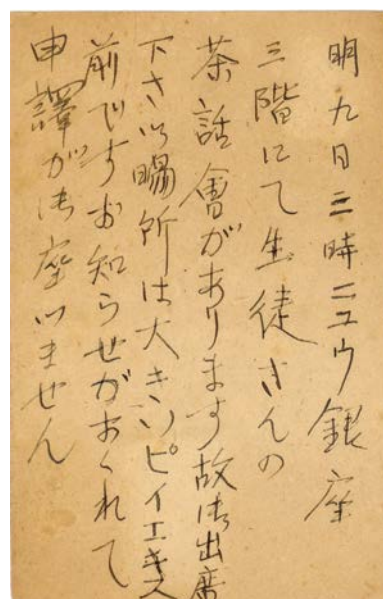
丸速-03 昭和24.3.15 豊島局引受



丸速-04 昭和24.3.17 京橋局引受



丸速-06 昭和24.4.8 赤坂中町局引受

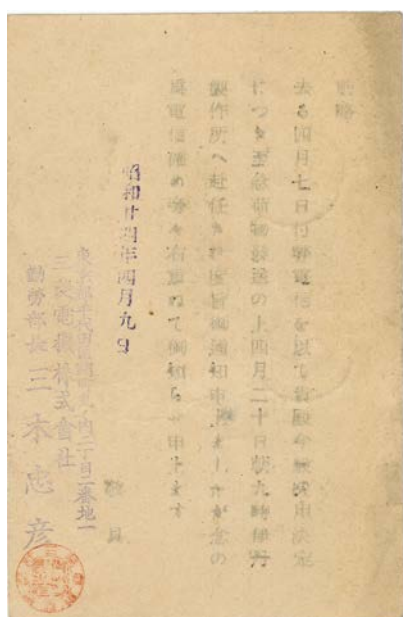




丸速-07 昭和24.4.9 東京中央局引受

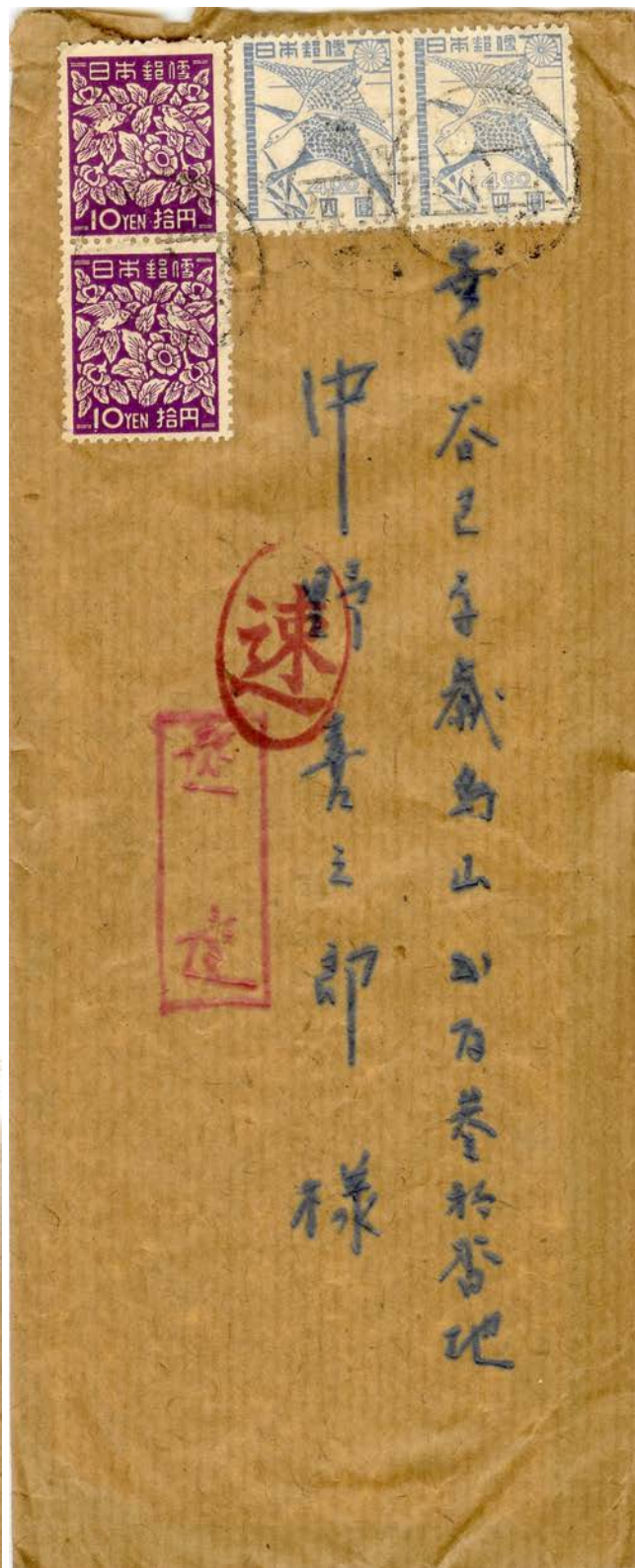


丸速-08 昭和24.5.2 目黒局引受





丸速-11 昭和24.5.28 丸の内ビル内局引受



丸速-12 昭和24.6.8 日本橋局引受





丸速-13 昭和24.6.10 神田駿河台局引受



丸速-14 昭和24.6.22 大森久が原局引受



丸速-15 昭和24.6.29 日本橋局引受



丸速-16 昭和24.7.8 立石局引受

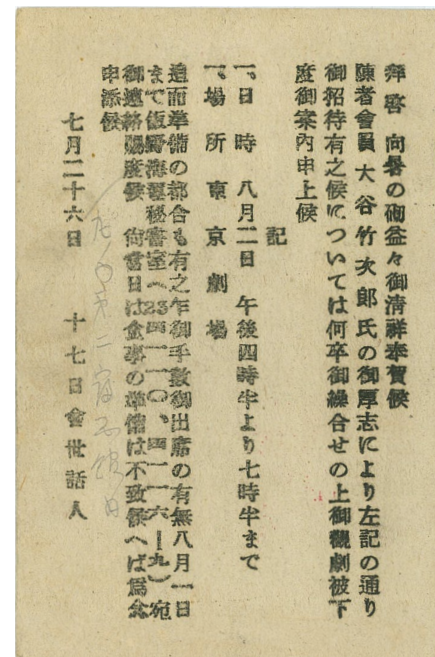




丸速-17 昭和24.7.21 東京中央局引受



丸速-18 昭和24.7.27 東京中央局引受



本記事のとりまとめにあたり、行徳国宏氏にアドバイスを頂きました。

誤字に消された「赤峰式自動押印機」

永坂 一郎

1.どんな機械か誰も知らない赤峰式自動押印機

1938(昭和13)年刊行の「通信博物館物品調書（昭和12年）」によると、帳簿面の品名で「押印機（赤峰式）」、当時の整理品名で「赤峰式自動押印機（手動）」が2台、通信博物館の三倉に保管されていました。しかし、戦争のどさくさを経た現在この押印機はありません。写真や文書も残っておらず、戦後70年にもなると機械の姿を見た人さえ居なくなりました。

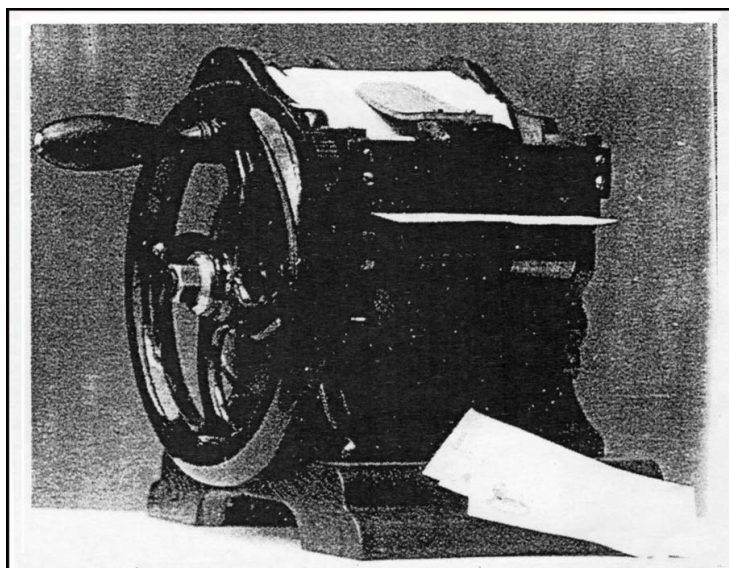
日本郵便機械消印詳説

赤峰式自動押印機について最も詳しい説明をしているのは、機械消印の先達者である裏田稔が1957（昭和32）年から「東海郵趣」誌に連載した「日本郵便機械消印詳説」の中の「赤峰式自動消印機」で、次のように述べています。

『ドイツ式のあとをうけてわが国でも技工赤峰換一氏が明治34年頃一種の押印機を発明した。これはローラーの回転とゴム弁の作動で葉書が自動的に繰り出し消印する手廻式のものであったが、数台試作され、その実験も更に改良にまで行われたが充分でなく本格的採用に到らなかった。この機械についてはこれまで一切の資料なく印影も今は判らない。

唯、赤峰式はドイツ製足踏押印機にヒントを得ていることだけは用研の加藤氏も指摘しているところである。』

この記述内容は、用品研究係長が若い頃に見た機械の印象と通信博物館内の口承を語り伝えたものと思われ、概ね正しいといえましょう。本来なら、日本で最初に通信省の費用で試作・試用された画期的な自動押印機ですから、実用に到らなくても郵便史に残るものでした。



赤峰式押印機の写真を発見（本稿末にて写真再掲とともに詳細解説）

2.赤嶺煥一という人が発明者

唐突ですが、明治30年代の通信省の本省で働いていた公務員の中に「赤嶺煥一」という名の人がいました。当時の通信省職員録にはその名前が載っていませんから、身分的には営繕などを行う職工さん、すなわち技工だったのでしょうか。推測ですが、樋畑雪湖と同じ職場の通信局郵務課物品係などに勤務していたのではないのでしょうか。しかし、当時創設された郵便博物館に所属したことはないようです。

この人は省内にあったホスター式押印機（例の足踏押印機）に興味をもち、充分観察を重ねたうえで一種の押印機を発明して、上司の許しを得てこれを試作しました。

発明品の内容と特許

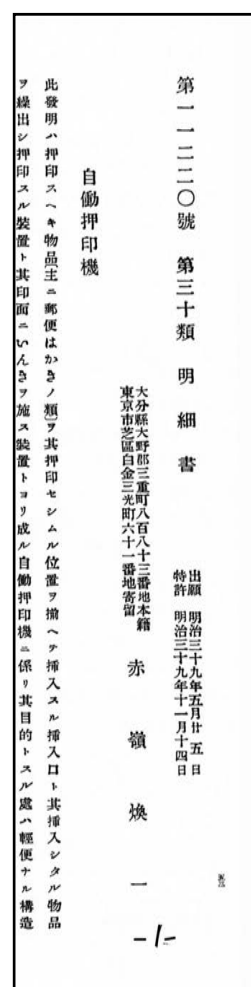
この押印機は葉書専用で考案されていて、ホスター式のメカニズムを参考にして葉書を同様に平置き横送りとし、葉書の繰込みにはゴム製のフィンガー（ゴム弁）を備えています。主軸には手廻用のハンドルと、架台の載せたときにモーター等で駆動できるようプーリーが装着されており、印頭もこの軸に付いています。繰込みフィンガーと印頭には、運転中に葉書の端面と干渉して支障が生じないように逃げる装置も注意深く施されています。

この発明品は実験改良を重ねたうえで数台製作されて、1906（明治39）年に「自働押印機」の名称で特許出願され、特許番号第11220号として許可されました。特許明細書を本稿末に掲示します。特許図に描かれている消印の印頭の形式は楕形印になっています。

この押印機には実用上の大きな欠陥が二つあり、一つは2枚送り防止用にホスター式押印機のような逆回転ローラーがないこと、もう一つはインキローラーが印頭ローラーの下側にあるため葉書を裏向きにして押印することです。実際に消印をする現場作業員の使い勝手を十分に配慮した構造にはなっていませんでした。

終戦までの日本の工業技術は軍需産業に集中しており、林式葉書押印機や大賀式自働押印機などの民生品では欧米より立遅れていて、押印機で日本最初の専売特許を取得した米国インターナショナル ポスタル サプライ会社の製品（特許番号第5454号、出願1900（明治33）年、特許1902（明治35）年）と較べれば、騒音・潤滑・耐久性・使い勝手といった面ですいぶんと見劣りがします。

林式や平川式の葉書押印機は、需要期での使用が終わるとその都度通信博物館に引揚げて再整備し性能を維持しましたが、赤嶺式押印機は通信博物館員の発明品ではないため、改良モデルへの発展もなく実用化には到りませんでした。この押印機の資料は、本省は兎も角も通信博物館では全く見つかりません。



赤嶺式押印機の特許明細書冒頭部分
（全文を本稿末に掲載）

3.僅か二つの誤字がすべての根源

郵便スタンプ物語

樋畑雪湖は、「日本郵便切手協会」発行「郵便切手雑誌」第4巻第6号掲載の「日本郵便スタンプ物語（第13回）」で次のように述べています。

『先づ以て葉書押印の機械をのみ必要とする状況であったから、是に応ずべく第一に工夫したのは赤峯煥一といふ人であった。此の人の工夫は矢張ローラの廻転により護謄弁との働によりて葉書を順次繰出す所の手廻機械であって相当見込がある所から数台を製作して実地試験を行って見ると、其の繰出が一枚々々出ずべき筈なるに、それがよく行かない。』

樋畑雪湖は律儀な人で、この連載を書くにあたって役所の資料を借り出して見ることはなかったようです。旧知の人の名前は憶えていても、文字の細かな違いまでは記憶しておらず、赤嶺の「嶺」を山冠に峯の「峯」と誤記してしまいました。

日本通信日附印史話

樋畑雪湖は「日本郵便スタンプ物語」を下敷きにして切手趣味社発行の「切手趣味」叢書第4編「日本通信日附印史話」で次のように述べていますが、ここでも更なる誤字を記してしまいました。

『前に叙した如く自動切手消印の目的は単に葉書の押印が焦眉の急である。多分明治三十四、五年の頃であったと思ふ赤峰煥一と云ふ人がローラーの回転とゴム弁との働きによりて葉書を自動的に繰出し押印するの手廻し押印機を発明し之を数台製作して実地に試験し、幾度か改良してみたが充分成功しなかった。』

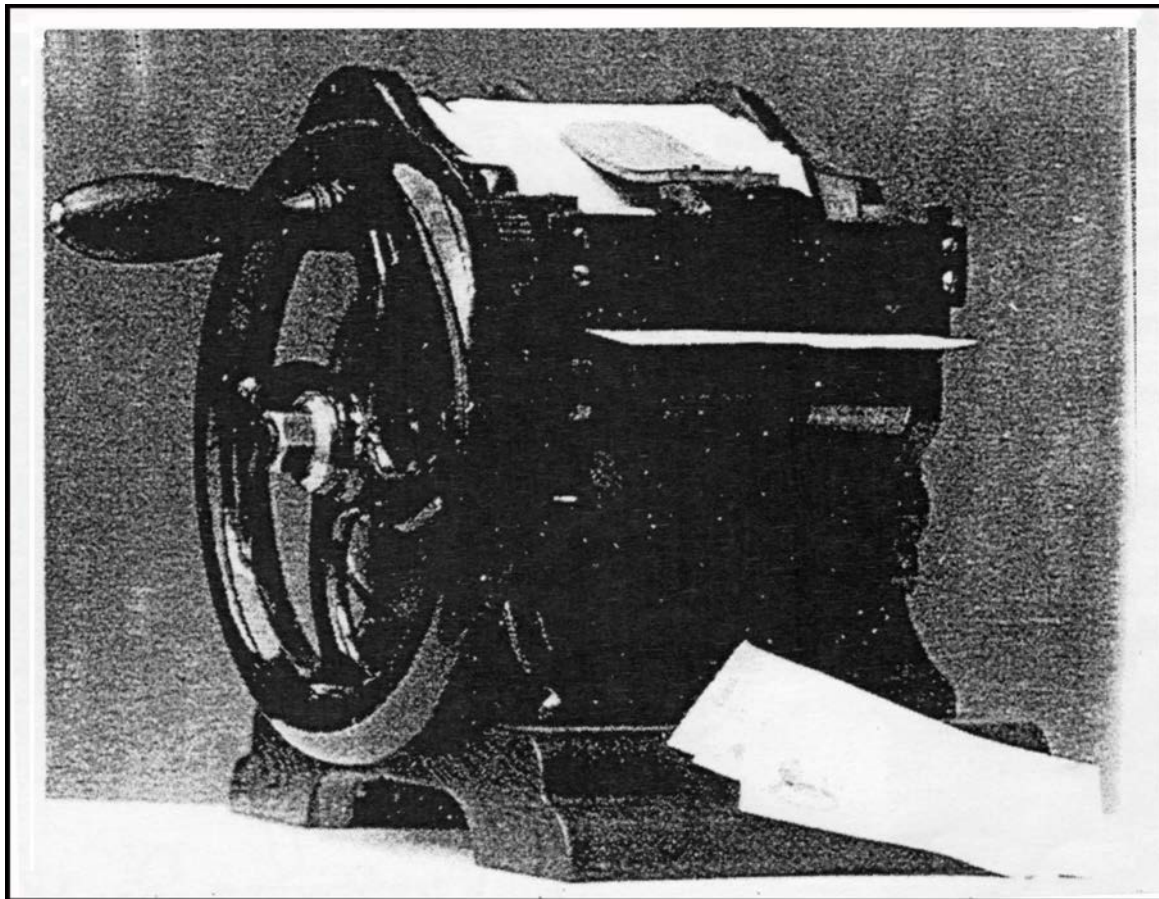
上記のように、今度は赤嶺の「嶺」を山偏に峯の「峰」、煥一の「煥」を手偏の「換」と誤記してしまったので以降通信博物館でも巷間でも「赤峰煥一」という名前が金科玉条となって現在に到り、「赤嶺煥一」の自動押印機の特許明細書は検索されることもなく、だれにも知られず現在に到りました。

赤峰式自動押印機とは、赤嶺式自動押印機のことだったのです。



4. フランスにあった赤嶺式自動押印機の写真

Reg Morris 他2名の著になるAn Introduction to Japanese Cancelling Machines and Markingsの94頁に『実際に見たこともない日本製で製造者不明の押印機の写真がフランス郵便博物館に保管されている』との説明がついた写真が掲載されています。まさに、これが赤嶺式自動押印機でした（図）。



ここに掲載した写真は不鮮明ですが、押印機の手前には日付が38. 7. 1と押印された3通の事務用葉書が見える筈です。この事務用葉書は日専OS1で1904（明治37）年に発行されました。消印の形式は丸二型日付印ですが、特許明細書の図は楕形日付印になっています。局名は恐らく東京でしょう。



1904 事務用葉書
(OS1)

5. 丸二型機械日付印を捜そう

丸二型日付印の2本のバーの両端は、林式楕形日付印と同様、外環に密着しています。逆に言えば、林式楕形日付印は、この赤嶺式押印機の印頭の構造を真似したに違いありません。昭和期まで保管されていた赤嶺式押印機に丸二型日付印にかわって楕形日付印が付いていたかは不明です。

読者の収蔵品の中に、バーの両端が外環に密着した東京丸二型日付印を押捺した葉書が眠っていませんか。あれば、それがこの押印機の貴重な使用例です。また、この押印機で消印された事務用葉書が、関係者の遺品の中にまだ残されていれば、誠に幸いです。

第一二二二〇號 第三十類 明 細 書

出願 明治三十九年五月廿五日
特許 明治三十九年十一月十四日

大分縣大野郡三重町八丁目十三番地寄附 赤 嶺 煥 一

自動押印機

此發明ハ押印スヘキ物品主ニ郵便ハカキノ類ヲ其押印セシムル位置ヲ捕ヘテ挿入スル挿入口ト其挿入シタル物品ヲ繰出シ押印スル裝置ト其印面ニいんきヲ施ス裝置トヨリ成ル自動押印機ニ係リ其目的トスル處ハ輕便ナル構造ヲ以テ一定ノ處ヨリ多數宛連續的ニ挿入シ置ケハ必一枚宛迅速ニ繰出シ之ニ印ヲ適當ノ處ニ鮮明ニ印刷セシムルニアリ

別紙圖面ノ第壹圖ハ本機ノ正中縱斷面圖第貳圖ハ同其正面圖第參圖ハ印(35)ノ裝置ヲ示シタル輪(23)ノ橫斷面圖第四圖ハ同北縱斷面圖第五圖ハ印座(30)ノ側面圖第六圖ハ押印スヘキ物品ノ通過スル時ノモ押印セシムル裝置ヲ示セル斷面圖ヲ示ス

挿入口ハ兩側壁(1)ト底(2)ニ定着セル斜底(3)ト斜底(3)上ニ挿入シタル物品ヲ適當ノ角度ヲ以テ輪(4)ニ適當ニ接近セシムル轉杆(6)トニヨリ漏斗狀ヲナシ斜底(3)上ニ挿入シタル物品ヲ押送スル押送子(6)ヲ備ヘテ押送子(6)ハ挿入シタル物品ニ接觸スル面ト斜底(3)ニ接觸スル面トハ圓筒(7)ヲ以テ適當ノ角度ヲ保ツヘク調度シ得ヘクナレ(6)ト(5)トノ間ニ挿入シタル物品ノ全ク繰出セラレタルトキ強ク繰出子(8)ヲ壓セサルヘク鍵(9)ヲ以テ斜底(3)ニ支ヘテ停止スヘクナス而シテ押送子(6)ハ連續挿入スル場合ヘ使用セサルモ防ナシ

繰出裝置ハ軸(10)ニ設ケタル輪(11)ニ施シタル調度帶(12)又ハ把手(13)ヲ以テ齒輪(14)ヲ廻旋シ齒輪(15)ヲ廻旋セシメ其軸(10)ニ設ケタル輪(17)ニ具ヘタル繰出子(8)ヲとむ(18)ニヨリタ廻旋スル毎ニ押送子(6)ニヨリテ壓着セラレタル物品ヲ一枚宛分順シテ少シク繰出スレハ輪(4)ト其下方ヨリ彈條(19)ニヨリテ壓着セラレ且ツ軸(16)ノ他端ニ設ケタル齒輪(20)ニ組合スル齒輪(21)ニヨリ廻旋スル軸(22)ノ輪(23)トニヨリ繰出スヘクナス繰出子(8)ハ彈條(19)ニヨリ其とむ(18)ヲ壓着セル一端

五十三

五十四

ヲ輪(17)ノ周面ヨリ内方ニアラシメ廻旋スレハ其後端ニ設ケタル橫杆(25)ノ兩端ヲ彈條(26)ヲ具ヘタル調度器(28)ニ壓セラレ挿入セラレタル物品ニ適當ノ強度ヲ以テ接觸シ挿入セラレタル物品ノ下端ヲ底(2)ノとむ(29)ニ壓シ其硬軟厚薄粗滑ニ關セズ最上ノ一枚ノミヲ分離繰出セシム

押印裝置ハ輪(23)ニ印座(30)ヲ設ケ軸(22)ニ繋着セル關節(31)ヲ有スル臂杆(32)ニ關節(33)ニヨリテ繋着セラレ彈條(34)ニヨリテ印(35)ノ面ヲ輪(23)ノ外面ニ向テ壓出スヘクナレ臂杆(32)ノ先端ヲ輪(23)ノ外方ニ於テ廻旋スル毎ニ臂杆(32)ノ先端ニ壓着シ彈條(34)ヲ壓縮シテ印(35)ノ面ヲ輪(23)ノ面ヨリ内方ニ在ラシメ廻旋スヘクナレ繰出セラレタル物品輪(4)ニ(23)ノ間ニ進入スレハ其原サニヨリテ輪(23)ノ下端ニ滑輪(37)ヲ設ケタル橫杆(38)ノ一端ヲ壓下シ他端ニ關節(39)ニ(40)ニ(41)ニヨリテ連着セル橫杆(33)ニ(43)ノ一端ヲ臂杆(31)ノ下端端(45)ヨリ外レシメ臂杆(32)ノ先端ヲ臂杆(30)ノ先端ニ壓着シタルトキ共ニ移動シテ彈條(34)ヲ壓縮セサルニヨリ印(35)ノ面ヲ輪(4)ニ壓着シテ廻旋シ以テ押印スヘキ物品ノ通過スルトキノミ押印スヘクナス印(35)ハ關節(47)ヲ以テ印座(30)ニ繋着シ切欠(48)ヲ以テ印座(30)ニ設ケタル彈條(49)ニヨリテ壓出スヘクナレタル爪(50)ニ止着セラルヘクナス而シテ爪(50)ヲ押壓シテ切欠(48)ヲ外レ印(35)ノ内面ヲ露出シ得ヘクナレ印(35)内ノ文字取換ヘテ便ナラシム而シテ又臂杆(31)ハ壓着セラレタル臂杆(32)ノ通過スルト同時ニ下端端(45)ヲ以テ橫杆(44)ノ一端(45)ヲ壓下シ原位置ニ復シ横杆(44)モ亦原位ニ復シ固定セラルヘクナス

印面ニいんきヲ施ス裝置ハ齒輪(21)ヨリ齒數一個少キ齒輪(61)ヲ設ケ齒輪(21)ト組合セシメ軸(22)ヲ廻旋セシメ輪(23)ト約同經ノ輪(63)ヲ以テ廻旋スル毎ニ位置ヲ替ヘテ印(35)面ニ接觸シいんきヲ附着セシムヘクナス又輪(63)ニハ下方ヨリ箱(64)内ノいんきヲ附着セシメ調度彈子(55)ニヨリ適度ニいんきヲ含著セシムヘクナス

特許法ニヨリ本發明ノ保護ヲ請求スル範圍左ノ如シ

一多數宛連續的ニ挿入シ得ヘクアラシメ且ツ適當ノ角度ヲ以テ輪(4)ニ接近セシムル目的ヲ以テ斜底(3)轉杆(6)及押送子(6)ヲ備ヘテ漏斗狀ヲナシタル挿入口ト挿入シタル物品ノ硬軟厚薄粗滑ニ關セズ適當ノ強度ヲ以テ接觸シ必最上ノ一枚ノミヲ分離繰出セシムル目的ヲ以テ彈條(19)とむ(18)ヲ具ヘタル繰出子(8)及彈條(26)ヲ具ヘタル調度器(28)及とむ(29)及輪(4)ニ(23)トヲ備ヘタル繰出裝置ト繰出セラレタルトキノミ押印セシムル目的ヲ以テ印(35)ヲ止着セル印

座 80) 及 臂 杆 32) 彈 條 34) を 備 へ タ ル 輪 23) 下 其 軸 22) 上 方 ニ 壓 着 セ ル 彈 條 19) 上 滑 輪 37) 具 へ タ ル 桿 33) 及 其 他 通 ニ 運
 路 セ ル 桿 44) 及 臂 杆 33) 上 方 備 へ タ ル 押 印 裝 置 ト 廻 旋 ス ル 毎 ニ 位 置 フ 替 へ タ 印 面 ニ 接 觸 シ 適 當 ニ い ん き フ 附 着
 セ シ ム ル 目 的 フ 以 テ 組 合 ス ル 齒 輪 51) ヨ リ 齒 數 一 個 少 ナ キ 齒 輪 53) 及 輪 23) 下 約 同 經 ノ 輪 55) 制 度 彈 子 55) を 備 へ タ ル い
 ん き フ 施 ス 裝 置 ト ノ 結 合 ニ ヨ リ タ 成 ル 自 動 押 印 機

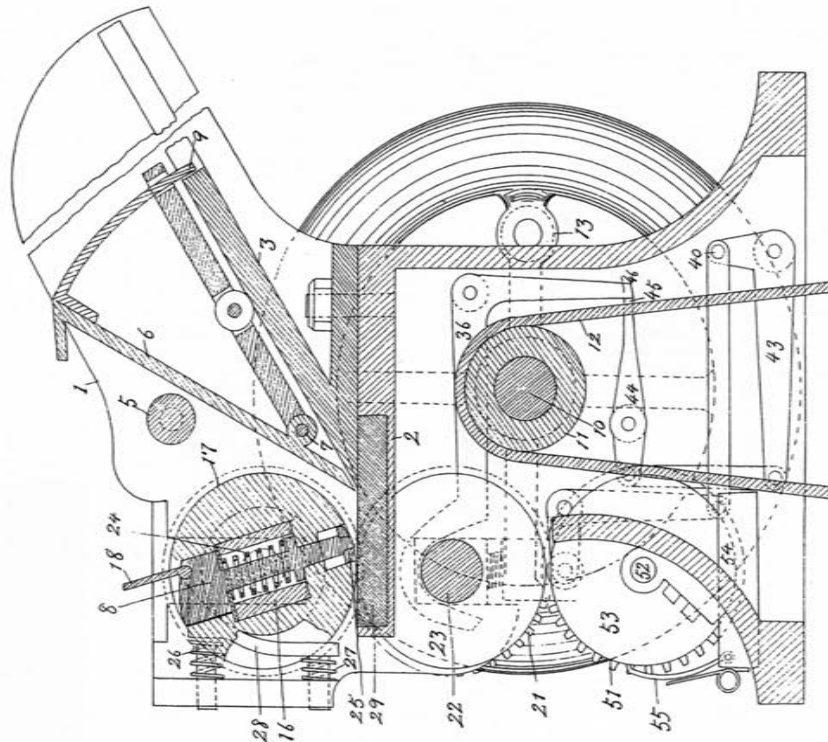
— 3 —

五十五

第一二二〇號

自動押印機

圖 壹 第

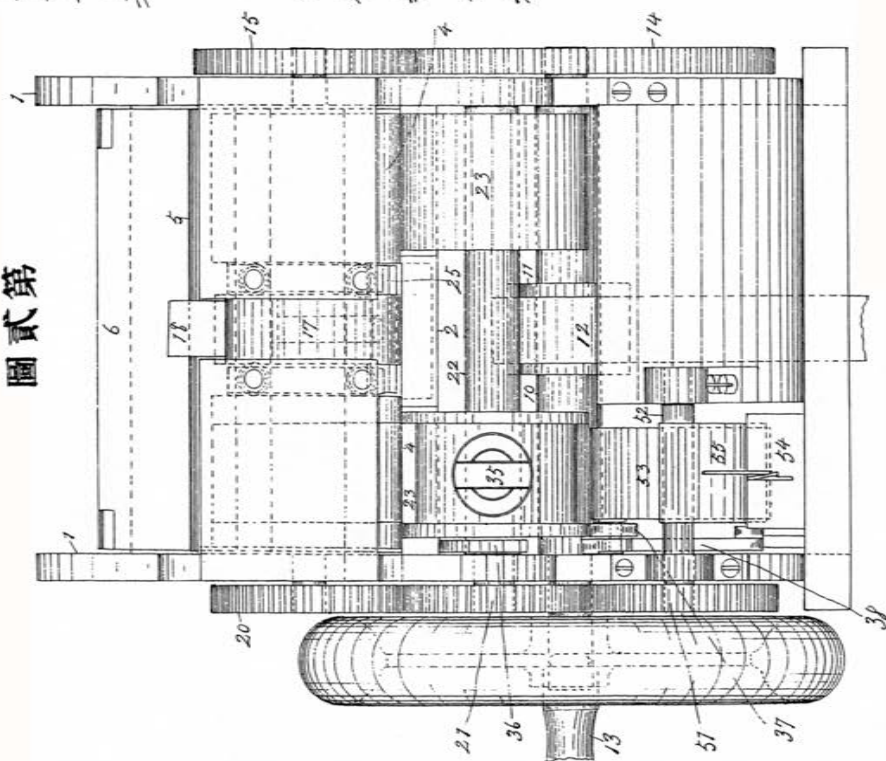


— 5 —

第一一二〇號

自働押印機

圖貳第

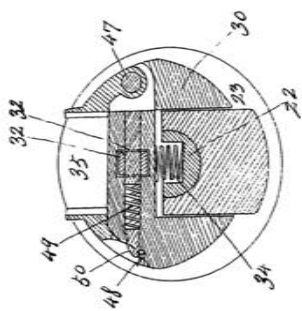


-6-

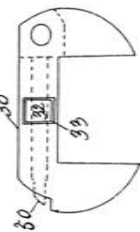
第一一二〇號

自働押印機

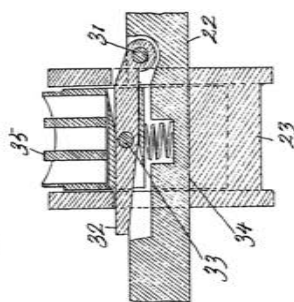
圖參第



圖五第

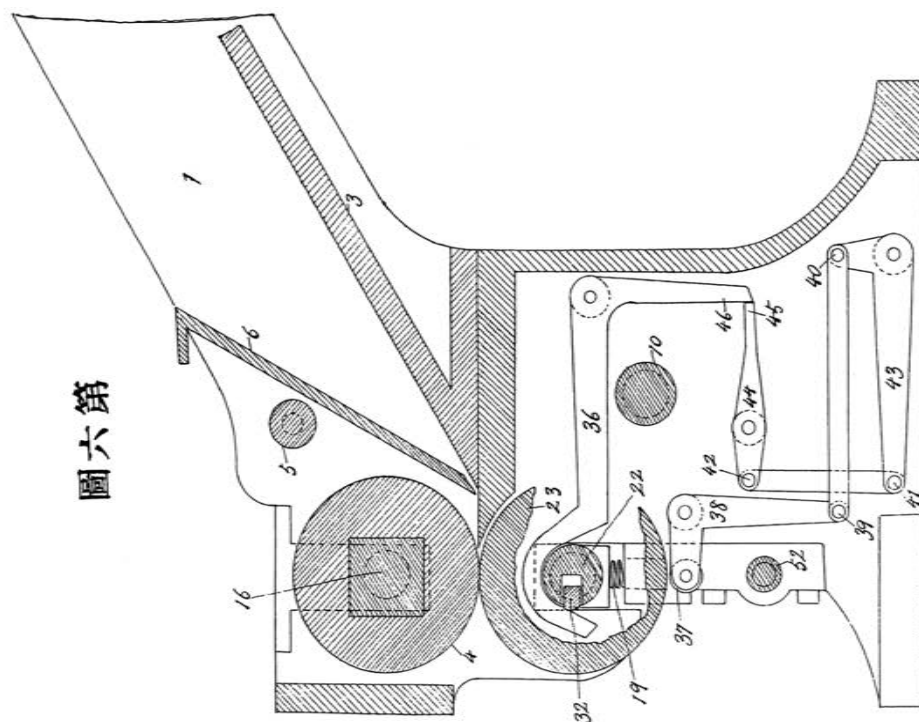


圖四第



-7-

圖 六 第



参考文献

- ・郵便スタンプ物語（第13回）、樋畑雪湖、郵便切手雑誌、第4巻第6号、東京、1927（昭和2）年
- ・日本通信日附印史話、樋畑雪湖、切手趣味叢書、第4編、93頁、東京、1937（昭和12）年
- ・日本郵便機械消印詳説、裏田稔、東海郵趣付録、東海郵趣連盟、50頁、名古屋、1957（昭和32）年
- ・同上復刻版。裏田稔、駅通郵趣会、51頁、東京、1981（昭和56）年
- ・An Introduction to Japanese Cancelling Machines and Markings、Morris, Payne & Holmes、Machine Cancel Society、239頁、Tampa Fl. USA、1996(平成8)年

『外信別配達便を集める』

川田 圭史

外信別配達とは？

エンタィアを収集していると、最初に手にする特殊取扱便が、国内便で言うと速達郵便ではないかと思います。

同じように外国に向けて差し出した外信便にも国内便の速達と同じ特殊取扱いが存在します。それが今回取り上げる「外信別配達便」です。（1986.1.1(昭和61年)、速達に改称されておりますが、本文では以後、外信別配達便と呼びます。）

外信別配達便は、通常送達の航空便料金の他に、別配達料金を加算することによって、空輸された外信便を宛先に通常よりも早く配達してくれるサービスですが、到着先までの輸送方法に差異がある訳ではありません。

外信別配達便料金は統一料金であり、それを地帯宛航空料金に加算します。受け付けられた別配達便にはUPUで統一されたフランス語表記の『EXPRESS』と表示された赤いラベルが添付され、通常の航空郵便物と異なることが示されますが、これは絶対ではなく、英語表記であっても構わず、またゴム印や手書きでの表示も決して珍しいものではありません。

『EXPRESS』の赤いラベルに惹かれて外信別配達便を郵便料金の地帯別に収集していますが、地帯別でかなり難易度に差があることが判りましたし、その他に見えてきた点もあるようです。外信別配達便については、「郵趣研究」誌2007年(平成19年)6月号に行徳国宏氏が既に詳細な記事を発表されておられますが、今回はおさらいの意味もかねて現行収集家の目から再度点検してみたいと思います。



戦後 各地帯宛航空料金表及び別配達・書留料金表

改正日		1950.9.1 S25	1951.12.1 S26	1953.7.1 S28	1959.4.1 S34	1961.10.1 S36	1966.7.1 S41	1971.7.1 S46
別配達料金		72円	72円	72円	70円	70円	95円	100円
書留料金		48円	48円	48円	50円	50円	70円	100円
航 空 料 金	書状料金	24円*2	航空書状10g ごと	航空書状10g ごと	航空書状10 g ごと	航空書状10g ごと	10 g *3	
	第1地帯	16円*1	40円	35円	40円	50円	60円/50円	
	第2地帯	34円	55円	50円	75円	80円	90円/80円	
	第3地帯	59円	80円	70円	115円	100円	110円/100円	
	第4地帯	103円	125円	115円				
	第5地帯	144円	160円	145円				
改正日		1972.7.1 S47	1976.1.25 S51	1981.1.20 S56	1981.7.1 S56	1987.4.1 S62	1988.4.1 S63	
別配達料金		100円	250円	300円	300円*4	300円	300円	
書留料金		100円	300円	350円	350円	350円	350円	
航 空 料 金		10 g *3	10 g *3		10 g *3	10 g *3	10 g *3	
	第1地帯	60円/50円	100円/60円		130円/70円	110円/70円	80円/60円	
	第2地帯	80円/70円	120円/80円		150円/90円	130円/90円	100円/70円	
	第3地帯	100円/90円	140円/100円		170円/110円	150円/110円	120円/100円	
改正日		1994.1.24 H6	1996.3.28 H8 『現行』					
別配達料金		260円	260円					
書留料金		410円	410円					
航 空 料 金		10 g *3	定型25 g /50 g		定型外50 g /100 g /250 g			
	第1地帯	90円/60円	90円/160円		220円/330円/510円			
	第2地帯	110円/80円	120円/190円		260円/440円/670円			
	第3地帯	130円/100円	130円/230円		300円/480円/860円			

*1：1949年6月1日改正時の料金

*2：20gまでの料金

*3：10gまで/10gを超える10gごとの料金

*4：1986年1月1日→「別配達」は「速達」に改称

戦後外信別配達便の開始

敗戦によって日本人の外国への通信は、一時期制限を受けました。外国郵便が再開したのは1946年(昭和21年)9月10日でしたが、その時には別配達の取り扱いはありませんでした。その後、1950年(昭和25年)9月1日の郵便料金改正で戦後の別配達便がスタートすることになります。

別配達料は72円で、アメリカ宛航空料金よりも高く、この当時としてはかなり高価な郵便であったと言えます。(戦後各地帯宛航空郵便料金表及び別配達・書留料金表「1950.9.1改正」の料金に該当)

この時期の外信別配達便については、前述の行徳宏氏が記事の中で「何十年もこの料金時期の外信別配達便を探してきたが、結局、見つけることが出来ていない。」と書かれておられることから判るように、かなり難易度の高いものと容易に推測できます。どなたかのコレクションにひっそり納まっていないもののでしょうか？

地帯別航空料金用にきじ航空切手が、また、料金額面は外信航空料金には一致しませんが、五重塔航空(銭単位)が発行されていますので、航空切手貼りも混貼であっても視野に入れておかなければなりません。

外国郵便5地帯の時代

「1951.12.1改正」「1953.7.1改正」の料金の時代

1950年(昭和25年)9月1日に72円と設定された別配達料金は、その後1959年(昭和34年)4月1日の料金改正まで変わることがなく、続くことになります。つまり、外国郵便が5地帯で区分されていた時代、外信別配達料はずっと72円であり続けたということです。

この時代のエンタイアを収集してみますと、この72円料金がかなり厄介な存在であることが判ります。

外信別配達料に該当する切手は存在せず、72円という割高感は続いていますので、余程緊急な書類でもない限り使われなかったのではないのでしょうか。また、到着した郵便物を一般郵便物と区分して、早く宛先人に届けるシステムが整っていた国や地域でないと機能しませんので、残されているエンタイアの宛先のほとんどがアメリカ・ヨーロッパ各国になってしまうのは仕方がないことかも知れません。

1951年(昭和26年)12月1日の料金改正後に航空地帯別航空書状料金用として立山航空切手が発行されていますし、1953年(昭和28年)7月1日の料金改正では大仏航空切手が航空地帯別航空書状料金用として発行されていますので、地帯別航空書状用切手+72円という組み合わせであれ、合計料金に通常切手の混貼であれ、合計料金が合致した別配達便は探してみたいのですが、なかなかのが見つからないまま今日に至っています。

2円という端数がつきますので、1円旧前島や2円旧秋田犬の使用例として所持されておられる方もいらっしゃるかと思います。(図：①)

この72円料金で探してみたいのは、平等院鳳凰堂や観光地100選、旧国立公園の24円額面を3枚貼付した外信別配達便！切手1枚の面積が大きいため、なかなかこれらを3枚貼付したものを見かけません。

また、同様に書留料金が48円でしたので、2枚貼りしたものも考えられますが、今は戦後の記念特殊の人气が非常に高くなっているため、いずれも簡単に入手できそうにありません。未収が続きますので…



図① 第4地帯(チェコスロヴァキア宛)
外信航空料金115円+別配達料金72円
TOKYO 56.XI.6

外国郵便3地帯の時代の始まり

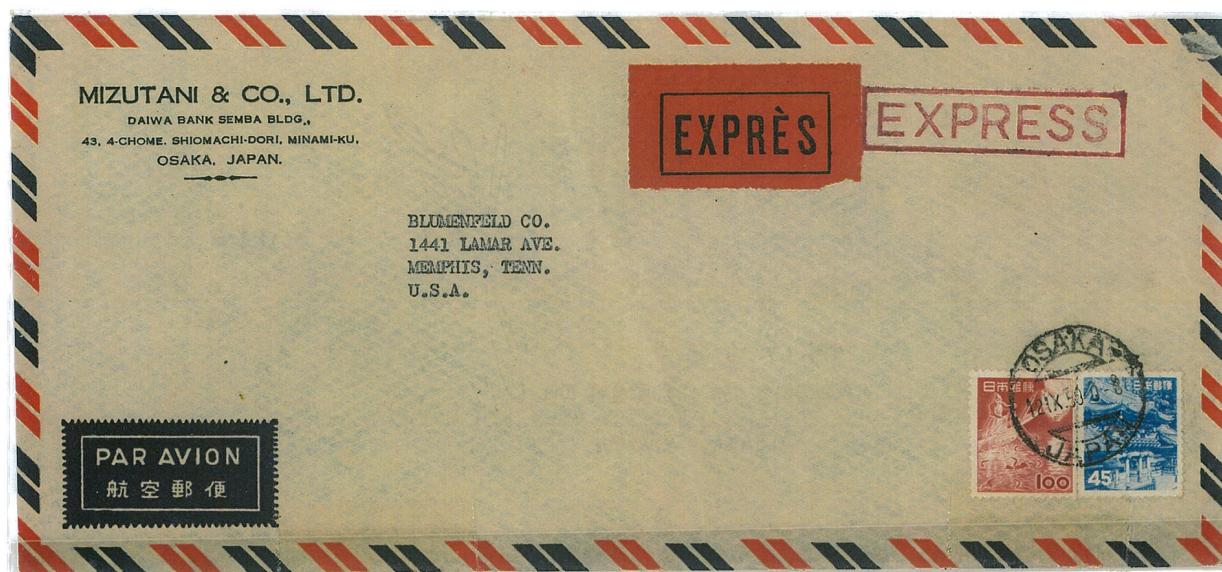
「1959.4.1改正」料金の時代

1959年(昭和34年)4月1日の料金改正で、外国郵便がこれまでの5地帯から3地帯に統合され、外信別配達料金は72円から70円に2円値下げされます。逆に書留は48円から50円に2円の値上となりました。

この時期の外信別配達では、別配達料として大仏航空70円が、書留料金としては2次動植物国宝50円が利用されているようですが、多くは100円鵜飼や100円桃丹頂鶴を単位額面としての利用の方が多いかも知れません。

1959年(昭和34年)4月1日改正の料金期間は1年半程と短く、どの地帯宛を取ってみても110円、145円、185円という貼り合せは見つけにくいようです。(図：②)

第三地帯宛別配達に大仏航空115円+別配達料大仏航空70円の貼り合せを文献で一度だけ見た事がありますが、これはかなり珍しい使用例と思っています。



図② 第2地帯(アメリカ宛)
外信航空料金80円+別配達料金70円
OSAKA 59. IX.12

別配達便の利用増加

「1961.10.1改正」料金の時代

1961年(昭和36年)10月1日に再度郵便料金が改正されますが、別配達料も書留料も変更はなく、そのままでした。ただし、航空書状料金は第1地帯が5円上がって50円に、第2地帯も5円上がって80円に、第3地帯は逆に15円値下げで100円となりました。

この時期から航空別配達便のエンタイアを目にするようになってきます。

切手の使用状況は前料金改正時と同じですが、この料金期間は5年近くありましたので、いろいろな貼り合せが見られます。第2地帯宛に100円桃鶴+50円茶仏像、第3地帯宛に100円桃鶴+50円茶仏像+20円金色堂、100円桃鶴+40円赤陽明門+30円円覚寺を比較的目にします。(図：③)



図③ 第2地帯(アメリカ宛) 外信航空料金80円+別配達料金70円 HIGASHINARI/OSAKA 64.X.29

行徳宏氏がその著作の中で第二地帯宛別配達に大仏航空80円+別配達料大仏航空70円のエンタイアを掲載しておられますが、これもかなり少ない使用例と考えています。(図：④)

大仏航空だけで外信別配達便に適応したエンタイアは、先述の大仏航空115円+別配達料大仏航空70円とこの大仏航空80円+別配達料大仏航空70円以外に見た記憶がありません。

また、1965年(昭和40年)8月に第三次動植物国宝70円増女の能面が発行されて、外信別配達料に適応することになりましたが、その使用期間は1年弱で全く見かけません。入手したい使用例です。



図④ 第2地帯(アメリカ宛) 外信航空料金80円+別配達料金70円 SETAGAYA/TOKYO 64.III.25

外国郵便制度の大改革の時代

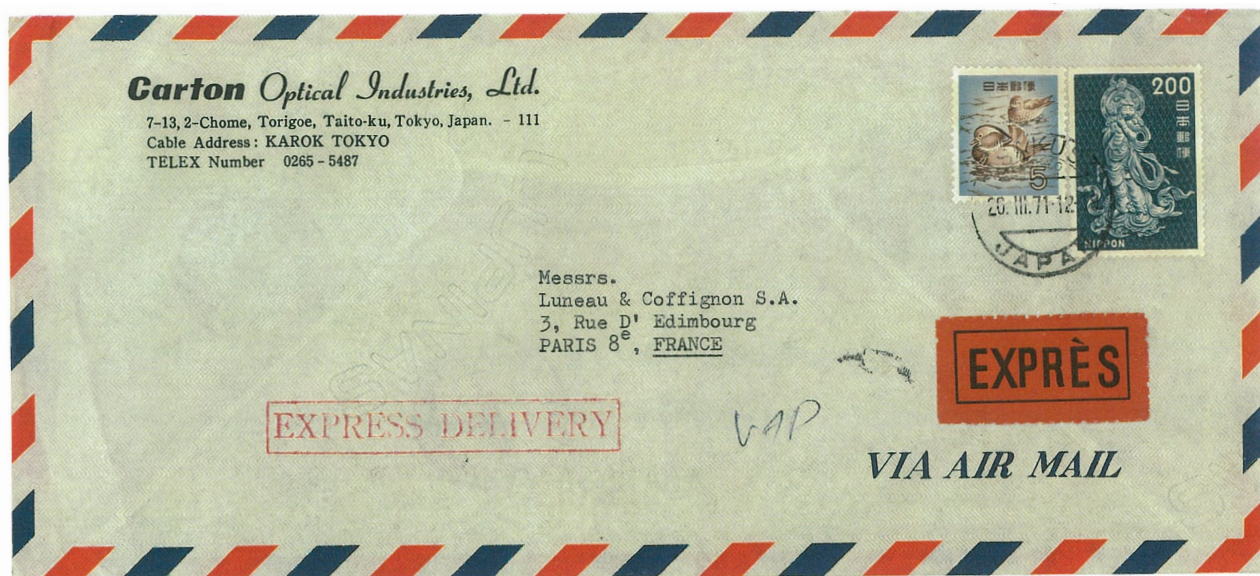
「1966.7.1改正」料金の時代

1966(昭和41)年7月1日の郵便料金改正は、郵便料金の大改革の時代の幕開けでした。

まず、これまで10gごとにいくらと決められていた航空料金が10gまでの料金と10gごとの増料金として設定されました。この料金設定は1996年(平成8年)3月28日の外国郵便定形外制度導入まで30年近く続くことになります。

別配達料は70円から25円上がって95円、書留料は50円から20円上がって70円と設定されました。外信別配達用の95円切手は発行されていません。そのため、各地帯宛の航空書状料金に90円+5円で使用されたと言いたいところですが、収集してみるとそのような例は寧ろ少なく、単位額面として100円や200円が活躍しています。例えば、第3地帯宛の場合は、大型音声200円+おしどり5円、桃または赤鶴100円2枚+おしどり5円をよく目にします。(図：⑤)

経験からですが、大型音声200円のエンタイアを探す場合に、この時期の第3地帯宛外信別配達が一番容易と言えるかも知れません。



図⑤ 第3地帯(フランス宛) 外信航空料金110円+別配達料金95円
ASAKUSA/TOKYO 71.III.20 EXPRESSDELIVERY 表記

この時期であっても外信別配達と書留が同時に引き受けられているケースは少なく、探してみてもどちらか片方で取り扱われたエンタィアが多いことが判ります。また、第1地帯宛の外信別配達がこの頃から少ないながらも見る事ができるようになってきます。(図：⑥)



図⑥ 第1地帯(台湾宛) 外信航空料金60円+別配達料金95円 TRADE CENTER/TOKYO 70.IX.12

別配達の取り扱いに関しての特記事項として、この料金改正に先立つ1965年(昭和40年)1月1日から航空書簡に対する別配達の取扱いが開始されました。(図：⑦) * (注1)



図⑦ 外信航空書簡50円+別配達料金95円
CHIGASAKI/KANAGAWA 70.IX.12
EXPRESSとSPECIAL DELIVERY 併記

外信1年間料金

「1971.7.1改正」料金の時代

1971年(昭和46年)7月1日の料金改正は、航空書状料金は'66年改正時の料金のまま据え置かれ、外信別配達料・書留料等の特殊取扱料金のみが引き上げられました。

国内便も同様で、速達や書留料金等の特殊取扱料金のみが先行して値上され、「7ヶ月料金」と呼ばれておりますが外信便の場合は国内便の料金改正よりも改正が更に5ヶ月遅れており、「1年間料金」となります。

この時期のエンタィアについては、国内の「7ヶ月料金」に収集家の目が向いていますが、いざ外信便を収集してみると、あまり収集できているとは思えず、思ったよりも難しいのではないかと個人的には感じています。外信別配達料・書留料は同額の100円に値上げされ、対応するとすれば赤鶴100円と言えるでしょうが、切手にこだわる必要はありません。(図：⑧)

なお、この改正時にこれまで郵便局窓口でなければ差し出せなかった外信別配達便が、ポストに投函出来るようになりました。＊(注2)



図⑧ 第2地帯(アメリカ宛)

外信航空料金90円+別配達料金100円

TANASHI/TOKYO 71.VIII.18

一年遅れの改正

「1972.7.1改正」料金の時代

1972年(昭和47年)7月1日の料金改正は、1年前の1971年(昭和46年)7月1日の料金改正で外信別配達料・書留料等の特殊取扱料金は既に引き上げられておりましたのでそのまま据え置かれ、航空書状料金に一部変更がありました。

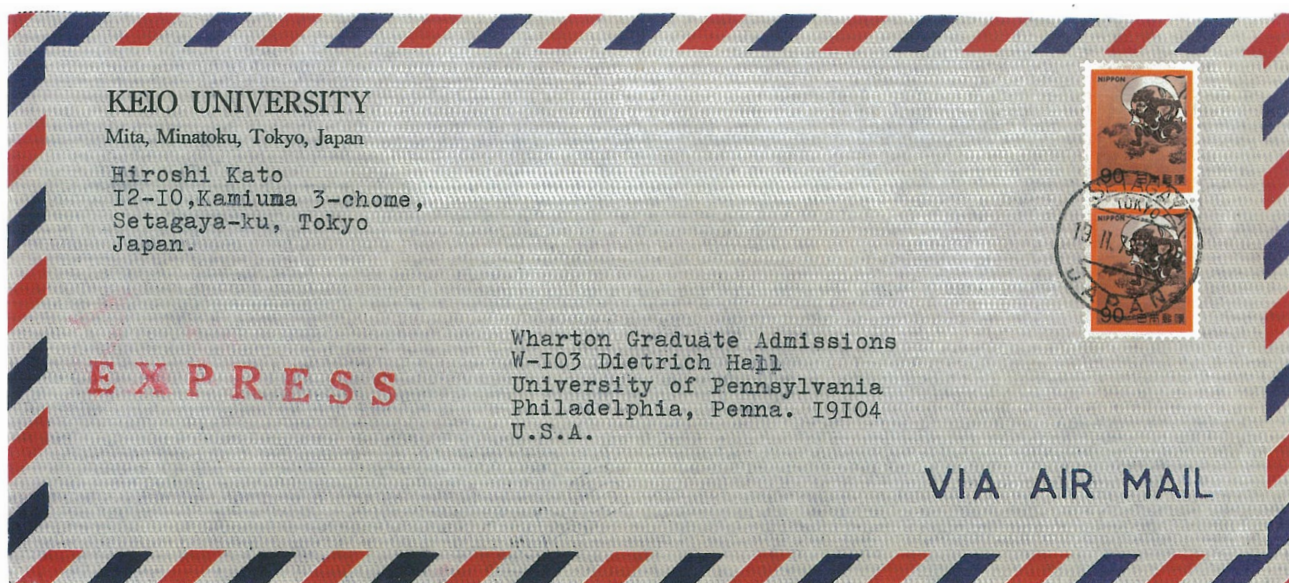
第2地帯宛90円→80円、第3地帯宛110円→100円に値下げされています。

この料金改正時から外信別配達便の入手が容易になった、地帯別に収集しても難易度の差が小さくなったと感じられますし、書留との同時差し立ても目にすることが多くなっているように思います。

この改正により、第3地帯宛では数少ない200円の「1枚貼り」が見られることになり、この料金期間中に3種類の200円切手が存在することになったこともあって、かなり人気があるようです。しかし、外信別配達便を収集する場合には必ずしも1枚貼りでなければならないという訳ではなく、収集家各人の考え方に基づいて収集すれば良いかと思います。ちなみに、自分は第3地帯宛重量別配達に茶埴輪200円+イヌワシ90円を入手しており、これで満足しています。

別配達料が100円と言うきりの良い金額になったこともあって、第2地帯宛では外信航空料金80円+別配達料100円=180円に90円×2枚の「同一2枚貼り」が切手別に3種類存在しますし、第1地帯宛では外信航空料金60円+別配達料100円=160円に80円×2枚の「同一2枚貼り」が2種類存在します。(図：⑨)

私は額面切手に拘りがあって「同一2枚貼り」の収集が気になっています。



図⑨ 第2地帯(アメリカ宛)
外信航空料金80円+別配達料金100円
SETAGAYA/TOKYO 73.11.19

料金大幅値上げ

「1976.1.25改正」料金の時代

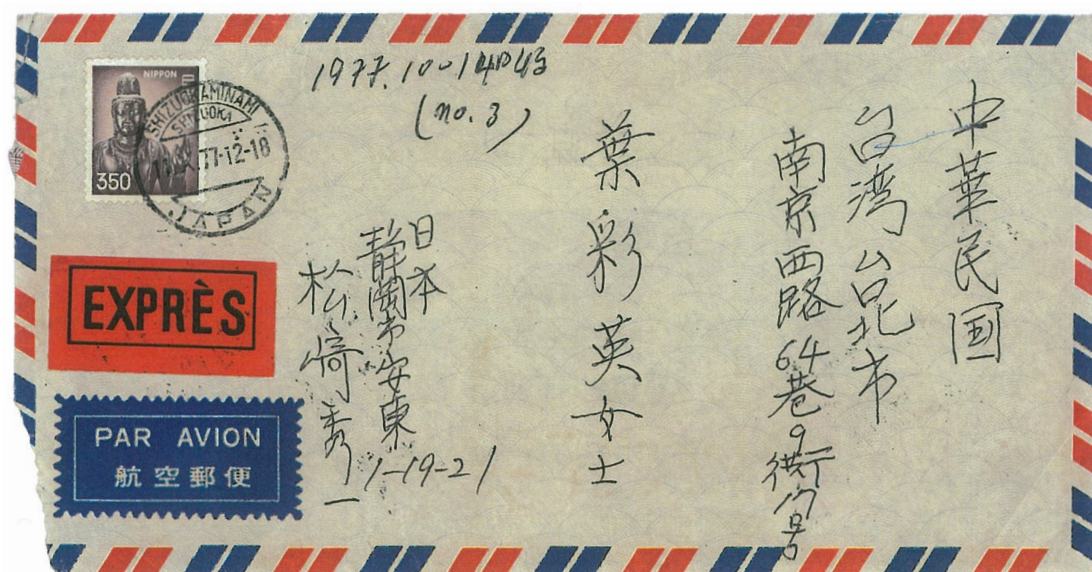
1976年(昭和51年)1月25日の改正は、外信別配達料が100円から2.5倍の250円に、書留料100円から3倍の300円に値上げされるという大幅値上げの改正となりました。この改正で書留料が初めて別配達料を逆転して50円高くなります。もちろん、外信基本料金についても各地帯とも基本料金、増料金が値上がりしています。

別配達と書留の同時差し立てもこの時期になると珍しいものではなくなり、かなりの数が存在するようです。この大幅値上げであってもこれだけ外信特殊取扱使用が利用されていたということは、郵便以外に有効な通信手段がなかったことを割り引いても、日本の経済力がまだ世界に対して影響力大の時代であったのかも知れません。

別配達や書留では中高額面の300円・400円・500円がかなり頻繁に単位額面として使用されています。この改正の約半年後に、国内書留300円＋第1種書状50円として350円切手が発行されますが、この額面が第1地帯宛航空書状100円＋別配達料250円に一致するため盛んに使用されました。エンタイアも数が残っています。(図：⑩)

1976年(昭和51年)7月1日に別配達料に対応する250円狛犬が発行されましたが、第1地帯宛航空書状赤鶴100円＋別配達料狛犬250円の貼り合せは思ったよりも少ない使用例になっています。

この350円は第2地帯宛航空書状120円＋別配達料250円、第3地帯宛航空書状140円＋別配達料250円にもそれぞれ350円＋20円、350円＋40円で使用されており、加えて300円切手も存在したことから、どの地帯宛であっても250円の出番が少なくなってしまったようで、狛犬250円の外信エンタイア収集を難しくしてしまっているようです。



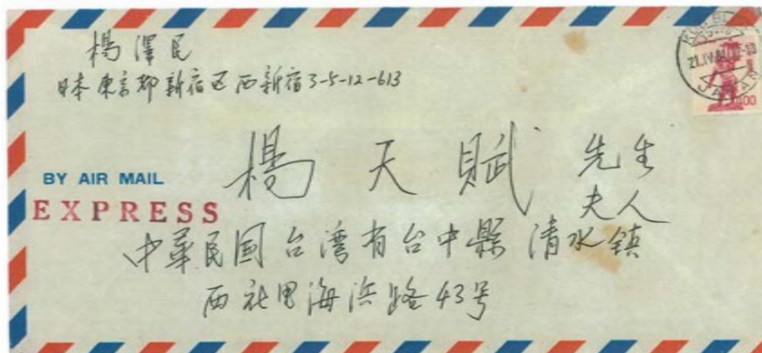
図⑩ 第1地帯(台湾宛) 外信航空料金100円＋別配達料金250円
SHIZUOKAMINAMI/SHIZUOKA 77.X.11

外信別配達から速達へ

「1981.1.20改正」「1981.7.1改正」料金の時代

1981年(昭和56年)7月1日の料金改正に先立つ半年前、1981年(昭和56年)1月20日に航空書状料金はそのまま、外信別配達料が250円→300円、書留料が300円→350円に値上げされました。そのため、航空書状料金は'76料金改正当時のままで、特殊取扱料金のみが改正された「隙間」の料金が6ヶ月存在したことになります。

この期間で第1地帯宛航空書状100円+別配達料300円、第2地帯宛航空書状(120円+80円)+別配達料300円でそれぞれ1枚貼りが存在していますが、この料金期間は半年と短いことから、入手が難しいと感じます。(図：⑪)



図⑪ 第1地帯(台湾宛) 外信航空料金100円+別配達料金300円 KDD BLDG/TOKYO 81.IV.21

ただ、人気のある1枚貼りを除きますと余り人気がないのか、それとも意識されていないのか、まだまだ即売品の中から安く探し出し入手することができるのではないかと思います。6ヶ月という短い期間ですので、数は少ないかもしれませんが収集家間で使用されたエンタエアの中に残されているのではないのでしょうか。

1981年(昭和56年)7月1日になって外信航空便料金が値上げされます。各地帯宛に30円ずつの値上げとなり、10gを超える増料金も10円ずつの値上げとなりました。既に1月1日に値上げされていた外信別配達料と書留料はそのまま300円、350円で据え置かれました。

また、1986年(昭和61年)1月1日には「別配達」という名称が「速達」に改称されています。この当時、外信別配達料300円と書留料350円には適応する切手が存在し、1984年(昭和59年)には新しい300円切手が発行されたので、別配達は2種類の適応する切手が存在します。しかし、仏頭300円の在庫が豊富にあったためか、新しい童子300円の使用例はなかなか見られません。

一番別配達の差し立てが多いと考えられるアメリカを含む第2地帯宛の航空書状料金が150円となったことから、外信別配達料300円を150円赤鳳凰2枚で貼付した半額2枚貼り使用が存在し、第2地帯宛の150円赤鳳凰3枚貼りという好ましいエンタエアが存在します。(図：⑫)



図⑫ 第2地帯(アメリカ宛) 外信航空料金150円+別配達料金300円 TOYOHASHI/AICHI 83.IV.25

この時期の別配達便は、熱心な切手商の努力によって第1地帯宛も含めて数多く見ることが出来るようになったことは収集家にとって非常に有難いことです。

外信短期料金

「1987.4.1改正」料金の時代

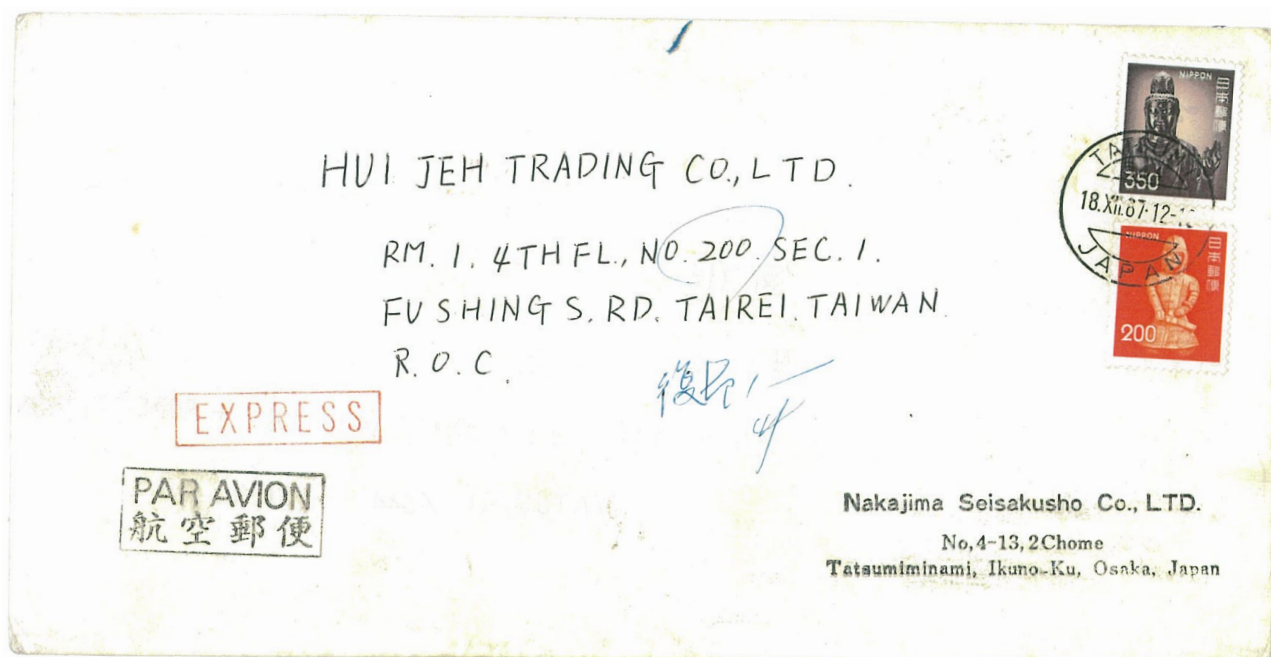
世界的に高いと評判の悪かった日本の外信郵便料が引き下げられた料金改正で、外信書状料金がそれぞれ20円ずつ値下がりしましたが、この料金は1年しか続かず1987年(昭和62年)4月1日～1988年(昭和63年)3月31日の料金は「外信短期料金」と呼ばれています。

ただし、特殊取扱料金の引き下げは行われず、外信別配達料300円と書留料350円の料金はそのままでした。

この期間の外信別配達便はほとんどが混貼になりますが、第1地帯宛110円＋別配達料300円は410円の1枚貼りとなり収集家や切手商が作成したものが残されていて、収集家に人気があるようです。

この期間のエンタィアを収集して思うのは、これまでどちらかといえば入手しやすかった第3地帯宛が思ったほど入手できず、逆に第1地帯宛が散見されるようになってきます。(図：⑬)

外信短期料金のエンタィアは、外信別配達・書留等の特殊取扱はもちろんですが、基本料金使用のものであっても重量便を含めて大切にしたいものです。



図⑬ 第1地帯(台湾宛)

外信航空料金110円＋増料金140円(20G)＋別配達料金300円

TATSUMI/544 87.XII.18

〒入欧文三日月印使用

外信料金更に値下げ

「1988.4.1改正」料金の時代

1年後の1988年(昭和63年)4月1日の改正でも、更に各地帯30円ずつ外信基本料金は値下げされます。また、増料金も10円～20円の値下げでしたが、この改正においても外信別配達料300円と書留料350円の料金は変わりませんでした。そのため、外信別配達料300円と書留料350円の料金は、1981年(昭和56年)4月1日～1994年(平成6年)1月23日まで、13年間続いたことになります。

この頃になりますと収集家や切手商が外信別配達や書留のエンタィアを作成する目的で差し出したものがかなり多く残されるようになっていきますので、安く入手できる機会があれば入手しておいても良いでしょう。その代わりに、一般の収集家でない人や一般企業が差し出した別配達便はかなり少なくなってくるように感じられ、取扱は減少傾向に入っていくようです。

別配達料300円は、童子の時代となりますが、単位額面として400円や500円が使われるケースが多く見られるのは、これまでの料金改正と同じです。(図：⑭)



図⑭ 第3地帯 (ドイツ宛)

外信航空料金120円+別配達料金300円
TAMASHIMA/OKAYAMA 90. IV.27

最後の増料金制度

「1994.1.24改正」料金の時代

現行制度のひとつ手前、増料金制度最後の1994年(平成6年)1月24日の改正では、外信航空基本料金が各地帯10円ずつと僅かな値上げとなりました。また、増料金は第2地帯宛が10円値上げされたものの、他の2地帯は据え置かれています。

この料金改正で外信別配達料は300円→260円、書留料350円→410円となり、別配達料は値下げ、書留料は値上げされたのですが、皮肉なことにこれに該当する切手はそれ以前の料金改正時に発行されたものがあるものの、今回の改正のための切手は発行されませんでした。そのため、郵便局には該当する料金の切手を販売していなかったことになります。収集家や切手商が買い置いていた260円や410円の切手を使用することはあっても、一般の人や企業が260円や410円切手を買っていることは極めて稀で、料金どおりの貼りあわせをほとんど見かけません。

この時期になりますと通信技術の発達によって、わざわざ高い別配達料を支払って郵便で通信しなくても、メールなどで代用できるようになったため、別配達の使用が一気に少なくなったようです。企業が別配達に対する割高感から経費削減の目的で安価な通信手段に切り替えたためと考えるのが妥当なところでしょう。

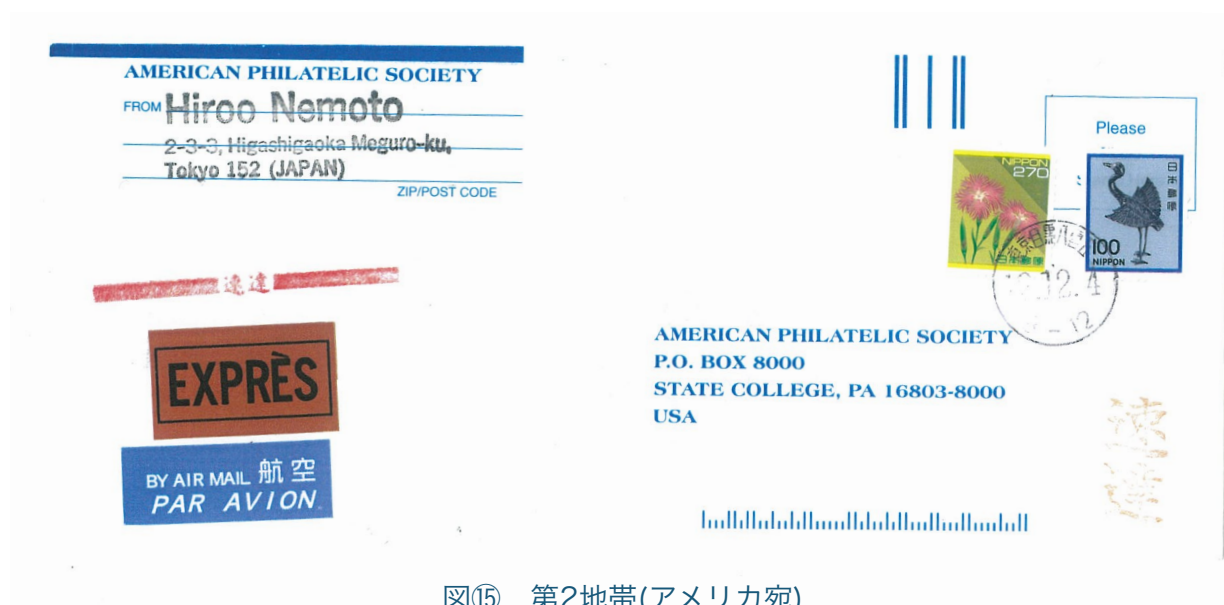
定形外制度の導入

「1996.3.28改正」料金の時代

現行料金です。1996年(平成8年)3月28日の改正では、これまで30年近く続いた「10gを超える増料金」制度がなくなり、定形外制度が導入されることになりました。外信別配達料260円、書留料410円に変更はありませんでしたが、利用される頻度は益々少なくなっているように思います。

自分の場合には、260円貼りにこだわることなく、入手の機会があれば260円を含んだ混貼での別配達便の入手を心がけています。260円に対応する現行切手といえますと、強いて言えば130円2枚貼りが該当しますけれども、一般の方や企業がわざわざこのような使い方を選択されるとは考えにくく、航空基本料金込みでの貼り合せが大半だと思います。(図：⑮)

収集家や切手商の作成した販売用の別配達便のほかに、どのくらいの一般便があるかについては、これからしばらく経ってからの出現を待たないと判らないと思います。



図⑮ 第2地帯(アメリカ宛)

外信航空料金130円+別配達料金260円

東京目黒八雲台 12.12.4

外信別配達便を収集する場合のポイント

外信別配達便を収集する場合の、私のポイントをいくつかご紹介します。

◎混貼が当たり前

外信別配達便を収集する場合、混貼が当たり前でむしろ1枚貼りになることの方が少ないのは各料金改正でご説明したとおりです。ですから、混貼を嫌がらないで収集することが基本になります。普通切手の混貼だけでなく、記念特殊切手との混貼についても時代が新しくなればなるほど視野に入れるべきでしょう。

◎初期の別配達便は貴重

初期の外信別配達便は、現存数が少ないのか、混貼であることがほとんどのため、オークションアイテムとしての人気がないのか、見かけることが少ないようです。どのような貼り合せであれ、まず、入手することが先決と考えます。

◎宛先に注意

日本から外信別配達便を差し出す場合、その宛先は先進国であったアメリカやヨーロッパ各国が大半です。地理的に近く高い別配達便を使うことが躊躇われたり、到着した郵便物を早く宛先人に配達する郵便システムが確立されていないといった地理的条件・システムの条件のほかに、戦争や内乱状態といった政治的条件や国交の問題もあったかも知れませんが、5地帯区分時の第5地帯（アフリカ・中南米）があれば珍品でしょうし、第1地帯（アジア各国）や宛が見られるようになるのは'72料金改正後だといえます。

もし、これらの地帯宛で入手の機会があった場合にはお見逃しなく！

また、今回は全く触れておりませんが、特別地帯宛（沖縄宛）にも面白い使用例が色々ありますが、これも早い者勝ちです！

◎使用された切手やステーションナリーに目配りを

貼付された切手や使用されたステーションナリーにも目を向けてみたいものです。

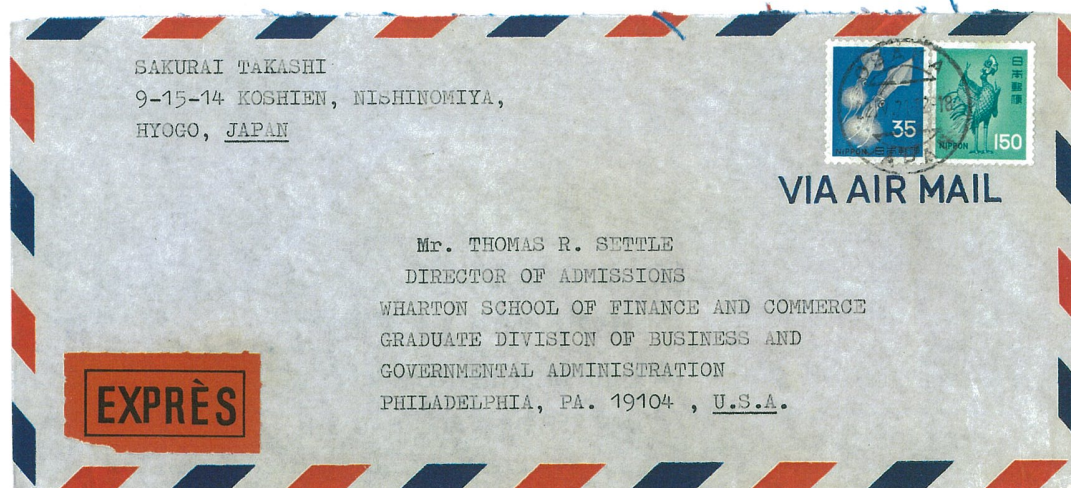
低額面や端数の付いた額面が別配達に使用された例は多くはありません。

（図：①⑥）



図①⑥ 第2地帯(アメリカ宛)外信航空料金90円+別配達料金95円
SHITAYA/TOKYO 68.VII.16 (旧7円金魚を複数貼して別配達便に使用)

また、貼付されている切手の初期使用例が見つかることもあります。料金改正のための発行された切手が発行時の料金で使用されたものを見つけることも面白いでしょう。（図：⑰）



図⑰ 第2地帯(アメリカ宛) 外信航空料金90円+別配達料金95円 OSAKA
71.IV.22青鳳凰150円発行翌月使用 95円料金に適應したのは3ヶ月

収集した経験からですが、別配達便は手紙>印刷物>ステーションナリーの順で取り扱われているケースが少なくなっていると感じられます。

葉書（私葉・官葉）、航空書簡、外信葉書などが使用されることはほとんどなかったようです。（図：⑱）

葉書の場合は、わざわざ高い別配達料を払うくらいなら、通信文をたくさん記載することの出来る手紙の方を選択したということなのか、ほとんど見かけず（私葉・官葉）ですらこういった状態ですから、一般の方にとって知名度の低い航空書簡や外信葉書を別配達便として差し出した例は見かけません。

更に航空書簡は前述の通り、制度的に別配達便として差出すことが出来たのが昭和40年以降ですので、尚のこと少ない使用例となっています。

時代がかなり後になって、収集家や切手商が別配達便を作成する目的で差し出したものがほとんどになるのは仕方ありません。これを毛嫌いしていると、入手が一層難しくなってしまいます。



図⑱ 第1地帯(台湾宛)
外信航空葉書料金35円+別配達料金95円
SETAGAYA/TOKYO 69.XII.1

◎別配達の表記にも注目

最初に申し上げたとおり、別配達は仏語表記の「EXPRESS」が公式に使用される表記で赤いラベルもこの表記ですが、英語の「EXPRESS」であっても十分に通用しています。

アメリカ宛に見られる(というよりも、アメリカ宛以外にはほとんど見ることのない)「SPECIAL DELIVERY」は、アメリカでは速達郵便の意味ですが、EXPRESSとこのSPECIAL DELIVERYの表記との関係が良く判らないところもあります。ヨーロッパ宛ではほとんど見られないことから、使用されなかったのではないかと考えられますが、中にその表記のものが見られるためです。

その他、郵便局が独自で用意したと思われる「EXPRESS FEE PAID」というゴム印表記が押印された別配達便を2～3通確認しています。(図：⑩)



図⑩ 第3地帯 (イギリス宛) 外信航空料金110円+別配達料金95円 KOBEPOR 67.XI.9
EXPRESS FEE PAID のゴム印押印例
赤弥勒50円の発行年使用、欧文三日月時刻表示2H刻み使用でもある

配達局が一般郵便物との区別を容易に出来て、なおかつ別配達料は既に支払済ということを明示して、スムーズな送達を行うためのものと考えられますが、確認数が極僅かで詳しいことが判りません。

参考文献

- *注) 1: 「戦後の郵政資料」 (行徳宏氏) 第3巻資料3-04-05ページ
- *注) 2: // 第4巻 51ページ

郵趣三題ばなし

近辻 喜一

もうだいぶ前になるが、切手収集の基本となるコンセプトについて考えたことがある。今でも一般に通用すると思うので、3つのテーマにまとめて紹介する。

1. 手彫切手は38種

大正5年（1916）に郵楽会が発行した『大日本郵便切手類鑑』（右図）は、手彫切手を45種としている。昭和26年からの組合カタログも『類鑑』をそのまま踏襲し「手彫45種」が定着した。

図案・紙・額面・色・カナの有無で分類すれば当然にそうなるが、一見合理的に見えるこの分類法の大きな欠点は、使用済の存在しない桜和紙カナ入り20銭のような極端にカタログ値の高い用紙とカナの例外的な組合せが、メジャーナンバーになることである。

高野昇郎氏の「カナ無しもカナの一種」を援用して、カナの有無を大分類の構成要素からはずせば、手彫切手は38種となり、カタログ価格100万円くらいで完集できる。



『類鑑』再版の手彫切手の頁
(郵政博物館所蔵)

すると一番高いのは竜5銭（10万円）で、旧小判45銭（13万円）より安いから、ゼネラルコレクターも日本の一番切手から集めたらよい。カナ別や版別の収集は、手彫の専門家にまかせよう。

分類	45種分類の場合			38種分類の場合	
	細分類	種類	カタログ値	種類	カタログ値
竜文切手		4	270,000	4	270,000
竜銭切手		4	273,000	4	273,000
桜切手・和紙	カナ無し	8	207,500	9	301,500
	カナ入り	4	2,724,000		
桜切手・洋紙	カナ無し	2	1,294,000	8	126,500
	カナ入り	8	178,500		
鳥切手		3	96,000	3	96,000
桜切手・改色	カナ入り	7	41,300	7	41,300
	カナ無し	2	155,000		
桜切手・図案改正		3	29,000	3	29,000
	計	45	5,268,300	38	1,137,300

手彫切手使用済を一枚ずつ収集した場合の比較（45種分類の場合 vs 38種分類の場合）

2. リコンストラクションの確率

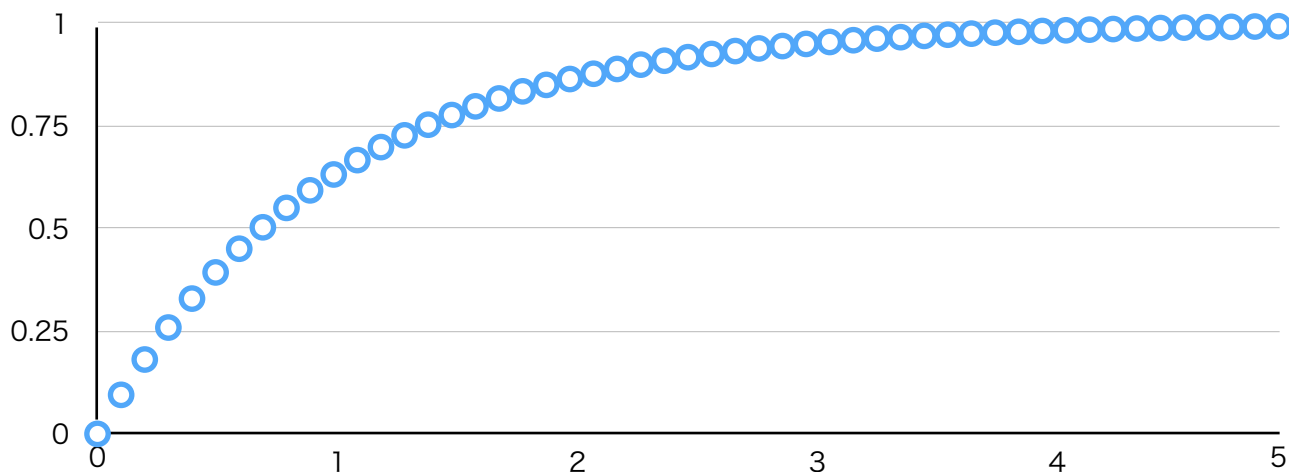
手彫研究／収集の究極は、シートのリコンストラクション。では、何枚調べたら、40ポジション揃うのか？ プレーティングの作業は確率的な現象なので、何枚調べたら何ポジション集まるかは、確定的なことは言えず、あくまで平均値（数学では期待値という）で推定するしかない。

いまXを調査枚数、Yをポジション数の期待値、Nをシートを構成する切手の面数（手彫なら40）とし、 $x=X/N$ 、 $y=Y/N$ とシート面数によらない無名数にすると、次の指数関数式が（近似的に）成り立つ。

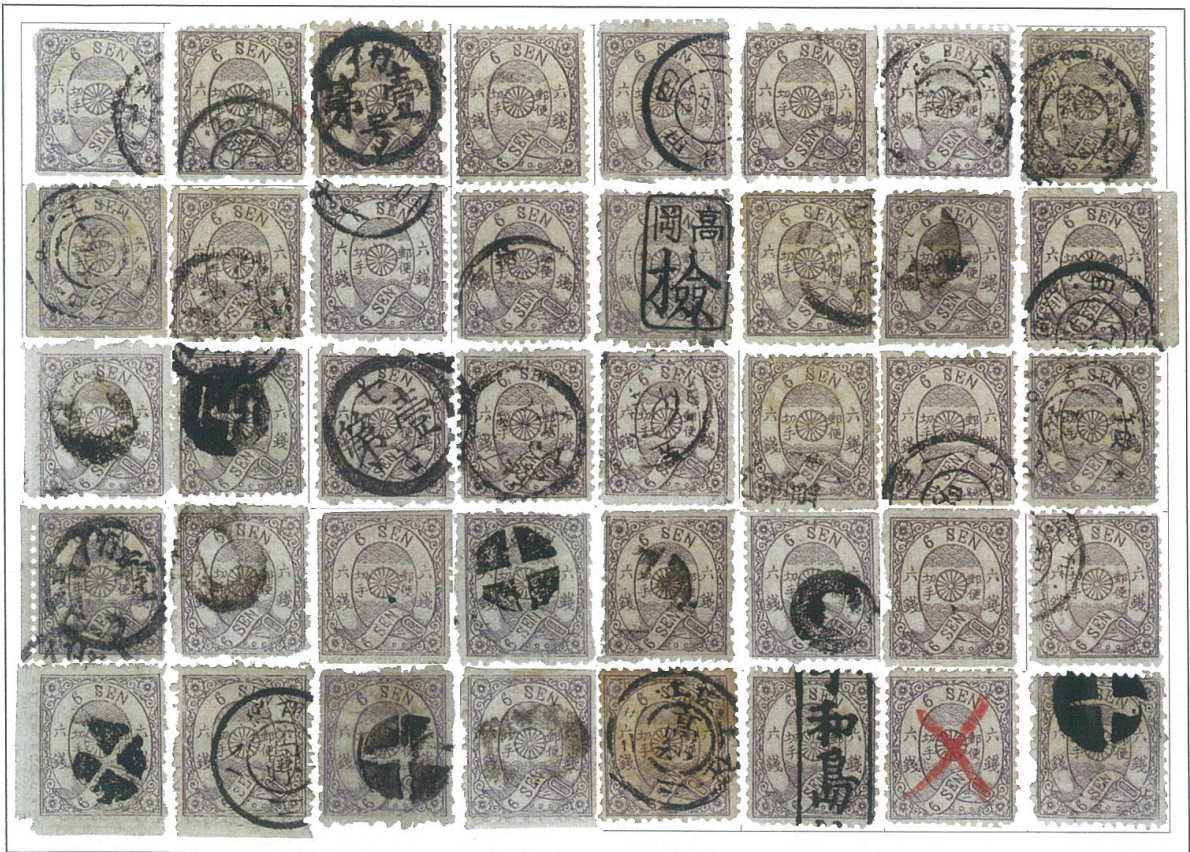
$$y=1-e^{-x}$$

* eは自然対数の底（2.71828…）。

この関係式をグラフ化すると（横軸x、縦軸y）、リコンストラクションのはじめは順調に進むが、段々と新しいポジションが増えない様子を見て取れる。



xとyをN倍すれば、XとYに戻るし、100倍すると百分率になる。xとyを表の形で示すと、正確な数値関係がわかる。たとえば、 $x=1$ （N枚調べたら）なら、 $y=0.632\cdots$ （リコンストラクションの完成度63.2%）。リコンストラクションの完成には、シート面数Nの4～5倍の切手を調べる必要がある。



リコンストラクションの完成した墨六「ニ」（金井宏之コレクション『日本手彫切手』より）

JAPEX2014で大金賞を獲得した、金井宏之コレクション『日本手彫切手』を見ると、金井さんは和紙墨六が大好きで、カナ別のリコンストラクションに執念を燃やしたようだ。図版により、それぞれ収集できたポジションYがわかるので、どのくらいの切手を調べたかXを、 x と y の表を使って推定した結果を、下表をご覧ください。全部買って調べたとすると、総額2億円はかかった勘定になる。

カナ	Y	y	x	X	c	C
イ	38	0.950	3.0	120	94	1,128
ロ	39	0.975	3.7	148	100	1,480
ハ	33	0.825	1.75	70	230	1,610
ニ	40	1.000	4.4	176	125	2,200
ホ	39	0.975	3.7	148	125	1,850
ヘ	36	0.900	2.3	92	145	1,334
ト	37	0.925	2.6	104	115	1,196
チ	39	0.975	3.7	148	115	1,702
リ	39	0.975	3.7	148	145	2,146
ヌ	21	0.525	0.75	30	730	2,190
ル	19	0.475	0.65	26	650	1,690
ヲ	30	0.750	1.4	56	400	2,240
合計	410	0.854	—	1,290	2,974	20,766

※N=40、c:カタログ値(千円)、C=cX:総経費(万円)

3. THE GOLDEN RULES OF PHILATELY

(1) 3億円ルール【買占め】

カタログ値 × 残存枚数 = 3億円である。

（すなわちカタログ値から郵趣界に残存する切手の枚数が推定できる。）

例1）英領ギアナの1セントは世界で1枚 → 価格は3億円！

（昨年10億円で売られたが、全体的には3億円ルールは健在である。）

例2）竜48文（未使用）は6万円 → 郵便局による輸出切手は5千枚（125シート）？

(2) 1%ルール【残存率】

発行枚数 × 1% = 残存枚数である。

（カバーから剥がされて残った切手は全体の百分の一くらい）

例）赤二の発行数は14億枚→残存数は1400万枚←使用済50円（3億円ルールと矛盾しない）

※カバーの残存率は0.1%（切手を剥がされなかったカバーは単片の十分の一くらい）

※葉書の残存率は1%（切手が剥がされることは無いので、単片と同じ残り方）

(3) 5%ルール【目玉】

コレクション評価額 × 5% = 目玉の価格である。（バランスの良いコレクションの場合）

例）近辻コレクションの目玉は明治4年の竜百文カバー→総評価額500万円

(4) 5倍ルール【完集】

ポジションの5倍も調べれば、リコンストラクションは完成する。

全ポジションの何倍の切手を調べたか？	1倍	2倍	3倍	4倍	5倍
リコンストラクションの完成度	63.2%	86.5%	95.0%	98.2%	99.3%

(5) 倍々ゲーム【展覧会】

メダルのランクを上げるには、これまでと同額の費用が必要である。（楽器の価格と音の質との関係と同じ）

※費用は年期と読みかえることもできる

メダル	大金	金	大金銀	金銀	大銀	銀
国際展	2億	1億	5千万	2千万	1千万	5百万
国内展	5千万	2千万	1千万	5百万	2百万	百万

和欧文機械印トピックス(第4回)

標語変更「郵便番号をお忘れなく」の登場

水谷 行秀

1968年7月1日に郵便番号制度が開始された。消印としてはそれまでに使われていたS波のものに変わり郵便番号を周知する「あて名には郵便番号を」の標語を入れたものが制度に先立ち同年6月1日より使用された。

同年12月1日から使用された和欧文機械印も当然この「あて名には…」の標語入りであった。

郵政省（当時）は郵便の自動化の決定打として始めたその郵便番号制度の普及率を上げるべく周知を重ねて行った。その結果、制度導入時の1968年7月には56.0%の記載率であったものが1年後の1969年7月には65.0%に上昇した。

そこで更なる記載率の上昇を図るために消印の標語を2番目の「郵便番号をお忘れなく」に順次変えていった。この変更は和文機械印で先行し、1969年12月11日午後から東京都内の局にて始められた。消印等を研究された故丸島氏の著書「現行押印機印の状況と使用局一覧（昭和52年）」には以下の記載がある。

「この刻印は東京都下の局で昭和44年12月11日午後から使用を始められた。12月15日青梅局で新しい標語を使用していると舟木義夫氏から連絡をうけたのですぐ青梅局に見学に出かけ12月11日午後、都下の局に配布されたことをした。帰途、調布局によったら、ここでも使用していました！郵便課主事が12月11日18-24の官白をとっておいて下さいました。これが最古記録となりました。」

図1がその実物である。

この直後から始まった年賀特別取り扱い期間に使用を始めた局が散見され東京以外の地方にも見られる。

(図2)



図1



図2 (拡大図)

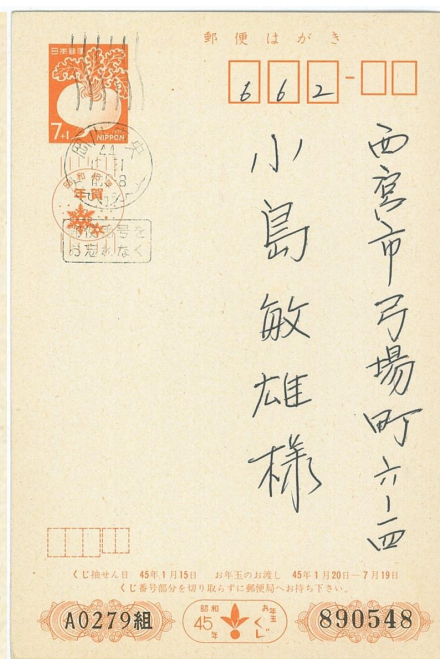


図2 (全体図)

和欧文機械印ではその使用が遅れ、これまでに記録されているものでは、新宿局での1970年1月7日が最も早い。

図3は最初期ではないが、初月内のもの。続いての記録は日本橋（1970年1月31日）、芝（1970年2月6日）となっている。図4、図5もそれらの記録ではないが比較的早いデータのもの。その次にやっと東京中央で1970年6月3日に変わったと記録されている（図6）。その後全国に使用が拡大していった。



上段左より順に
図3、図4、図5（全体図）
下段左より順に
図5（拡大図）、図6

切手からみる障害者スポーツ

ーパラリンピック、デフリンピック、スペシャルオリンピックスー

筑波技術大学 保健科学部 保健学科 鍼灸学専攻 大沢 秀雄

1. はじめに

郵便切手の本来の目的は郵便料金の前納の証紙であるが、国家が発行していることから、発行する国や地域の歴史・地理・自然・文化、そしてその時々の方策や経済情勢が強く反映される[1]。また、医学の進歩や医療制度の変化なども切手に強く影響を与えることが古川[2]、安室[3]によって報告されている。

そこで、筆者はこれまで、史料としての郵便切手（ステーションナリー、各種の郵便印なども含む）を分析し、視覚障害者及び聴覚障害者教育の歴史や現状について調査研究を行い、その成果を障害者教育の専門雑誌[4]、郵便関係の専門雑誌[5, 6]に報告すると共に、単行本[7]、国内外の切手展[8, 9]、科学技術週間における大学公開、オープンキャンパス、学園祭などの機会を通して広く公表してきた。

2012年7月、東京オリンピック・パラリンピックの招致運動に貢献する目的で全日本切手展2012（主催：日本郵趣連合）に、「パラリンピック」（1フレーム）を出品し、銀賞の評価を得た[10]。

次に、「パラリンピック」の作品を基に、障害者スポーツ全体を網羅した切手展作品の作成に着手し、スタンプショウ2014に「障害者スポーツ」を出品し、金銀賞を受賞した[11]。そこで、この作品解説を中心に障害者スポーツに関する切手の概要を障害者教育の専門雑誌に投稿した（障害者スポーツに関する切手、筑波技術大学テクノレポート、22巻1号、2014）[12]。本誌編集部より、同論文を基に郵趣家向けの内容で執筆依頼があったため、前記論文を基に郵趣家向け用に加筆・修正した。

2. 障害者スポーツの1番切手

障害者スポーツに関する最も古い切手は1964年にアルゼンチンから発行された東京パラリンピックの記念切手である（図1）。一方、わが国の最初の障害者スポーツに関する切手はフェスピック神戸大会（1989）の記念切手であった（図2）。



図1 東京パラリンピック（アルゼンチン）



図2 フェスピック神戸大会(1989)

3. 「障害者スポーツ」の製作のねらいとプラン

「障害者スポーツ」は2014年4月25日～27日に都立産業貿易センター浜松町館（東京都港区）で開催されたスタンプショウ2014・第15回トピカル切手展（主催：公益財団法人日本郵趣協会）に出品した切手展作品である。

前作の「パラリンピック」を基にパラリンピック以外の身体障害者スポーツ、聴覚障害者のデフリンピック、知的発達障害者のスペシャルオリンピックスに関する切手・郵便物を障害者スポーツに関する切手・郵便物を追加し、障害者スポーツ全体を網羅した切手展作品とした。

作品には切手に加え、初日カバー（以下FDCと略す）やマキシマムカード（以下MCと略す）や各種の郵便印など様々な種類の郵便物を幅広く使用した。

プランは以下の通りである。（ ）内はリーフページである。

タイトルとプラン（1）

1. 障害者スポーツの始まり（2）
2. クラス分類と競技種目（3～4）
3. 夏季パラリンピック（5～13）
4. 冬季パラリンピック（14～18）
5. 国際大会
 - 5-1 フェスピック及びアジアパラ競技大会（19～21）
 - 5-2 コモンウェルスゲームズ（22）
 - 5-3 その他の国際大会（23～24）
6. 日本国内の大会
 - 6-1 身体障害者スポーツ大会（25～26）
 - 6-2 全国障害者スポーツ大会（27）
7. デフリンピック（28～30）
8. スペシャルオリンピックス
 - 8-1 夏季スペシャルオリンピックス（31）
 - 8-2 冬季スペシャルオリンピックス（32）



タイトルリーフ

テーマチック作品の場合、フレーム毎に章を分けることが望ましいとされているが、今回の作品は2フレームの小規模な作品であり、作品の構成上、第1フレームと第2フレームで章を分けることができなかった。今後、作品の規模が拡大した場合、この点を十分に留意したいと考える。

また、リーフの書き込みは弱視の参観者に考慮し、すこし大き目の12ptを使用した。テーマチック分野の競争作品の場合は発行国・発行年は省き、その代わりに、テーマに関する記述をすることが望ましいが、競争展終了後、一般の方々への公開を考慮し、今回は敢えて発行国・発行年を記載することとした。

4. 「障害者スポーツ」の各リーフの解説

(各リーフの画像は本号の付録に全リーフを収録しました。)

リーフ1：タイトルリーフである。長野冬季パラリンピック（1998）、バイアスロン（視覚障害クラス）の金メダリスト小林（現・井口）深雪選手（本学名誉卒業生）のサイン入りFDCを配置した。これは我が国において障害者スポーツが一般の人々に大きく報道され、注目されるようになったのは長野冬季パラリンピックが大きな契機であったからである。下段に作品の概要とプラン（前述）を示した。

リーフ2：障害者スポーツの始まりを示す。

パラリンピックの起源は、1948年7月、ロンドン・オリンピックの開会式当日にストーク・マンデビル病院のL.グットマンが第二次世界大戦の戦傷者の脊髄損傷患者を集めてスポーツ大会を開催したことによる。



第2リーフ

そこで、上段に第二次世界大戦の戦傷者を描いたクロアチア（1944）発行の戦傷者救済寄付金付き切手を配置した。この切手の左には失明者、右には運動機能障害者が描かれている。タブには戦傷者の守護聖人のセント・セバスチャンが描かれている。8面小型シートの左下部分のプログレッシブ・ブルーである。

このプログレッシブ・ブルーは図3（下図および次ページ）に示すように9種類存在し、本作品ではリーフの構成上、このうちの2種類を使用した。





下段左にはロンドン・オリンピックの記念航空書簡を配置し、下段右にストック・マンデビル病院脊髄損傷センター37周年の記念印（1981年の国際障害者年の特殊切手の初日記念印）を配置した。

なお、本作品完成後、ロシアから発行されたソチ・パラリンピックの切手にパラリンピックの父、L.グットマンの肖像を描いた切手が発行された。次回の改定の際には本項目で使用したい。

リーフ3：クラス分類と夏季パラリンピックの種目を示す。

障害種は運動機能障害、脳性麻痺、切断など、視覚障害がある。ジンバブエ（1981）発行の国際障害者年の特殊切手に上肢・下肢の切断者、視覚障害者のイメージが描かれており、また車椅子の障害者はアメリカ（1981）の国際障害者年の特殊切手を使用し、それぞれ示した。

本リーフでは、車椅子陸上レース（インドネシア、2008）、下肢切断者の円盤投げ（チュニジア、2002）、上肢切断者の円盤投げ（アンチグア、1981）、車椅子槍投げ（東ドイツ、1981）などを示した。

フィンランド（2012）から発行された障害者スポーツの特殊切手には車椅子陸上、車椅子アーチェリーがそれぞれ描かれ、1LK KL（第1種郵便）を表す点字が紫外線硬化樹脂

によって印刷されている。さらに小型シート上部余白には、ゴールボール、視覚障害者柔道、視覚障害者自転車などが描かれている。なお、点字のエンボス切手は1974年にブラジルから発行された第5回世界盲人福祉会議の記念切手（小型シート）が最初であり、さらに、紫外線硬化樹脂による点字切手は2003年にスペインから発行されたヨーロッパ障害者年の特殊切手が最初である。

リーフ4：パラリンピック夏季大会の競技種目の2リーフ目である。車椅子バスケット（アンチグア1981）、車椅子アーチェリー（ニジェール、1981及びボブタツワナ、1981）、車椅子卓球（ハンガリー、2006）、車椅子フェンシング（ベルギー、1977）、車椅子テニス（ベトナム、1991と1997）、シットイングバレーボール（フィンランド、1970）、ボッチャ（アイルランド、1996）を示した。

リーフ3と4の競技種目の項目は作品の構成上、パラリンピックや主要な国際大会の切手は後の項目で使用するため、本項目ではそれ以外の障害者スポーツを描いた切手を使用した。特に1981年の国際障害者年の特殊切手では多数の障害者スポーツの切手が発行されており、本項目では多く使用した。

2. クラス分類と種目

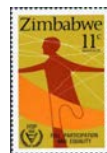
障害者スポーツ

2-1 クラス分類

オリンピックと違いパラリンピックには障害の度合いに応じた階級が存在する。例えば、肢体などの障害の場合は「LW」や「LC」等の競技ごとの記号+度合いを数字で表す。障害種は「運動機能障害」「脳性麻痺」「切断など」「視覚障害」がある。



車椅子
アメリカ(1981)



片下肢切断者
ジンバブエ(1981)



片上肢切断者
ジンバブエ(1981)



視覚障害者
ジンバブエ(1981)

2-2 種目(夏季大会)

現在、パラリンピック夏季大会は以下の20競技が行われている。冬季大会は5競技が行われている(後述)。陸上競技、水泳、車いすテニス、ボッチャ、卓球、柔道、セーリング、パワーステERING、射撃、自転車、アーチェリー、馬術、ゴールボール、車いすフェンシング、車椅子バスケットボール、視覚障害者5人制サッカー、脳性麻痺者7人制サッカー、ワイルドチャールズ、シットイングバレーボール、ボート



車椅子陸上レース
額面1500の点字エンボス
インドネシア(2008)



切手:車椅子陸上、車椅子アーチェリー、1LK KL(第1種)の点字エンボス。小型シート上部余白:左より、ゴールボール、視覚障害者柔道、視覚障害者自転車。フィンランド(2012)



円盤投げ・下肢切断者
IPC陸上競技世界選手権
チュニジア(2002)



円盤投げ・上肢切断者
国際障害者年
アンチグア(1981)



槍投げ(車椅子)
国際障害者年
東ドイツ(1981)



アーチェリー(車椅子)
国際障害者年
ザイル(1981)

第3リーフ

リーフ5：夏季パラリンピックについて、13リーフまで大会毎に順に示した。

1960年、ローマで第1回国際ストック・マンデビル大会が開催された(後に本大会は第1回夏季パラリンピックと認定)。パラリンピックの名称は1964年の東京大会から使われ始め、1985年に国際オリンピック委員会は、パラリンピックという呼称を用いることを正式に認めた。残念ながら、第1回ローマ大会は切手発行が無かった。記念印の使用については現段階では確認できていない。

第2回東京大会(1964)はパラリンピックの切手発行のあった最初の大会で、第1部は国際ストック・マンデビル大会として、第2部は全身体障害者を対象にした日本人選手のための大会として行われた。開催国の日本では東京オリンピックの記念切手は発行されたが、パラリンピックの記念切手発行は無く、小型印が使用された。東京オリンピック記念の小型シートに国際身体障害者スポーツ大会の小型印と開催地の渋谷局の風景印を押印されたものを配置した。官白に押印した小型印は多数現存しているが、小型シートに押印したものは少ないため、作品ではこれを使用した。アルゼンチンから世界最初のパラリンピックの記念切手が発行され、松葉杖と聖火、五輪のマークが描かれている。作品ではFDCを使用した。初日記念印には松葉杖と聖火が描かれている。

第3回テルアビブ大会(1968)は第17回国際ストック・マンデビル競技大会として開催された。当初、オリンピック開催地メキシコ・シティでの開催が計画されていたが、メキシコ政府が開催に反対したことから、イスラエル政府がテルアビブで開催することを承諾した。イスラエルからは車椅子バスケットが描かれた記念切手が発行された。シート・マージンには大会のロゴマークが描かれている。

第4回ハイデルベルク大会(1972)はオリンピック開催地のミュンヘンと同一国内で開催された。開催国の西ドイツの記念切手には車椅子アーチェリーが描かれている。作品ではFDCを使用した。

リーフ6：第5～7回大会を示した。

第5回トロント大会(1976)は国際ストック・マンデビル競技連盟と国際身体障害者スポーツ連盟の共催となり、初めて四肢切断者と視覚障害者が参加した。同一国内のモントリオールでオリンピックが開催された。開催国のカナダ発行の切手には車椅子アーチェリーが描かれている。初日記念印には大会のロゴマークが描かれている。

第6回アーネム大会(1980)では脳性麻痺者の参加が認められた。多くの西側諸国はモスクワ・オリンピックをボイコットしたが、本大会には参加した。開催国のオランダの記念切手は寄付金



第5リーフ

付き切手として発行された。図案は車椅子バスケットのプレーヤーとコートが描かれている。初日記念印には大会のロゴが描かれている。さらにインドネシアからも上肢切断者の円盤投げを描いた記念切手が発行された。

第7回ニューヨーク・アイレスベリー大会（1984）は当初、アメリカ・ニューヨーク州とイリノイ州で開催する予定だったが、半年前になって財政難のため、イリノイ州での開催は不可能になってしまった。そのため、国際ストック・マンデビル競技連盟が受け皿となって、アイレスベリーにあったストック・マンデビル病院で脊髄損傷者の大会を開催することになった。ロサンゼルス・オリンピックの記念切手は発行されたが、パラリンピックの記念切手発行は無かった。ニューヨーク大会で記念印の使用が行われた。記念印には大会のロゴマークが描かれる。作品には挿絵に大会のロゴマークが描かれた記念カバーを使用した。

リーフ7：第8～9大会を示した。

第8回ソウル大会（1988）では「パラリンピック」が初めて大会の正式名称として使用された。東京パラリンピック以来、オリンピックとパラリンピックの開催都市が同一になった。また、ソウルオリンピックで使用した施設をそのまま使用した。開催国の韓国からは2種（車椅子アーチェリー、大会のマスコット）の記念切手が発行された。作品には車椅子アーチェリーの切手の2枚貼り実通FDC（日本宛て航空便）を使用した。

第9回バルセロナ大会（1992）は過去最大規模の障害者のスポーツ競技大会となった。開催国スペインの記念切手には車椅子バスケットが描かれている。初日記念印にも車椅子バスケットが描かれている。イギリス発行の記念切手には英国パラリンピック協会の旗が描かれている。作品にはロイヤルベルファスト小児病院の初日記念印を押印したFDCを使用した。



第7リーフ

リーフ8：第10回アトランタ大会（1996）は104か国・地域から3259名の選手が参加した。開催国アメリカからは記念切手付封筒が発行された。領額印面部に大会のロゴマークが描かれている。本大会では開催国以外の複数の参加国からも記念切手の発行があった。アイルランド発行の記念切手にはレーサー（軽量かつ空気抵抗の低減を配慮したフレーム形状の専用車椅子）を使用した車椅子競技が描かれている。オーストラリア発行の近代オリンピック100年記念の3種セット中にアトランタ・パラリンピックの記念切手が含まれ、車椅子の陸上競技が描かれている。作品には3種セットのFDCを使用した。初日記念印には五輪マークが描かれている。香港発行の記念小型シートは翌年の1997年に発行され、実際の写真によって開会式、ゴールボール、卓球、車椅子フェンシングが描かれている。アルゼンチンでは車椅子バスケットを描いた記念印が使用された。

リーフ9：第11回シドニー大会（2000）は過去最大の122か国・地域から3881名の選手が参加した。知的障害の競技が正式種目として行われたが、スペインが知的障害者バスケットボールチームに健常者選手を潜り込ませて金メダルを獲得していたことが露見し、本大会後、知的障害者の種目はパラリンピックから外された。開催国のオーストラリアからは多数の記念切手の発行が行われた。リーフ上段のFDCは車椅子テニス、上肢切断者のトラック競技、車椅子バスケット、視覚障害者の自転車（タンデム）、四肢切断者の砲丸投げの5種の切手に大会のロゴを描いた初日記念印を押印したものである。初日記念印には聖火が描かれている。中段右のFDCは開会式当日に発行された2種の記念切手で大会のロゴ、聖火ランナーが描かれている。さらに、女子水泳（S14）で金メダルを7個獲得したSIOBHAN PATONの記念切手が大会後、発行された。初日記念印には国際パラリンピックのロゴが描かれている。ベルギーからは車椅子トラック競技、イタリアからは車椅子バスケットを描いた切手がそれぞれ発行された。

リーフ10：第12回アテネ大会（2004）を示した。135か国・地域から、808名の選手が参加した。新種目として、視覚障害者を対象とした5人制サッカーと女子柔道、シッティングバレーボール女子、車椅子テニス・クアードクラスが加わる。開催国のギリシャ（2004）からは馬術、陸上、車椅子バスケット、車椅子アーチェリーを描いた4種の記念切手が発行された（ギリシャの芸術家A.ファシアノスのデザイン）。イランからはシッティングバレーボールを描いた記念切手が発行された。ドイツからは車椅子テニスを描いた寄付金付き切手が発行された。チェコからは下肢運動障害者の槍投げが描かれた記念切手が発行された。作品にはFDCを使用した。初日記念印には国際パラリンピック委員会のロゴが描かれている。ポルトガルからは4種の記念切手が発行され、上肢切断者の水泳競技、車椅子の陸上競技、左上肢切断者の自転車、左下肢切断者の短距離競技がそれぞれ、実際のアスリートの写真が使用されており、躍動感溢れる素晴らしい切手となっている。作品にはFDCを使用した。初日記念印には大会のロゴと国際パラリンピック委員会のロゴが描かれている。

リーフ11：第13回北京大会（2008）を示した。146か国・地域から3951名の選手が参加した。本大会からパラリンピック組織委員会がオリンピック組織委員会に統合され、オリンピック組織委員会が運営する初めてのパラリンピックとなった。開催国の中国からは大会の記章、大会マスコットの福牛樂樂を描いた2種の記念切手が発行された。それぞれ、紫外線硬化樹脂によって点字が印刷されている。作品ではFDCを使用した。初日記念印には大会のロゴが描かれている。さらに、中国からは閉会式の記念絵葉書が発行された。通信面の印面には赤い葉、裏面には赤い葉と会場の国家スタジアムが描かれ、紫外線硬化樹脂によって点字が印刷されている。スロバキアからは万里の長城を走る義足を描いた記念切手が発行された。初日記念印には車椅子の陸上競技が描かれている。チェコからは車椅子アーチェリーを描いた記念切手が発行された。初日記念印にはアーチェリーの的が描かれている。リヒテンシュタインからも2種の記念切手が発行されたが、リーフのスペースの関係で未収録である。

リーフ12：第14回ロンドン大会（2012）の1リーフ目である。切手の発行件数が多いため、2リーフに配置した。

シドニー大会以来、3大会ぶりに知的障害者が出場する競技が復活した。20競技503種目に初参加の北朝鮮などを含む史上最多の164か国・地域から約4280人の選手が参加した。

開催国のイギリスからは大会の3年前より、毎年、オリンピック・パラリンピックの10種セットの記念切手を発行した。10種のうち、オリンピック種目が7種、パラリンピック種目が3種発行された。2009年の第1次ではアーチェリー、ボッチャ、馬術、2010年の第2次では卓球、ゴールボール、ボート、2011年の第3次では車椅子テニス、ウェルチェアーラグビー、セーリングの各種目の切手が発行された。作品ではリーフ上段に2009年発行の第一次の10種貼りFDC（初日記念

印はカヌーを描く）を使用し、全10種のうち、パラリンピックの切手がそのうちの3種であることを示した。第2次（2010）、第3次（2011）はパラリンピックの切手のみを単片で示した。



第12リーフ

リーフ13：第14回ロンドン大会の2リーフ目である。上段は開催国のイギリス（2012）から発行された切手帳で、オリンピックのマスコットのウェンロックとパラリンピックのマスコットのマンドヴィルを描いたシール式切手が3枚ずつ収められている。切手帳の裏表紙には大会の日程が記載されている。作品には使用していないが、イギリスからはこれ以外にも開会式の記念切手、金メダル受賞の翌日に発行された金メダリストを描いた記念切手（約30種に及ぶ）などが発行された。パラリンピックの開催国が発行した記念切手では過去最多の発行件数であった。

国連郵政はロンドン・パラリンピックに先立ち（2012.8.17）、6種の障害者スポーツの特殊切手を発行した。国連ニューヨーク本部からはゴールボール、シットینگバレーボール、ジュネーブ事務所からは陸上競技（義足使用者）アーチェリー、ウィーン事務所からは車椅子バスケット、卓球の切手がそれぞれ発行された。作品には未収録であるが、3種の小型シートも発行されている（シットینگバレーボール、アーチェリー、卓球）。作品ではニューヨーク本部、ジュネーブ事務所、ウィーン事務所の混貼りFDCを使用した。それぞれの初日記念印の図案はニューヨーク本部がゴールボール、ジュネーブ事務所が陸上競技、ウィーン事務所が車椅子バスケットである。その他、車椅子陸上レースを描いた切手がナミビアとセルビアから発行された。

リーフ14：冬季パラリンピックについて、18リーフまで大会毎に順に示した。

身体障害者の冬季競技は、第二次大戦で負傷した軍人を中心に広まった。アルペンスキーは、片下肢切断者のために考案された3トラック・スキー（1本のスキーと2本のアウトリガーで滑るスキー）によって切断者のアルペンスキー人口を増加させた。クロスカントリーは、ノルウェーの視覚障害者を中心に普及がはじまった。

パラリンピック冬季大会は1976年にエーンシェルドスピーク（スウェーデン）で第1回大会が開催されたが、記念切手の発行は無かった。また、記念印については現段階で未確認である。

第2回ヤイロ大会（1980）の正式名称は第2回国際身体障害者冬季競技大会で、18か国から350名の選手が参加した。アルペンスキーとノルディッ

クスキーの2競技が行われた。開催国のノルウェーでは記念切手の発行は無かったが、開催地のヤイロで記念印が使用された。図案は大会のロゴマークである。

第3回インスブルック大会（1984）の正式名称は第3回国際身体障害者冬季競技大会。21か国から457名の選手が参加した。競技種目にアイススレッジスピードレースが新たに加えられた。開催国のオーストリアから最初の冬季パラリンピックの記念切手が発行された（寄付金付き切手）。図案は3トラック・スキーのアルペン競技と大会のロゴが描かれている。作品にはblack print及びFDCを使用した。初日記念印が2種あり、どちらも大会のロゴが描かれている。

第4回インスブルック大会（1988）も第3回に続いてインスブルックで開催された。正式名称は第4回国際身体障害者冬季競技大会で、22か国から397名の選手が参加した。開催国のオーストリアからはアイススレッジスピードレースを描いた寄付金付き切手が発行された。

リーフ15：第5～6回冬季大会を示した。

第5回アルベールビル大会（1992）の正式名称はティーニュ/アルベールビル1992パラリンピック冬季競技大会である。冬季パラリンピックで初めて冬季オリンピックと同一都市で開催された。

4. 冬季パラリンピック

障害者スポーツ

身体障害者の冬季競技は、第2次大戦で負傷した軍人を中心に広まった。アルペンスキーは、片下肢切断者のために考案された「3トラック・スキー（1本のスキーと2本のアウトリガーで滑るスキー）」によって切断者のアルペンスキー人口を増加させた。クロスカントリーは、ノルウェーの視覚障害者を中心に普及がはじまった。パラリンピック冬季大会は1976年にエーンシェルドスピーク（スウェーデン）で第1回大会が開催された。

4-1 第2回ヤイロ大会(1980)

ノルウェーのヤイロで開催。正式名称は第2回国際身体障害者冬季競技大会。18か国から350名の選手が参加。アルペンスキーとノルディックスキーの2競技が行われた。



記念印(ヤイロ、1980.2.4)
大会のロゴマークが描かれる。記念切手の発行は無く、記念印の使用のみ。

4-2 第3回インスブルック大会(1984)

正式名称は第3回国際身体障害者冬季競技大会。21か国から457名の選手が参加。競技種目にアイススレッジスピードレースが新たに加えられた。初めて冬季パラリンピックの記念切手が発行された。



3トラック・スキーのアルペン競技と大会のロゴ。寄付金付き切手 black print オーストリア(1984)

4-3 第4回インスブルック大会(1988)

第3回に続いてインスブルックで開催された。正式名称は第4回国際身体障害者冬季競技大会。22か国から397名の選手が参加した。バイアスロン競技が採用された。



アイススレッジスピードレース 寄付金付き切手 オーストリア(1988)



上段:第3回国際身体障害者冬季競技大会の記念切手とその初日記念印(1984.1.3)。下段:同大会の記念印(1984.1.13)、大会のロゴ

14

第14リーフ

24か国から475名の選手が参加した。開催国のフランスより大会のロゴマーク（傷ついた羽で飛ぶ鳥）を描いた記念切手が発行された。作品には記念切手のパリの初日記念印（切手と同一図案の傷ついた羽で飛ぶ鳥）を押印したFDC、大会初日の開催地ティーニュの記念印（3トラック・スキーを描く）の両方を使用した。

第6回リレハンメル大会（1994）は夏季大会と2年ごとに隔年開催のため前大会の2年後に開催された。31か国から492名の選手が参加した。開催国のフィンランドからはアルペンスキー及びノルディックスキーを描いた2種の記念切手が発行された。ドイツからはアルペンスキーを描いた寄付金付き切手が発行され、初日記念印には五輪旗が描かれている。オーストラリアからはリレハンメルオリンピック及びパラリンピック記念の切手付封筒が発行された。料額印面にはアルペンスキー、挿絵には開催年の1, 9, 9, 4を旗門にあしらったアルペンスキーのコースが描かれている。初日記念印にはアルペンスキーが描かれている。

リーフ16：第7～8回冬季大会を示した。

第7回長野大会（1998）はアジアで初めて開催された冬季パラリンピックで、32か国・地域から571名の選手が参加した。約15万人が大会を観戦、1468名のメディア関係者により報道され、冬季大会としては過去最高の盛り上がりを見せた。

この大会を機に、日本国内でパラリンピックの知名度が劇的に上がった。また、前述のように、バイアスロン（視覚障害クラス）で本学卒業生の小林（現・井口）深雪選手が金メダルを受賞した。

開催国の日本からはシラネアオイ、アイススレッジスホッケーを描いた2種の記念切手が発行された。また大会期間中、開催地の長野中央、長野東、野沢温泉、白馬などの郵便局で開催種目を描いた小型印が使用された。作品では記念切手に手押し特印を押印したFDCはタイトルリーフで使用しているため、ここでは開会式当日（1998.3.5）の長野中央局のアイススレッジスピードレース、

4. 冬季パラリンピック

障害者スポーツ

4-6 第7回長野大会(1998)

アジアで初めて開催された冬季パラリンピック。32か国・地域から571名の選手が参加した。約15万人が大会を観戦、1468名のメディア関係者により報道され、冬季大会としては過去最高の盛り上がりを見せた。この大会を機に、日本国内で「パラリンピック」の知名度が劇的に上がった。



長野大会の小型印、長野中央、(左)アイススレッジスピードレース、(右)アイススレッジスホッケー。
台切手は長野パラリンピック記念(1998)



台切手:アルペンスキー(チェアスキー)の競技
記念印:アルペンスキー(チェアスキー)
ボン、1998.3.5。台切手の初日記念印ではなく、
長野パラリンピック開会式当日の記念印。

4-7 第8回ソルトレイクシティ大会(2002)

初めてオリンピックとパラリンピックが同じ組織委員会となった。36か国・地域から416名の選手が参加。中国、クロアチア、ギリシアの3か国が初参加した。



記念印、ソルトレイクシティ、2002.3.7、大会のロゴ
開催国アメリカからパラリンピックの記念切手の発行は無かった(オリンピックの切手発行あり)。



アルペンスキー
チェコ(2002)



アルペンスキー(チェアスキー)
初日記念印:車椅子、ラトビア(2002)

16

第16リーフ

アイススレッジホッケーの2種の小型印を示した。また、日本からは絵入り官製葉書も発行されたが、スペースの関係で今回は使用できなかった。

参加国のドイツからはチェアスキーを描いた寄付金付き切手が発行された。作品では長野パラリンピック開会式当日（1998.3.5）のボンの記念印を押印したものを使用した。

第8回ソルトレイクシティ大会（2002）では初めてオリンピックとパラリンピックが同じ組織委員会となった。36か国・地域から416名の選手が参加。開催国のアメリカからは記念切手の発行は無く、開催地のソルトレイクシティで大会のロゴマークを描いた記念印が使用された（オリンピックは記念切手を発行）。チェコからは左下肢切断者のアルペンスキー（3トラック・スキー）を描いた記念切手が発行された。ラトビアからはアルペンスキー（チェアスキー）を描いた切手が発行され、初日記念印には車椅子とパラリンピックのロゴが描かれている。

リーフ17：第9～10回冬季大会を示した。

第9回トリノ大会（2006）は39か国・地域から477名の選手が参加した。新競技として、車椅子カーリングが加わった。メキシコ、モンゴルが冬季大会に初参加した。本学卒業生の小林（現・井口）深雪選手（視覚障害・バイアスロン）が長野大会に続き、金メダルと銀メダルを獲得した。開催国のイタリアからは大会のロゴマークを描いた記念切手が発行された。チェコからはアイススレッジホッケーが描かれた記念切手が発行された。初日記念印にもアイススレッジホッケーが描かれている。

第10回バンクーバー大会（2010）は44か国・地域の507名の選手が参加した。NHK総合テレビでアイススレッジホッケーの決勝（アメリカ×日本）が生中継された。冬季パラリンピックにおいて、競技が生中継されるのは初めてであった。開催国のカナダからはバンクーバーオリンピック及びパラリンピックの小型シートが発行された。シート上段に大会のマスコット、下段中央の切手に車椅子カーリングが描かれている。初日記念印の左にも車椅子カーリングが描かれている。ドイツからはアルペンスキー（チェアスキー）を描いた寄付金付き切手が発行された。オランダからは大会のロゴマークを描いた記念切手が発行された。スイスからはアルペンスキー（3トラック・スキー）を描いた記念切手が発行され、初日記念印にはヘルメットが描かれている。

リーフ18：第11回ソチ大会（2014）を示した。45か国・地域の約550名の選手が参加した。NHKでは、開会式の模様を冬季大会では地上波で初めて生中継した。開催国のロシアからは開催の3年前（2011）に記念の切手付封筒が発行された。挿絵に大会のマスコットのRay of Light（男子）と Snowflake（女子）が描かれている。2012年には大会のマスコットを描いた記念切手が発行された（初日記念印も同一図案）。チェコ（2014）からはアイススレッジホッケーを描いた記念切手が発行された。この切手はテート・ベッシュであるため、作品では6枚ブロックを使用した。なお、ソチ大会の記念切手は作品制作時には未入手のものが多く、現在、さらに収集中である。

リーフ19：パラリンピック以外の身体障害者の国際スポーツ大会について示した（24リーフまで）。そのうち、我が国とも関連の深く、記念切手の発行件数が多いフェスピック（現・アジアパラ競技大会）を最初に取り上げた。フェスピック（Far East and South Pacific Games for the Disabled）はアジアおよび太平洋地域の障害者スポーツの総合競技大会で、1975年から2006年まで9大会が開催された。欧米に比べて障害者アスリートの競技機会が限られていたアジア・太平洋地域において、中心的な地域別国際総合競技大会として機能し、アジアパラ競技大会の先駆となった。

第1回別府大会（1975）は参加18カ国、参加選手973人であった。中村裕（1927～1984、整形外科医、社会福祉法人・太陽の家の創設者）の尽力により同氏の出身の大分県で開催された。車椅子の四肢麻痺者だけでなく、視覚障害者、聴覚障害者、切断者、脳性麻痺者など様々な障害をもつ選手が出場した。開催国の日本では記念切手の発行は無かったが、開催地の大分局（車椅子槍投げ）、別府局（車椅子アーチェリー）で小型印が使用された。

第3回香港大会（1982）は参加23カ国、参加選手744人であった。開催地の香港からは車椅子卓球、車椅子レース、車椅子バスケット、車椅子アーチェリーの4種の記念切手が発行された。作品では香港郵政の公式FDCを使用した。初日記念印は使用されず、日付印のみのFDCである。



第19リーフ

リーフ20：フェスピックの2リーフ目である。

第5回神戸大会（1989）は我が国で2回目の開催で、参加41カ国、参加選手1646人であった。開催国の日本からは車椅子レースを描いた記念切手が発行された。これは我が国最初の障害者スポーツの切手である。初日特印には大会のロゴが描かれている。また開催に合わせて、須磨北局などで小型印も使用された。

第6回北京大会（1994）は参加42カ国、参加選手2081人であった。開催国の中国からは車椅子レースを描いた記念切手が発行された。車椅子レースの写真を用いたMCを使用した。

第7回バンコク大会（1999）は参加34カ国、参加選手2258人であった。開催国のタイからは車椅子レースを描いた切手が発行された。また、インドネシアからは車椅子砲丸投げ、車椅子と大会のメダルを描いた2種連刷の切手が発行された。これらの切手は本大会開催に合わせてアジア太平洋障害者の10年の特殊切手として発行された。

リーフ21：フェスピックの3リーフ目である。

第8回釜山大会（2002）は参加40カ国，参加選手2199人であった。開催国の韓国からは松葉杖と羽根が描かれた記念切手が発行された。

第9回クアラルンプール大会（2006）は参加33カ国，参加選手3641人であった。フェスピック最後の大会で，アジアパラ競技大会にその歴史が引き継がれた。開催国のマレーシアからは3種の単片切手と小型シートが発行された。単片切手は車椅子テニス，水泳（右上肢切断），車椅子陸上レースがそれぞれ描かれている。作品には3枚貼りのFDCを使用した。初日記念印には大会のロゴが描かれる。小型シートには車椅子バスケットが描かれ，シート余白には大会のマスコットも描かれている。

広州アジアパラ競技大会：アジアパラ競技大会は，アジアパラリンピック委員会が主催するアジア地域における障害者スポーツの総合競技大会で，第9回フェスピックの後，2010年の広州大会からアジアパラ競技大会に引き継がれた。直前のアジア競技大会と同じ会場で実施され，参加国41カ国，参加選手・役員約4000人であった。開催国の中国からは大会のロゴマークが描かれた六角形の記念切手が発行された。作品には12面シート下段部分を使用した。シート余白に大会の競技種目が描かれる。

リーフ22：コモンウェルスゲームズ(Commonwealth Games)について示した。イギリス連邦に属する国や地域が参加して4年ごとに開催される総合競技大会である。オリンピック競技のほか，英連邦諸国で比較的盛んなローンボウルズ，7人制ラグビー，ネットボールなども行われ，障害者スポーツも行なわれる。

ニュージーランド（1974）から発行された第4回大会の記念切手に車椅子バスケットが描かれている。カナダ（1994）から発行された第15回大会の4種の記念切手の中に車椅子マラソンが描かれている。

作品ではFDCを使用した。初日記念印には大会のロゴが描かれている。マン島（2002）から発行された第17回大会の6種の記念切手の中に車椅子マラソンの切手がある。作品では全6種貼りのFDCを使用した。初日記念印には大会のロゴが描かれている。またイギリス（2002）発行の記念切手の中にも車椅子レースを描いた切手がある。



第22リーフ

リーフ23：その他の国際大会の1リーフ目である。本リーフは陸上競技を描いた切手を配置した。フランスから1970年に車椅子槍投げを描いた世界身体障害者競技大会の記念切手が発行された。初日記念印にも車椅子槍投げが描かれている。同じくフランスからは、2002年に車椅子レースを描いたIPC（国際パラリンピック委員会）陸上競技世界選手権大会の記念切手も発行されている。

車いすマラソン大会の切手として、日本（2000）から第20回大分国際車いすマラソン大会のふるさと切手が発行されている。九重連山を背景に車いすマラソン選手が描かれている。作品には大分中央局の小型印を押印したFDC、切手帳（ゆうペン）の表紙を使用した。

ハイデルベルグ国際車いすマラソンの記念印が開催地のハイデルベルグ（2001）で使用されている。記念印には車椅子レースと市街地が描かれている。

フィリピン（2005）から第3回ASEANパラゲームの記念切手として、左上肢切断者の陸上競技、車いすレースを描いた2種が発行されている。作品には見本切手の4枚ブロック（田型）を使用した。

リーフ24：その他の国際大会の2リーフ目である。本リーフは球技大会を中心に配置した。日本（2002）から世界車椅子バスケットボール選手権大会の記念切手が発行された。図案には車椅子バスケットの競技風景が描かれており、初日記念印には大会のロゴが描かれている。

台湾（2002）から発行されたIPC世界卓球選手権大会の記念切手には松葉杖の卓球、車椅子の卓球がそれぞれ描かれている。初日記念印には車椅子の卓球が描かれている。

ブラインド・サッカーを描いた切手はこれまでに2種、発行されている。アルゼンチン（2003）から第3回IBSAブラインド・サッカー世界選手権優勝の記念切手が発行され、ブラインド・サッカーのフィールド・プレーヤーが描かれている。額面の0.75の点字がエンボス加工で印刷されている。スイス（2005）からはブラインド・サッカー世界選手権大会の小型シートが発行され、ブラインド・サッカーのフィールド・プレーヤーとサッカーボールが描かれている。初日記念印にはサッカーボールが描かれている。



第24リーフ

リーフ25：日本国内の障害者スポーツについて3リーフで示す。本リーフは全国身体障害者スポーツ大会を示す。

1964年の東京オリンピック後、東京パラリンピックが開催され、それが成功したことから、身体障害者にスポーツを通して喜びを分かち合ってもらいたいという趣旨で、1965年の第20回国体開催地の岐阜で第1回大会が行われた。以降、秋季国体の開催終了後に国体の会場と同じ施設を使って2日間に渡り開催された。2001年以降は、全国知的障害者スポーツ大会と統合され、全国障害者スポーツ大会になった。

全国身体障害者スポーツ大会の記念切手の発行はないが、小型印の使用が行われた。これまで、収集できた第4回大会（福井県、1968）、第8回大会（鹿児島県、1972）、第9回大会（千葉県、1973）、第11回大会（三重県、1975）、第18回大会（島根県、1982）、第24回大会（京都府、1988）の小型印を配置した。

リーフ26：全国身体障害者スポーツ大会の2リーフ目で、同大会のエコー葉書（広告入りの官製葉書）を示した。全国身体障害者スポーツ大会では開催県の大会実行委員会などが会期に先立ちエコー葉書を発行し、大会の周知活動を行った。これまでに収集できた第19回大会（群馬県、1983）、第22回大会（山梨県、1986）、第29回大会（徳島県、1993）の各エコー葉書を示した。

リーフ27：全国障害者スポーツ大会を示す。

全国障害者スポーツ大会は2001年（宮城大会）に設立され、それ以前の全国身体障害者スポーツ大会と全国知的障害者スポーツ大会の2大会を一つにまとめて、障害者に対するスポーツの普及、また、障害者の社会参加推進、さらにスポーツを通しての友情と国民のバリアフリーの意識を高めてもらおうと企画された。開催は毎年、国体秋季大会の終了後に国体の会場・施設を使って開催される。

上段には第1回全国障害者スポーツ大会の2種連刷の記念切手のFDCを配置した。切手はフライングディスクと車椅子レースがそれぞれ描かれている。手押し特印には大会のロゴ、押印機特印には車椅子レースが描かれている。

下段には2013年開催の第13回全国障害者スポーツ大会の小型印を示す。スポーツ祭東京2013では多数の小型印が使用されたが、フットベースボールとソフトボールは全国障害者スポーツ大会のみの種目である。



第26リーフ

リーフ28：聴覚障害者のデフリンピックを3リーフで示した。

デフリンピックとは4年に1度、世界規模で行われる聴覚障害者のための国際総合競技大会で、夏季大会は1924年にパリで第1回大会が行われた。冬季大会は1949年にゼーフェルトで第1回大会が行われた。設立当初は国際ろう者競技大会という名称であったが、1967年に世界ろう者競技大会 (World Games of the Deaf) に名称が変更され、さらにIOCの承認を得て、2001年よりデフリンピックの名称となった。

デフリンピックの記念切手はあまり多く発行されておらず、切手の発行、記念印の使用のあった大会のみを取り上げた。マテリアルの大きさの関係で年代順に並べることができなかった。



第28リーフ

第11回大会（ベオグラード，1969）の記念切手はデフリンピック最初の切手である。開催国のユーゴスラビア（1969）より小型シートとして発行された。切手には大会の記章が描かれている。

第12回大会（マルメ，1973）では記念切手の発行は行われず、開催地のマルメで記念印が使用された。陸上のハードル競技が描かれている。

第15回大会（ロサンゼルス，1985）では記念切手の発行は行われず、開催地のロサンゼルスで様々な競技種目が描かれた記念印が使用された。

リーフ29：デフリンピックの2リーフ目である。

第13回大会（ブカレスト，1977）は開催国のルーマニアから記念の切手付封筒が数種類、発行された。そのうちの1種（挿絵に体操が描かれる）をリーフ上段に示す。印面には大会のロゴマークが描かれている。

第16回大会（クライストチャーチ，1989）は開催国のニュージーランドからは記念切手の発行は行わなかったが、開催地のクライストチャーチで記念印の使用が行われた。大会のロゴマークが描かれている。

第16回冬季大会（ソルトレイクシティ，2007）も開催国のアメリカからは記念切手の発行は無かったが、開催地のソルトレイクシティで大会のロゴマークを描いた記念印が使用された。

リーフ30：デフリンピックの3リーフ目である。

第17回大会（ソフィア，1993）では開催国のブルガリアから記念切手5種類（小型シート1種を含む）と記念切手付き封筒（本作品に未収録）が発行された。切手には陸上競技、水泳、自転車、

テニス、小型シートにはサッカーがそれぞれ描かれている。それぞれの切手は耳と「S」の字がデザインされている。切手付き封筒は挿絵部分に陸上競技と指文字が描かれている。

第21回大会（台北，2009）では，2種の記念切手が発行された。5元の切手には台湾の地図，音の波紋の背景にバトミントン・陸上競技を描かれている。25元の切手には耳のイメージ（蝸牛の回転）の背景にテコンドー・テニスが描かれている。作品には台北臨時局の記念印が押印されたFDCを示す。台湾郵政では記念切手の発行に加え，約15種類の記念印が会期中使用された。

リーフ31：スペシャルオリンピックスを示す（～32）。

スペシャルオリンピックス（Special Olympics）とは，知的発達障害のある人の自立や社会参加を目的として，日常的なスポーツプログラムや，成果の発表の場としての競技会を提供する国際的なスポーツ組織である。

夏季スペシャルオリンピックスの第1回大会は1968年にアメリカ・シカゴで開催された。ミシガン州でされた第4回大会（1975）の記念切手がアメリカ（1975）から発行されている。さらに，アメリカからは2003年にもスペシャルオリンピックスの表彰式とロゴを描いた切手が発行されている。

リーフでは実郵便を提示した。モナコ（1995）からスペシャルオリンピックスのロゴを描いた切手が発行されている。



第31リーフ

上海で開催された第12回大会（2007）の記念切手が開催国の中国（2007）より発行されている。ポーランド（2005）でスペシャルオリンピックスのロゴを描いた記念印が使用された。スペシャルオリンピックスの切手はこれ以外にも発行されているが，作品の構成上，1リーフのみの紹介に留めた。

リーフ32：冬季スペシャルオリンピックスを示した。

第1回大会は1977年にアメリカ・コロラド州で開催された。第3回大会（ユタ州）の記念切手が開催国のアメリカ（1985）から発行されている。図案は大会のロゴとスキーとスケートの競技者描かれている。第5回大会（ザルツブルク）の記念切手が開催国のオーストリア（1993）から発行されている。図案はアルプスと大会ロゴが描かれている。初日記念印にも大会ロゴが描かれている。第8回大会（長野，2005）は開催国の日本では記念切手の発行は無かったが，長野中央など8局で小型印が使用された。リーフには長野中央局の小型印（フィギアスケート）を示した。第10回大会（平昌）では開催国の韓国（2013）より記念切手が発行された。競技風景が描かれている。スペシャルオリンピックス2000のための気球郵便がオーストリア（2000）で使用された。記念印にはスペシャルオリンピックスのロゴを描いた気球が描かれている。

5. 考察

夏季パラリンピックは1960年のローマ大会より始まったが、記念切手の発行は無かった。1964年の第2回東京大会ではアルゼンチンより記念切手が行われ（世界最初の障害者スポーツの切手）、開催国の日本では小型印の使用が行われた。第3回テルアビブ大会（1968）では開催国のイスラエルから記念切手が発行された。以降、第7回ニューヨーク・アイレスベリー大会（1984）を除き、開催国からパラリンピックの記念切手・郵便物の発行が行われてきている。切手の発行種類は当初は1種のみが発行が多かったが、回数を重ねるに従い、発行種類も増加し、特に第11回シドニー大会（2000）以降は多種類の記念切手・郵便物の発行が行われるようになった。

また、開催国以外の参加国も記念切手の発行を行うようになり、特に第10回アトランタ大会（1996）以降は発行国が増加してきた。冬季パラリンピックは第3回インスブルック大会（1984）以降、毎回、開催国より記念切手の発行が行われた。第6回リレハンメル大会（1994）以降は開催国以外の参加国からも記念切手の発行が行われるようになった。

これらのパラリンピックの切手発行動向は各国政府の障害者スポーツに対する政策や障害者スポーツに対する一般市民の理解度などと深く関与していると思われる。内藤は、郵便切手は国家が発行していることから、発行する国や地域の歴史・地理・自然・文化、そしてその時々の方針や経済情勢が強く反映されることを指摘しており[1]、障害者スポーツに対する政策も切手の発行に強く影響していたと考えられる。

聴覚障害者のデフリンピックは1924年に始まり、パラリンピック以上の長い歴史がある。しかしながら、デフリンピックで最初の記念切手発行が行われたのは1969年の第11回ベオグラード大会であった。その後も残念ながら、記念切手発行が行われない大会が多数あった。冬季デフリンピックの記念切手発行は未だ1件もない（記念印は第16回ソルトレイクシティ大会がある）。

デフリンピックの切手の発行件数はパラリンピックに比べると、かなり少なく、パラリンピックの記念切手にみられるように、開催国以外の参加国が記念切手を発行する事例は1件も無かった。また、デフリンピックの切手に限らず、手話などの聴覚障害に関する切手は点字や盲導犬などの視覚障害に関する切手の発行件数に比べ少ない[5-6]。今後、発行件数が増加することを期待したい。

スペシャルオリンピックスの切手は発祥国のアメリカで、3件の発行がある。スペシャルオリンピックスの切手の収集は現在、進行中であるが、近年、発行件数が増加していると思われる。今後、さらに調査を進めたい。

今回の切手展作品による発表形態では、リーフ数の制限や構成上の問題のため、発行されている障害者スポーツの全ての切手を展示できなかった。したがって、今後、障害者スポーツの切手を全て掲載したデータ・ベースまたはカタログの作製が必要である。

本コレクションによって、障害者スポーツに対する理解がさらに高まり、2020年開催予定の東京パラリンピックの成功に微力でも貢献できれば、幸いである。そのため、今後とも、より積極的に、郵便や障害者スポーツの関係者、一般市民などに広くコレクションの公開を行っていく必要がある。

謝辞

障害者スポーツに関する切手について、湘南郵趣の会・前島津一氏より貴重なご助言をいただきました。ここに深謝申し上げます。

引用・参考文献（切手展作品を含む）

- [1] 内藤陽介, 切手と戦争 もうひとつの昭和戦史, 新潮社, 2004
- [2] 古川明, 切手が語る医学のあゆみ, 医歯薬出版, 1986
- [3] 安室芳樹, 切手で綴る医学の歴史, 出版文化社, 2008
- [4] 大沢秀雄: 視覚・聴覚障害に関連した切手. 筑波技術大学テクノレポートVol.14:281~287, 2007
- [5] 大沢秀雄: 視覚障害に関連する切手. 切手の博物館研究紀要第4号:3~25, 2007
- [6] 大沢秀雄: 聴覚障害に関連した切手. 切手の博物館研究紀要第6号:12~41, 2009
- [7] 大沢秀雄: 切手が伝える視覚障害 一点字・白杖・盲導犬一, 彩流社, 2009
- [8] 大沢秀雄: 視覚障害 (切手展作品), 第44回全国切手展, 日本郵趣協会主催, 金銀賞・小倉謙賞, 東京, 2009年10月
- [9] Hideo Ohsawa: The Blind (切手展作品), 日本国際切手展2011, 郵便事業株式会社・日本郵趣協会主催・日本郵趣連合主催, 大銀賞, 横浜, 2011年8月
- [10] 大沢秀雄: パラリンピック (切手展作品), 全日本切手展2012, 日本郵趣連合主催, 銀賞, 東京, 2012年4月
- [11] 大沢秀雄: 障害者スポーツ (切手展作品), スタンプショウ2014, 日本郵趣協会主催, 金銀賞, 東京, 2014年4月. <http://hdl.handle.net/10460/1260> (筑波技術大学機関リポジトリ)
- [12] 大沢秀雄: 障害者スポーツに関する切手. 筑波技術大学テクノレポート22巻1号, 96~103, 2014

各大会に関しては[13]~[17]を参考にした。入手年月日: 2014-8-24

- [13] 国際パラリンピック委員会公式サイト <http://www.paralympic.org/>
- [14] 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会公式サイト <http://www.jsad.or.jp>
- [15] コモンウェルスゲームズ公式サイト <http://www.commonwealthgames.com>
- [16] 国際ろう者スポーツ委員会公式サイト <http://www.deaflympics.com>
- [17] スペシャルオリンピックス公式サイト <http://www.specialolympics.org>

戦後の郵便史（４）

国内郵便制度創設史

行徳 国宏

第５章 昭和年26年の郵便事業経営問題と郵便諸制度の創設

昭和26年には２つの大きな郵便法・郵便規則の改正があった。その一つは昭和26年6月1日の改正で、23年１月施行の現行の郵便法・郵便規則を広範かつ実務的に改正・実施したものであった。

もう一つは26年11月1日の郵便法・郵便規則の一部改正であった。公報の上では「一部改正」となっているが、実質的には26年6月1日に改正された郵便規則類、郵便制度の中で改正できずに積み残しとなったものを、11月1日に改正したという意味で、戦後の郵便規則類の大改正であったと言えるほどの内容が含まれている。

第１節 昭和26年6月1日の郵便法・郵便規則の一部改正

「社会各般の情勢は漸く安定に向かい、郵便事業の運行も昭和24年頃より軌道に乗りはじめるに伴って、郵便サービスに対する国民の要望も郵便業務の正確迅速の面から、更に郵便取扱制度の面にも及ぶようになったので、かねて懸案であった郵便取扱い制度の内容の改正に重点をおいて郵便法の一部を改正する法案の準備を進め（中略）、26年4月4日法律第128号をもって公布せられた。（中略）」

昭和26年6月1日施行の改正は、昭和22年の現行郵便法の制度以来最も大きな改正であった。特に改正の内容は、国民に最も関係の深い郵便取扱制度がその主体をなしていることは郵便事業の発展に一つの新転期を画したものである。

この改正内容について討議されたのは以下の制度であった。

旧規定の復活を要望する向きの多かった集金郵便、市内郵便、約束郵便、広告郵便といった旧制度、また新しい制度として大口利用者を対象とする定時郵便制度、特殊絵葉書等の発行、集配員への郵便物委託差出の制度などが研究対象にあげられたが、郵便事業の定員、施設、経費等の観点から除外された。またこの改正前から相当考察されていたのが改正されずに積み残しとなった。改正内容は下記第５節で詳細に述べることにして、この改正から相当考究されていたが、この26年6月1日改正時に解決できずに残された諸問題があった。

事業の独立採算をできるだけ可能にするための見地からする『郵便料金の調整の問題』、『郵便種別体系の単純化』、『特別速達郵便の制度化』、『市内郵便の復活』、『国内航空郵便制度の復活』等がそれであった。これらの積み残し問題は５ヶ月後の11月1日に施行された郵便法・郵便規則の一部改正で解決されることになった。

内容については26年11月1日の項で述べることにする。（以上は、板野 学「郵便法改正の要綱」（『通信協会雑誌』26年5月号8～13ページ、唐木沢八十雄「郵政法令等の改正について」（『郵政』昭和26年7月号,20～23ページから参照、要約及び引用した。）

第2節 郵便料金値上げの問題

お年玉葉書の重大な悩み

池田蔵相は6月23日車中話として『独立採算制をとるため郵便料金を2割程度近く値上げする』と発表した。これに対し、郵政省側では若し11月頃までに値上げが実施になった場合、11月15日から発売するお年玉葉書はすでに印刷を始めており、この分をどうするかという問題に逢着、頭を悩ましている。

郵便料金の値上げ問題は昨年末一度問題となったが、当時国会郵政委員会で、郵便料金改正については一切さわらない方針をとり、一時棚上げの形となっていたが、その補いとして一般会計から35億円を郵政特別会計に繰り入れることとしたが、最近にいたって26万従業員のベースアップの問題、郵便運送料金の値上げなどにより当初の赤字は35億円が60億円に上昇する可能性が強く、このため大蔵当局としても、郵便料金値上げを考えたものらしく、一説によれば葉書4円、封書10円と言われる（以下略）（26年6月30日付け「通信文化新報」）

第3節 昭和26年11月1日施行の郵便法・郵便規則等の一部改正

—通常郵便物の種類体系の改正—

昭和26年11月1日施行の郵便法・郵便規則等の改正の中で、郵便料金の他に主題に関連した改正がされた。それは通常郵便物の種別体系の改正であった。

改正前の通常郵便物の種別体系は、明治15年郵便条例制定の際におけるものを基本とし、その後若干の改正がされたにすぎないもので、今日まで70年近く根本的な変更がされなかったもので、（中略）その種類体系のうち、第4種の印刷物、業務用書類及び商品の見本、ひな型については、ある程度文字や線等を印刷した罫紙や手帳、（中略）印刷の紙型、集印帳、貯金証券、会員き章等、個々具体的な物がはたして印刷物、業務用書類等に該当するかどうかの認定は極めて困難で、郵便局における取扱い上ばかりではなく、利用者にとっても利用上のガンになっていたのである。

そこで今回の郵便料金の改正を機会にこれらの外に、同じく認定の困難な第1種中の有価証券類等も含めて、これら認定の困難な物はすべてじれらのものであるという認定を必要としないように、第1種、第4種及び第5種が次のように改められた。

第1種郵便は、(1)筆書きした書状、(2)郵便切手、小切手、証券類で開封としないもの（開封すれば第5種）、(3)特定の人にあてた通信文を記載したもの、(4)他の種類の郵便物に該当しないもので、開封としないもの、と規定された。改正前の第1種郵便で、開封としたものは第5種郵便に含まれることになった。

第4種郵便物は、第3種郵便物以外で特に料金を低料とされる郵便物で、通信教育、盲人用点字のもの及び従前の第5種郵便から移された農産物種子等とされた。

第5種郵便物は、改正の第1種から第4種までに該当しない総ての郵便物、即ち、書籍、印刷物、業務用書類、写真、書、画、図、商品の見本、学術上の標本、時計、万年等であって、開封としたものとされた。従って、紙幣や為替証書、株券類は開封しなければ第1種、開封すれば第5種郵便物となる。

明治33年10月1日施行の郵便法・郵便規則の改正以降、郵便物は包封される内容によって種類に分けられ、郵便料金が決められ取り扱いがされてきた。昭和26年頃になると、第4種郵便物に封入

される内容が印刷物や業務用書類の他多岐にわたるようになり、何が入っているかを局員でも個々に認定・区別（種別）取扱うことがますます困難になってきた。

そこで、

第1種から第4種までに該当しない郵便物で、開封としたもの」は、封入された内容が何であれ、第5種郵便に含められることになった。26年6月1日施行時の郵便法・郵便規則の改正において手をつけることが出来なかった種別体系が、26年11月1日の郵便法・郵便規則の改正によってようやく整備される始まりとなった。

（唐木沢八十雄「郵便法・郵便規則等の一部改正について」（『郵政研究』26年12月号17～27ページ、及び同氏「郵便法・郵便規則の各則」（『同』27年7月号19～23ページ）

第4節 私設郵便局の一掃

郵政省監察局では本年上半期ですでに郵便の不着、遅延などを口実に信書の送達を業としていた悪徳業者を数件検挙していたが、年末を控え文書の往復が一段と激しくなるにつれ、この種業者の激増に備えて、近く積極的に撲滅に乗り出す模様である。

今日の郵便は終戦直後の混乱状態からみて、不着、遅延ということはどうてい考えられないことで、特に昭和23年3月1日以降全国に郵第101号による事故調査制度を実施してからは、郵便事故並びに犯罪防止に大きな効果を挙げ、以降郵便事故及び犯罪は著しく減少しており、現在（中略）利用者へのサービスぶ苦心しているという状況で、経済界の安定化に伴い郵便物も増え最近では大口利用者の要請に応じて東京大阪間の特急郵便制度すらも考慮し、（中略）郵便事業に従事し外務などに服している従業員のみなさんから積極的な協力をお願いし（中略）、最寄りの監察局並びに監察官に通報してもらいたいと考えている。（25年11月29日付け「通信文化新報」）

第5節 なお残る経営問題＝人員整理

二省分離以降、定員法に基づいて郵政人員を定めてきたことについては既に触れたところである。26年11月の郵便法・郵便規則の一部改正でも人員整理問題が山積していた。昭和26年12月5日付け郵政公報号外に「今次人員整理について」の訓示が発表されている。

この度定員法改正法律実施により、国家公務員の定員が相当縮減去れることとなった。終戦後郵政事業は年々一般会計から相当額の繰入を受けつつ、きわめて多難な業務の運営を維持してきたことは周知の事実である。この際事業経営の独立性と安定性を確立して将来における事業発展の基礎を固めるためには、一方において料金の適正化による妥当な事業収入を確保すると共に、他方各種内部管理事務の簡素化、業務運行方法の合理化及び事務能率の向上を強力に推進して、人員並びに経費の節減を計ることが必至となった次第である。更に、公務員の能率を高めその数を節減することが世論の強い要求の一つとなっていることも考慮されなければならない点であろう。

郵政省定員の減少については当初種々の案が示されたのであり、或は実体を著しく無視し又は過度の減員を計上する等この間の事情は甚だ困難であったが、極力事業の実態と整理の本旨との調整に努めた結果、郵政省定員の減少は3,378人減少率5.15%弱と決定せられた次第である。

尚、当省においては今夏以来欠員補充のための新規採用を制限してきたのであるが、これによる欠員の他、長期欠勤者について本人の保護と同僚に対する負担を避ける為適当な給与を支給しつつこれを定員外とする措置も講ぜられることとなった（中略）。これ等を考慮すれば今次人員整理における当省の減員は必要且つ最少限度に止め得たものと信ずるものである。（以下略）

郵政大臣 佐藤 栄作

第6節 郵便サービスと郵便諸制度の実施

25年12月～26年1月1日

1. 年賀特別郵便の取扱い拡大

郵政省では郵便規則（年賀特別郵便物の拡張）と通信日付印の形式の一部を改正し、12月1日から実施するが、さらに年賀郵便物の取扱いについて具体的な方針を決定した。内容は次の通り。

- (1) 年賀特別郵便物として新たに封かんした書状を差し出せることとした。
- (2) 年賀特別郵便物の引受消印に使用するため、自動押印機による通信日付印の形式として、波形を上部に、日付を下部にしたものを追加した。自動押印機によるものは旧型ハブを使用し、告示による通信日付印の形式によるとともに、その印肉は黒色のものを使用する。槌型日付印については兔の日付印を使用すること。消印は鮮明にするよう特に配慮すること。年賀郵便物には差出人の住所に必ずその配達局名を記載するよう周知する。
- (3) 無集配局に差し出された年賀特別郵便物は集配局において引受日付印を押なつする。
- (4) 配達＝12月31日までに到着した年賀郵便物は、他の一般郵便物と区別して別に整理しておき1月1日に配達する。（25年11月29日付け「通信文化新報」）

2. 年賀電報の再開

電気通信省では年賀電報の再開を知らせるものと、年賀例文を記載したものとの2種類を調製し、前者は取扱局、公衆電話ボックス、銀行などに貼り出す他、鉄道を利用して車内広告を行い、後者は主として各取扱局の窓口に掲出する。そして慶弔電報規則第1条第1号による文例として、年賀文に関するもの15種類が規定されているが、（中略）次の例文15種類を定めた。

利用者は窓口で自己の好む例文の番号を申し出れば、略号によって発信され、送達紙には文例を記載して配達するようになっている。（紙面の都合で1例だけを記載する。文例1 謹んで新年をお祝い申し上げます（ハセ）年賀電報の料金は例文を用いるものに限り、市内20円、市外30円と決定した。ただしこれは1通だけを発信する場合で、同一文例の年賀電報を2通以上発信するときは、最初の1通を除き2通目からは1通ごとにこの料金の半額で受付ける。（25年12月6日付け「通信文化新報」）

図45は26年1月1日の大船電報電話局の引受印が押されている。文例は15種類のうちの6番目のもので、「明けましてお目出とうございます、今年こそ最良の年でありますように」（チキ）となっている。図45 神奈川大船 26.1.1.

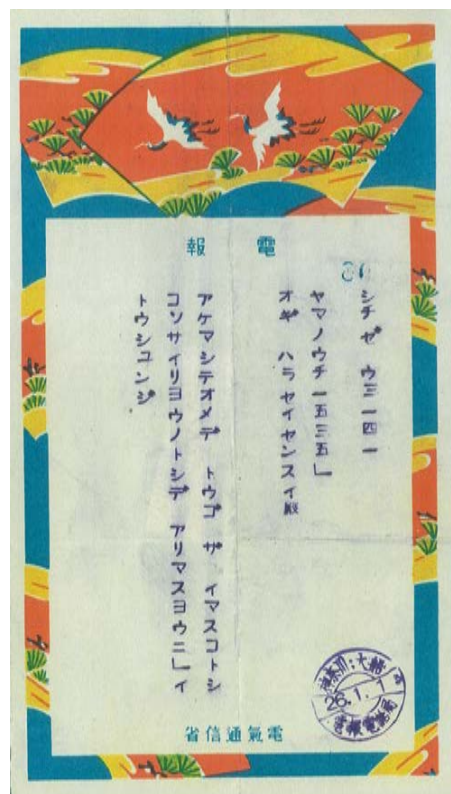


図45 神奈川大船 26.1.1

26年1月25日 通信日付印新時間活字への切換え

郵便業務に使用する日付印の形式については（中略）戦前規格の時間活字が本省並びに郵政局に相当の手持ちがあったので、資材活用の見地からこれを使用していたが、この旧活字は現行様式の新活字に比し印面表示の時間区分、櫛型数・表示文字等が相違していることと新活字も相当出回った現在（中略）、この際これを切換えることとした。

新旧活字の印面内訳は次の通り。

1. 新活字

郵第601号時間活字甲組（4個）

普通局・集配特定局用 前0-8 前8-12 後0-6 後6-12

郵第602号時間活字乙組（2個）

無集配特定局、簡易郵便局並びに甲の補充用 前8-12 後0-6

2. 旧活字 前0-8 前8-12 後0-4 後4-8 後8-12

なお、新活字は印面櫛型が9本に対し旧活字は7本である。

26年4月23日 郵便週間記念航空便

郵便週間を記念して東京大阪間に記念飛行が行われ、公衆より希望の郵便物を便宜搭載することとなったが、要領は左の通り。

1. 実施期間

往路 東京→大阪 4月23日 午前10時発

復路 大阪→東京 4月23日 午後15時発

2. 郵便物の取扱要領

搭載郵便物は第1種及び第2種の普通郵便物及び速達郵便物で、東京では東京中央郵便局と東京日本橋三越（郵便文化展会場内日本橋郵便局臨時出張所）宛、大阪では大阪中央郵便局と大阪高麗橋三越（郵便文化展会場内大阪東郵便局臨時出張所）宛として送付したもの。

引受けた郵便物には引受局で搭載を記念した特別印章（下図のとおり）を押捺し、一括郵袋に納め、航空機到着局（東京中央郵便局又は大阪中央郵便局）においては到着日付印を押捺して（中略）宛先へ送達する。

図46は郵政公報第477号（26年4月16日付け）に発表されたものであるが、実際に郵便発送されこの飛行記念印が押捺されたものがある。

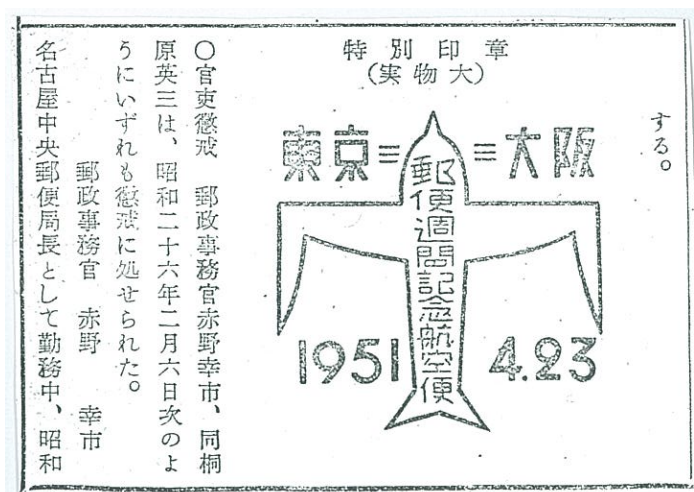


図46 郵便週間記念航空便特別印章

26年5月8日 連合軍差出及び連合軍あて郵便物の取扱いについて

連合軍差出及び連合軍あて郵便物の取扱いが郵政公報に公開されている。以下、26年5月8日付け東京郵政局報第195号より引用した）右については、従来関係規定が部分的にしばしば通達されたため取扱が繁雑となり、誤った取扱が相当見受けられるので、この度この取扱方の容易を図り従来の通達を整理統合した（以下略）。

1. 通則

連合軍郵便とは連合軍の軍隊・軍人および軍属から連合軍の軍隊軍人又は軍属にあててのもの、及び軍隊・軍人軍属から軍隊・軍人又は軍属以外のものにあてて差し出されるもの、並びに日本人その他軍人軍属以外のものより軍人軍属にあてて差出される内国又は外国郵便物をいう。

2. 軍事郵便所とは連合軍野戦又は艦隊郵便所を総称していう。

野戦郵便所 APO (Army Post Office)

艦隊郵便所 FPO (Fleet Post Office)

3. 取扱方

(1) 軍事郵便所から交付を受ける郵便局は当管内では東京中央・横浜の2局である。

引受郵便物の表面の余白に「連合軍郵便」と朱書すること。郵便物の表面余白に引受日付印を押なつする。名あてに相当する日本語の対訳をつけること。特殊取扱とする郵便物については内国郵便法令により所定の手続きをする。郵便料金は無料であること。

(2) 直接郵便局に差出されたもの（一般人から差出されたものを含む）で、日本国内にある軍事郵便所を肩書きとしたもの。APO番号又はFPO番号 c/o SF。軍事郵便所に交付するので、日本国内にある軍事郵便所を肩書きしてあるもの、カリフォルニア州サンフランシスコ郵便局長気付として軍事郵便所を肩書きしたもの、など。郵便料金は有料であること。
(以下略)

図47は連合軍座間キャンプ（APO343）宛の第5種書留便（8円＋外国宛書留料金50円）である。

国内郵便の第5種料金は100gまで8円で、書留料金は外国郵便料金が適用されたため50円であった。

本通達から10年後に使用されたものであるので、できれば使用時期をもう少し遡った例を手に入れたい。



図47 TOKYO 9.IV.61 APO SF343 APR.11.1961

26年4月20日 特別速達郵便（「あかつき郵便」）の取扱い開始

「京浜地区、京阪神地区及び名古屋市内相互間の活発なる経済活動に即応するために又近時これらの地区間に続発しているいわゆる私設郵便局なるものの発生を防止するためにもこれら地区間に発着する郵便物の正確迅速なる送達を図って銀行会社等多数商業通信の利用のある向きの要望にも応えるようにすることが刻下の緊要事でもあるので、その施策の一つとして特に差出郵便局の各戸取集を実施し運送便等その他の施設についても、これを補充強化して、これら地域相互間に送達せらるる速達郵便物を毎日銀行会社等の営業時間終了後引受けて、これを翌日営業時間開始時刻までに受取人に送達するようにし別紙取扱要領により、来る26年4月20日から実施することになった。なお、23年10月以降（26年4月19日まで）実施の特別速達制度は、本制度の実施と同時に廃止せらるることとなった…。」（26年4月6日付け郵政公報中の通達（郵業第164号）

別紙 特別速達郵便の取扱要領

1. 取扱の条件

- (1) 特別速達郵便は京浜地区、京阪神地区及び名古屋市内の三地区相互間に発着するもので、その取扱局は次の郵便局とすること。

1. 京浜地区

東京都区一東京中央、日本橋、京橋、芝及び神田局
横浜市一神奈川、横浜、横浜中局

2. 名古屋市 同市にある普通郵便局

3. 京阪神地区

京都市一京都中央及び中京局
大阪市一大阪中央、同東、同南、同西及び同福島局
神戸市一神戸中央局

(2) 取扱時間

特別速達の取扱時間は次の限度において各取扱局に於いて定めること。

1. 各戸の取集時間は午後6時から同7時頃までの間
2. 窓口引受の締切時間は当該差出便に結束しうる限度の時間
3. 配達時間は郵便物を引受けた翌日の午前10時までの時間

(3) 取扱郵便物

1. 各戸取集のもの 速達とする普通通常郵便物
2. 窓口差出のもの 速達とする普通郵便物

(4) 特別取集

1. 私設郵便差出箱（以下差出箱）の設置を条件として当該差出箱の取集郵便局の長の承認を要すること。取集回数は1日1回。
2. 本郵便物を取集の際は差出人に於いてあて地別にその差出通数を記載した差出票を提出すること。」

特別速達郵便は三地区相互間に発着する速達郵便物を、「毎日、銀行・会社等の営業時間終了後に引受け、東京大阪間を夜間鉄道郵便で輸送し、翌日の営業時間開始時刻までに受取人に送達する」という速達郵便サービスであったことから、当時の収集家の間で「あかつき便」と呼ばれた。

その証示印は「特」の文字を円で囲んだゴム印だったので、一見して区別がつけられる。あかつき郵便の取扱いは、当初収集家の間では、差出人と受取人が銀行・会社等に限定されていたと言われてきたが、多くのデータが集まり、さらに公報類による調査によって、差出人か受取人のどちらか（あるいは両者）が個人名になっている「あかつき郵便」が存在していることが分かってきた。また、制度の創設は4月20日であったが、「特」の文字を円で囲んだゴム印押印による使用は、6月1日からであったと判断されている。

26年6月1日 「郵便法・郵便規則の一部改正」

新設された諸制度及び改正された現行諸制度の記載に入る前に、改正本題の法令等の整備が計られたことを述べておきたい。「信書の送達の独占他人の信書を引受けて送達を営業としていた、いわゆる私設郵便局の頻発に伴って表現した「信書の送達の独占」に関する規定が不明確であった点を明確にするとともに、郵便を不正に利用して詐欺等の犯罪を行う者に対する罰則が改正された。『何人も、他人の信書の送達を業としてはならない。』（郵便法第5条第2項）『何人も、第2項の規定に違反して信書の送達を業とする者に信書の送達を委託してはならない。』（同3項目）罰則中の罰則金額は現行金額の10倍に引き上げられた。郵便を不正に利用する罪に対しては、5万円以下の罰金又は科料に処することにし新たな罰則を設けた。上記第1節に引用した郵便法・郵便規則の改正で実施された各種の郵便制度について詳細を説明する。

1. 新設された諸制度

1.1.小包葉書の発行

「小包には信書を合装又は添付が認められないので、小包を送ったことを知らせる手紙と小包が同時に届けられていないことを常とし利用上著しく不便な場合があるので、小包に添付して同時に送達される小包葉書の制度を設定した。」（板野、同10ページ）

イ. 小包葉書はこれと同一の小包に添付するものに限り差出すことができる。通信文は折りたたんだ内部に記載するものであること。

ロ. 特殊取扱いとすることができない。

ハ. 小包葉書は私製できない。私製を認めると、一般の運送の小荷物荷札とまちがえて使用することにもなりかねないため。

ニ. 料金は3円であること。

1.2.小包の速達扱い 小包郵便物も速達扱いとすることができることになった。速達料金は30円。

1.3.料金受取人払制度（郵便法第32条の2）

料金受取人払制度とは、「商社などが郵便局の承認を得て、一定の条件に従い封筒又は私製葉書を調製し、これをあらかじめ多数の者に配布し、配布を受けたものは注文をする場合、切手をはることなくそのままこれを商社あてに差出し、その料金は同郵便物を配達の際、一般郵便料金に料金徴収のための手数料1円を付加して、受取人たる商社などから徴収する制度で、商業活動の利便と郵便利用の負担の軽減を計ろうとするものである。」（板野、同10ページ）

この制度は、郵政省小池監察局長が渡米中、パンフレットと一緒に置かれていた『ビジネス・レプライエンベロープ（又はカード）』という業務用返信封筒（又は葉書）の存在を知り、その利用状況を調査して、資料を持ち帰られた。それによると、商社の商売繁盛が計られること、郵便局は通信の利用勧奨を商社にやってもらえること、お客がこの業務用返信封筒（又は葉書）を利用すれば、郵便局で配達の際その料金を受取人から徴収できる、という一石三鳥の明策である（以下略）」と発表された。

「利用希望者は受持配達局に申込承認を受け、承認番号を貰う必要がある（中略）。これが郵便として差出されると引受局では他の郵便物と同様に日付印を押して配達局に通送される。配達局ではその郵便料のほかに手数料を付加して金額と引換えに郵便物を受取人に交付する。多数の利用のある大きい商社などでは、あらかじめ郵便局に一定の金額を供託しておいて、それから一括して差引くという方法を取り、双方の手数を省く便法もあるという制度である。」（26年4月8日付け『信文化新報』）

料金受取人払制度の承認は、利用希望者の住所で郵便物の集配事務を取扱う郵便局長が承認する。百枚以上の書状封筒又は郵便葉書に対して料金受取人払の表示の者であることなど、諸条件が定められた（郵便規則第56条の2～4）。料金受取人払制度発足の初日封筒と葉書が作成されている。

図48は26年6月1日麻布局承認第1号の初日封皮で、麻布局私書箱第2号の「切手の友」宛である。本省だけあって、承認手続きが容易であったことだろう

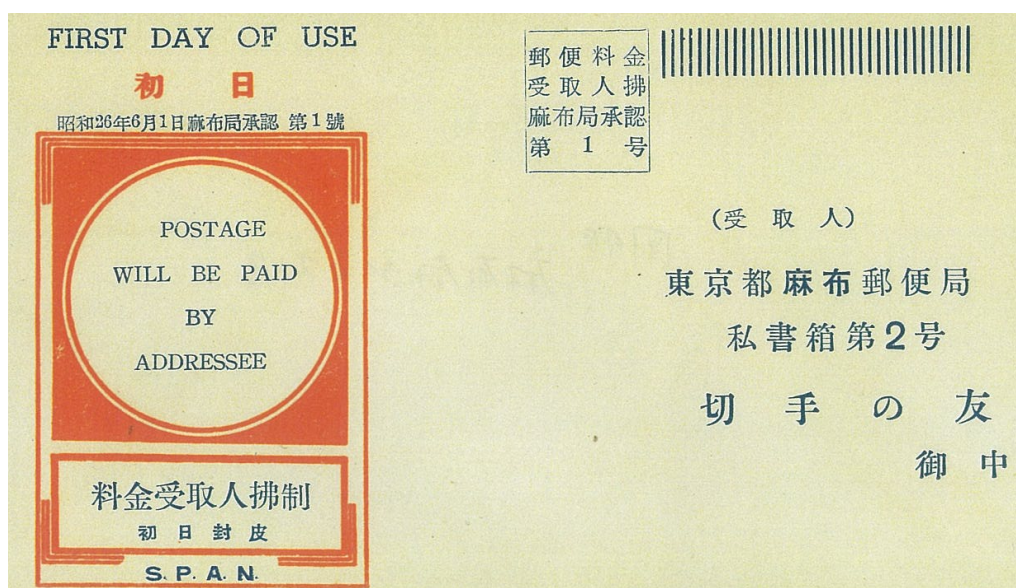


図48 麻布局承認第1号

【エピソード】

料金受取人払制度の申請・承認及び差出す役所に勤務されていた吉田 釧さんのことを述べておきたい。筆者がご自宅を訪問し面談したエピソードだからである。

その当時、吉田さんは自宅に引揚援護局の留守業務部を代行開所され、戦後外地からの未帰還の軍人・軍属の消息について、各外地から帰還した人に手紙を差出し、帰還前の最後に合った場所、時期その他の消息(戦死又は病死など)の情報を聞き出す仕事をされていた。

吉田さんは、海外各地を転々と異動され、終戦直後には満州からやっと帰還できたという境遇から、一人でも多くの情報を得たいため、全国の帰還者に対して返信切手(産業図案切手8円)貼付の封筒を同封した郵便物を大量に差出された。毎月何十シートもの8円切手を購入して差出したが、返事はごくわずかであった。

無駄の多さから、吉田さんは、受取人・帰還者から逆に無料郵便などで差出してもらい、返送・配達された郵便物に対してだけ郵便料金を支払えば無駄にならない。援護局という役所なら、こうした便宜的な方法が採れるのではないかと、本部上司に伺いを出された。まもなくして上司から料金受取人払制度ができたから、担当者として申請するよう指示があった。

「私が事務上から感じていた方法とピッタリだったので嬉しかった。千葉局承認第1号(図49)は私が申請したものです。各申請局・差出局には承認第1号があります」と思い出しながら語られたことを、吉田さんのお人柄と合わせて懐かしく思い出している。

余談になるが、吉田さんの事務所「留守業務部」から帰還者宛に問い合わせた葉書が残っている。その裏面を掲載するが、このような問い合わせ内容であった(部分、図50)。

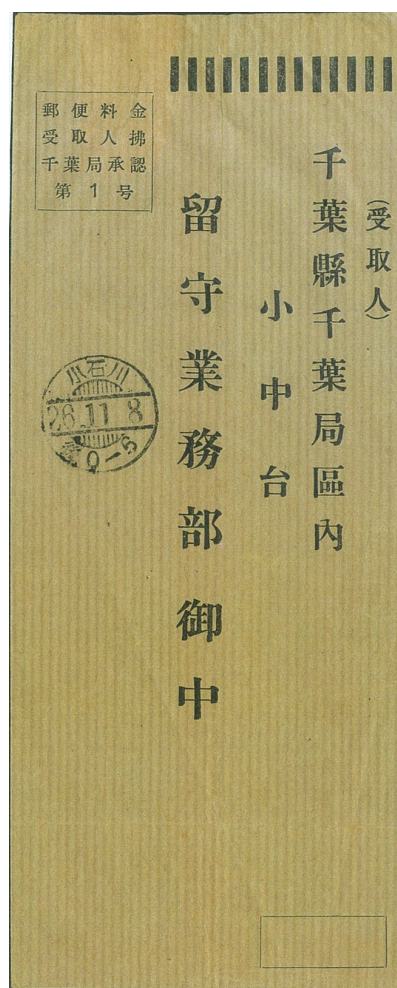


図49 千葉局承認1号
小石川26.11.8

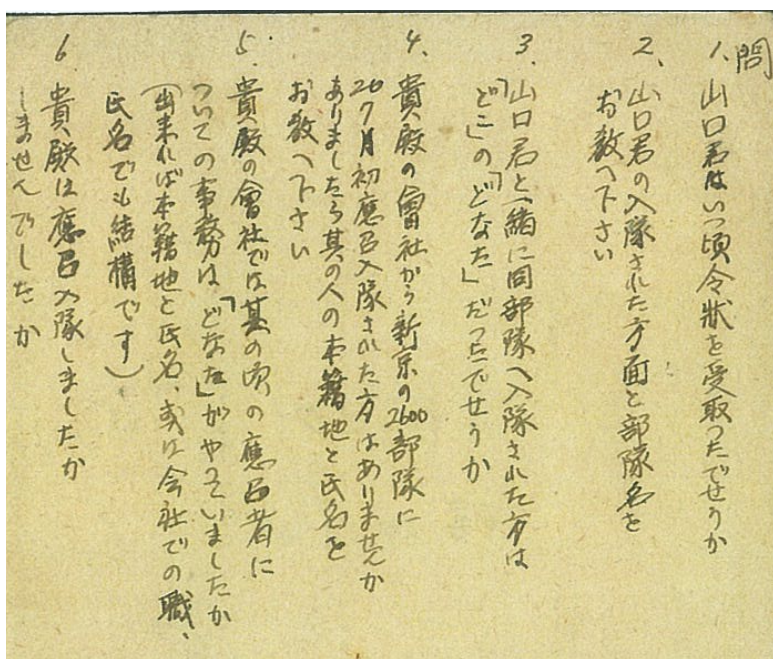


図50 千葉27.7.24

(後述する「航空郵便」葉書(図54)の裏面)

戦後、未帰還者の問い合わせを行っていた引揚関連の会は各都道府県にもあったはずだと思っていたところ、即売会で「佐賀県在外同胞引揚促進会」のものを15通入手することができた（昭和25年5～6月）。30通くらいあったと店主が説明していた。図51の表・裏面を示すが、問い合わせ内容に対する返事面も掲載した。

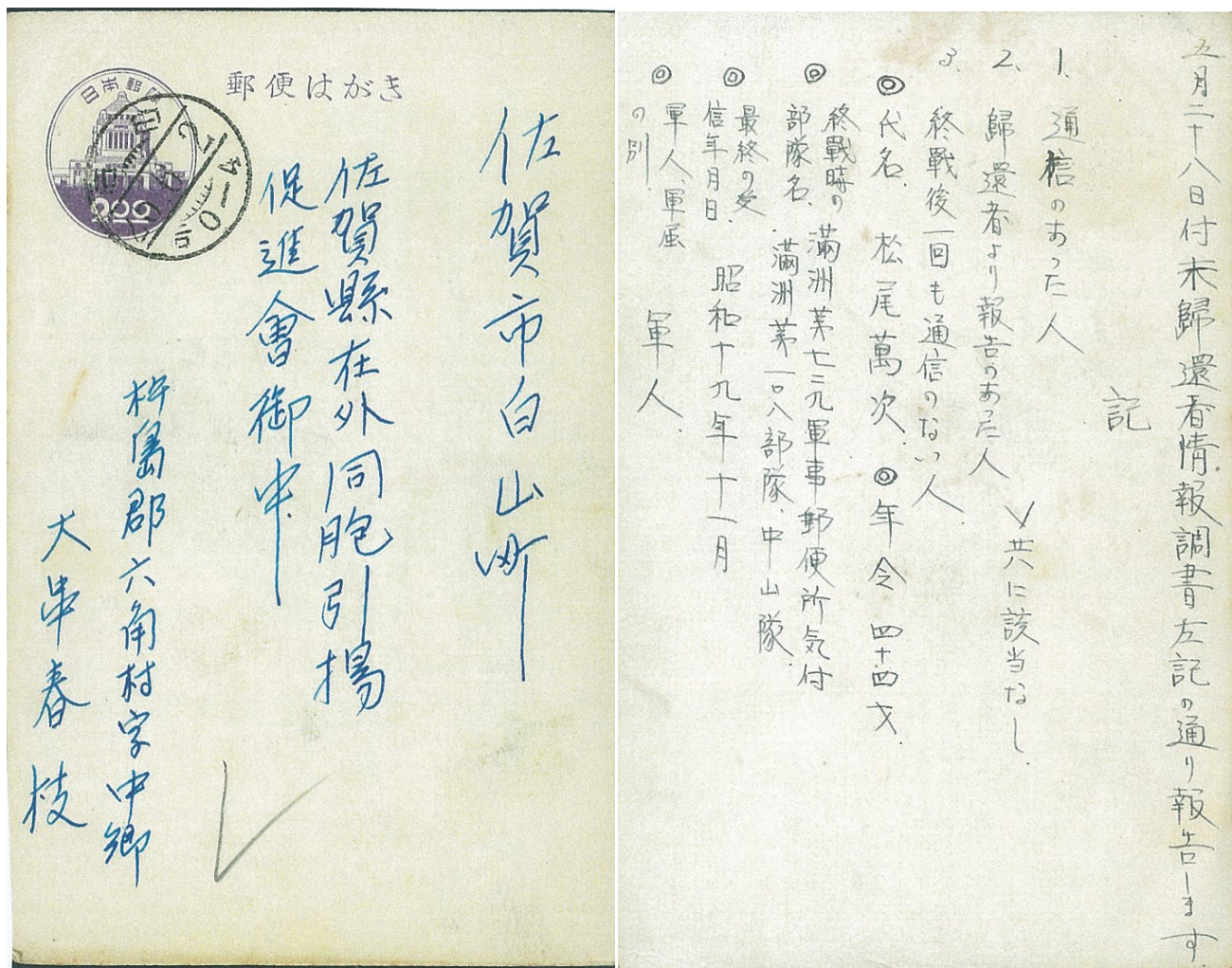


図51 表面 白石 25.6.2および裏面

2. 改正された現行郵便取扱制度

2.1. 私設郵便箱設置者の差出す速達郵便物（あかつき便）の取集め、私設郵便箱の設置者は、その取集郵便局の長の承認を受けた場合に限り、速達郵便物を当該差出箱の取集員に差出すことができることになった（郵便規則第64条第2項但書後段）。

取集を承認することができる郵便局は、東京都内、横浜市内、大阪市内、京都市内、神戸市内及び名古屋市内の指定の局とする（規程第339条告知）。

取集員が引受けた速達郵便物にはその表面の見やすいところに（特）と朱記することとした。

「あかつき便」は4月の創設時には（特）のゴム印は押されなかった。2ヶ月後の6月1日に新郵便取扱規程が制定された時からその表面の見やすいところに（特）と朱記されることになった。「あかつき便は便利な制度としておおいに利用されていたが、その後一般の

郵便業務の運行も著しく改善されて、郵便物の送達日時は戦前の状態とほぼ同等程度となってきたので、この制度は存続する必要がないのではないかという論が出つつ合った矢先、4月27日早晩から東京大阪間に夜間航空便が実施されて、これにより速達郵便物はすべて運送することとなったため、このような特別の取扱いをする必要がないと認められたので、(29年)4月26日限り廃止された。」(【郵政研究】昭和29年7月号)

ところで、この(特)ゴム印を押して利用した速達郵便物は会社対会社間のものだと通説されてきた。しかし、この速達郵便物を入手、調査してきた収集家の間で、個人宛のものが存在しており、必ずしも会社対会社間のものではないことがわかってきた。他方、この「あかつき速達郵便」に

証示された(特)のゴム印には

私印と見間違えるようなものがあり、また速達郵便の収集が盛んになるにつれて市価相場が高くなり、(特)ゴム印を勝手押したものなど、疑義を生むようなエンタイアも見受けられるようになった。そこで、(特)あかつき速達郵便は、

- (1) 六大都市相互間に発着したもの
- (2) 規定類に発表されている取扱局(無集配特定局を含む)相互間のもの
- (3) 差出人、受取人は会社銀行等及び個人名のもの
- (4) 差出人、受取人の住所が取扱局の配達区内にあるもの
- (5) 取扱局の引受時刻が後0-6、宛先到着時刻は翌朝の前0-8又は前8-12である
- (6) (特)印が押されて引受けられた期間は26年6月1日から29年4月26日までの間のものの特徴を持つものを収集対象にしなければならない。図52は26年6月1日の郵便料金改正後の東京京都間あかつき速達郵便である。



図52 神田26.7.24 後0-6 中京26.7.25 前8-12

2.2.郵便物の容積及び重量の最大制限の改正 第1種郵便と小包郵便の重量制限が6kgに拡大された。

2.3.小包郵便物の料金体系の改正 小包郵便は大都市部を中心として取扱われる「市内郵便」と一般郵便で重量別の全国均一料金制だったものを、全国を3地帯別に改めた。小包郵便の地帯別料金体系はこの時から始められ、今日に至っている。

2.4.保険扱及び書留両制度の統合 保険と書留を統合して書留制度に一本化された。差出しの際申し出のあった損害要償額が賠償されることになった。要償額の申出額は郵便物の内容が現金の場合、最高限度額は5万円、また現金以外のものの場合は50万円をそれぞれ超えないこととされた。現金を書留で送ることができるようになり、ここに現金書留郵便制度が誕生し、この制度は引き継がれて今日に至っている。現金封筒は制度発足から遅れて10月5日に発行された。

図53は現金書留制度開始初日使用で、まだ現金封筒が発行されていなかったため、従来の「通貨保険」封筒を代用している。

料金内訳は現金書留料70円（千円以下）、千円を超える千円ごとに10円を加算するので、4千円・40円を70円に加算した、要償額5千円までの110円。これに第1種書状料金8円を加算した合計118円料金になっている。

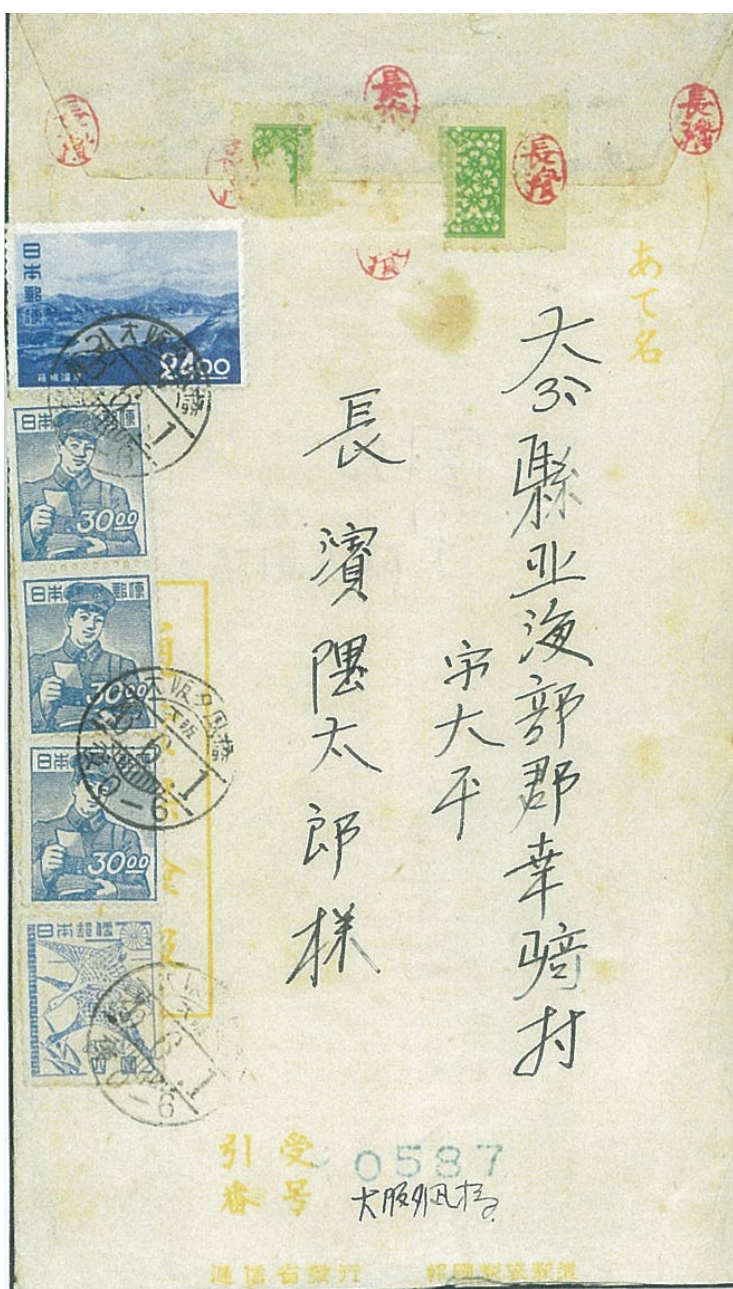


図53 大阪夕風橋26.6.1

26年6月1日

料金前納用機械による印影による外国宛て郵便物の取扱手続きについて先に、パリ締結万国郵便条約第50条の規定に基づき、料金前納用機械による印影によって外国あて郵便物の料金を前納する制度が設けられたが、この度、右による外国郵便物の差出につき、更に郵便利用者の利便を図るため、新たに料金予納の取扱を採用することとなり、別途本日付けで外国郵便規則の一部改正が行われた。なお、右の料金予納の取扱も、料金前納用機械を設置する郵便局によってのみ行われ、その郵便局は当分の間、昭和25年8月郵政省告示第266号で公示された郵便局に限定されるものである。郵便物の料金の前納は、郵便物一個につき1枚の料金前納用機械による印影を有する票によらなければならない。この取扱手続きは昭和26年6月1日から実施する。

【関連資料】

昭和25年8月郵政省告示第266号（料金前納用機械による印影により料金を前納する外国あて郵便物を差出することができる郵便局の件）中、「東京中央郵便局及び横浜郵便局」を「東京中央郵便局、横浜郵便局、神戸中央郵便局及び大阪中央郵便局」に改め、昭和26年5月20日から施行する。

26年6月1日 郵便新制度の利用状況

郵便法・規則の改正によって小包葉書の発売、速達小包の取扱い、書留郵便物の取扱い、料金受取人払い制などが行われたが、それら制度の利用開始10日間に東京都内主要8局での利用状況が「通信文化新報」（26年6月30日付け）に発表されている。

郵便新制度の利用状況

	小包葉書		小包引受		書留小包	
	売捌	差出	速達	4k以上	引受	要償額申出
中郵	335	35	461	1419	2,765	249
神田	72	39	206	515	3,780	1,555
日本橋	97	80	235	255	2,909	10
下谷	124	70	118	240	1,477	—
小石川	122	40	103	178	485	—
本郷	50	32	104	—	928	—
芝	69	20	130	—	218	—
浅草	117	10	69	95	946	—
牛込	100	35	750	123	363	—
新宿	40	8	30	1	418	—
京橋	107	7	287	—	1,184	—
計	1,253	376	2,493	2,825	15,468	1,814

表1 小包関係

	封書		葉書	
	承認件数	表示枚数	承認件数	表示枚数
中郵	1	5,000	1	15,000
神田	1	4,000	1	10,000
小石川	3	10,000	3	10,000
		300,000		50,000
		1,000		50,000
本郷	2	8,000	3	85,000
		600		55,000
				10,000
牛込	2	4,000	2	30,000
		6,000		10,000
日本橋			1	80,000
京橋			1	1,000
計	9	338,600	12	406,000

表2 料金受取人払

26年10月24日 国内航空郵便の取扱い開始

「民間航空の再開を機会に、戦後廃止せられた国内航空郵便制度を復活することとして、政令第338号で10月24日から施行せられることとなった。」

- (1) 航空郵便取扱いの内容航空郵便の取扱いにおいては、郵便物を別に告示した区間及び日時の航空路により運送し、航空路のない区間は鉄道、自動車等の運送便で運送して普通の方法で配達するもの。
- (2) 航空郵便とすることができる郵便物は通常郵便物（第1種～第5種）に限られる。
- (3) 航空郵便物の料金は通常郵便物の基本料金を含み、速達料は含まない。

第1種郵便物 重量20g又はその端数ごとに 20円 *

第2種通常葉書 10円 *

第3～第5種郵便物 重量20g又はその端数ごとに 15円

* 航空郵便料金の内訳は、第1種書状20gまで10円を含めた航空料金が20円、葉書は印面料金を含めた10円と決められた。（郵政公報号外第43号に掲載の郵業第466号より）

26年11月1日の郵便料金改正で、第1種書状の航空料金は25円、葉書の航空料金15円をそれぞれ各基本料金に加算するものになった。

図54は航空扱いとした往復葉書の往信片で葉書の航空料金15円分の切手が加貼されている。図54は受取人不明のため、返信部付きのままで返送されている。郵便物を返送する制度は26年11月1日から、航空郵便でも普通郵便物扱いで返送されることになった。



図54 千葉27.7.24 博多7.26

26年11月1日 郵便法・規則の改正で生じた各種制度

郵便料金改正、通常郵便物の種別体系の改正の他に改正された制度を列記する。以下は唐木沢八十雄氏「郵便法・郵便規則等の一部改正について」（『郵政研究』26年12月号,11～28ページ）から引用した。

(1) 現金及び貴金属の差出方制限の廃止

「現金及び貴金属は書留としなければならない旨の規定（郵便法第19条）が削除されて、現金等を書留として差出すかどうかは差出人の任意とし、差出人が特に亡失、き損に対して損害の賠償を必要としない場合は、書留として差出さなくてもよいこととなった。従前の規定の趣旨は、現金等はその特質から盗難等の事故を未然に防止し、万一亡失等の事故を生じた場合はその損害を賠償することにより利用者に不測の損害をかけないとともに、事業の円滑な運行及び国民の信用を確保しようとしたものであったが、反面利用者は五十円、百円等の小額の現金等を送る場合にも高い料金を要することとなって適当ではないので、犯罪の防止等については別に措置するを適当と認めて利用者の利便のために改められたものである。現金を書留とする場合の損害要償額は在中金額と同一であることを要せず、他の物品と同じく在中金額以下であればよいこととなった。」

(2) 特殊取扱郵便物の転送又は還付の取扱方の改正

- イ. 速達又は航空郵便物を転送する場合は、速達又は航空郵便物でない郵便物として取扱う（郵便法第44条）。
- ロ. 書留通常郵便物を転送し、又は還付する場合の転送料又は還付料は、当該郵便物の書留料のみとなった。
- ハ. 速達小包郵便物を転送する場合の転送料は、小包郵便料のみとする。

(3) 速達とする通常郵便物で料金不足のものの取扱方改正

郵便差出箱から取集した料金不足の速達通常郵便物のうち、速達料相当額以上納付してあるものは、料金不足の普通通常郵便物と同様に受取人がその不足額の2倍の料金を納付して受け取ることができることとなった（郵便法第60条第4項）。

図55は第1種速達郵便35円のところ、速達料25円以上の30円分の切手が貼ってあったため、そのまま不足料の速達郵便物として引受けられ配達局に送付され、そこで不足額5円の2倍10円を請求された例である。



図55 名古屋中27.10.15

26年12月1日 外国郵便規則の一部改正

戦後外国郵便料金は何度も改訂されてきたが、今回は大きな内容を含んだ改正であった。

(1)航空扱いとする通常郵便物の取扱いと料金

イ. 従来の普通料金と航空増料金とを合計した二本立て料金が併合した料金体系に改められた。

ロ. 従来第1地帯に属していた朝鮮及び琉球諸島が別個の地帯として分離された。

八. 取扱方改正

普通取扱いの通常郵便物を差出すには、郵便差出箱に差入れなければならない（外国郵便規則第29条第1項）。

航空書簡及び航空扱いとしない年賀特別郵便物は、郵便差出箱に差入れることができる（同条第2項）。

二. 年賀特別郵便の取扱は、琉球諸島との間に発着する通常葉書についてなされる特殊取扱の一つで、航空扱いとすることができる。

内国郵便における年賀郵便はお年玉付き郵便葉書に対する低料料金は適用されず、一般通常葉書の料金が適用される。これらの郵便物には表面に『外国年賀』の朱記がなければならない（第30条、第58条の7）。



図56 住吉27.1.1

図56は『外国年賀』とペン書きした琉球諸島宛の27年のお年玉付き郵便葉書の使用例で、一般通常葉書料金5円が適用されている。

【琉球諸島との年賀郵便取扱いの略歴ほか】

26年12月1日

従来第1地帯に属していた琉球諸島が別個の地帯として分離され、「朝鮮、琉球地帯」となった。本邦と琉球諸島との間に年賀特別郵便制度が制定された。これらの郵便物の表面に【外国年賀】の朱記がなければならない。年賀特別郵便とする通常葉書の料金は国内通常葉書料金と同じ5円とする。書状の年賀特別郵便の取扱いは許可されない。

図56は【外国年賀】を手書きした27年の年賀葉書である。

27年3月25日

「北緯三十度以南の南西諸島」を「琉球諸島」に改める。

27年4月28日

本邦と北緯二十九度以南の南西諸島（琉球諸島及び大東諸島を含む）との間に発着する郵便物は外国郵便物とみなす。

28年7月1日

外国宛航空郵便地帯に「琉球地帯」、名あて地域は「北緯に十九度以南の南西諸島」となった。

28年12月1日

琉球宛年賀特別郵便物の引受が12月1日から開始された。一般通常葉書の料金5円は引き続き適用された。書状の年賀特別郵便の取扱いが開始された。

28年12月25日

外国宛航空通常郵便物の料金中、「北緯二十九度以南の南西諸島」を「南西諸島（琉球諸島）」に改める。

30年11月15日

琉球諸島宛年賀葉書の料金は、12月1日から翌年1月10日までの間に差出されたものについて、航空扱いとするものは24円、航空扱いをしないものは4円となった。

31年12月1日

本邦琉球間年賀郵便物の表示が、国民感情を考慮して【特別年賀】に改められ、32年度から施行されることになった。（出所：筆者『お年玉付き年賀葉書を集める』平成21年1月刊、77～80ページ）

年賀郵便への『外国年賀』『特別年賀』表示に対する投稿文から1例を示す。

日本琉球間年賀特別郵便物の表示について

従来琉球と貴庁間に交換する年賀特別郵便物は「外国年賀」の表示を有することになっておりますが、「外国」の字句が特殊な環境下にある当地住民の感情をすくなく害し、別の適当な字句に変更すべきだとの声が高いので、当庁は今年から右郵便物の表示については、単に「年賀」に止めることを提案いたします。（同題、琉球政府工務交通局長発、郵政省郵務局長あて、琉工郵第180号、昭和31年4月25日）

（出所：中央郵政研究所編『郵政事業研究部事業研究報告書』総説第4分冊上（昭和32年）155～157ページ。以下「研究報告書」と書く。）

第6章 昭和27年以降における郵便事業経営問題と郵便諸制度

昭和26年6月と11月、社会経済の状態に実体的に即応するよう郵便法及び郵便規則が大改正されたことを説明した。

この郵便法及び郵便規則の改正は、郵便事業経営の安定に法的根拠、保証を与えたもので、従前の赤字経営から脱却し、収支の均衡のとれた経営をもたらし、いわゆる「郵便事業安定期」に入ってきた。27年以降における郵便法及び郵便規則改正に伴って創設された諸制度を引用する。

（以下、27年以降の国内郵便事業を示す郵便物数の動向が纏められている（「研究報告書」168～296ページ。）

第1節 27年以降の郵便物数の動向

26年11月1日の郵便料金の引き上げと郵便物取扱量の増加とによって経営問題が回復してきた。種類別通常郵便物数の増加は以下の通りであった(表3、表4)。

年度	第1種	第2種	第3種	第4種	第5種	その他	合計	特殊通常	総数
26年	714.6	1,538.0	464.6	8.2	449.5	554.6	3,729.5	133.2	3,862.7
27年	693.5	1,395.0	480.6	9.9	520.9	592.9	3,692.8	139.7	3,832.5
28年	751.4	1,417.8	537.8	12.1	682.5	656.2	4,057.4	155.0	4,212.4
29年	800.3	1,457.1	567.4	16.2	771.5	706.1	4,318.6	158.6	4,477.2
30年	850.7	1,515.1	596.5	14.8	852.7	764.4	4,594.1	166.2	4,760.3
31年	896.3	1,638.4	618.5	15.5	961.6	834.4	4,964.7	186.6	5,151.3

表3 種類別普通通常郵便物数 (百万通)

26年11月1日の郵便料金値上げで、27年度の取扱郵便物の種別中、第1種と第2種郵便物の取扱通数が減少した。取扱郵便物通数が回復するのは、第1種郵便では28年、第2種では31年以降となった。第2種の取扱通数が増加しなかったのは料金が2円から5円になったからであったことがわかった。

年度	年賀	選挙
26年	535.7	18.9
27年	576.2	16.7
28年	634.3	21.9
29年	694.2	11.9
30年	741.4	23.0
31年	817.4	17.0

表4 年賀と選挙郵便物数 (百万通)

郵政局	27年度	31年度
東京	153.5	361.3
長野	12.3	21.4
名古屋	33.9	71.3
金沢	8.9	15.4
大阪	81.0	188.1
広島	19.7	39.7
松山	10.7	19.2
熊本	26.2	56.0
仙台	18.7	35.2
札幌	17.7	32.1
普通局計	382.6(83%)	839.7(87%)
特定局計	79.3(17%)	121.9(13%)
総計	461.9	961.6

表5 郵政局別普通局引受の第5種郵便物数（百万通）

（出所：同44表。27年度には26年度の通数の1部を合算したため、表1の数字とは一致していない。）

他方、第5種郵便は第1種から第4種までを除く全ての郵便物として26年11月に種別変更された。第5種郵便の取扱通数は、30年には第1種郵便取扱通数と同数に達するほど増加した。第5種郵便物の取扱通数の増加を各郵政局別・普通局／特定局別の、27年と31年の表がある（表5、表6）。

年度	通常郵便物	別納	後納	別納・後納計
27年	3,832 (100%)	642	231	873 (23%)
28年	4,212 (100%)	741	305	1,046(25%)
29年	4,477(100%)	768	278	1,046(23%)
30年	4,760(100%)	791	307	1,098(23%)
31年	5,151(100%)	968	333	1,301(25%)

表6 通常郵便物中の別納と後納の割合（百万通）（出所：同45表から）

以上4つの表から昭和27年以降の取扱郵便物の種類体系に大きな変化が生じてきたことがわかる。郵便の種別中、第5種郵便物の取扱通数が第1種郵便物のそれを超えて増加してきた。特に東京、大阪、名古屋、熊本郵政局など産業活動が盛んになってきた地域で謙虚に見られることになってきた。また、取扱う郵便局の種類では、普通局での引受比率がより高くなってきた。

さらに通常郵便物のうち大口利用者が差出す別納・後納郵便物の通数が4分の1を占めるなど、第5種郵便物の取扱いに大きな傾向が出始めてきた。26年6月1日施行の郵便法・郵便規則の改正で、従来の保険扱制度に代わって現金書留郵便制度が生まれ、26年11月1日に現金書留料金が低廉化され、年とともにその取扱数が激増した。他方、これまで便利に利用されてきた普通為替であったが、現金送金の利便性から次第に現金書留に取って代わった（表7）。

年度	有料書留A	有料現金書留B	A/B
27年	62.4	10.7	85/15
28年	73.4	18.5	80/20
29年	77.7	23.2	77/23
30年	80.6	26.3	75/25
31年	92.3	31.6	74/26

表7 現金書留郵便の取扱い通数（百万通）（出所：同47表から）

第2節 郵便業務の正常運行

これまでの郵便業務の正常運行対策は郵便施設十分な裏付けのない困難な事情のもとで一般的、部分的に行われてきたが、郵便事業経営の軌道に乗るようになってきた昭和27年以降は、正常運行対策が恒常的または全般的な運行業務に代わってきた。

筆者の「戦後の郵政資料」の中に採録し損なったが、27年9月施行の「郵便物集配運送計画規程」がある。それを教えてくれたのは、『郵便創業120年の歴史』にあった。以下に引用する。「昭和13年制定の郵便集配運送規程をはじめ関係規程、通達を統合し、新たに郵便物集配運送計画規程を施行した。郵便区、集配度数、集配区画、集配時刻、郵便線路など、集配・運送計画の基本基準となる事項を定めた重要な規程である。この改正で、明治以来郵便線路につけられていた等級制が廃止された。」（同「第2部郵便創業120年の歩み」昭和27年、151ページ）。

そこで、27年以降の正常運行対策の一つとして採られた速達郵便の完全正常運行が纏められている。（『研究報告書』199ページ）。

速達郵便完全正常運行

昭和27年度の重点的施策として速達郵便の完全正常運動が採り上げられた。これは速達郵便物の局内滞留時間の短縮、速達託送便の新設、現在定員内での集配施設の強化、速達単独集配便の設定、郵便区の調整、一便所要時間の短縮および配達回数の増回等を行い、また速達部門への優先的欠員補充、優秀技能者の配置、物数に応じた機動的な要員配置などを強力に行ったもので、現業幹部は以上の諸点について常時点検することを義務づけられたのである。そして各郵政局で作成した速達運行郵便発着時刻表により、引受当日に配達となる地域を取扱地域として「即日速達」制度を定め、同年10月1日から実施の予定のところ、同時期に総選挙が行われることとなったため、その周知宣伝効果のために11月1日に延期して実施され、活発な宣伝活動を前奏曲としたものであった。この郵便物には取扱上の便宜と、対外宣伝を兼ねて、奇数日引受のものには角形、偶数日引受のものにはだ円形の「即日速達」印が押捺された。（同199ページ）。

「即日速達郵便」制度に

ついては後述する。「速達郵便物運行図」がいくつかの地方郵政局報に図示されているが、ここでは広島郵政局報（第459号）掲載の図を示す（図57）。

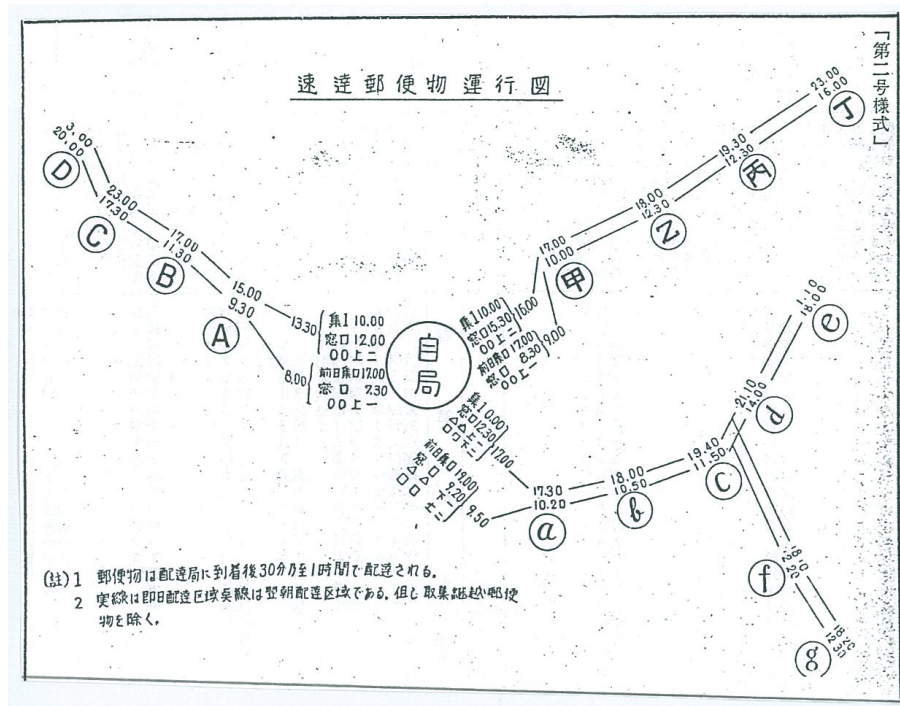


図57 速達郵便物運行図（第二号様式）

第3節 郵便事業の増収対策

毎年種々の増収対策が行われてきた。国内外の経済社会の発展の中で昭和27年以降の郵便事業収支は好転してきたが、反面施設関係、輸送関係での不備不足がまだ残っている一方で、物増に伴う定員増はみられず慢性的な非常勤職員の採用で定員数を補ってきた。その経費の内に占める人件費の割合が非常に高い、しかも全国的規模にわたっている郵政事業では、オートメーション、新技術の導入を方向に進んでいる産業に比べて、技術的停滞性を抜けきらないでいた。郵便事業への新技術の導入による人件費の削減はまだ進んでいなかった。昭和27年以降、時代に即した増収対策が行われたが、従前のような新記念切手の発行はなく、お年玉付き年賀葉書と暑中見舞用葉書の発行があった。

1. お年玉付き年賀葉書の発行

昭和24年度に増収対策に一環として始められたお年玉付き年賀葉書は、利用者の間で習慣的となってきた。昭和27年には発行枚数が不足するほど売れた。そのためお年玉くじの付かない4円葉書を合せて発行することにした。料金サービス（1円安く販売）と長期的な通信培養を計って年賀葉書のみを4円にしたものであった。」（『研究報告書』197ページ）。

お年玉付き郵便葉書に付けられた寄付金の問題に関連して、昭和31年には寄付金を付けない4円年賀葉書にもお年玉くじをつけたため、5円の寄付金付き年賀葉書が約500万枚も売れ残る事態も起きた。年賀用葉書の発行枚数と年賀葉書の差出数をまとめた表がある（同53表、197ページ）（表8）。

2. 暑中見舞葉書の発行

暑中見舞葉書に昭和25年以降毎年発行されてきたが、夏期の官製葉書の引受数が増加するにつれて、発行枚数を増加してきた（同55表、198ページ）（表9）

3. 寄付金付きお年玉付き葉書に対する印刷業務の受託

「26年年賀用郵便葉書の大口利用者に対して低廉な料金で葉書の裏面への委託印刷の引受を、27年用寄付金付き年賀葉書にも受託するよう各地方郵政局にも通達した。申込受付期間は8月1日から9月末日まで、取扱数量は1件5千枚以上とした。

版式は原則としてオフセット印刷（都合により凸

版印刷とすることがある）、刷色は赤、青、緑の三度刷以内とする。」（同196～197ページ）。

当時、郵政省の印刷技術は高度な水準にあったから、年賀葉書の大口利用者への印刷受託による増収策の一つになった。27年の委託印刷費は以下の通りであった（表10）。

年度	寄付金付き葉書	4円葉書	差出年賀郵便物
27年	350.1	100	576.2
28年	400.0	100	634.3
29年	480.8	100	694.2
30年	521.7	100	741.4
31年	415.0	300	817.4
32年	450.0	250	—

表8 年賀用葉書の発行枚数と差出年賀葉書の引受数（百万枚）

年度	官製葉書引受数	増加率%
27年6～9月計	250.1	100
28年6～9月計	339.2	135
29年6～9月計	375.8	150
30年6～9月計	386.7	155
31年6～9月計	423.2	169

表9 夏期官製葉書引受数（百万枚）

区別	1度刷	2度刷	3度刷
5千枚から2万枚未満	15銭	22銭	29銭
2万枚から10万枚未満	13銭	20銭	27銭
10万枚以上	11銭	18銭	25銭

表10 27年の委託印刷費

第4節 郵便諸制度の設定

27年2月11日 鹿児島県大島郡十島村の日本復帰に伴う郵便業務の取扱

（これは郵便諸制度の項に含めるべきものではないが、当時の郵便制度上、あるいは政治・行政的な事情から、後述する「琉球諸島」をどのように位置づけられていたかを公報から引用しておきたい。）

「鹿児島県大島郡十島村の区域で、昨年12月5日以降日本に復帰した北緯二十九度から同三十度までの間にある地域（宝島、悪石島、諏訪瀬島、平島、臥蛇島、中之島口之島及びこれらの諸島に近接する小島以下「十島村」という。）における郵便業務については、自来暫定的に従前の法令が適用されてきたのであるが、今般鹿児島県大島郡十島村における郵政事業及び電気通信業務に関する法令の適用及びこれに伴う経過措置に関する政令（昭和27年政令第20号）の制定によって、来る2月11日以降は、日本の郵便法が適され、同地域は郵便法令上鹿児島県として取扱われることになった（中略）。なお、右に伴って、外国郵便規則の一部が改正（北緯三十度を北緯二十九度と改正）されたから併せて了知ありたい。

第2条第5号を次のように改める。

5 北緯二十九度以南の南西諸島

付 則 この命令は、公布の日から施行する。

（郵政公報号外第3号の郵業第36号及び同郵政省令第1号より）

27年4月1日、11月1日 「即日速達郵便」の取扱開始

その沿革は、25年1月10日から試行するとして名古屋郵政局（局報第79号）が最初で、次いで25年4月1日試行の広島郵政局（局報第75号）が発表されている。

郵便物の正確、迅速な取扱による郵便サービスを提供し、利用者への信頼と利用促進を図ってきた当局は、「その日のうちに確実に配達せられる地域相互間に発着するもので、引受局において定める窓口締切時刻までに当日差出されたもの」を「即日速達」郵便として取扱うことになった。

「即日速達」郵便の全国実施に先駆けて、東京郵政局が4月1日から取扱開始され、11月1日から全国実施された。取扱い制度については前述した通りであるが、引受日が偶数日と奇数日によって異なる印影を使用することになったのは、奇数日引受の即日速達郵便物が偶数日に配達された場合、翌日の到着＝遅延を一見して発見することができるからであった。即日速達郵便物の遅延は、当局に対する利用者からの信用問題になる他、速達料金還付を生じる恐れがあることでもあった。

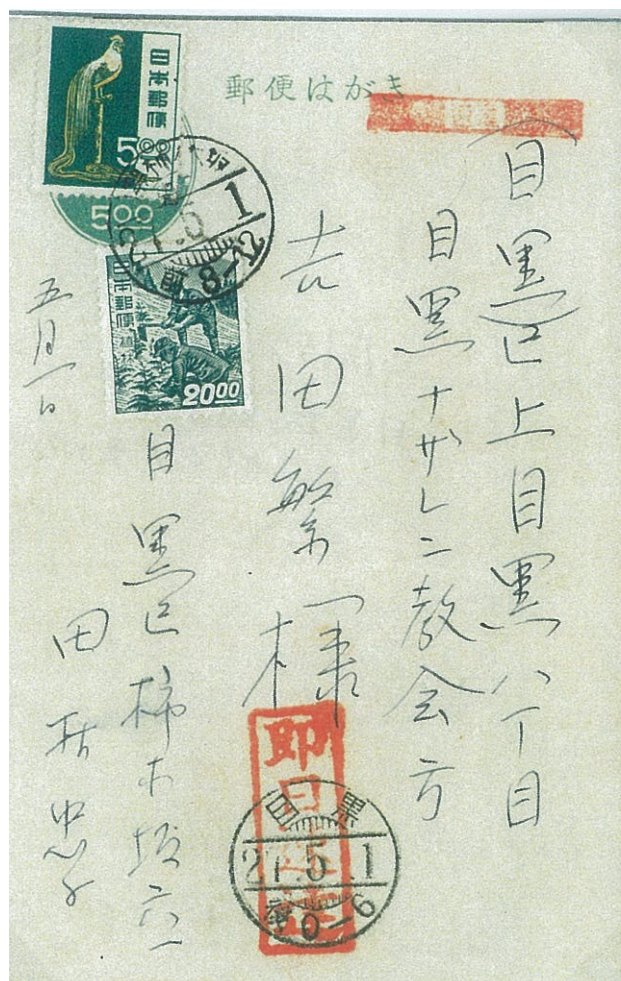


図58 目黒柿ノ木坂27.5.1 前8-12

角形とだ円形の「即日速達」印は各地方郵政局ごとに調製したため、寸法に若干の差異が見られる。差異のある各地方郵政局調製の即日速達印については、筆者「即日速達郵便の証示印を集める」を参照されたい（『切手研究会創立60周年記念論文集』2012年4月28日刊、214～224ページ）。

図58は東京郵政局管内の目黒柿の木坂27年5月1日引受の、同一地区内宛で、目黒局には同日後0-6に配達された。奇数日引受のため角形印が使用されている。

27年4月10日 外国郵便用「欧文三日月印」の使用開始

外国宛郵便物の引受に使用されてきた欧文櫛形印には時刻を示す枠がなかった。外国宛郵便物の引受通数が増大してきたため、郵便物の取扱時刻を明らかにすることが必要になってきた。

外国郵便の取扱に使用する時刻活字入り日付印が、昭和27年4月1日より東京中央、横浜局、大阪中央局、神戸中央局、博多局及び東京中央局羽田分局の交換局6局に公布された。

第533条但書 外国郵便においてのみ使用する通信日付印の時間は、次の時間の最初の時刻をもって更植しなければならない。

0-8 8-10 10-12 12-14 14-16 16-18 18-20 20-22 22-24。

27年4月10日付け郵政公報第714号中の告示第102号及び公達第38号から印影を引用する（図59）

新しい欧文通信日付印（三日月印）の形式は、印の上段に局名、中央枠内に日付と時刻、下段に国名JAPANとなっており、中央の日付と時刻枠の上下に空白部があり、それが三日月形となっていることから、「三日月印」と収集家の間で呼ばれている。

欧文三日月印は昭和27年12月1日から交換局以外の90局に交付されたことが、関 雅方氏によって『消印とエンタイア』誌第9巻22ページに発表されている。その90全局の印影が通信博物館資料室の保管されていることを聞いたことがあったが、見つけれなかった。

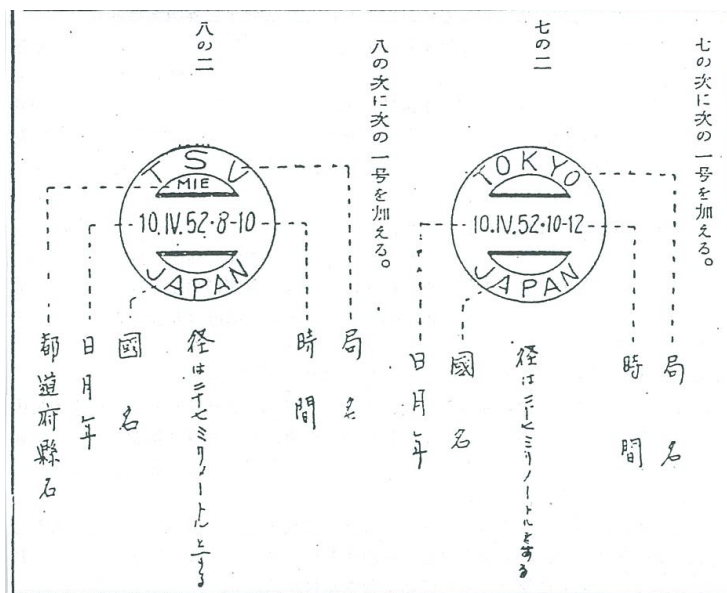


図59

その90全局の印影を納めたフィルムコピーを6年程前に手に入れることができた。コピーの印影は関氏が『消印とエンタイア』に発表されている全局名と一致している。コピーには交換局6局の印影も含まれている。誌面の都合もあるので、そのうちの何局かを掲載する（図60）。全90局名は以下の通りである。

日本橋、京橋、神田、芝、帝国ホテル内、渋谷、浅草、麹町、麻布、下谷、新橋、京橋通、両国、日本橋通、小伝馬町、浦和、前橋、千葉、神奈川、横浜中、横須賀、水戸、日光、宇都宮、箱根宮ノ下、大宮、甲府、軽井沢、長野、新潟、名古屋東、名古屋中、千種、津、静岡、清水、岐阜、金沢、福井、富山、大阪東、北浜、大阪南、阿倍野、東成、都島、大阪福島、大正、住

吉、灘、京都中央、中京、奈良、大津、和歌山、田辺、広島、広島駅前、鳥取、山口、松江、岩国、呉、岡山、下関、松山、徳島、高松、高知、熊本、大分、門司、佐賀、長崎、別府、雲仙、佐世保、宮崎、鹿児島、仙台、福島、盛岡、青森、山形、秋田、釜石、札幌、函館、小樽、千歳。

なお、全90局の印影は拙本『戦後の郵便エンタニアと消印』（戦後の郵政資料第6巻）の「13 欧文三日月型日付印の使用開始」122ページ〜）に掲載している。



図60 欧文三日月印の印影

27年4月28日 外国郵便規則の一部改正（南西諸島の取扱い）

外国郵便規則（昭和25年郵政省令第13号）の一部が次のように改正された。

第2条 本邦と北緯29度以南の南西諸島（琉球諸島及び大東諸島を含む。）、孀婦岩の南の南方諸島（小笠原群島、西之島及び火山列島を含む。）並びに沖の鳥島及び南鳥島との間に発着する郵便物は、外国郵便とみなす。

第8条の7中 「琉球諸島」を「北緯29度以南の南西諸島（琉球諸島及び大東諸島を含む。）に改める。

付 則 この省令は、日本国との平和条約の最初の効力発生の時から施行する。

（郵政公報第728条に掲載の郵政省令／経済安定本部令第4号より）

27年7月1日 郵便料金計器別納制度の設定（通達）

「今般、郵便規則及び郵便取扱規程の一部改正せされ、7月1日から施行されるが、これは、郵便局における窓口引受事務の簡素化と差出人の利便を計る目的で郵便料金納付方法の一つとして新たに郵便料金計器（以下「計器」という。）を使用して差出郵便局の料金を別納する制度即ち料金計器別納制度を設定のため関係規定を改正した。

1 制度の概要

料金計器別納の制度は、郵便物の差出人においてあらかじめ差出郵便局にその差出郵便物の料金及び特殊取扱料金にあてるべき一定の金額を納付して、自己の所持する計器がその一定金額に達するまで、郵便物に納付郵便料金額を表示することができるように装置をしてもらい、郵便物の差出の際、計器により郵便物に郵便料金納付の証として納付郵便料金額等を表示し、このため計器に計示された額の金額を予納金のうちから徴収する制度である。

2 郵便物の差出方

料金計器別納郵便物には、その表面に計器により納付郵便料金額、差出郵便局名、差出年月日並びに計器の略称及び番号を表す印影を明りょうに表示しなければならない。料金計器別納郵便物は、印影にあらわされた日に差出すこと。

3 郵便物の引受方

料金計器別納郵便物には、通信日付印を押なつしないこと。」

(郵政公報号外第18号に掲載の郵政省令第11号より)

認可した最初の郵便料金計器のメーカー名、計器の型及び施行日が郵政公報（郵政省告示第357号）に発表されている。

郵政省告示第357号「郵便規則（昭和22年逓信省令第34号）第45条の2第3項の規定に基き、認可した郵便料金計器は、次のとおりである。但し、始動標札には、簡単な図案を施すことがある。この告示は、昭和27年9月10日から施行する。」

同告示には3社・3タイプの印影が掲示されているが、最初の計器とその印影（図61）を示す。

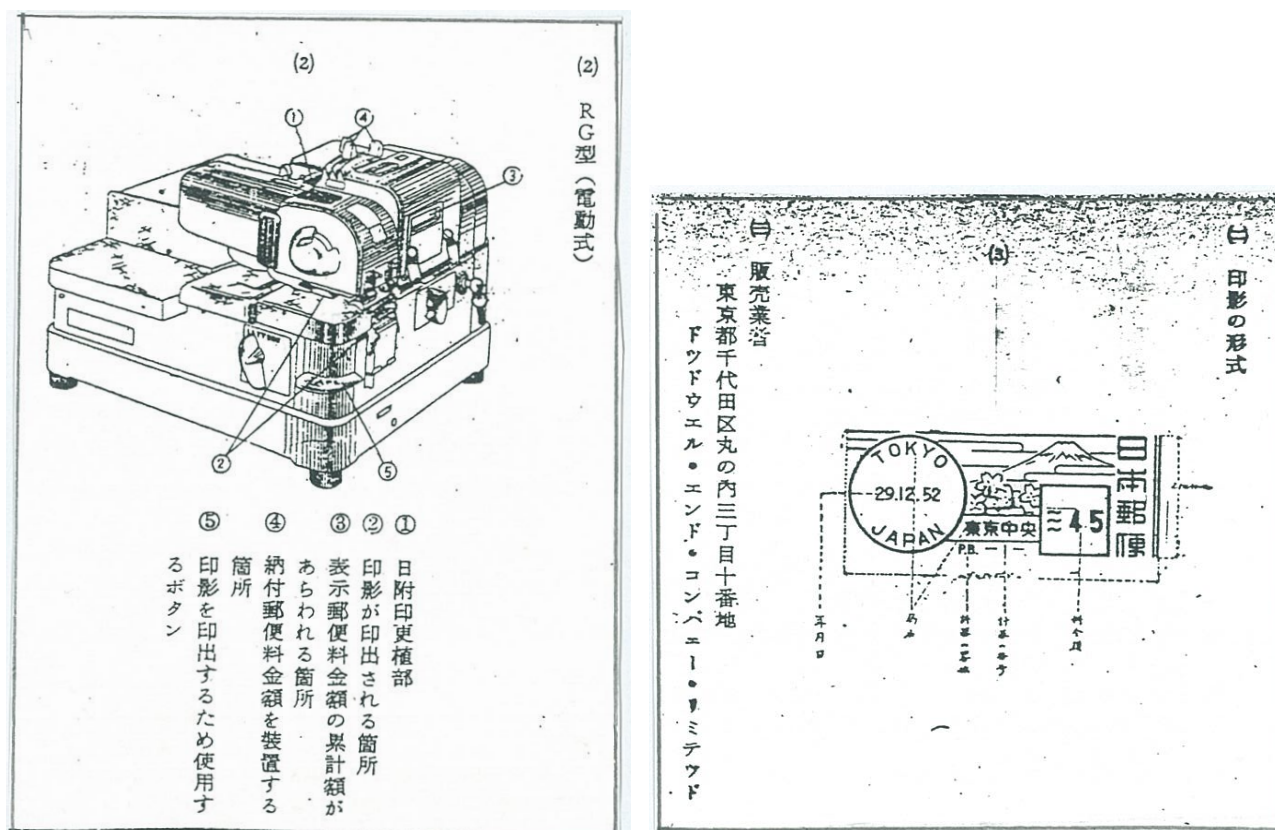


図61 左：ドッドウェル・エンド・コンパニーリミテッド社のRG型、右：印影の形式

27年10月1日 消印困難郵便物用日付印の使用開始
消印困難な外国宛郵便物に限って使用する普通日付
印の形式が、次のひな形のように定められた（外国
郵便取扱規定第530条）（図62）。

ここに言う「消印困難郵便物用日付印」とは「外国
郵便使用回転式日付印」つまり、収集家の間で呼称さ
れている欧文ローラー印のことである。

この回転式日付印の使用局については、関 雅方氏
が『消印とエンタイア』第9巻(61)に報告されてい
る。

「回転式日付印（欧文）が近く左の25局に交付される。

東京中央、東京中央羽田、日本橋、神田、芝、京橋、帝国ホテル内、横浜、名古屋中央、名古屋東、大阪中央、大阪東、北浜、神戸中央、京都中央、中京、和歌山、下関、門司、博多、長崎、鹿児島、仙台、札幌、函館。

新調品は、横二区二段、年月日中、月、日は更植、年月日は彫込みである。」

（以上昭和27年まで）

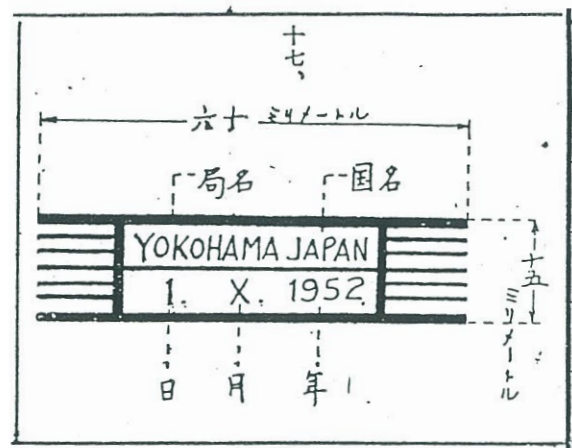


図62

コレクションの創り方

The Philatelist Magazine 第3号のオンラインアンケートで、最も大きな反響を頂いた記事は「切手展向けリーフの作り方」でした。そして、この結果は編集者にとりたいへん意外でした。フリーコメントを見ていくと、リーフ作りの記事といえども今まではソフトウェアの解説書のような内容しかなかったのに比べて「考え方」や「概念」など根本にあるものを示した上で「コレクションの創り方」を示していることに、読者の支持があることがわかりました。そこで第4号以降「コレクションの創り方」をコーナー化しております。

「コレクションの創り方」は必ずしもリーフ作成だけにとどまりません。収集対象の取捨選択や、マテリアルの研究方法・情報交換方法、切手の整理・処分等多岐にわたります。次号以降も様々な記事を掲載して行きたいと思いますので、ご期待ください。

切手市場の楽しみ方 第3回

和欧文機械印の短期間使用を探す

行徳 国宏

JAPEX2014への初出品

北野 雅利

STAMPEDIA図入り国別リーフの使い方

木戸 裕介

画像付きエコー葉書データベースの使い方

吉田 敬

切手市場の楽しみ方 第3回

和欧文機械印の短期間使用を探す

行徳 国宏

和欧文機械印は昭和43(1968)年12月1日から使用開始されることになった（郵政省告示第999号）。この機械印の使用目的は「郵便物自動取揃押印機による押印作業において、収集郵便物に含まれる外国郵便物にちょう付された郵便切手が、色検知用のものである場合には、自動的に内国用通信日付印が押印されることとなり、外国郵便物としては、違則の取扱いとなるため、これが対策として内国郵便物および外国郵便物共用の通信日付印を採用し、郵便物自動取揃押印機による収集郵便物の能率的処理をはかるためである」（43年11月29日付け郵政公報第3587号）。

その印影は上から順に、局名／都道府県名／（左から）日、月、年、時間／JAPAN／英文局名であった。

集配郵便局郵便取扱規程等の一部を改正する公達第61号で、この機械印に昭和元号が入ることになり、昭和54年(1979)年9月1日から全国の使用局で一斉に切換えられた。

その印影は上から順に局名／元号年／（左から）年、月、日、時間／英文都道府県名／英文局名となった。最初の機械印との違いは、①日付が左から年／月／日／で、西暦年数字が下2桁表記、②国名JAPANに代って英文都道府県名となったことである。

この新和欧文機械印の改正施行日の1979年9月1日を基準として、この改正日前の79年4～8月中にこの旧機械印を稼働開始した局が18局あることが発表されている。これらの局は9月1日までの使用期間が短いため、エンタィア、使用済とも入手が難しい局として知られている（鈴木盛雄氏「和欧文機械印上、中、下「現行消印解体白書」（『郵趣』2010年11、12月及び2011年2月号）。

この使用局18局の収集とは別の角度からこの機械印を収集する方法があり、現に実行されておられる方もある。それは対象が難使用局そのものではなく、79年7～8月の2ヶ月中に発行された記念切手をこの和欧文機械印で収集するというものである。この短期間に発行された記念切手、ステーションナリは以下の通り（発行順）。

- 7月2日 54年用暑中見舞葉書
- 7月14日 検疫制度百年記念
- 7月23日 ふみの日 20円、50円
- 7月27日 都市対抗野球大会記念
- 8月1日 国際児童年 2種と小型シート
- 8月24日 日本の歌シリーズ第1集2枚

7月中の4種及び8月中の2種とも、記念切手ゆえに発行後は速やかに郵便に使用されていて、改めて初期使用例などと言う必要はない。使用済も水剥がしされたものが残されている。

その中で、国際児童年2種と日本の歌シリーズ2種はともに、印面が濃い刷色のため、機械印が印面上に満月に押印されてしまうと、使用局のデータが見えにくい。とりわけ、日本の歌シリーズ2種の元号なし和欧文機械印の該当使用期間は8月24日から31日までの8日間しかなく、和欧文機械印を収集されておられる方の間で使用期間が短い記念切手として知られている。この2種を取上げるが、満月に近い消印であるほど、判読に苦労している。

本文で収集対象にしている6種類を使用済単片（暑中見舞葉書を除いて）で手に入れるのは最も簡易な方法である。水剥がしされたものが多く残されているからである。その中では切替り日の9月1日より近い日に発行された国際児童年2種と日本の歌シリーズ2種の9月1日前の使用エンタニアの入手には、以前から関心と注意をしていたおかげで、簡単に手に入っていた。以前目白で行われていた「切手市場」に記念切手貼のエンタニアが多く持ち込まれていたが、記念切手貼のエンタニアを買う人はほとんどいなかった。

暑中見舞葉書だけはブースでは見つからなかったが、幸い自宅宛に届いた暑中見舞い期間中のものの中の1通が和欧文印使用だった。

ふみの日の20円と50円切手貼も自分宛のものだったが、20円切手使用はまだそのままになっている。50円切手貼の方はかなり多く使用されている。

検疫制度百年記念と都市対抗野球大会記念は7月発行であり、9月1日前までは1ヶ月以上もあるので、和欧文機械印使用のエンタニアも使用済も容易に手に入る。記念切手は一般の利用者が郵便に使用しているので、エンタニアの束を見たときは、日付を注視すれば容易に見つかる。

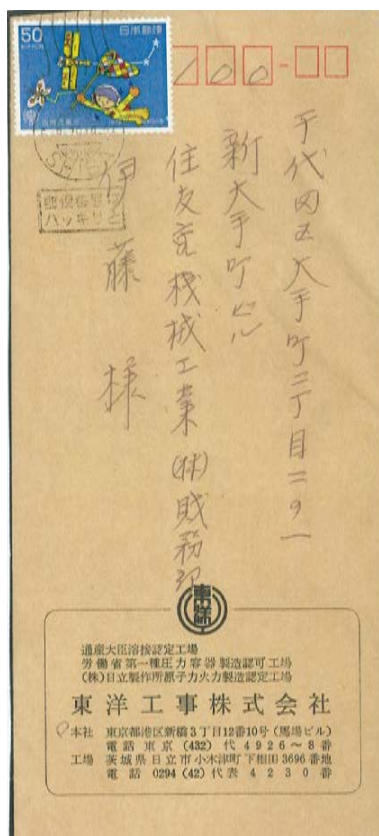


図1 芝 6.8.79.

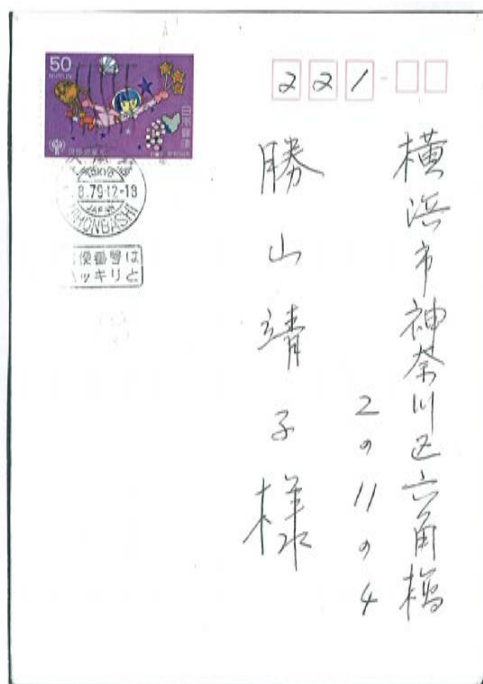


図2 日本橋 6.8.79.

国際児童年2種の該当期間は1ヶ月間であるが、割合見つかる(図1、図2)。

他方、小型シートからの切り離し使用は実際にはかなり難しかった(図3、図4、次ページ)。もちろん、9月以降の使用例の方は多かった。

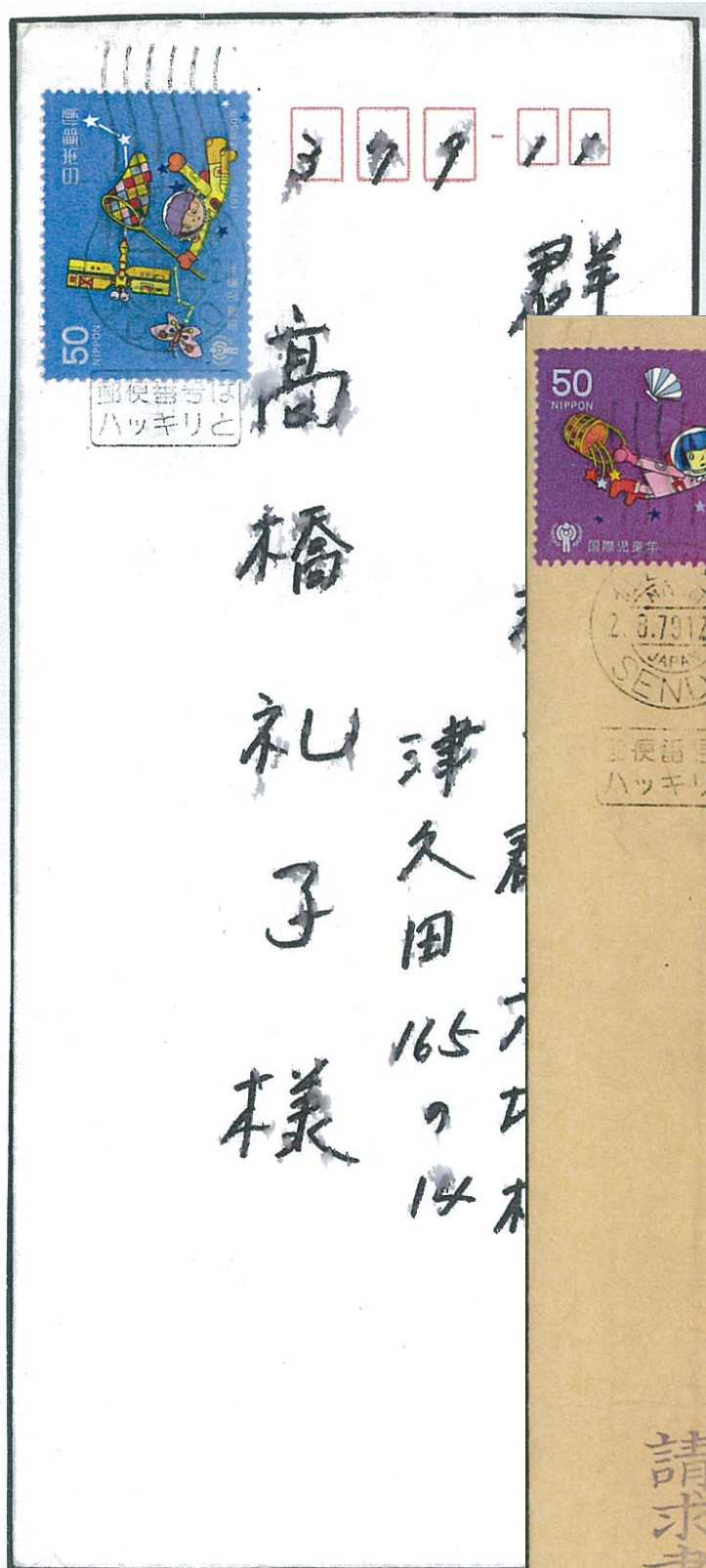


図3 東京中央 8.8.79.

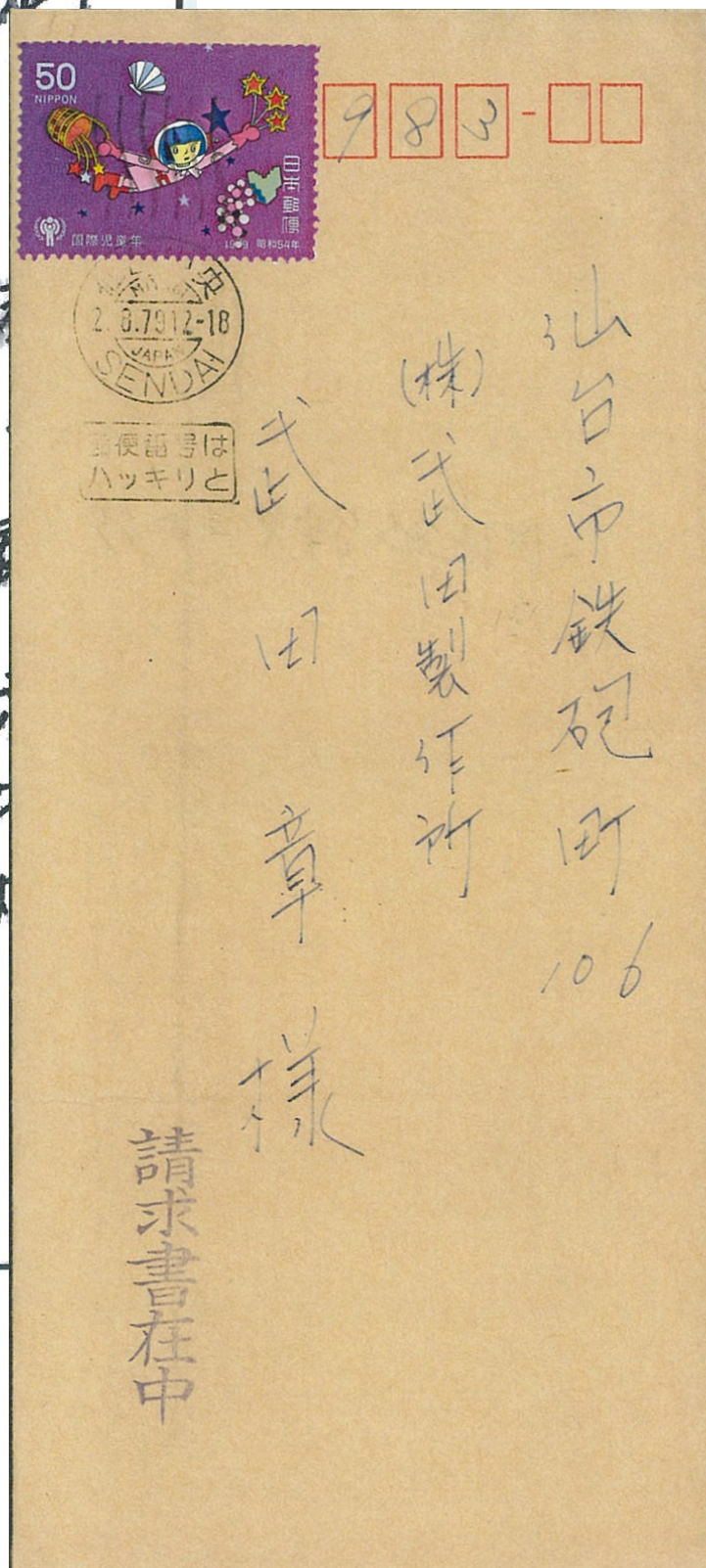


図4 仙台中央 2.8.79.

日本の歌シリーズ第1集は8月24日の発行であり、使用期間は実質8日間しかない。

図5は白封筒のままボックスに入れられていたもので、初日日付印。図6はご覧の通りの郵便家便である。

国際児童年2種、小型シートと日本の歌シリーズ第1集2種切手はどれも濃い刷色のため、和欧文機械印が満月に押印されると、元号なしと元号入りで判別するのは難しくなる。国名JAPANが見えれば、下段は英文局名だから、これだけで十分であろう。

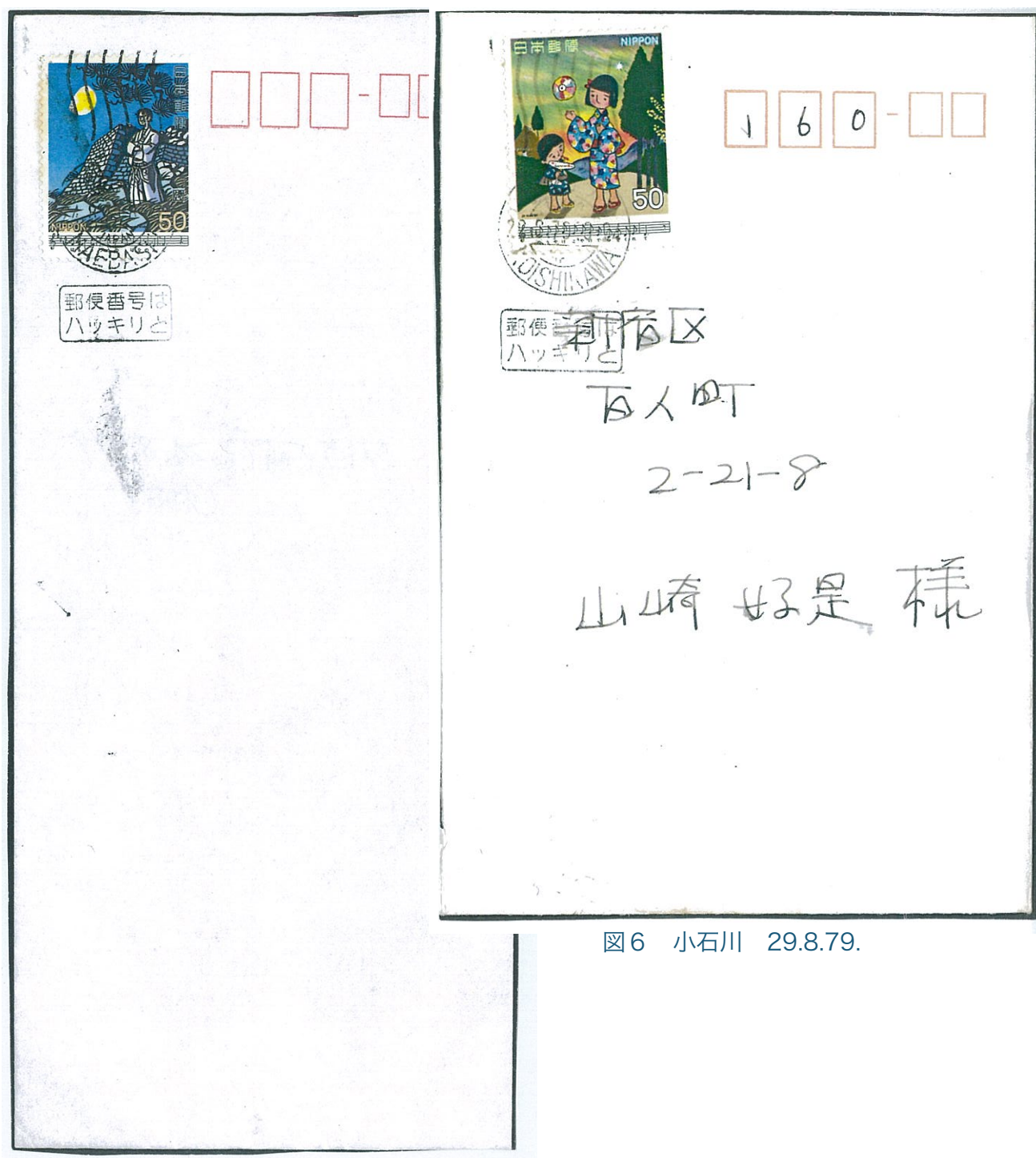


図5 前橋 24.8.79. (初日)

図6 小石川 29.8.79.

JAPEX2014への初出品

北野 雅利

はじめまして。当方1965年生まれ大阪在住の会社員で、JPSスタンプクラブ世代です。

学生の頃は熱心に切手収集をしていましたが、社会人になってからは休止状態で、結婚の頃には完全に撤退、処分してしまいましたが、数年前より世界の近代史や文化、経済等に興味が出てきて、その影響から切手に対する興味も再開しました。

フィラテリストマガジン号外「全日本切手展に行こう！＜直前特集＞」（図）の影響もあり、初めて切手展の為に東京に行きました。結果的に行って良かったと思いました。同時に少年時代に憧れだった、元JPSスタンプクラブジュニア編集委員の方々が大変な御苦労や御活躍されているのに対して、自分もこのような場に参加してみたいと思い、大阪への帰り道に3か月後のJAPEX2014への出品を考え始めました。



しかしながら切手収集そのものはこの時点で再開しておらず、インターネット上の切手や郵趣関係の記事の閲覧や大阪で開かれる切手展の参観、郵趣古書の細々とした購入に留まっていた。この段階で郵趣用品は勿論、切手も一枚も持っておらず、かなり無謀な考えだったと思います。切手収集その物を再開していなかった理由は、コンディション維持の問題、自分の老後や興味を再び無くした時の処分等ありますが、そもそも高価な切手を入手しなければ余り問題では無いと考えました。

とは言うものの、出品の締め切りを考えると時間は約2ヶ月しか無く、有るのは数十年前の郵趣知識と全日展影響の余韻です。とにかく始めるしかありませんが、テーマは比較的短時間で決まりました。

- 1・コストも含めて、入手が容易な切手
- 2・数十年アルバムを作っていないので、ワンフレームが限界
- 3・パソコンやプリンターでのリーフ作成も初めてなので、レイアウトの容易なテーマ
- 4・出品する以上、入選・入賞を目指す

スタンペディア・プロジェクトが目標の一つとしている「30年後の郵趣人口の確保」について、何か協力やアイデアが出せないかと考えた時、やはりジュニア収集家の確保、育成は大切なテーマ

の一つですが、僕自身残念ながら良い方法は思いつきません。正直な所、トレーディングカードやアニメーショングッズ等を集めている現代のジュニアに、切手収集を指導するのは相当な困難な事と思えます。僕自身がそうであったように、収集人口減少の延命処置として、JPSスタンプクラブ世代の方への、復活組や予備軍へのPR作品を考えました。そういった方々が切手展を見に来ているかはともかく、出品した作品は、「フランス美術と切手趣味週間」～両国切手の関連と変遷・1955-74～です。

少し古い収集家の方ならご存知の通り、「フランスの美術切手シリーズは、日本の切手趣味週間ビードロを吹く娘に多大な影響を受けて・・・」の都市伝説的な話を作品化したもので、両国の切手その物の美しさや素晴らしさを見て頂ければと考えました。

切手の入手やアルバム作成の詳細な話は省略させていただきますが、郵趣用品も含め入手自体は全てネットの通販とオークションを利用し、アルバム作成はフリーソフトのOpenOfficeを利用しました。

リーフに関しては、私製や市販のA4用紙を使っている方も最近は多いようですが、自分は少年時代の憧れと普及拡大を願ってJPS用品の＜ボストークリーフ＞パソコンリーフB（無地・綴じ穴なし）を使い、苦戦しながらも何とか作品を出品する事ができました。



5リーフ

少し気になった件は、綴じ穴なしの無地で厚みが有る用紙のリーフが、今のラインナップに無かった事です。今回の作品の MATERIAL は切手のみでしたが、カバーや小型シートを貼付すると厚みが足らずに不安です。展示用リーフは紙自体が薄いクリーム色で方眼も印字されているので、今回の作品は両方のリーフに印字を行い、完全無地の方が向いていると判断して使用しました。

収集人口が減り、相対的にアルバムを作る方も減っていると思われ大変かと思いますが、JPSには完全無地で厚みが有る展示用リーフを検討して頂ければ幸いです。

そして今回、全展示作品中最下位ながらも運良く佳作を頂く事が出来ました。出品作品の MATERIAL に掛かった費用も、同じく全展示作品中一番低いと思います。採点には多分におまけの要素

も入っていると思われ、正直審査員評も厳しい物でした。今回の僕の作品はむしろ非競争展示向き、非収集家向きと思っています。

競争切手展は初心者を対象にすべきでは無いと、故田辺猛氏も言っておられたと記憶しています。でも、すでに初心者が殆ど居ない現状では、このような作品でも、日本で一番権威の有ると思えるJAPEXに出品しても良いのではないかという問いに対し、きちんと審査して頂いた事にとっても感謝しています。

当日作品を見て頂いた数人の方から、「懐かしい内容」、「面白い作品」と言って頂いた事が最大の褒め言葉であり、励みになりました。次回のJAPEXや全日展にも可能なら出品したいと考えています。

The Philatelist Magazine
の読者の方は郵趣レベル
の高い方が多いと思いま
すし、相応の財力や郵趣
知識を持ち得ないと楽し
めないジャンルも有ります
が、自分は一般社会人の
趣味として無理の無い
経済範囲と、初心者や中
級者にも分かりやすい作
品を発信して行きたいと
思っています。

以上拙い文章ですが、他
の収集家や出品を考えて
いる方へ何かの参考にな
れば幸いです。

フランス美術と切手趣味週間

～両国切手の関連と変遷～

1955－74

1955年(昭和30年)の切手趣味週間に発行された、喜多川歌麿画「ビードロを吹く娘」は、当時としては世界的にも珍しい大型多色刷切手で、日本はもとより海外でも大いに人気を博しました。

世界各国の郵政や印刷局にも、大きなインパクトを与えたと言われており、特に、美術・芸術大国のフランスに与えた影響は多大で、1961年(昭和36年)から発行された美術切手シリーズは、この「ビードロを吹く娘」から始まる切手趣味週間に触発されて、企画・発行されたものと言われてます。

この作品は、日本は1955年から、大型多色刷単片での発行が最後の1974年迄、フランスは1961年から1974年迄を、年数ごとに展示したものです。

両国切手の関連 P1

日本発行 P2

日本・フランス発行 P3－16

参考文献 内藤陽介著「解説・戦後記念切手Ⅱ ビードロ・写楽の時代」

－1－

タイトルリーフ

北野さんから今回は、ご寄稿とあわせて「自己完結で終わってしまった今回の作品は、今後どうするかは模索中でした。」非競争展展示としてではなく、競争展展示としての改善方法を知りたいです、とのご連絡をいただきました。そこで以下にまとめてみました。（編集部）

まずは初出品おつかれさまでした。北野さんの作られたリーフを拝見しましたが、パソコンの使い方も含めてたいへん綺麗な作りだと感じました。上位入賞作品でも穴あきのリーフを使っている方はいらっしゃいます。個人の好みだとは思いますが、展示品として見たときには、穴のあいていないリーフの方がシンメトリーが確保できて美しいと思います。北野さんはこの点で高い美意識をお持ちだと感じました。「切手展向けリーフの作り方」（当誌 第3号）で書いたとおり、リーフ作りの基本は「美しく作る」とことと「わかりやすく作る」とことですので、初めての出品であるにも関わらず見事にそれを実現されていると思います。

しかし今回北野さんは、競争展展示としての改善方法を求められました。日本の二大切手展である全日展とJAPEXが、フィラテリストより競争展として認められているのは、両者が国際郵趣連盟の審査規則に準拠することを宣言しているためです。従って日本の競争展でより上位の賞を狙う意思があるのであれば、国際郵趣連盟の定めた規則に従った作品作りをしなければなりません。

と書くとは難しいのですが、高校野球において三振はワンアウトであることや、ベースは一塁から順に反時計回りに回るといったルールは国際規則に則っているのと同じことです。部分訳はもちろん全文の翻訳もされていますので、まずは部分訳からでもいいので世界統一の競争展ルールを意識する事が競争展で良い展示を作るための第一歩だと言えます。

初心者にとり最もハードルの高いクラスが「ワンフレームクラス」

北野さんの作品を競争展ルールから見たときにまず最初に気づくのは、それが「ワンフレームクラス」に出品されていることです。競争展のワンフレームクラスの作品は、当該主題が「16ページ構成を最適の規模とする必然性」が要求されます。この条件を満たす主題は簡単には見つからないため、高価な郵趣マテリアルを用いた作品であっても評価が低いことが多々あります。（右図は全日展2014で高い評価を受けた池田健三郎氏の「藤原鎌足5円」）



もう一つワンフレームクラス作品を作るときに初心者が陥りがちなミスとして、どの既存クラス（伝統郵趣や郵便史など）のルールで作品を作るのかの意識を忘れがちな点もあげられます。

したがって、ワンフレームクラスは初出品で挑戦するには最も難しいクラスです。JAPEXのみの特別ルールで、初心者はすべてのクラスに1フレームから展示ができますので、この特別ルールを活用していただきたかったと思います。（ルールには割りと大きめに記載されていました。）

どのクラスで作品を作るか？意識する

JAPEXの特別規則を見ると、ワンフレイム、文献、ユース部門を除くと、出品することができるクラスは「伝統郵趣」「郵便史」「ステーションナリー」「航空郵趣」「テーマティック」「オープン」「その他」（印紙や宇宙郵趣など）しかないことが明記されています。

つまりJAPEXに出品される作品は、これら7つのクラスの国際基準のいずれかにより審査されることが前提で、どのクラスにもあてはまらないと考えられる作品は「伝統郵趣」部門の審査基準で審査されることになります。

わかりやすい例で「トピカル作品」を考えてみましょう。国内では、スタンプショウにおいて、JPSがトピカル作品のルールを作り審査をしており、ローカルルールにすぎません。国際展にはそのようなクラスはありませんので「テーマティック部門」の作品として審査されることが多いかと思います。そして「テーマティック部門」の審査項目で減点される要素が大きいと予想されます。

世の中には見ごたえのある素晴らしいトピカル作品はいくらでも存在しますし、これは「トピカル」と「テーマティック」の優劣の話ではないのですが、国際ルール上はそう決まっています。

さて、では北野さんはご自分の作品をどのクラスと考えて作ったのだろう、と思い、タイトルリーフを見てみました。ところがなんと、タイトルリーフに「この作品は何クラスだ」という事が記載されていませんでした。この原因は前ページで書いたように、ワンフレイムなのでクラスを意識しないという弊害そのものだと思います。

「競争展で減点されないタイトルリーフ」（当誌第4号）を見ていただくと、タイトルリーフに最低限記載したらよいであろう項目が列挙されています。自分の作ろうとする作品について、これらの項目を埋めていく中で、自分なりに色々な整理ができると共に、どのクラスで作品を展開していけばよいかというアイディアが湧いてくると思います。郵趣マテリアルの入手にお金を使うことも大事ではありますが、タイトルリーフの改善はお金のかからない作品改善方法ですので、是非じっくりと取り組んでいただきたいと思います。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. タイトル2. この展示の目的(Object)3. 概説/展示の背景/展示物の一般的説明4. この展示の構成(Plan)5. 参考文献(Literature)、オリジナル研究6. 注目のマテリアル(Remarkable items)7. ページ割り |
|--|

タイトルリーフの要素の例

「競争展で減点されないタイトルリーフ」より

ちなみに「伝統郵趣」で展開するなら、特定の切手シリーズの製造面と使用面の展開がオーソドックスな展示方法ですし「郵便史」であれば経路、料金、消印の三要素によるストーリー展開が求められます。北野さんが今回タイトルリーフに記載された内容は「ビードロ」に始まる日本の切手趣味週間切手がフランス切手に与えた影響に関するストーリーですので、両クラスよりは「テーマティック」部門で展開する方が可能性があると思います。

もっともどんな話題でも素晴らしいテーマティック作品ができる、というほど甘くはありません。

実際にテーマティック部門で出品者が苦しむ原因の最たるものは「不適切なテーマを選んでしまった！」というものです。優れたストーリーが、古今東西の様々な種類の郵趣マテリアルを用いて展開されていることがテーマティック部門の競争展上位作品の要件ですので、まずストーリーが魅力的でなければなりません。したがって作品を作成するのに要する時間は私の経験上は「伝統郵趣」や「郵便史」よりもはるかに長い時間を要し、郵趣と離れたところでの研究や調査も必要になります。これはお金はかからないところですが、突っ込んで調べないとならないので、専門テーマであったとしてもたいへんです。もっともそこが知的競技としてのテーマティックの面白さでもあるのですが。

また、こうして完成した魅力的なストーリーを語るために用いる郵趣マテリアルが魅力的であることも必要です。

これは必ずしも高価な切手ということではなく、日本とフランスの事を語るのに、日本切手やフランス切手だけにとどまらずに、それ以外の国々の郵趣マテリアルも扱わなければならないし、1960年代だけでなく、安価なものでもよいので19世紀の切手も扱わなければならないし、未使用単片だけでなく、カバーや特殊な消印やステーションナリー、メータースタンプなども展示しなければならないということです。

私は自分自身も復活組コレクターですので、「収集は年季だ」等の妄想には与しません、一方でよほどのフィラテリストでない限りは、対審査員はもちろんのこと、対参観者も唸らせるコレクションを短時間では完成させられないと考えています。

しかしそれは「初心者が未完成の作品を競争展に出品してはいけない」ということではありません。同一テーマを継続出品し続ければ、最初は評価が低くても、改善点が分かり、素直に取り入れることにより作品が改善するということです。

ごく普通の経済力のフィラテリストがよい作品を作るには「郵趣マテリアルの収集」と「展開をわかりやすく、かつ魅力的にすること」の二つを車の両輪のように並行してグルグル回していくことが肝要です。同じ復活組コレクターとして、北野さんが継続して作品作りに挑戦され、より素晴らしい作品に改善されることを期待しております。



種類に富む郵趣マテリアルの例
スタンプレスカバー、メータースタンプ、書留書状
実は全部安価な物です。出品者は女子高生。
「ハリー・ポッター」（マチルダラーソン）より

STAMPEDIA図入り国別リーフの使い方

「スタンペディア日本版」会員特典の一つである、日本切手の図入りリーフダウンロードサービスが1月より始まりました。その狙いと活用方法について、パイロット版である「日本2014年」の作成協力者である木戸裕介さんにまとめていただきました。（編集部）

郵趣先進国では図入りリーフは無料が当たり前

読者の方で、米国切手を収取されていらっしゃる方の中には、同国の米国郵趣協会（APS）に入会されている方もおられると思います。同協会では、ダウンロードして自由に使用できる無料の図入りリーフ（図1）の提供を2009年に開始し、現在、米国切手（2008-2014年）をはじめ、米国トピカルリーフを多数提供しています。（[ホームページ](#)）

以前は商品としてのみ提供されていた図入りリーフが無償でダウンロードできるようになった背景として、相反する二点を指摘したいと思います。

一つは新切手を収集する人口の減少で、図入りリーフが「商品として販売する魅力が薄れた」ことです。発売中止となった図入りリーフも最近は徐々に増えてきています。また小ロット生産の常として価格も高くなってきているようです。

しかしその逆に、初心者が切手収集を開始するにあたり、図入りリーフほどとっつきやすくわかりやすい整理文具が他にない事もまた事実です。これまでのフィラテリー振興の活動に、図入りリーフが用いられてこなかったのは導入コストの為であり、安価で使えるのであれば、最初の一步としてフィラテリー振興の切り札になると私は考えています。

今回、当誌発行者の吉田敬氏より米国の取組を更に改良して日本でも行いたいとの話をいただき、日本のみならず世界のフィラテリーの振興にプラスだと感じましたのでお手伝いさせていただきました。

次ページ以降で、その思想や今後の予定、そして使用上の注意点などについて報告させていただきます。

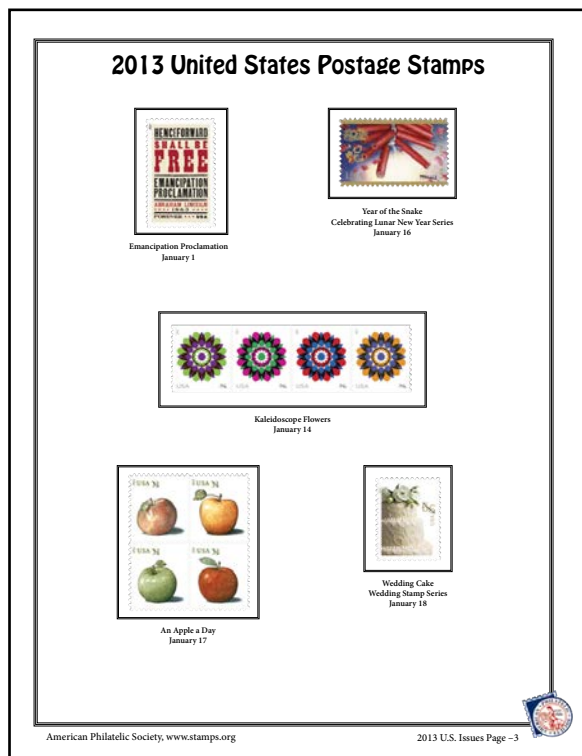


図1 米国切手図入りリーフ2013

既存商品の課題を考える

折角新しい取組をするわけですので、現在の図入りリーフの課題が解決するようなプロジェクトになればいいな、と考えました。

2014年の日本切手の図入りリーフは、国内外の切手商から提供されています。（下の表）

	製造元	リーフ 価格	リーフ仕様	頁 数	印刷	マウ ント	バインダ ー価格	ダスト ケース	合計 金額
リンドナー図入り日本切手2010	リンドナー （ドイツ）	14,078	独自プラスチックカバー 18穴	37	白黒	あり	5,090	あり	19,168
ポストーク図入りアルバム	郵趣サービス 社（日本）	2,810	米レターサイズ 216*279 三穴	47	カラー	なし	3,190	あり	6,000
ハヒンジレス	//	9,280	//	//	カラー	あり	3,190	あり	12,470
マーキュリー日本切手リーフ	郵趣サービス 社（日本）	2,270	B5に近いサイズ 185*261 四穴	?	白黒	なし	2,100	なし	4,370

* 価格は消費税込みの日本円で表示した。

* マーキュリー日本切手リーフは「2013-2014」の単位で4,540円で販売しているため、便宜上半額で掲示した。

* リンドナーは日本切手リーフの提供を2010年で終了している。比較のため最終年の2010年のデータを記載した。

最も安いマーキュリーから、独自プラスチックカバーを用いた高級なつくりの「リンドナー」まで、価格帯は4千円強から二万円弱と大きく開きます。しかし一冊のバインダーに収納できる年数がせいぜい1～2年ですので、いずれにせよ新切手一年分の収集と整理に切手代を除いてこれだけかかる事が分かりました。2014年の未使用切手の額面合計は30,000円ですので、これを簡単に支払える人にとっては、この程度の整理文具代金は大きなことではないのかもしれませんが。

しかし、かつて初心者が最もとっつきやすかった、使用済切手を図入りリーフにより整理する収集方法を実現するにはこのコストは高すぎます。子供の頃に切手集めをし、その後中断期間が続いた復活組のフィラテリストが大人買いするならまだ可能性のあるコストだとは思いますが、全くの新規で収集を開始する人が増えない理由の一つはこのコストなのではないでしょうか。

新切手400種近く発行されても使用済みを一枚10円で収集すれば、切手代は4千円程度。整理文具にかかるコストをなんとか千円以下にできないものでしょうか。。プロジェクトはこの観点から始まりました。そして図入りリーフに関する課題を5点ほどにまとめました。次ページ以降にまとめるとともに解決方法を考えました。

課題1 図入りリーフは永続的に入手できるようにしてほしい。

大手付属品メーカー提供の図入りリーフであっても、永続的に販売される保証はありません。例えば独リンドナー社は、日本切手リーフの提供を2010年分で終了していました。また過去に一度発売したリーフの一部についても品切れになると再製造を行っていませんでした。郵趣サービス社が発行してきた国別図入りリーフの中にも発売停止になったものが多数ありました。

残念な事態ではありますが、印刷や在庫管理などコストがかかる以上、商売としてはいた仕方ないことでしょう。そしてここから推測できることは、今後も購入者がある程度を超えて減った図入りリーフは、各社とも提供しないようになるということです。

この課題を解決するため、当プロジェクトでは図入りリーフをオンラインデータとして提供し、ダウンロードして会員のパソコンに取り込むことが可能な状態にしました。当プロジェクトが不幸にも継続できない事態になったとしてもデータは多くの郵趣家のパソコンに残り流用が可能になるためです。

課題2 図入りリーフの入手は迅速・簡単に行いたい。

現代はAmazonなどを使うと注文の数時間後に商品が到着するという通信販売が便利な時代です。しかし郵趣文具の通販はまだまだ時間がかかります。今週末に切手を整理したい！等のニーズに応じて郵趣振興をはかるためには、欲しいと思ったその瞬間に図入りリーフが入手できる等、世間の常識に合わせる努力が必要です。

この課題を解決するため、図入りリーフのサイズを最も普及しているA4プリンターの最大サイズに合致させることにしました。これにより印刷サイズの問題だけでなく、リーフとして使用する用紙も一般的な文具店で迅速・安価に入手できます。

一方必ずしも適切なプリンターを所有している人ばかりでもないでしょう。当プロジェクトには是非、オンラインでの無料配布だけでなく、切手市場などリアルの場合での、印刷したリーフの販売を検討して欲しいと思います。

なにもスタンペディアで販売することだけが方法ではありません。切手市場に既に出店しているお店で販売したいところがあれば、提携すればいいのではないのでしょうか？新しい記念切手の使用済のばら売りをしているお店なら相乗効果があると思います。



クリアファイルに保管する場合、リーフ用紙の厚みはコピー用紙程度で構わない。その場合のコストは1ページ1円。

しかし、1ページ14-16円程度のコストで、国際展上位入賞者も利用する、銀座伊東屋がオーストリアから輸入している中性紙ブランド「ハイパーレーザーコピー」（200G/平米）が入手できることは検討に値する。（250枚で3,600円前後 アマゾンジャパン）

課題3 市販の豊富なバインダーを使用できると良い。

今回調査する中で、使用済みの収集用に市販の図入りリーフを購入した場合、その大きな割合を占めるのは、図入りリーフ価格よりもむしろバインダー価格であることがわかりました。

	リーフ 価格	バインダ ー価格	一冊に収納 できる年数	単年の 文具費用	バインダー費用 の占める割合	ダスト ケース
ポストーク図入り アルバム	2,810	3,190	1	6,000	53%	あり
マーキュリー日本 切手リーフ	2,270	2,100	2	3,320	32%	なし

単年の文具費用=リーフ価格+ (バインダー価格/一冊に収納できる年数)

代用品を検討しようにも、リーフサイズや穴の仕様の特殊性でダストケースも備えた文具を見つけることが困難でした。そこで当プロジェクトで提供するリーフについては、用紙自体も、そしてリーフの収納文具も、一般の文具店やできれば百元ショップで調達がたやすいものを選択することにしました。それはA4サイズです。

一点注意すべきはダストケースをどうするかです。湿気や埃の多い日本に限らず収集品をシミ等による劣化から守るためには、ダストケースが不可欠です。ダストケース機能なしで長期間放置されたストックブックやアルバムに収納された切手の状態はことごとく劣化してしまいます。

ところが市販のクリアファイルでダストケースが付いているものはほとんどありません。そこでダストケース機能の代替品を探す必要があります。

最後にリーフの保管方法として「リングファイル」を使いたい人の両方がいらっしゃる事がわかりました。私は「クリアファイル」派なのですが、これは個人の好みですからそれぞれだと思います。

当プロジェクトで作成するリーフは「クリアファイル」での使用をイメージして左右シンメトリに作っています。それに加えて、リーフの左側に穴をあける「リングファイル」での使用にも耐えうるように、ある一定の余白を設けることも両立させました。



ボックスファイルは、ダストケースの代用品として活用できる。(本稿最終ページもあわせてご覧ください。)

課題4 必要なページだけ入手したい。

これまで図入りリーフは50ページ前後のリーフ数になるよう年代を適宜区切り販売されてきました。しかしフィラテリストの本音は「集めていない年代のリーフは要らない」だと思います。

PDFを使っているのでこの課題の解決は簡単でした。全部ダウンロードした後で、使いたいリーフだけ選んで印刷することで、不要なページの印刷コストを負担しなくてすむからです。

なお、このような選択式のリーフの使用方法を考慮して、今回のプロジェクトで提供する図入りリーフには、左下につける整理番号を目立ちすぎないようにする配慮をしました。

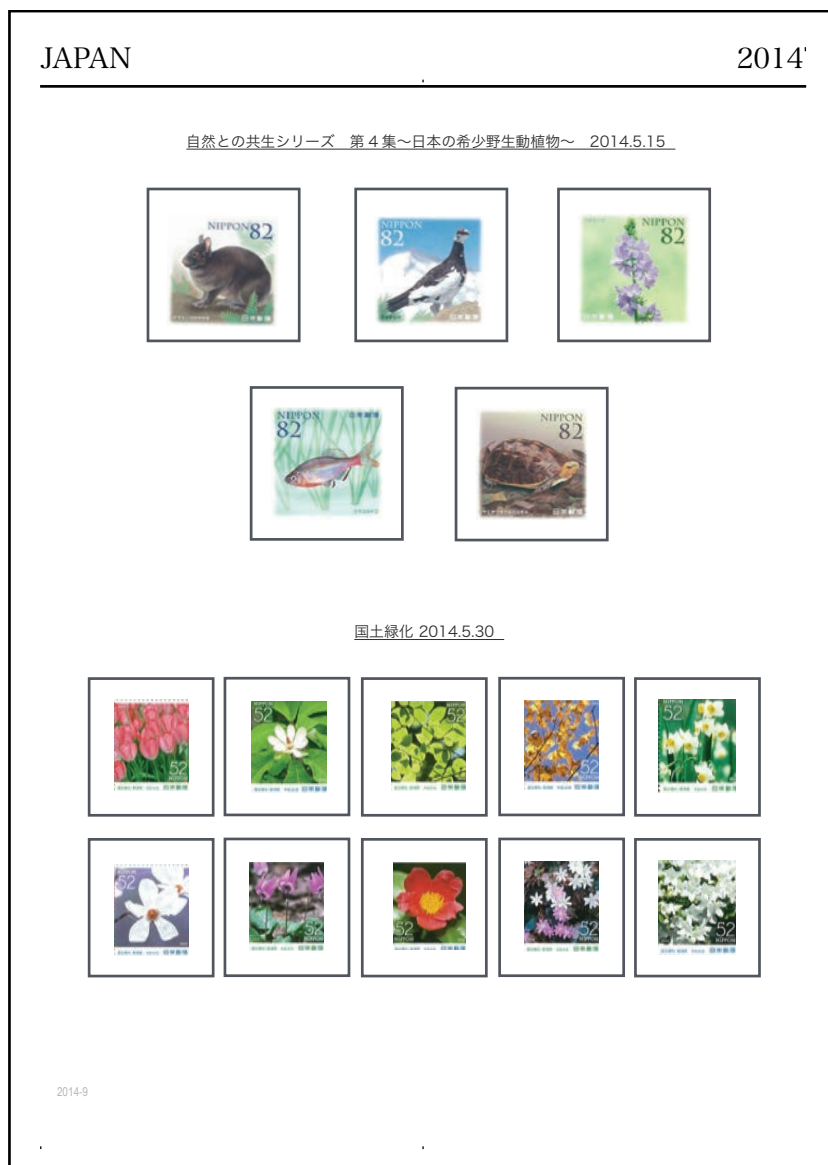
課題5 一年に一度ではなくもっと頻繁にリーフを入手したい

年間の記念切手の種類が300を超えるようになって久しいと思います。ここまで種類が増えてしまうと、年一度の図入りリーフの提供では、その間の収集品の整理が追いつかないのが実情です。

すべての未使用切手を郵便局で購入するような大人買いならまだしも、使用済み切手を市場で一種類ずつ買い求めるような収集方法の場合、カタログも発行されていないため、皆さん色々なご苦労をされているようにお見受けしました。

この課題を解決する為に私が当プロジェクトに提言したいのは、図入りリーフの提供タイミングを半年に一度にしたらいのではないかと、ということなのです。

カラーで印刷された図入りリーフがあれば、カタログはもはや不要になりますので、その点も収集家にとっては便利になると思います。



カラー図版入りの図入りカタログがあればカタログいらず

当プロジェクトで提供する図入りリーフの仕様について

考えがまとまりましたので「図入り日本切手リーフ 2014年」版の作成に着手し、1月にβ版をリリースしました。またその後、ご利用者のご意見を伺い、何度か改善を施しました。

採録の範囲：2014年に発行されたすべての日本切手1種1枚ずつ

採録の方法：今回の提供においては、使用済収集に役立つことに絞り採録を進めました。

- * 10面シート等が多数発行されていますが、使用済での入手は単片が中心となりますので、その整理ができるようなリーフを作りました。
- * 将来的には、フルシートを整理できるリーフも追加し、ダウンロードした中から必要なページだけを取捨選択できるようにしていきます。

連刷の取扱：連刷使用済を入手できた場合に、きれいに整理できるように工夫をしました。

具体的には、連刷になる可能性のある組み合わせについては、すべてではありませんがページの許す限り、そのマルチプルを収められるような枠取りをしました。

また、マルチプルになる連刷の間に仕切り線をひかないようにしました。（右図）



画像の配置：スタンペディア世界切手コレクションより、日本2014年分をスキャンしました。

クラシックと異なり、入手が絶望的に難しい切手はまずありません。そこで、むしろ当該切手の所有の有無に迷わないように、切手画像のサイズは実物よりも小さくしました。もっとも小さすぎると今度はカタログ機能を果たすことができないため、75%程度の大きさに落ち着きました。

枠線・言語：灰色の枠線を採用しました。また表示言語は国名を除き日本語としました。

なお吉田さんとしては、来年には英語版もリリースし、海外に日本切手収集家を増やしたいとのことでした。

管理番号：各リーフ左下部に、リーフの管理番号を薄い灰色の文字で入れました。

将来、10面シートや小型シート等のページができた際には、アルファベットをサブ記号として用いて管理番号をつけていく予定です。

あらゆる収集家が、自分の収集スタイルに合わせてくみあわせて使用できる図入りリーフを作ることができればと考えています。

対象リーフ：対象リーフサイズをA4に限定することにしました。

β版を作成した後に、B5サイズやレターサイズで使いたいという要望もいただいたのですが、限られたマンパワーは複数のレイアウトを提供することよりも図入りリーフとして提供できる国や年代を増やす事に使うべきだと思うようになりました。その上でどのサイズをリーフサイズとして選択するかといえば、家庭用プリンターの普及率、および用紙や収納文具が一般文具として低価格で安定して未来永劫供給される観点から、A4以外はありえないという結論になりました。

今後の予定：今年中に21世紀の日本切手のリーフは全て提供することが宣言されています。

本当にできるのかなー？でも。吉田さん、やっちゃうんだろうなあ。

これに加えて、先日吉田さんの机の上にこんなもの（下図）が。。

どうやら「図入り世界切手カタログ」のリリースも考えているようです。

こちらはいつリリースされるんでしょうね？

僕としてはむしろこちらが楽しみです。



スタンペディア図入りリーフ使用上の注意

良い事だらけのように見えるスタンペディア国別図入りリーフですが、使用上の注意点がいくつかあります。この注意点はダウンロードしたリーフデータの最初のページにも大きく書かれています。

「利用権利の範囲」「用紙」と「プリントインク」の問題です。

ダウンロードデータの利用権利の範囲

マイ・スタンペディアを通じてダウンロードした図入りリーフデータは、会員個人が使用する場合において、何度でも印刷してご利用いただくことができ、かつ印刷したリーフの一部ないし全部を個人の責任のもと処分（有料、無料を問わず）されても構いません。

しかしながらPDFデータ自体の譲渡・貸借・改造は禁止いたします。

用紙への注意

今となっては製造量は減少し、新聞や雑誌などを中心に使用されている酸性紙は、劣化しやすいだけでなく、展示している郵趣マテリアルを痛めるリスクがあるため、図入りリーフの用紙には不適切です。

もっとも今日では大半の書籍や印刷用紙は中性紙に置き換えられています。したがってその入手に苦勞することは少ないと思います。用紙の購入時に酸性紙でないことだけは個人の責任でご確認ください。

プリントインクの問題

現在注意しなければならない最大の課題です。

色々な印刷方法がある中、家庭用プリンターとして使用される機会が多いのは、「インクジェット方式のプリンター」と「レーザービーム方式のプリンター」の二種だと思います。

後者はコピーと同様で、トナーを定着させる方式ですので懸念の必要は少ないのですが、前者は水溶性のインクを使用していることが多く耐水性に懸念のある機種が少なくありません。

これは郵趣マテリアル格納にヒンジを使用するフィラテリーにとっては致命的で、裏側にインクが付着してしまう事故が起こりえます。それだけでなくインクが乾かぬ内に触ってしまうと、やはり郵趣マテリアルの裏面とリーフの図や文字が接触して、汚してしまう結果になりかねません。

マウントを使えばこのリスクは減らすことができるのですが、当リーフの使用目的はヒンジを使った使用済みの整理が一番の目的だろうと思われます。インクジェット方式のプリンターを使っている方が多いことは存じ上げておりますが、新たに購入されるのであればお勧めはいたしません。なお最近ではレーザービームプリンターも一万円前後から購入できるようになりました。

最後に印刷は必ず、100%の縮尺で行うようにしてください。時々自動縮小をかけるプリンターがありますが、その場合は、100%サイズでの印刷を行う指示をしてください。

このリーフを用いた新しい郵趣振興方法

1. 諦めていた日本切手、よかったら集めてみてください。

「最近の切手はラベルのようで集める気が起きない」「種類が多すぎて印象に残らない」・・・おっしゃる通りです。しかしその一方で自宅に届いた記念切手貼り封筒ってなかなか捨てられないのではないでしょうか。やっぱり気になるんですよね、収集家たるもの。

なんとなく買ってストックブックや箱へ直行だった新切手、郵趣会の案内や郵趣家同士の手紙のやりとりで手に入れた新切手の使用済、これらを安価な図入りリーフ+100円ショップのクリアファイルに整理しておきませんか？

2. 地元の切手展で、郵趣振興に使ってみませんか？

「利用権利の範囲」に規定のある通り、スタンペディア日本版の会員は個人で使用する場合に限り、ダウンロードしたリーフを何度印刷しても良いし、それを有料・無料で処分しても構わないことになっています。（なおPDFデータ自体の改造、譲渡および販売は禁止されていますのでお気をつけください。）

ということは、印刷した図入りリーフの一部もしくは全部を有償、無償に限らず、配布してもいいわけです。地元の切手展で新しい仲間を見つけるにあたり、これは結構よいプロモーション手段ではないでしょうか。

3. 記念切手使用済みの販売、どうせだったら、リーフごと売ってみませんか？

前項で記載した通り、スタンペディア日本版の会員であれば、ダウンロードしたリーフを何度印刷しても構わないし、その一部ないし全部を有料・無料で処分しても良いことになっています。（PDFデータ自体の改造、譲渡および販売は禁止されていますのでお気をつけください。）

ということは、印刷した図入りリーフのとある1ページに記念切手のセットをヒンジで貼り付けて販売してもよいということです。右図ですが「図入りリーフに2014年宝塚切手を全部収めて200円」くらいですかね？ルックスもよくなるし、買う人にとってもお得感がある、この販売方がいいかでしょう？



これ以外にも色々な活用方法があると思います。是非みなさんの活用方法をお聞かせください。

コストパフォーマンス

最後になりますが、本プロジェクトで提供された図入りリーフを使うとどれくらい安くなるか費用をお見せしたいと思います。

バインダー

A4判リーフを収納する文具のオススメは、クリアファイル（ビニールポケットに収納するタイプ）ですが、パンチで穴を空けてリングファイルに収めることもできるように対応いたしました。後者として利用する場合は、後述するリーフ用紙が、ある程度厚紙になることが求められます。クリアファイル、リングファイルとも、百円ショップで購入できます。

用紙

A4判の中性紙をご利用ください。一枚あたりの価格は50銭（コピー用紙）から15円（国際展上位入賞者も使用する杯パーレーザーコピー用紙）までと様々です。クリアファイルに収納するだけならコピー用紙でも問題ありません。そのリーフを切手展などで展示する予定がある場合は、厚紙を使用されることをお勧めします。

印刷

ご自宅で印刷する場合のトナーコストは、白黒で5円／枚、カラーで40円／枚前後と推測されます。なお「使用上の注意」にて述べましたが、レーザープリンターを使わない場合は取扱にご注意ください。

ダストケース

ダストケースに収納せずにバインダーを放置すると、中身が経年劣化します。ダストケース付きのファイルやダストケース自体は文具店ではほとんど販売されていません。従ってその機能を代替できる文具などを見つける必要があります。オススメは、百円ショップで販売しているボックスファイルの利用です。A4サイズのクリアファイルをちょうど収められる大きさになっています。この辺りも国際標準サイズのA4判を使用するメリットの一つです。

合計

以上まとめますと図入り日本切手リーフ2014年（28ページ／バインダー／ダストケース付き）は

モノクロ・コピー用紙	354円
モノクロ・厚紙	760円
カラー・厚紙	1,740円

となりました。是非ご自分の収集に、地域の郵趣会の活性化にご活用ください。

広告部画像 5,128件 収録済み エコー葉書データベースの使い方

「スタンペディア日本版」会員特典の一つである、オンライン郵趣データベースの利用の内、エコー葉書データベースが1月にリリースされました。そのご案内と活用方法をまとめました。（編集部）

テーマティック収集家を念頭に置いたデータベース

先日の切手市場では第15次府県板初日印付き完揃いが200円で販売されていました。葉書売価だけでも2,000円近く、往時は5,000-6,000円で販売されていた代物です。日本ではすっかりエコー葉書の収集が下火になってしまったことを改めて認識するできごとでした。

ところで、国際切手展でテーマティック部門の出品作品を見ると、出品者がベトナムであれ、インドネシアであれ、中国であれ、ドイツであれ、そこには必ず何種類かのエコー葉書が展示されています。そう、80年代から2000年頃にかけて、年間500種類前後の発行が続いたエコー葉書には、往時の世相を表す意匠がたくさん描かれており、それは郵趣マテリアルによりテーマを語らなければならない、テーマティックコレクターにとって一つの拠り所になっているのです。

ところが、広く使われているエコー葉書のカatalogは現在存在していません。そこでスタンペディアプロジェクトでは、エコー葉書の現物のスキャンを進め、このほどデータベースサービスを開始いたしました。（図1）

マイ・スタンペディア > エコー葉書CatalogTOP

Japanese postcard with advertisement Database

キーワード「」による検索結果：50件

*「,」（半角カンマ）で区切り複数語句を入力するとAND検索ができます。
* 前方一致検索です。

世界のテーマティックコレクターの為に作ったエコー葉書の画像付きデータベースです。
都道府県やスポンサー名による検索に加えて、フィラテリストが独自に各エコー葉書にキーワードをつけることができるようにしました。将来は英訳等により海外にも情報発信していく予定です

都道府県

北海道 | 青森 | 岩手 | 秋田 | 宮城 | 山形 | 福島 | 東京 | 茨城 | 群馬 | 栃木 | 埼玉 | 千葉 | 神奈川 | 新潟 | 長野 | 山梨 | 香川 | 徳島 | 高知 | 愛媛 | 福岡 | 佐賀 | 長崎 | 熊本 | 大分 | 宮崎 | 鹿児島 |

よく検索されるキーワード

自動車 | 日本酒 | 天守閣 | 飛行機 | NTT | 国体 | ほたて貝 | 新幹線 | 切手ディーラー | りんご |

© Copyright 2009-2012 Stampedia project

図1 エコー葉書Catalogのトップページ（マイ・スタンペディアより移動）

28都道府県のエコー葉書を画像付きで閲覧できます。

15,000種類を大きく超えるエコー葉書ですので、一度に全部をリリースする事はできません。そこで、毎月少しずつリリース範囲を増やす手法でのぞんでおり、3月15日現在以下のエコー葉書をご覧いただくことができます。

- ・28都道府県をリリース（北海道、東北、関東、信越、四国、九州郵政局管内）
- ・1981～1997年の発行分をリリース

該当するエコー葉書の90%程度は、広告部分の画像付きです。またスポンサー名の後ろに[g!]^①という文字が見えますが、これをクリックするとスポンサー名でGoogle検索する別ウィンドウが開きます。

Japanese postcard with advertisement Database

キーワード「神奈川」による検索結果：50件

*「,」（半角カンマ）で区切り複数語句を入力するとAND検索ができます。
 *前方一致検索です。

	☐ 相模鉄道株式会社 [g!] 発行日：1981年10月1日（木） 管理番号：神奈川-1 タグ： 相鉄ジョイナス, タグを追加する データ提供者：
	☐ 第一火災海上保険相互会社 [g!] 発行日：1981年12月1日（火） 管理番号：神奈川-2 タグ： 犬, タグを追加する データ提供者：
	☐ 株式会社文化放送 [g!] 発行日：1982年2月1日（月） 管理番号：神奈川-3 このエコー葉書にはまだタグがついていません。関連するキーワードをご入力下さい。 データ提供者：
	☐ 食糧庁 [g!] 発行日：1982年2月1日（月） 管理番号：神奈川-4 タグ： キッチンパトロール, タグを追加する データ提供者：

図2 エコー葉書データベースで神奈川県が発行一覧を表示した画面

タグ検索が可能

ところで、各エコー葉書のデータ欄に、タグが設定されているのがご覧いただけますでしょうか。これは当該エコー葉書のスポンサーや広告意匠を文字であらわしたもので、検索にひっかけることが可能です。お城を描くエコー葉書は何種類か発行されていますが、「天守閣」で検索すると、現在、タグに「天守閣」と設定されているエコー葉書がヒットします。（前方一致検索）

Japanese postcard with advertisement Database

キーワード「天守閣」による検索結果：12件

*「」（半角カンマ）で区切り複数語句を入力するとAND検索ができます。
 *前方一致検索です。

 祝/東北新幹線開業 宮城県	☐ 宮城県 [g!] 発行日：1982年5月1日（土） 管理番号：宮城-5 タグ：新幹線, 白石城, 天守閣, タグを追加する データ提供者：
 祝/東北新幹線開業 宮城県	☐ 宮城県 [g!] 発行日：1982年6月1日（火） 管理番号：宮城-6 タグ：新幹線, 白石城, 天守閣, タグを追加する データ提供者：
 小田原放送局開局1周年 ラジオ日本 JOYL 1485KHz 私の街のラジオ日本	☐ 株式会社アール・エフ・ラジオ日本 [g!] 発行日：1982年8月2日（月） 管理番号：神奈川-8 タグ：小田原城, 天守閣, タグを追加する データ提供者：
 豊松本城400年 アルプスと城の街 ＜信州・松本＞ ひとつとび 70分 松本⇄大阪	☐ 松本市 [g!] 発行日：1982年11月1日（月） 管理番号：長野-13 タグ：松本城, 松本空港, 天守閣, 飛行機, タグを追加する データ提供者：
 会津のこは酒の味 花春 ハナハル 花春酒造株式会社	☐ 花春酒造株式会社 [g!] 発行日：1983年3月1日（火） 管理番号：福島-9 タグ：日本酒, 天守閣, 会津若松城, タグを追加する

図3 エコー葉書データベースで「天守閣」で検索した結果一覧

タグは、ユーザーが自由に入力可

現時点でタグが設定されているエコー葉書はまだまだ数が限られています。

しかし、当データベースの特徴は、ユーザーがタグを設定することができるということです。

各エコー葉書には、「タグを追加する」もしくは「このエコー葉書にはまだタグがついていません。関連するキーワードをご入力ください」というリンクがあり、それをクリックすると以下のような別ウィンドウが開きます。（図4）



図4 エコー葉書データベース「第一海上保険相互会社」でタグ追加のリンクをクリックする。

この画面でキーワードを入力すると、このエコー葉書のタグ情報として記録されます。

自分の収集するテーマのエコー葉書の情報をまとめることで、その情報を他のユーザーにも共有することができますので、特にトピカル・テーマティックのフィラテリストの方には成果発表の場としてもとらえていただけたらと思います。

なおタグは複数のエコー葉書に一括して設定することも可能です。

今後の予定

エコー葉書データベースについては、現在も引き続き、未収録都道府県の掲載に向けてスキャンを行っております。中国・沖縄あたりが次のリリース予定です。

あわせて開発を進めている、郵趣記事データベースについても、当DBで開発したタグ付けシステムを活用し、使い勝手の良いものを提供できればと考えておりますので、ご期待ください。

<広告>

公益財団法人 日本郵趣協会 部会申請中

アルプス・ヨーロッパ切手の会

当会はアルプス・ヨーロッパ地域（フランス、イタリア、オーストリー、スイス、スロベニア、リヒテンシュタイン等）を中心とした外国切手の伝統郵趣、カタログ収集、郵便史収集をたしなむフィラテリストが情報交換するための郵趣サークルです。

とはいうものの日本人にとり外国切手の情報は、自分の収集対象国以外であっても参考になる事が多いものです。そこで上記地域外の伝統郵趣、郵便史の話題も歓迎いたします。

具体的にはポルトガルとスペイン及びその属領、バルカン、アフリカ、中南米、オセアニア、中央・東南アジア、中近東等の内、既存の切手サークルに収友を見つけれない場合は是非当会で一緒に情報交換しましょう。ゼネラルコレクターの参加も歓迎いたします。

なお競争展への参加・不参加は、入会にあたり問いませんが、トピカル収集やテーマティック収集に関しては他の適切な会の方が当会よりも優れていると思います。

会の運営は東京一極集中にならないよう情報交換は原則としてメーリングリストで行います。例会の開催については年に一回以上とし、成果発表等を行うと共にPDFで会報を発行いたします。初年度（2015年3月末迄）の会費は実費を除き無料です。

入会にあたっては簡単な審査をさせていただきますので、電子メールで収集範囲をお知らせ下さい。（宛先 yoshida@kitte.com）

当会 会員の紹介（人名と外国切手の収集範囲）

小林莞爾（会長）	スイス全般、満州
小林彰	フランス、仏領、カナダ、横浜外国人 居留地欧州系商館発着郵便物
伊藤昭彦	エストニア、英国
長野行洋	北欧、ゼネラル収集
人見敦	スロベニア郵便史
菊池達哉	フィンランド関連
木戸裕介	スイス 風景切手、バルカン半島
吉田敬（事務局）	スイス、ゼネラル収集



郵趣活動の記録

イベントレポート

アルプス・ヨーロッパ切手の会・初例会

アルプス・ヨーロッパ切手の会

郵趣文献古今東西書評

服部静夫 『日本の郵便箱場及箱場印』

水村 伸行

The Dublin Find

吉田 敬

セールの記録

ジャパン・スタンプオークションニアレポート

ジャパンスタンプ商会 鯛 道治

日本郵趣協会へ部会申請中 アルプス・ヨーロッパ切手の会・初例会

アルプス・ヨーロッパ切手の会

当会はJAPEX2014の企画展示で「スイス」が選ばれたことを契機として、国内スイス切手コレクターを中心に結成されたサークルです。

スイスに限らず、フランス、イタリア、オーストリー等のヨーロッパ諸国の切手や郵便史は人気がないわけではありませんが、常時部会を結成できる英米ほど収集人口が多いわけでもありません。そこで日本郵趣協会の会員事務局とも相談し、この地域の国々すべてをまとめる名称として使用されている「アルプス・ヨーロッパ」を会の名称に冠しました。

また例会を切手の博物館でしか開催しないと、地方に住む会員はほとんど例会に参加することが不可能です。

しかし、地域の切手サークルと違い、全国に収集家が広がるのが外国切手収集の特徴ですので、

1. 会費無料
 2. メーリングリストでの交流
 3. 例会の生中継
- を導入しています。

また例会は、一部の者だけが話をし、新しく加入した人が窮屈な思いをしないように工夫するとともに、具体的には、会のアジェンダを決めて、講演を行うことを例会最大の目的と捉えています。

去る1月31日（土）は、会の結成後初の例会を巣鴨で開催し、新潟や福井を含む全国から10名の会員が参加したほか、生中継やタイムシフトを使い、10名弱の地方会員等が例会を楽しむことができました。



特に Ustream 生中継においては、チャット機能を使い、地方会員も質疑応答に参加できたため、地方在住会員のいながらにしての例会参加はたいへん好評でした。

「昨日は、ネット上で例会に参加させていただきました。切手の例会に参加したのは初めてでしたので、大変刺激的でした。リアルタイムで離れたところから講演を視聴できたり、質疑応答ができたりと、ネットのすごさをあらためて感じました。また、ご講演されました方々の豊富な知識に感服しました。」（熊本・菊池隆志さん）

第一回例会（15時-17時半）・講演内容

菊池達哉：「ヨーロッパ辺境の小国フィンランドの軍事・外交史 その計画について」
（約20分＋質疑応答）

小林 彰：「横浜フランス三題話」（約15分＋質疑応答）

1. フランス横浜局
2. ペイル兄弟洋菓子店
3. 日本郵便切手総代理店の概要

木戸裕介：「マレーシア国際切手展・参観報告」（約15分＋質疑応答）

1. 切手展会場の様子の報告
2. 本人が出品した作品の紹介

吉田 敬：「ゼネラル収集の進め方」（約15分＋質疑応答）

講演は当初1時間半の予定でしたが、白熱し、2時間半の例会の時間すべてが講演になりました。そこで自己紹介を始めとする懇親や切手の即売・交換は例会会場近くの懇親会会場に持ち越され、その個室で和気藹々と進められました。（右図）

なお、当会へのご入会は3ページ前の広告をご覧ください。



服部静夫 『日本の郵便箱場及箱場印』

消印とエンタイヤ叢書No, 6

水村伸行

本書は、消印専門誌である『消印とエンタイヤ』の刊行開始から2年半を経た、昭和25年3月に『消印とエンタイヤ叢書』の6冊目として刊行されました。

現在、日本における郵便印の研究はあらゆる方面で行われており、その研究成果が単行本として刊行されたり、また、郵趣雑誌に論文として数多く掲載されていることは周知の事実ですが、今回ご紹介する箱場印については、必ずしも上記の事実が当てはまらないものと考えています。

これは、箱場印が消印ではなく証示印として使用されるものであり、しかも全ての郵便物にも見られるものではなく、どちらかと言うと押印されている使用例の方が少ないことに起因しているものと思われます。

本書の構成は、

- 1 箱場及箱場印とは
- 2 箱場印使用の目的
- 3 郵便箱場の名称
- 4 箱場印の使用期間
- 5 箱場印形の種類
- 6 印肉の種類
- 7 郵便箱場の数及初期の箱場に就て
- 8 郵便箱場を有する都市
- * 箱場印陰影集

となっており、箱場印について総合的に解説した内容となっています。



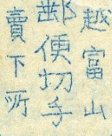
この中の「2 箱場印使用の目的」では、箱場印を「箱場主任者がその郵便物の不足税未納税等その他詳細の取調をなした検印」とした杉本弥三郎氏の説と、「区割制不十分なる時代であったので郵便物の配達不能、不足税等により返送郵便物多く発信人に属する町を箱場印により判明させるため」と考えていた広田芳久氏の説の両者を併記し、「郵便物投函場所を明記する為の印であることは間違いない。又頭字のみの印を採用した点から見て、一般の為ではなく、局側の便宜の為であることは明らかである」と結び、明確な使用目的確定には、未だ達していない現状を述べています。

本書の中で最も有益なのは、なんと言っても「箱場印陰影集」です。

これには当時確認されていた大阪58、京都32、東京17、静岡6、奈良3、津3、姫路2、松本2、白河、村上、高崎、前橋、富山、敦賀、名古屋、彦根、岸和田、貝塚、田辺、柏崎、松坂、小田原、大津各1が陰影、印色、箱場名、出典を記した表としてリストされています。

本リストは、現在でも箱場印リストの基本文献として有益であり、筆者は箱場について知りたい時には、最初に調べるのに重宝しています。

本書は、B5判18ページの小冊子のような体裁ですが、その資料的な有益性を考えると、手彫〜小判切手の時代を収集対象としている者にとっては、現在でも極めて有益な書と言えるでしょう。もちろん、本書刊行後に新たに確認された箱場印もありますから、本書をベースにそれらを追加し、常に最新のデータにする必要があることは言うまでもありません。

— (P) —						
都府	#	印影	色	箱場名	使用年代	文献
高崎	1		朱	主任者 柴田	明8.6月	エ VI-P96
前橋	1		朱	局前	明14.5月	エ VI-P96
富山	1		黒		ニツ折一 「マ」	エ VI-P77
敦賀	1		朱	大内函	明9年 7月 11月	エ VI-P103
名古屋	1		黒	南取振 川田綱	明9.5月 (筆者)	エ VI-P96
彦根	1		黒	橋向	小型假名 ナシはがき	エ VI-P96
岸和田	1		?			切 VI-N5
貝塚	1		朱	泉州 佐野	明17年 9月	エ V2-P24 V2-P31 箱場印が 疑問の点あり (停車場印?)

古今東西郵趣文献書評

半世紀経て見つかった英国一番切手の大ブロック

The Dublin Find

Don MaddenとKarl Louis, 英国 Mike Jackson 出版社, 2006年

吉田 敬

一番切手のほぼ完全なシートが、発行の半世紀後に郵便局の棚から見つかったら、どの国でもニュースになるでしょう。

駅通局による郵趣目的の輸出が数多くされた日本のような例ですらビッグニュースになるでしょうが、この本が紹介するのは大英帝国なので桁外れです。

そう、1840年発行のペンスブルーや黒の公用切手のフルシートなどがじゃかじゃか出てきてしまった話と、分割されて郵趣界に残ったマテリアルをリコンストラクションしたレポートなのです。

ダブリン中央郵便局

この本のタイトルになっているダブリンは、現アイルランド共和国の首都ダブリンです。



17世紀から英国の植民地となっていたアイルランドは、英国と共に世界最初の切手の使用国です。もちろん使用された切手はペニーブラックとペンスブルーで、ダブリン中央局のみならず、各地の郵便局で切手が発売され、内国書状基本料金1ペンスが適用されていました。

(ちなみにアイルランドの独立は1922年)

英国のPuttick & Simpsonというオークションハウスに勤めていたN.L.ストックンは1932年の退職後、在職中の1900年頃に他の誰よりも早く、1899年（明治22年、日本では菊切手が発行開始された年に相当）にダブリン中央局の引出しから発見された切手類を見たことを発表しました。それは60年近く眠っていた一番切手等の古切手、ステーショナリー、そして見本・告示でした。

数が合わない

これらの切手の発見自体は、発見直後と思われる1899年2月7日には英国の新聞デイリー・テレグラフにて報道されるなどで知られており、郵趣界でも英国王立郵趣協会の同年発行誌に掲載され衆知の事実だったようです。

また、1930年にギボンズ社のC.J.フィリップスが発表した内容によれば、1905年頃にスコットランド貴族のクロフォード伯爵邸にて、ペニーブラック175枚、ペンスブルー168枚、公用切手219枚をそれぞれブロックの形で、ダブリン・ファインドとして見せられた、とあります。これらのブロックはすでに1906年5月31日号のスタンレー・ギボンズ・マンスリー・ジャーナルで「クロフォード伯爵の英国コレクションの珍しいブロック」として紹介済みのマテリアルに一致します。

しかしここで問題となるのは先述のストッケン氏が一番切手は2種類ともフルシートで存在したのを目撃したと発表したことです。もっともペニーブラックについてはペニーレッドと勘違いしたとの説が有力のようですが、ペンスブルーが欠けていることは紛れも無い事実です。

彼の話が正しければ発見後クロフォード伯爵の手に渡るまでにすでに何枚かの処分が開始されていることになります。実際、1900年のPuttick & Simpson社のオークションには「1840年 2d 第1版の24枚ブロック, SAからTL」と「1841年 1d 第5版の24枚ブロック, SAからTL」が出品されています。最下段2段のブロックであるこれらのマテリアルがダブリン・ファインドであることはリコンストラクション作業により判明しています。

実際ダブリン・ファインドの処分については、タイプライター打ちされた処分表が1904年に作成され残っており、ペンスブルーは確かに206枚と明記され、その内訳は182枚がプライベート取引、24枚が競売となっており、競売やプライベート取引の大半についてはつじつまが合います。しかしシートとの差分の34枚は何処に。。。

考えてみれば当時はまだ限られた富裕層の趣味だったとはいえ、半世紀以上前の切手が出現すれば、それがお宝だということは、フィラテリストでなくても郵便局の関係者であれば容易に思いつくことで、欲しがった人もあったでしょうし、ある程度の高官であれば可能だったでしょう。

この本自体は二章に分かれており、第1章はダブリン・ファインドにまつわる資料・記事を集め徹底的に史実に基づいた検証・推測を行っています。それらの中には時としてペニーブラックとペニーレッドの色の見間違いと推測される間違いも存在しますが、事実をつないでいくとつじつまがあってくるところもあり、まるで推理小説を読んでいるかのごとくです。

そして第2章では、1904年の処分表を出発点として、大ブロックがどのように分割され現在にいたるかを、過去のオークションの記録から導き出しています。そこで、「1904年の処分表」にはどのようなマテリアルが記録されていたかについて次ページにまとめてみました。

1904年の処分表に掲載されたダブリン中央局発見マテリアル一覧

(1) 一番シリーズ及びマルレディ封筒

1840 2d ペンスブルー 206枚 (第1版)

1840 1d公用 228枚 [前々ページ紹介の表紙に一部図版有り]

1840 マルレディ封筒 2484通

1840 切手やステーションナリー発行の布告 2通

(2) 二番シリーズ及び切手付き封筒

1841 1d ペニーレッド 339枚 (主に第5版と第9版)

1841 2d プルフ (12面シート) 501枚 [前々ページ紹介の表紙に一部図版有り]

1841 1d 切手付き封筒 見本貼り布告書 884通

1841 1d, 2d, 1d切手付き封筒2種 見本貼り布告書 40通

1841 2d切手付き封筒 見本貼り布告書 19通

1841-1855 様々な1d切手付き封筒 見本字入り 654通

1841-1855 様々な2d切手付き封筒 見本字入り 260通

(3) 高額切手

1847 1シリング 見本字入りペア貼り布告書 6点 (加刷色はペアの左が赤、右が黒)

[前々ページ紹介の表紙に一部図版有り]

1847 1シリング 見本 50枚 [前々ページ紹介の表紙に一部図版有り]

1848 10d 見本字入り 73枚 (24面シート等)

発見されたブロックはどのように分割されていたか？

この本は正直、発見された切手の図版を見ているだけでも色々と妄想できる本なのですが、更に興味深いのはカール・ルイス氏による、現在郵趣界に残っているブロック等を元にしたリコンストラクションです。同氏は当社刊行の「Stampedia Philatelic Journal 2013」にバーゼルの鳩の判別研究の記事を掲載した事がありますので、その特徴のある氏名と共に覚えていらっしゃる方も多い事かと思います。

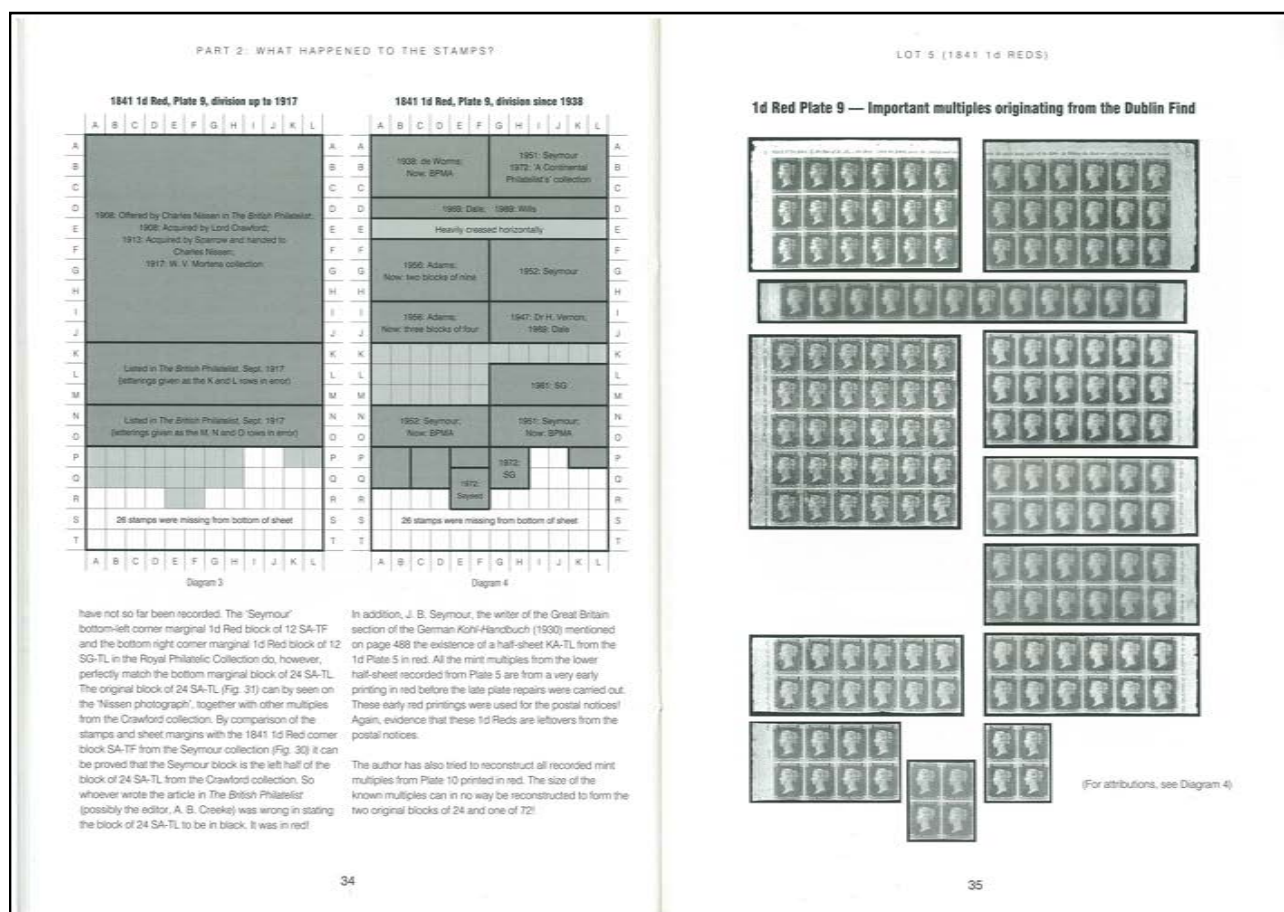
大半のマテリアルはロイヤルコレクションとして1904年前後の英国皇太子 (後のジョージ五世) に1点ずつ納められたのをはじめとして分割され、競売もしくはプライベート取引で処分されました。その中には1d公用切手の左右マージン付き36枚ブロック、ペンスブルーの左右マージン付き12枚横ストリップや高額切手10dの見本字入りシート等の超珍品も含まれており、今日の珠玉の英国クラシックコレクションの出所の一つがダブリン中央郵便局だったことがよくわかります。珍品の出自が明らかとなることでより正当性が認められるわけですが、それ以外に注目すべきは布告の類で、世界初の切手やマルレディ封筒の発行に際して、どのような告知が郵政の中央から末端の郵便局に出されたか等がよくわかります。

その市場での分割販売のされ方について、20世紀初頭の重要なオークション全てにあたり、カタログの記述や図版の調査をする事により、当該出品物が、ダブリン・ファインドからの分割販売品か否かを調査し、それにより元シートのリコンストラクションを作っています。

例えば、ダブリン・ファインドの一つである、「二番シリーズの1841 1d ペニーレッド」は339枚の大半が第5版と第9版であることが分かっていますが、この内、第9版214枚（シート下部26枚は発見当初より無かった）が1917年までにどのように分割されたか？を示したのが以下に紹介するページの左上の図です。

また大ブロックの常として、時間が過ぎるに従い、大きなブロックを買える人が少なくなり、売り手はキャッシュフロー確保のために分割販売を行います。数百万円レベルなら何とでもなりますが、ダブリン・ファインドの一部マテリアルの最大ブロックは数億円レベルの話なので、桁外れです。

そこでブロックが1938年以降にどのように分割され販売されたか？を示したのが左から二番目の図です。その実物の画像が右ページに紹介されており、なるほどとうなずくことができます。しかし、相当なデータ集積をしなければ導き出せない結論であり、よく調べてあるな、と驚きます。



1841 1ペンス ペニーレッド 第9版 大ブロックの分割処分の様子を図解したページ
(THE DUBLIN FIND P.34-35より)

ジャパン・スタンプオークションニアレポート

鯛 道治

2015年2月21-22日の第86回フロアセールをレポートします。最後のパートはこれから続くお楽しみ・・・になればいいのですが。動かないと何も始まらないので、瞬時に決断したのです。それは、また後で・・・。

Lot711 富士電機印字コイル高額用に90円誤印字 NH 指跡有り

最低値180,000 応札3 スタート330,000 落札値330,000

出所はしっかりしていて、記事になっているのでしょう。皆さんよくご存じでした。出現10枚の内、未使用で残っていた7枚の内の1枚です。

3番札が30万、その上が32万、落札者はもう少し上、エラーの人や、コイルの人は収集の対象外にしたのでしょうか。未使用コレクターと郵便自動化のテーマチックと思われる人達のビッドでした。万一続いて出ても、あと2枚は、同じような数字に収まるのでしょうか。



Lot2276 2昭5銭 紫ローラー印チシマ薬取(18)

最低値30,000 応札8 スタート155,000 落札値155,000

メールの1番札は倍以上入っていました。場で競られるのを覚悟して、来阪してフロアで準備していたのですが、拍子抜けの風情でした。

活字になったデータでは、「消印とエンタイヤ23巻」の藤野力さんの「チシマ色丹15. 9. 2」のみ。でも、郵便使用が1点あるということは時代の流れで当然ながらデータも積まれていくのです。

鳴美の郵便消印百科事典で、右書県名カタカナのトウケウは未発見になっていますが、離島と山奥で複数点見つかっているはず。チシマのそれは、専門収集家によれば、弊社とJPSのオークションで2点売られているとのことなのです。今回の物が最も状態は良いのですが、オンカバーか、乃木ならどこまでいったのでしょうか。



Lot1066 台湾総督府通信局据置貯金台紙 旧毛30銭L12 2枚含む10枚合計3円貼

最低値200,000 応札 4 スタート230,000 落札値250,000

臺紙枚数						主務者証印	局長之印
預入金額	千	百	十	円	十		



○切手は左の欄割内へ貼って下さい

注意

此の臺紙に貼付の切手は据置郵便貯金のみ預け入れられます
 預け入れ得る切手は五厘及一銭五厘切手を除き其他の種類に制限はありません
 異種類の切手を混貼しても預けられずから全部に貼りたる上郵便局より御出し下さぬ
 毀損汚斑の切手を貼付したる臺紙は郵便局より受付けませぬ

種別	年次		種別		年次	
	後	前	後	前	後	前
十年後	七八・二三	一五六・五五	七・三〇四	一五六・一五	一・六七・二一	
九年后	六八・四八	一三七・〇三	六八・五・四〇	一三七・〇・八七	一五八・八三	
八年后	五九・二一	一〇八・四九	五九・二・六六	一〇八・五・三九	一五〇・八七	
七年后	五〇・四一	一〇〇・八八	五〇・四・五八	一〇〇・九・二一	一四三・三一	
六年后	四二・〇五	八四・一五	四二・〇・九一	八四・一・八六	一三六・一三	
五年后	三四・一一	六八・二六	三四・一・四四	六八・二・九〇	一二九・三二	
四年后	二六・五七	五三・一七	二六・五・九五	五三・一・九二	一二二・八三	
三年後	一九・四一	三八・八四	一九・四・二五	三八・八・五一	一一六・六八	
二年後	一三・四一	二八・八四	一三・四・二五	二八・八・五一	一一一・六八	
一年後	七・三〇	一八・八四	七・三・〇四	一八・八・五一	一〇六・六八	

出品者は目打には気付いておらず、指定の最低値は3万円でした。でもこのマテリアルのポイントは、よく知られている通りの、旧毛30銭の目打です。他にも兄弟が有ることは周知の事実です。

掘り出しのポイントで基本的なこの要素、書いても書かなくてもセールでスルーされる可能性はゼロなのです。海外の出品者や、遺品出品の場合での最低値・勿論記事も・・・一任の場合は、迷う要素は有りません。30銭 L12は、見つけて100%書くのです。

でも、几帳面なびっしりとした出品表付きで来た場合、わざわざ書くのが親切とは言えないかも知れません。出品者の記事の通りの記載で、最低値3万円を出したなら、誰と誰が見つけたかなとふと思ったりするのです。最低でも3人、多分5人は気付くでしょうし、見つけた人にフロアの当日までのドキドキ感を味あわせてあげようかと、マジで思ったロットです。このやり方は、今までも何度もやっているテクニックなのですが、まず計算違いはないのです。皆さん、熱心に写真と記事を見てくれていますから。

Lot2341 創始75年S/S 櫛船津22.8.15山梨県

最低値100,000 応札6 スタート230,000 落札値300,000



事情通の話では、最初にE-Bayに出て、そのあとどこかで売られて、3度目が今回の出品だそうです。

この切手は限定発売ではないと思いますが、山梨の船津の局に、配給されていたとも思えないのです。同じような使用例で知られている、隠岐の西郷もそうですが、米軍関係の郵趣家でもいたのでしょうか。印類とすればいやらしくないので、真正だと思います。

オークションの記事には、非実通とは書きますが、22年8月15日に押されたか否かは誰も判りません。ビッドの面子からして、それなりにご自分で判断が出来る方達なので、オークションは、必要最小限の情報を提供すればOKなのです。一番札は減茶高でしたが、競って降った人は、今までのデータを参考にしたという風情でした。ここらが相場ということでしょう。

Lot2386 坂東ラーゲル2 Sen貼絵葉書収容所内使用

最低値500,000 応札2 スタート500,000 落札値640,000

坂東ラーゲルの出自を重視すれば、完璧な使用例でしょう。「収容所内」での郵便ゴツコの前払い証紙の正規使用です。Lot2387の5 Sen貼は便箋に貼っているので、ルックス的にいまいち、もし封筒に貼られていたら、文句なしに売れていたと思います。

この2点は割と最近にE-Bayで売られた物、何人かが弊社へ出品しての鞘抜き狙いでちょっかいを出していたとのことでした。



坂東もそうですが、日独の俘虜郵便、最近見かけることが多いのです。それも、超ハイレベルなコレクションや目玉のマテリアルがです。スイスやドイツのメジャーなオークションに出品されています。私は昔から、このテーマが好きで、数十年前のケラーに出た、Rungasコレクションを随分無鉄砲に買ったのです。そのマテリアルは、縁あって、鳴門のドイツ館に入れたり、何となく手元からは消えました。

今年の1月号の郵趣の広告、約1000通で一括450万円は、直近に買ったスイスのオークションの物に、別個のお二人のコレクションを合体させました。ご希望者が現れたので、ビジネスとしては完了ですが、重品は弊社のオークションでの処分になると思います。1978年に出た、ルーファ・ルンガスの名著（吉田景保訳）を超える日本語の文献は出ていません。どなたか真剣にやってくれば、物は選び放題に買える状況なので、国内展なら即、金賞が取れますよ。日本人の郵便史の感覚にマッチしたテーマなのでコレクション作って、文献ぐらいいは出してもらいたいと思うのです。

この分野の目玉は坂東ラーゲルのシートです。2 Senが20面、5 Senが16面です。カナイスタンプがその昔シートを分割したのですが、その後の文献上の記録では、あと2組シートが有ることになっていました。1980年頃だったと思うのですが、エドガー・モールマンに出品されたことが有るのです。カナイの即売値を基準にすれば合わない高い最低値だったのです。売れたかどうか判りません。3年ほど前にケラーに出品が有りました。最低値は程々だったので、私も付き合い程度にちょっかいを出したのです。結果は62,000ユーロ、手数料込みで1000万円を超えていたと思います。事情通の話では、アメリカ？の博物館が買ったとか。オークションでのハンマープライスなので、2番札もいたはずです。

そして、今回のクリストフ・ゲルトナーへの出品です。何れも、ドイツのオークションハウスなのですが、都合3回セールに掛かっています。

モールマンの不落品が、ケラーに出たのか、今回の物ならば、計算は合うのですが、実際はどうなのでしょう。困みに、何れも5 Senには裏にドイツ語の鑑定印が押されています。マーケットに出た時点でそうなのでしょう。

今回の物は、参考値が安いので、どうしても手を出してしまうのです。出品は別々のロットでしたが、買うなら2種セットでないとダメでしょう。だから、2ロットをエージェントを通して、コンバインのリクエストを出しました。フロアではノービッド、ゲルトナーの場合、ノービッドは参考値の1割引きのコールなので、その数字で買えたはずなのです。

セールの終了直後に、ビッドを頼んだエージェントと、オークショニアのクリスから、速攻でメールが届きました。出品者が予想外の結果でゴネている。フロアのハンマープライスでなく、何とか色を付けてくれないかというリクエストです。コンバインビッドのリクエストをしたので、私が買う意志有りはわかっているのです。ユーロも結構高いし、手数料は22%、相手のオファーの私がエージェントに預けたビッドの限度で買うならば4000ユーロの追加の出費です。66万円を加算してのお付き合いになりました。

当初のフロアのコールで買えたなら、ぶった切って16組+2Senの4連で商売出来たハンマーでした。でも、66万の交際費を払ってしまえば、分割では合いません。だから、奇特な方が現れるまでは、弊社の在庫にいたしましょう。ご希望ならば、お譲り出来るお値段は、駆け引き無の500万円、先着お一人限りです。



仙台の骨董屋さんが送ってきてくれました。震災後の、恐らくは直近の掘り出しでしょう。MLLのブロックの未使用は無いし、金子入りとしての条件は完璧、割り印が4個で、中継・着印無、送金額が最高額の50円なら、こういうルックスになるでしょう。

同時に100通近くのエンタが送られて来たのですが、これ1通のみが光り輝いていました。シミも、虫舐めも一切なし、即売での100万なら、幾らでもご希望者がいるでしょう。

どの立場の人が買うかが問題なものでした。郵便史で金子入りで使うのなら、目一杯に足し算をしても150万がMAX、手彫のトラディショナルでMLLのカバーで使うなら、更に安くなる。結局は、綺麗な物にお金を出せる人同士の競り合い、オークションでの自分のリミット値段は踏んでないでしょうが、どこで降りるかは正にチキンレースの雰囲気でした。



フロアコールは5万円刻み、このレベルならば、ゆっくり考えてくださいよと読むのです。手を降るされる前に、二声余計に読んでやる、みたいなことはやりません。

このカバー、出品物として受け取って、セール当日まで、随分楽しませて貰いました。初い品物だからこそその感覚です。

次のセールにも、これ以上のマテリアルが既に2点来ています。完全な初見品、いずれも海外で直近に見つかった物なのです。詳しくは別ページの広告をご覧下さい。言葉での説明は不要です。

Lot2895 中部山岳24円S/S切抜貼船便米宛 三島良績氏差出

最低値80,000 応札4 スタート230,000 落札500,000



10年ほど前の有楽町の交通会館、ケン・ベーカーさんのオークションの出品物でした。最低値は非常に安く、数千円、3万位なら買ってでもいいかなと思ってフロアに出たのです。場で競りに競って、確か10万円+のハンマーでした。

恰幅の良いジェントルマン、当時は顔と名前が一致しませんでした。場に出た人数人に、あれ誰？と聞いたのですが、誰一人ご存じなかったのです。今回で謎が解けましたが、あの頃から、当時とすれば、破格の値段でオークションで買っていたとは新鮮な驚きでした。

今回の結果が示す通り、公園の切抜の単貼適正は非常に珍しいのです。4～5年前にフィンランドのオークションで、確か磐梯の24円単貼がロットの中に有ったのですが、人を使って、場の勢いで60～70万円の評価まで競って、ロシア人に負けました。その後も何所かに出て来たとは聞いていません。この時に買った旧小50銭単貼の重量便の方が遙かに安かったので、しかと覚えているのです。

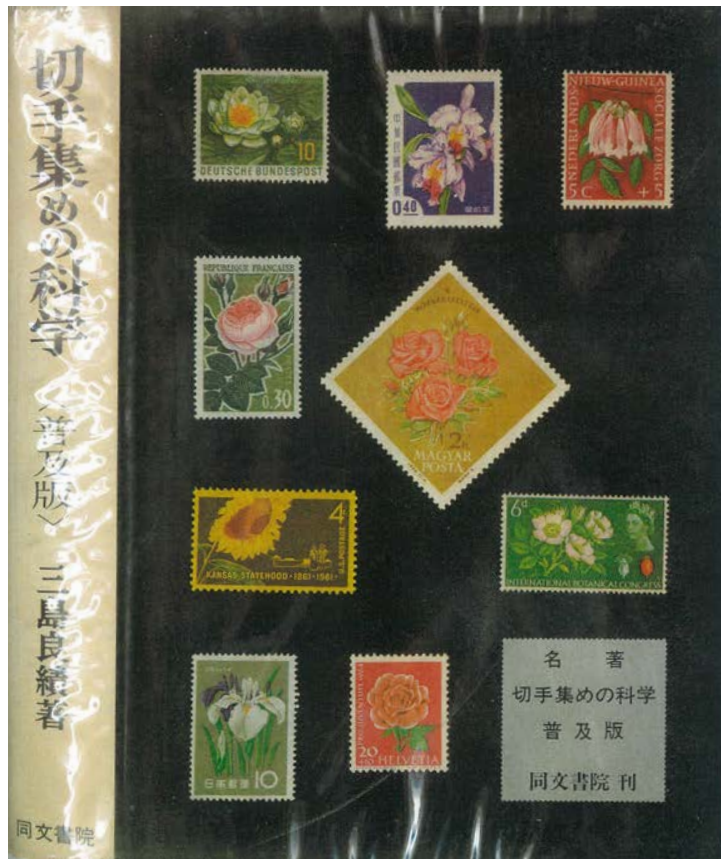
このカバーの差出人も、勿論、三島良績先生でした。並の郵趣家では作れない使用例なのです。そのセンスには脱帽します。三島先生で印象深いのが「切手集めの科学」のにせもの見破り学の記事なのです。選挙証紙の逆刷の偽物を見破ったポイントとして書かれている部分の・・・「もし、あらためてこの点まで考え、逆加刷を偽造しても、そこはそれ、また別の手で見破ってみせ

る・・・」です。私には使えない表現手法です。

私的なレターなら書けても、公のメディアでは具体的に書けないことも有るのですが、今現在のマーケットに、極めて危険な偽造品が流通してしまっているのです。私も何度か記事にして警告を発しているのですが、効果を上げているとは言い切れません。

それに、偽物の製造に関わっていないという意味では、本質的な悪意はなくても、今がチャンスと、ババ抜きをして自分だけは逃げ切ろうという怪しからぬ行動も目に付くようになったのです。出所の色が薄れる2次流通は防げません。自分さえ引っかけなければ良いと、知らぬふりをして売り

逃げる輩も実際にいるのです。そして奴の新規の製品も、精度を上げて、領域を広げて、マーケットが求める通りに侵食して来ています。真剣に勝負をしようと思います。

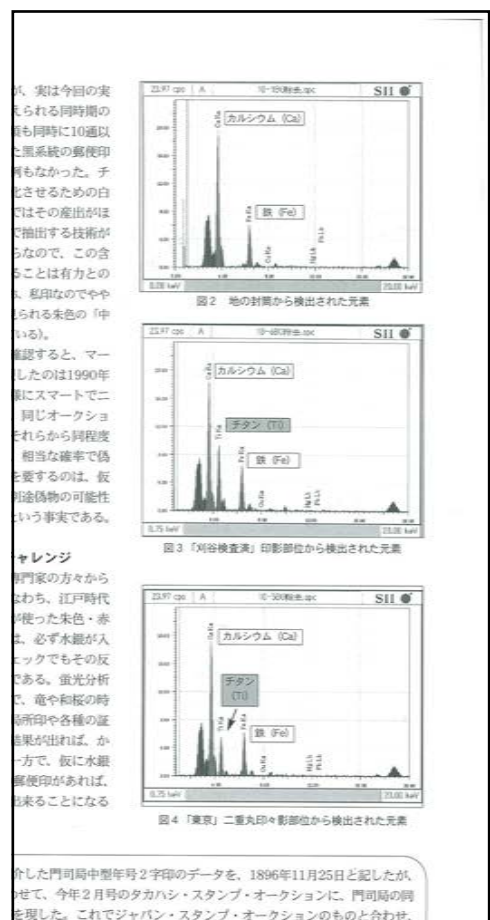


2011年に郵趣研究に画期的な記事が出ています。

「科学的な分析による・変造カバー解明への試み」丹下甲一氏の論文です。同氏に依頼を受けて私が提供した手彫のカバー、本物と変造品のインクの元素を分析して、その時代に有るべきものの有無と、有ってはいけない物のそれを手がかりに、真偽の判定をするという手法です。

XRF=蛍光X線分析法なのですが、軽元素を除き、元素番号11~92までは、比較的楽に分析できるのです。三島先生や市田博士の時代には使えなかった手法です。今では一般的には鉱石の分析、有害物質の検査等が、非破壊、試料への影響無しで出来るのです。

郵趣の分野では、消印・加刷・糊の元素を調べて、真偽を比較することになるのです。悪意の変造品と真正品は、少なくとも50年かそれ以上のタイムラグがあるはずです。放射性元素の半減期の調査には短すぎる期間ですが、社会的な要因での原材料の変化を調べるには十分すぎるタームです。



郵趣研究99-100号の当該記事

偽物師は、元素分析されることを前提にはしていませんから。丹下氏の論文が出て、時を経ずに彼はこの世界から去ったのですが、その着眼点は秀逸です。レガシーを引き継いでくれる人が出てくることを私も待っていたのです。でも、誰も、どの組織もやってはくれないのです。アイデアは良いのですが、ネックは費用です。

分析範囲は普通は4mmの円の部分です。大きすぎるのです。厚さは50ミクロンまで読んでしまいます。表面だけではないのです。単一の試料では、元素の分析のチャートは出るのですが、どの部分が、消印に属するのかが分かりません。元素を限定しての、HgとTiの有無というピンポイントで考えるだけでは、精度は高くないのです。消印の成分のみを調べるには、複数回、照射の位置を変えたり、試料を増やしたりでの、データベースを基にして引き算をして、ポイントになる元素を確定するのです。

分析自体は地方公共団体の機関を使えば、1回1万円位で出来るのです。チャートの元のデータを持っていれば、それで良いのですがそれは誰も持っていません。ゼロからスタートする手探りのデータ採りには向きません。自分で機械を購入するしかないのです。分析器のメーカーでNo1は、島津製作所でしょうが、1000万位の費用になります。中古は安いのですが、メーカー保証が効きません。

ただ、4年も経てば時が味方してくれて、別メーカーの物ですが、私レベルで買えるぐらいに随分手頃になっています。手探りで当たってみて、ここ数年で100台位を扱った商社が見つかりました。2015年モデルで国内限定の保証付です。速攻で話を決めました。使い勝手は、ウィンドウズ8のエクセルでOKです。弊社ならストレスなく稼働できるでしょう。数日後に機械は入るのですが、やらねばならないことが一杯です。暗闇の中でのスタートですが、進捗状況は、逐次、弊社のHPで報告いたします。http://www.japan-stamp.comをご覧ください。

書名	： ザ・フィラテリストマガジン
号数	： 第6号（2015年春号）
発行日	： 2015年3月15日
発行者	： 無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社
*当誌は「スタンペディア日本版」の機関誌です。	
Name of the magazine:	The Philatelist Magazine
Number:	6th (2015 Spring issue)
Date of issue:	Mar. 15th 2015
Publisher:	Stampedia, inc.

[広告]



郵趣文献ショップ取扱書籍のご案内

<http://stampedia.shop-pro.jp>

The Philatelist Magazine

日本 1966 30円通常切手 目付
世界の中でも数少ない美しい日本切手では、目付切手

The Philatelist Magazine 選

- 1) 電子メール版 2,000円/年 試
- 2) 紙版 (モノクロ) 2,000円+印刷費/年 試
- 3) 紙版 (カラー) 2,000円+印刷費/年 試

※試験発行は2014年9月15日

The Philatelist Magazine

日本 1974 500円通常切手
世界の中でも数少ない美しい日本切手では、目付切手

The Philatelist Magazine 選

- 1) 電子メール版 2,000円/年 試
- 2) 紙版 (モノクロ) 2,000円+印刷費/年 試
- 3) 紙版 (カラー) 2,000円+印刷費/年 試

※試験発行は2014年12月15日

The Philatelist Magazine

日本 1994 50円通常切手
世界の中でも数少ない美しい日本切手では、目付切手

The Philatelist Magazine 選

- 1) PDF版 2,000円/年 試
- 2) 紙版 (白黒) 2,000円/年+印刷費 第5
- 3) 紙版 (カラー) 2,000円/年+印刷費 第5

※試験発行は第5号 (2014年12月15日発行)

The Philatelist Magazine

号外 全日本切手展に行こう! <直前特集>

英領ギアナ 1856 Provisionals Four Cent, Magenta
現存一点の未使用切手。スコットカタログの評価欄は空欄 <カリブ切手展にて展示>

The Philatelist Magazine 選べる三つの購読法

- 1) PDF版 2,000円/年 試
- 2) 紙版 (白黒) 2,000円/年+印刷費 第5号迄の予約価格は1,000円/号 (千別)
- 3) 紙版 (カラー) 2,000円/年+印刷費 第5号迄の予約価格は3,000円/号 (千別)

※試験発行は第5号 (2014年12月15日発行) 迄の予定です。なお、紙版には付録を含みません。

フィラテリストマガジン紙版
バックナンバー



国際郵趣サミット公式出版物 Philatelic Summit Papers
取扱中 Vol.2, 3, 4, 5, 7, 8

発行: Postiljonen (スウェーデン)

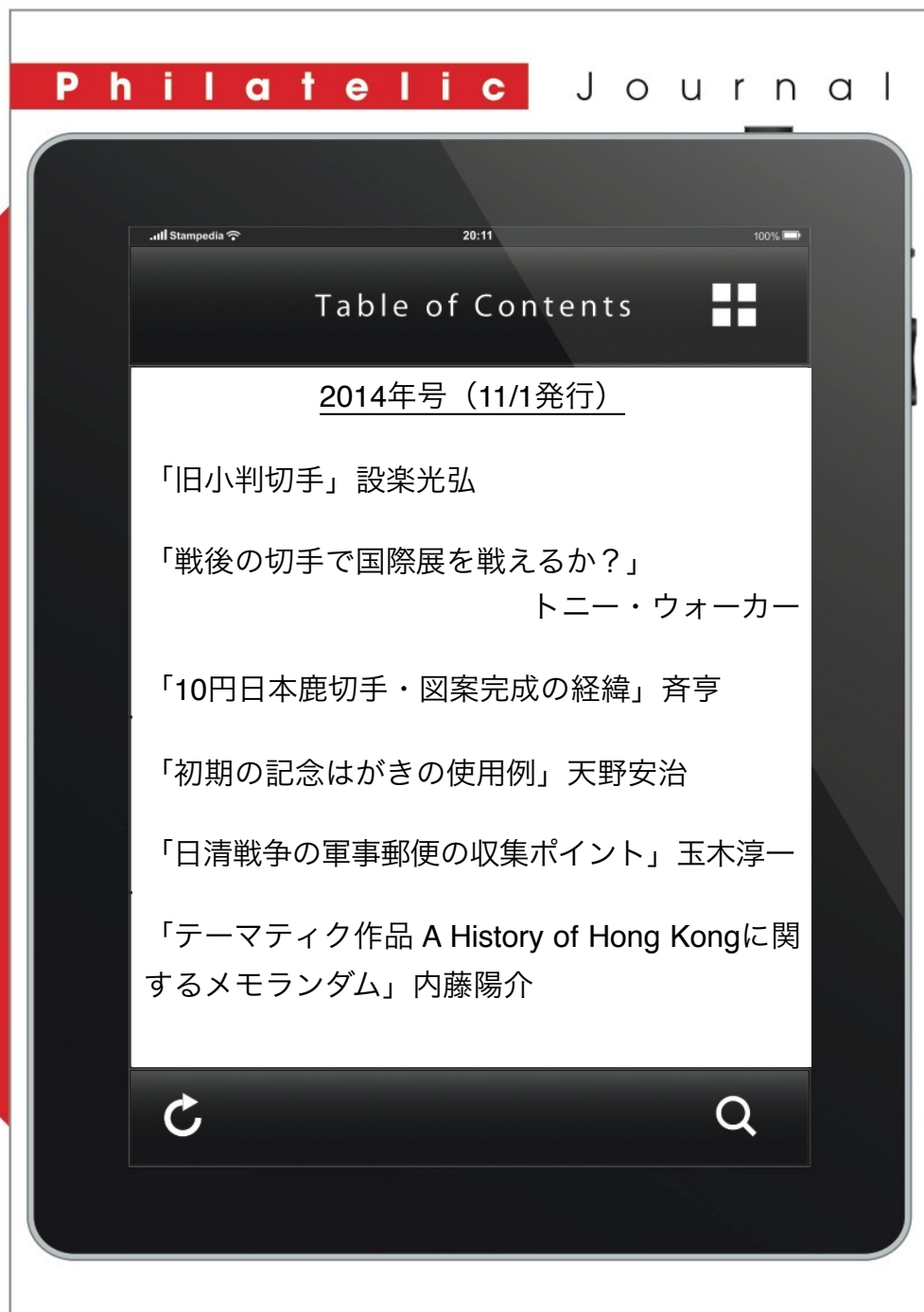
< 広告 >

P h i l a t e l i c

J o u r n a l

Philatelic magazine from Japan

with several specialized articles
Japanese-English bilingual
Annual publication since 2011



Look inside of this magazine and order at

<http://www.stampedia.net/>